

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

大正二年度ノ部

日本女子大学成瀬記念館

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

大正二年度ノ部

日本女子大学成瀬記念館

「実践倫理講話筆記」の発行について

1. 表題は「実践倫理講話筆記」であるが、内容は本学創立者成瀬仁蔵が全学生あるいは卒業生に向けておこなった講話を収載したものである。当館所蔵のこの筆記録は、概ね年度ごとにまとめて綴じられている。

所蔵年度

明治 38 年度から大正 6 年度までのものがある。但し、明治 38 年度の綴りの初めには、明治 37 年度 3 月の三講話と一緒に綴じられている。

原稿

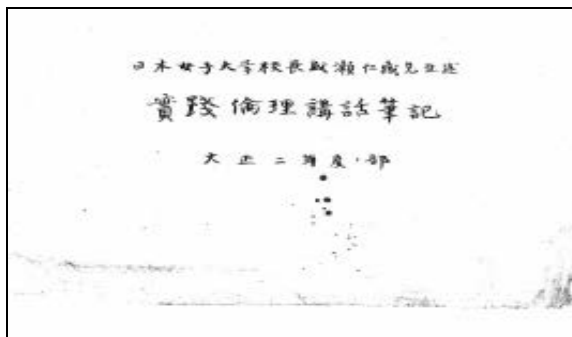
筆記録は横書きで、特定の和紙にカーボン紙を使用して複写されている。

年度によっては複数部残されているが、それらを照合すると一部分欠けて綴じられているものも見られる。

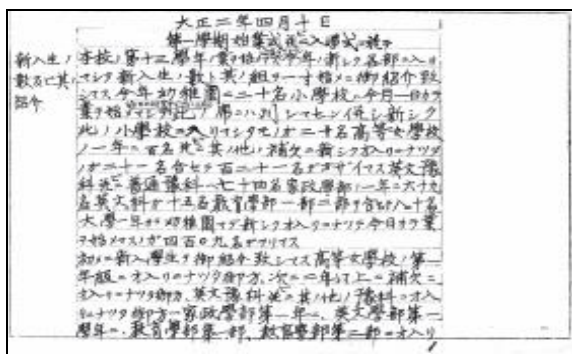
筆記状態

片仮名書き(一部平仮名書き)、句読点がない。

2. 今回の印刷は大正二年度のものである。
3. 初期のものはすでに「成瀬記念館」に発表してきているが、それらを含めて今回と同様の体裁で順次発行する予定である。



中表紙



本文

目次

大正二年四月十日 第一学期始業式並びに入学式に於て…5	大正二年十一月十三日 教授及び教員会にて……………59
大正二年四月十六日 第二、三学年にて……………7	大正二年十一月十九日 大学部全体の為に……………61
大正二年四月十八日 メービー博士を迎へし時……………8	大正二年十二月六日 大学部全体の為に……………63
大正二年四月二十日 第十二回創立記念式にて……………9	大正二年十二月十三日 大学部全体のために……………64
大正二年四月二十六日 第一学年及び予科にて……………10	大正二年十二月十四日 大学部全体の為に……………64
大正二年四月三十日 大学部全体の為に……………12	大正二年十二月十九日 参考館開館式並びに豊明寮の移転式 にて……………67
大正二年五月十日 第一学年及び予科にて……………14	大正二年十二月二十四日 第二学期終業式にて……………69
大正二年五月十七日 第一学年及び予科にて……………16	大正二年十二月二十五日 大学三年例会にて……………70
大正二年五月二十四日 第一学年及び予科にて……………17	大正三年一月一日 新年祝賀式にて……………71
大正二年五月三十一日 大学部一年及び予科にて……………18	大正三年一月八日 第三学期始業式……………72
大正二年六月十一日 第二、三学年にて……………19	大正三年一月十五日 大学部全体の為に……………74
大正二年六月十四日 第一学年及び予科にて……………22	大正三年一月十六日 教授及び教員会にて……………76
大正二年六月十八日 第二、三学年にて……………24	大正三年一月二十二日 三学期計画発表会にて……………77
大正二年六月二十一日 第一学年及び予科にて……………27	大正三年一月二十九日 大学部全体のために……………78
大正二年六月二十八日 市内正会員会にて……………28	大正三年一月三十一日 第一学年及び予科にて……………80
大正二年六月二十八日 第一学年及び予科にて……………29	大正三年二月五日 第二、三学年にて……………81
大正二年七月十日 大学部全体の為に……………30	大正三年二月七日 第一学年及予科にて……………82
大正二年七月十二日 女子教育家懇談会にて……………31	大正三年二月八日 東京支部会発会式にて……………83
大正二年七月十六日 婦人問題につきて……………34	大正三年二月十一日 紀元節にて……………84
大正二年七月三十日 明治天皇祭記念式……………36	大正三年二月十二日 大学部二、三年にて……………86
大正二年九月十一日 第二学期始業式……………38	大正三年二月十四日 大学部全体の為に……………87
大正二年九月十三日 予科及び一年にて……………40	大正三年二月二十六日 大学部二、三年にて……………88
大正二年九月二十日 予科、一年実践倫理……………41	大正三年二月二十八日 第一学年及予科にて……………89
大正二年九月二十五日 桜楓館記念日に……………42	大正三年三月五日 大学部全体の為に……………91
大正二年十月一日 第二、三学年にて……………42	大正三年三月十二日 第二、三学年にて 問題……………93
大正二年十月四日 大学部一年及び予科にて……………44	大正三年三月十四日 第一学年及び予科にて 問題……………93
大正二年十月八日 大学部二、三年にて……………45	大正三年三月十九日 大学部全体にて……………93
大正二年十月十一日 大学部一年及び予科にて……………47	大正三年三月二十五日 修業証書授与式……………95
大正二年十月十五日 大学部全体にて……………49	大正三年三月二十五日 まとめの会……………97
大正二年十月二十二日 大学部二、三年の為に……………51	大正三年三月三十日 桜楓会例会にて……………98
大正二年十月二十五日 大学部一年及び予科にて……………53	大正三年三月三十一日 卒業証書授与式……………99
大正二年十月三十一日 天長節祝賀式にて……………55	
大正二年十一月十二日 大学部二、三年にて……………57	

凡 例

1. 印刷に際し、筆記原稿の体裁を保持しつつ、以下の点に留意して一部手を加え統一を図った。
2. 表記に関しては、片仮名書きの原文筆記を平仮名表記とし、明らかな誤字・脱字を改めると共に、文字を統一した。
3. 漢字は原則として常用漢字を用いた。
4. あて字については原文通りとした。
5. 文意を明確にするため、句読点を付した。
6. 欄外に書かれた註を一部見出しとした。
7. 筆記原稿の不明確な部分は原稿通りとした。
但し英文については、前後の文脈に基づき加筆訂正した箇所がある。

[中表紙]
大正二年四月十日
始業式及び入学式にて

大正二年四月十日
第一学期始業式並びに入学式に於て

[新入生の数及び其の紹介]

本校の第十三学年の業を始めますに当りまして、今年の新しく各部に入りました新入生の数と其の組を一寸始めに御紹介致します。今年、幼稚園に二十名、小学校は今月一日から業を始めまして、今日も授業中でありますから此の席には列しません。併し新しく此の小学校に入りましたものが二十名、高等女学校の一年に百名、並びに其の他の補欠に新しくお入りになったのが二十一名、合せて百二十一名でございます。英文予科並びに普通予科へ七十四名、家政学部一年に六十九名、英文科が十五名、教育学部一部二部を合せて八十名、大学一年から幼稚園まで新しくお入りになって今日から業を始めますのが四百九名であります。

初めに新入学生を御紹介致します。高等女学校の第一年級にお入りになった御方。次に、二年以上に補欠にお入りになった御方。英文予科、並びに其の他の予科にお入りになった御方…… 家政学部第一年に、英文学部第一学年に、教育学部第一部、教育学部第二部にお入りになった方……

[此の学年の方針を定めて業を始めよ]

昨学年は明治四十五年と大正一年とを混じて出来ました。我が国民にとって最も複雑なる、最も印象の深き学年でございます。今日より愈々大正の御代に於ける第一学年、即ち本校の第十三学年に入りまして、此の学年の方針を定め、各々の決心をかたくして、之れから業を始めなければなりません。

大学部三年即ち第十一回生より、今年の修養、学問の集中点及び目的をお定めになって、之れを猶よく考へて足らぬ所を補ひ、重なった所をよく修正し、此の学年の方針となさうと云ふ案が此に出て居ります。多分高等女学校も夫れに於て、高等女学校に丁度適当なる方針をおきめになると思ひます。或は、も一出来て居るかも知れませんが。

此に出て居りますのは、目的ある生活を以て銘々の向上と校風の充実を計ると云ふ其の項目を挙げて、団体心の養成と自動、自治、研究力の養成、及び趣味の向上、健康の増進と云ふのであって、之れは詞であるが、大学並びに高等女学校の上級生にはよく其の意味がおわかりになって居ると思ひます。大体に於ては、此の第十三学年の集中点として適当なる方針であらうと思ひます。

私は、此の目的及び方針を大学並びに高等女学校全体一致協同して、之れを実行なさる事を切望するのであります。之れを明らかに了解し、又其の実行を望むと云ふ事は異存のない事でありませぬ。又、さ程にむづかしい事ではないであらうと思ふ。併し之れが本年の校風となり各自の品性となるには、非常なる労力を要する。又其の労力が最も有効に働くと思ふ事によらんければ、其の望む結果をおさむ事が出来ま

せん。今年は諒闇中でありまして、全体が最も深く国の将来を考へて各自の責任を考へて居りますから、又、大正と云ふ新しき御代に改まりましたに就いて、総ての空気を新にし総ての弊習を改善せねばならないと云ふ事は、総てが最も深く感じて居る事であると云ふ事は疑はないところである。只之れを如何に実行する事が出来るか、総ての効果をおさむる事が出来るかと云ふ事が問題であります。実行の効果についても十分反省し努力せられて居る所でありませぬから、稍其の道が定まらんとして居る事であると思ひますが、猶其の上にも十分注意して、一層明かなる方法を立つると云ふ事が今日の急務であると思ひます。夫れで私は、此の目的、方針を実行する上に重要な事と思ふ点を申しておきたい。

[今年の目的を実行するにつきての注意]

先づ其の要点を挙げますならば、学校の方から申しますならば、此に大いに教授法を改めると云ふ事でありませぬ。あなた方学生の方から申すならば、勉強の仕方を改めると云ふ事になると思ふ。

第二は、学校の方から即ち先生の側から申しますと、あなた方に教へる時間を大いに減じまして、あなた方学生の方から言へば、先生に教へを受ける、先生にお助けを受ける時間を今迄よりも減じまして、あなた方自分で考へ、自分で工夫し、自分で実行して行くと思ふ時間を余計にすると云ふ事にせんければならぬ。

第三は、学校の方から申しますと云ふと、此の際大いに学力査定試験の方法をかへると云ふ事である。学生の方から申しますと、之れ迄の様に試験の目的を以て、即ち知識の分量を目的として出来るだけ自分の知識の分量を多くすると云ふ様な事を廢して、此にあるやうに自動自治のもとに研究力を養成して行くと思ふ、此の計画を有効に行ふために必要な且つ生きたる処の学問を目的とすると云ふやうな変りが必要であると思ふのであります。

之れは決して新しい、今日突然に湧いて来た問題ではない。既に数年前に、即ち此の教育館を建築し之れ迄の教育学部を開始した時に此の目的を以て、斯くの如き方針を主張したのである。時の文部大臣 久保田男爵は此の大学の方針、主張に賛成せられ、其の当時生徒に話して居りました処のシカゴ大学のヂューエーと云ふ人の書物及び他の書物を暫らく貸してくれる様にと云ふ事で、其の中の学校と社会と云ふ書物は文部省から翻訳をして、教育会に分られたのであります。

此の数日前、久保田男爵にお目にかゝりました時、其の当時の話しも出まして感を深く致しましたが、猶此の教育館を立つる時に当時の総理大臣 西園寺公爵にお話をした時に、独り我が女子大学の為めのみならず全国の学校の為めにもなることであるから、内閣の力を以てしても実行したいと思ふお話をございましたが、内閣も瓦解して了つたので思ふやうに運ばなかつたけれども、其の時私共は意見書を草して提出いたしました。そして漸くにして、此の教育館がたつやうになつたのである。

然るに時機猶早く、境遇宜しからずして外部から種々なる圧迫を蒙りまして其の目的が達せられず、半は其の労力を空

しくせられたのであるが、しかし教育学部の目的は達せられまして、今年始めて無試験検定の資格を受けて世間から決して不十分と思はれない程に、即ち男女の高等師範学校及び帝国大学の教授方の教員会に於て、他の高等教育学府に対して遜色なきものと認められて来たのである。

併し我々は中等教員を出すのを以て目的とはしない。此の資格を得る特典を受けるまでには数年間努力したのであるが、我々の目的は只資格ある中等教員を作るを以て満足するものではない。此にある処の各自が十分反省して、かたい決心をもって只今申しました三つの点が真に実行が出来まして始めて、私共の目的を達する事が出来たと言はるゝのであります。

其の目的を充実し、其の理想を追求し、夫れを実現せんとする熱心は決して衰へたとはいへませんが、猶我々は斯くの如き目的ある生活が学生間に出来るやうになったとは言はれない。甚だ遺憾なる点が多いのである。然るに此の第十三学年は、此に本校が復活し得る処の新しき春を迎ふるの境遇に入らんとする萌しを感じる事が出来、又此に其の必要を知るの明を具へ、之れを行ふの決心をなされた処の新文部大臣を得た事は、実に国家の幸であると思ひます。

此の奥田博士は本校に於ても長く教育の任に當つて、我々と共に教育の改善に尽されたお方である。此の度、最も適當なる時機に於て文部大臣の席を占めらるるに至つたことはよろこばしき次第でございます。私は婦朝以来二、三日前、始めて親しく話をする時を得まして種々話しましたが、此に幾分か私共の考へを行ふ事の出来るやうな運も開ける時に當りまして、生徒並びに教職員一同一致致しまして、我々は積年の此の目的を実行する事の出来るやうにならなければならぬ。夫れについて、今申しました点を十分に此の学年の始めに於てよく考へて、明日より一步一步進んで、出来得る限り私共は其の目的に達したいと思ふのであります。其の教授法の改善と云ふ事はど一云ふ風になるかと云ふ事は、上級生にはわかつて居ります。故に、上級生並びに先生に就いて新入生はお聞きになる事が必要であると思ひますが、只大体について説明して置きますならば、既に本校の規則等にも教育の方針等が掲げてありますから御承知の事と思ひますが、自動自治と云ふこと、研究心の養成、趣味の向上と云ふ事、之れは欠くべからざる要素であるのであります。

[自動につきて]

自動と云ふのは自分から好んで勉強する事でありませう。あなた方の中には遠方の国から態々自分の親しい家庭即ち御両親を離れて、遠く此の東京に遊学をなさつたのは、只親が命令をなされたから、或は先生や友達の勧めがあつただけではないであらう。あなた方が自分で進みたい、猶立派なる人間になりたい、或は自分から或る学問を学びたいと云ふ志が内に動いて、十分な自分で又決心をなされて、必ず昔の青年が歌ひました様に、男子志を立てて郷閭を出づ。学若し成らずば死すとも帰らずと云ふ様に、かたい志を立ててお入りになったことと思ひます。昔は男子ばかりであつたが、今日では婦人も国民である。第二の国民の母とならんければならぬ。婦人であるから志を立てねばならぬ。其の志が遂げられ

なければ死んでも帰らぬ。命にかけても目的とする処に達しなければならぬと云ふ考へを立てて、あなた方は自分から好んで此の学林に入学をなさつたのでありませう。つきましては只卒業証書を貰ふために、卒業する時に資格を貰ふために、資格の得らるゝ様に試験に及第する為に入学するのではいけない。自分には好まないけれども親から命令せらるゝから入学したと云ふ人は、此の時に於て十分覚悟を定めなければなりません。

此の学校は、先生の事を只教へる人のやうに考へない。此の学校では指導者と云ふ指導者とは、道案内をしてくれる案内者である。西洋の詞に、馬を引いて川又は池につれて行く事は一人でも出来るけれども、其の馬に水を飲ませる事は十人かゝつても出来ない事であると云ふ。先生はあなた方に水のある処を教へたり、或は泉を掘って掘りぬきの井戸を示す処の案内を、即ち導きをする者である。其の水を飲むと云ふ事は自分でしなければならぬ。どんな立派な先生をつけてもあなた方が学問を好むと云ふ、事業が上手になると云ふ事はあなた方自分でしなければならぬ。

諺に、我々の頭は知識の倉であると云ふ。此の倉に沢山の宝玉があつたからとて学問ではない。自ら其の知識を使うて立派なる人になる、立派なる行ひが出来るやうになると云ふ事が、此の学校で言ふ所の自動、自治の方法である。然るに若しも生徒が試験に多くの点数が貰ひたい為めに出来るだけ多くの知識を貯へておく、倉の中に積み込んでおくと云ふ考へでありますと、好奇心、興味と云ふものをなくして学問が面白くなって来ます。興味をそぐと云ふ事になる。そ一すると学問が面白くなる。そ一して終に、健康を害する事になります。沢山に物を食べたからと云つて身体のためになるものではなく、却つて食べ過ぎて毒になると云ふと非常に頭の働きを鈍くするのであります。之れは本校の上級生には度々申した事であり、又其の道理もよくわかつて居る事でありませうが、此の際十分よく考へて、其の道理が自分によくわかつて行ひともなるやうに。大学ばかりでなく高等女学校にも、其の主義が行はるゝ様に致したいと思ふのであります。

之れは先年に此の方針を立てたのであるが、又今度私が欧米を回つて見ると、益々其の方針が行はれて居るのであります。我が国は過去四十年に長足の進歩をしたやうであるが、西洋各国では猶長足の進歩をなして居るから容易な事では追いつく事は出来ませう。此の前 Wisconsin 大学の ロツズ と言ふ教授が日本へ教育の調査に来たことがあるが、其の人の言つた詞に、日本の学生は欧米の学生に比して学習が困難である。即ち第一に漢学の力がなければならぬ。第二に古い国語を学ばねばならぬ。第三に、外国語を学ぶには語源を異にして居るから外国の学生よりも三年程損をして居ると思ふと言はれた。

ハーバーと云ふ人は、シカゴ イリノイ等の幼稚園を研究して、統計をとつた報告をして言ふのに、若しも幼稚園に於て誤りないほんとの教育を施したならば、大学に於て二年の力を益する事が出来ると言うて居る。之れを以ても、幼稚園、小学校から高等女学校に於て、ほんとの教育が望ま

[中表紙]

第二、三学年にて
大正二年四月十六日

しいのである。私は、ど一か国民の母たるあなた方は如何に幼稚園からの教育を改むる事が必要であるか、之れを改むるにはあなた方自らの決心が出来なければならぬと思ふ。

第二の教へる時間を減ずると云ふ事は、今の勉強をするのには随って必要を生ずる事で、之れは主に学校と文部省との間に於て定められる問題である。

第三には試験の方法を改めたい。今迄は主として知識の分量を与へる事になって居りました。けれども家政学部は賢母良妻となる事であらう。教育学部は眞の良教育家たる事であらう。けれども点数に訴へねば文部省では通過しないのである。此の学校では点数だけでは人物の価値をきめないのである。身体が弱くて勉強に耐へられないやうならば、卒業はさせないのである。三年間の知力の判断、意志の力が弱いならば、卒業生としては出さないのである。

[社会の試験]

賢母良妻が欲しいと云ふ親があり男子があると云ふ時に、何を聞いて来るのであるか。点数が多いとか、論文が立派に出来て居ると云ふ事は問題にならないのである。学力が如何程あつても品性が面白い、家風にど一も好ましくない処があると云ふと、誠に良縁であると思ふ縁談でも破れて了うのであります。此の学校では私共が直接そ一云ふ事に関係するのではないが、多くの寮監や指導者のところには、よく聞えて来るのであります。外を飾つて内を磨く事におろそかであつたと云ふ事は、第一に落第して了うのである。又、先生として其の人を選ぶにしても、成る程学問は出来るが人物はど一であるか、他の教職員との折れ合ひはど一であらうか、生徒への感化はど一であらうかと云ふ事できまるのであります。寧ろ学問は第二であつても、品性の出来て居ると云ふ事が通過しなければ、卒業証書は貰つて居ても落第である。此の点数は誰れも見せてはくれないのである。あなた方の知らない間に、社会ではちゃんと試験をして居るのであります。然るに世間では、点数で以て其の人の価値を定めるかのやうに思つて居る人がある。之れは間違ひである。故に私共は只点数、只知識の分量を以て計るにあらずして、其の人の実行力、反省力、知力の堪能に由つて、其の人の価値をきめるのであります。

[方針の実行]

之れは只此の学校のみならず全国の学校が斯う云ふ風になりたいと思ひますが、併し私共の手のつけらるゝ処から実行する事が出来るに由つて、今年度から着々其の方針を実行致したいと存じます。

大正二年四月十六日
第二、三学年にて

[此の学年に於て集注すべき点について]

昨年の卒業式には、当時の精神及び来学年の希望を明かにする為に、深く考へて十分経験せんければわかり兼ねる様な精神的問題を述べて置きましたが、其の命が過去一年間に如何なる形で現はれたでせうか。深く内に潜んで居る種子が第十一回生に於て、大に其の命を発生せしめんければならぬ。皆さんが此の学年に於て進んで行くべきところ、即ち集注すべき点、又は現はさんければならぬところのものの特性について、始めに考へることが必要であると思ふ。今日は、私共が望んで居ることであつて、又皆さんは内に力を集注して深く考へねばならぬことについて話したいと思ふのであります。

[此の学年は程度を高めると云ふことに集注せんければならぬ]

実は私は、昨年中に多分其の芽が出ると思つて居りました。しかし、其の延びる力は後れて居る。実行は生れて居るが、延びる力がまだまだ弱いと言つてよろしい。即ち、原動力が十分に延びる力を失つて居ると思ふのである。此の学年に於て、そこに力を集注して延ばさねばならぬ。換言すれば、各自の力、即ち程度を高めなければならぬ。しかし、此の高めると云ふことは如何なることを申すかと云ふことは考ふべき問題である。

英國監督セル氏は私に、「日本と獨逸とは Subject を教へるが、英國では Man を教へると思ふが、如何に」と言はれたが、之れにはそうですと言はざるを得なかつた。次にマービン博士に「米國は何れに属しますか」と尋ねられた。しかし博士は黙して答へはなかつた。此の意味は皆さんにもわかるであらうと思ふ。

日本の教育は Subject よりも知識を授けるのである。獨逸では Subject について深く研究力を与へて居る。又、それが出来得るのである。英國に於ては、Man を教へるのである。つまり英國の教育は、分量を増し Subject の複雑さを増すと云ふ獨逸の教育法とは異なるのである。例へば獨逸では数学を教へるにも代数、幾何のみでなく、測量や三角術までも教へると云ふ有様で、つまり程度が高いのである。英國の教育は、程度を高めると云ふことは人を高めると云ふことである。

私共が今年、程度を高めると云ふことは、各自の値打ちを高めると云ふことであつて、即ち、内に働いて居る力を高めると云ふことになるのである。其の値打ちは何れにあるかについて解釈した人がある。昨年の冬にお迎へしたトロント大学の校長マーバッシ博士は「私共の所有物は偶然であり、一時的のものである。尚之れは値打ちの少ないものである。自分の値打ちは所有物ではない。何かを為したと云ふことでもな

い。然らば何であるか。即ち、我れが我れである。私自身が永久に必然的なる私である。無限で尊いところの我れ自身である。然らば、我れとは何であるか。即ち人格である。我れが経験したことが我れではない。我れと云ふものに真価値があるのである。外面ではない。内面にあるのである。人は非常なる力の源を有して居る。そこから発して居る力が自分等を延ばしもし、又向上もせしむるのである。之れを自動の力と言ふ。その力が人格である。其の人格を高めることが大切なのである。程度を高めると云ふ事は、Subject を高めるのではない。全く人格、即ち力を高めることである。」

力を延ばすと云ふことは如何なることであるかがわかるであらうと思ふ。自分で自分を発現しやうと云ふ熱心があり、自分で経験せんければ真の意味はわからない。

[反省と反動とが人を作るのである]

然らば、今年は如何に勉強するかと云ふ方針を定めなければならぬのである。此の方針によっては Subject を教へると云ふことにも、Man を教へると云ふことにもなる。本年の能力を延ばすと云ふ意味は、Subject を学び、且つ社会的四囲より受ける刺激によって反動せんければならぬ。即ち、反省と反動とが人を作るのであると云ふことになる。

今日の教育は Subject を教へるのではない。即ち、知識を授けるばかりではないのである。例へば歴史を学ぶにしても、其の第一の要件は事実を覚えるのみではなくして、それによって生活の関係、即ちそのものの真意を解することが大切である。趣味があり興味があると、そこから新しい力を見出すことがある。つまり真に学問をすと云ふ事は、自ら好んで、しかも内からの興味であつて、自分で考へたり又研究したりすると云ふやりかたになるのである。此のやうになつてこそ始めて仕事をして居ると言はれるのである。

米國には一方里に平均六人の居住者がある。然るに日本は同じく一方里に平均三百六十人の居住者があるのである。而して、英國や獨逸は領地も多く、且つ良い地方を領して居るが、日本ではどうでせう。我が国の運命は、何時開けるであらうか。日本国民は實際生活に必要な力をつけなければならぬと思ふ。我が国のために必要であるから、考へずには居られないのである。大に反省が必要であると思ふ。学問をしても、反省がなくてはならぬ。そして物事に順応する為めに反響せんければならぬ。此の点に於て日本国民は鈍いと思ふ。

[将来世界の運命は理想的精神に支配せらる]

将来、世界の運命は物質的文明が支配するのであるか、理想的精神が支配するのであるかと云へば、勿論後者であることは異論がないであらう。

パナマの運河が開通する様になれば、世界の大勢に大に関係を有して来るであらう。

帰一協会のことは日本が発起したのである。日本から世界的万国の問題を提供したのは始めてである。而して世界は之れに反動したのである。米國では一ヶ月もたぬうちに帰一協会が立てられたのである。実は其の反動の早いことに驚いて居る。これを見ても、進歩したところの國は如何に四

圍の國に反響するかがわかるであらう。

[境遇に反動して行かぬばならぬ]

真の学問は四圍の境遇に反動して行くのではなくてはならぬ。私は、皆さんの内にある種子が発生する時期であると思ふ。此の刺激に反動せんければならぬ。皆さんは此の力が最も大切である。それは自動によって得られるのであるから、各自につとめなければならぬ。此の態度を作ることが、あなた方の義務である思ふ。

[中表紙]

モービー博士を迎へし時

大正二年四月十八日

大正二年四月十八日

モービー博士を迎へし時

私は先達て、モービー博士が米國をお立ちになる時にお目にかゝりましたが、それも僅かに一分間でありました。その忙はしき加減は、とても皆さんには想像が出来ない位である。紐育に生活したことのある人には、よくわかるであらうと思ふ。それでモービー博士にも、日本でゆつくりお目に懸かりませうと申してお別れしたのでありました。此の様にお忙はしい中を我が国のために二度までもお出で下さつたと云ふことは、感謝いたして居るところであります。

[米國に於ける雑誌の勢力及び其の理由]

アウトルックと云ふ雑誌は米國で勢力のある雑誌の一つであります。皆さんは雑誌と云ふと、我が国の多くの雑誌のやうに思ふであらう。我が国の雑誌には商売が目的となつて居るから、時代につけこむことがある。それで教育上却つて害があると云ふ考へから米國に於ても雑誌記者などは人格のないものと思ひ、又は雑誌などはあまり有益でない様に思ふであらうが、アメリカ全体で何が権威をもつて居るかと思ふと、それは国民の輿論である。それを窺はれるのは雑誌である。アメリカの全国民を支配するものはと云ふならば、先づ健全なる輿論である。健全なる思想を導かんければ國家を治めることは出来ぬ。殊に紐育あたりに働く人々は忙はしいのであるから、従つて総てが機械的、物質的に陥り易いのである。

[米國の如き国柄には有力なる指導者が必要である]

それで米國のやうな国柄に於ては、人格の高い、学識のある、力のある指導者がなくては、國家の運命は開かれぬのである。殊に米國は他の國と違ひ、世界の各國から比べると習慣、人情を異にし、宗教や信仰を異にしたものが毎年百万人以上も移住するのである。此の人々をして米國の健全なる思想に同化せしむるには教育もあづかるが、只学校、教会、家庭のみでは功を奏することが出来ない。どうしても全体を導くところの有力なる指導者が必要である。

其の一番わかり易いところの説明は、加州に起つて居る問題でわかる。今日お出で下さつたモービー博士や、先般お出

で下さったエリオット博士や、二十日の記念日にお出で下さる筈のピーバデー博士、又、度々此の学校へお出で下さったブライアン氏の如き、何れも立派な紳士である。且つ非常に日本に同情をもち、我が国のために言ふべからざる好意をもって居る国民である。

しかるに、加州に排日運動が勢力を占めて居るには不思議な現象である。しかし之れは解するにむつかしいことはない。米國のやうな輿論のしっかりした立派な人のある國に於て、或る一部分に起る現象である。毎年イタリア、ユダヤ、ロシア人等が移住し来たり、中には社会主義者も無政府党も犯罪者も病的思想にかられた不健全な思想の人も多く入りこむであらう。それを米國化すると云ふことは大問題である。モービー博士の如きお方、又は雑誌 アウトルックの如きは、此れ等の人々を米國化して行かねばならぬ非常なる使命を受けて、高尚なる理想をもって尽力して居らるゝのである。

此の雑誌や此の雑誌の記者は只營業のみでなく、又一部分の機関に設けて居る種類のものでなく、アメリカ魂、即ち米國主義を売ることが高尚な目的、理想であつて、又それのみならず、それを追求する力のある雑誌である。

殊にモービー博士は長く紐育の中心に於て米國の教育に尽され、尚女子の教育、幼稚園教育にも尽力されたお方である。十分の御経験もある学者である。此の日本に關係浅からざるお方が代表して我が国に來られ、一層誤解が起らんとする此の時期に於て、国民一般は殊に満足する所であると思ふ。殊に、此の女子の学校に二度までもお出で下さつて、直接に御経験を又御考へを話して下さると云ふことは喜ばしいことでもあります。のみならず教育上有益なこととして、之れより博士の御高説を拜聴することに致します。

[中表紙]

第十二回創立記念式にて
大正二年四月二十日

大正二年四月二十日
第十二回創立記念式にて

今回、Harvard 大学の名誉教授ピーバデー博士、並びに夫人、令嬢、其の他の來賓諸君は御多忙中にも拘はらず、今日の式にお出で下さつたと云ふことは大に感謝いたす所でございます。

[記念式を挙げる理由]

今年は幼稚園、小学校、高等女学校、大学部全体で四百九名の入学者がございました中で、大学部及び高等女学校が大多数を占めて居ります。大正の御代の今日に於て、我が母校の記念式に始めてつらなる人も多数あるであります。それで一言、この記念式の意味及び毎年此の式を行ふことについて説明いたしたいと思ひます。

今申した如く、毎年記念式のしるしのために何か特色のあ

る樹木を校庭に植えると云ふことが例となつて居る。今年は公孫樹を植えると云ふことであるが、新入生は式の起り、由來、又は第一回の学校の最も記念する日に於て如何なる樹木を植えたかを想ひ見るに、それは桜楓樹であつた。

[桜楓樹について]

此の樹は如何なる特色のある、又如何なる意味を表はす樹であらうかと申すなら、三特色を集めて、それが同化して一つの樹の芽となり、今年まで十二年間榮えつゝ來たのである。

第一の特色は桜である。桜は我が国の武士の誠を現はすものである。その桜に楓を加へたのである。只今美しく繁つて居る葉桜は得も言はれぬほどよろしいが、秋の楓の美には及ばぬであらう。秋に於て葉の紅葉するほど美しいものはない。中でも楓は最も美を加へるのである。桜に楓を加へたのは、此の意味からである。

尚、桜は実を結ぶのである。即ち、桜楓樹には西洋の實の美事なのが結ぶ様になつて居る。此の意味は、我が国古來の武士の誠と我が国固有の美德と、其の樹に実の美しい行ひ、即ち、桜楓樹は真善美を現はすところの表象である。我が国固有の特色に西洋の最も勝れた実を加味した如き、一種文化した所の木をもって表せられて居るものである。

其の木は三つの根が分れて居る。幹からも亦三つの枝が出て居る。その深く向上の地に根を下ろす一大根は、世界的の潮流、又は万国的の根になる。枝が発達して道徳、宗教、社会、家庭と云ふ様にわかれて居る。即ち世界的、家族的、万国的と云ふ様な枝に分れて居る。此の一大根は本校の校風を養ふところの最も大切なるものをなして、十二年の間、生長発達したのである。此の同じ主義、同じ精神を現はすところの、近年我が国に生れた婦一協会の主義、精神は世間にも明かになつて居る。皆さんは既に了解して居られるから、今更説明を要しないであらう。

世界的潮流の根は、婦一協会に表はれたのと同じ根である。此の精神教育の根本となる考へは二十年前、アメリカ合衆國に於て我々が現時代の大潮流より流れを汲んで、その流れを引いたものと、東洋の文明の大潮流と相合してなつたところの混合の命である。しかるに二十年後の今日に於て、アメリカ合衆國は我が国と同様な婦一協会が組織され、今日は其の代表者としてお出でになつた博士が本校の此の十二年の記念式に臨まれ、一場の演説をなして下さると云ふことは、偶然でないかの如き感がする。これも長く複雑なる關係、原因に由つて、今日の如き喜びを味はふことが出来得るに至つたのであると思ふ。

[中表紙]

第一学年及び予科にて
大正二年四月二十六日

大正二年四月二十六日
第一学年及び予科にて

初めに、皆さんの境遇及び身体、健康、精神、個人の特性と云ふやうな事を知る必要が私にもあり、亦あなた方自身にも必要な事であり、夫れで今日は、いろいろ尋ねたい事、申したい事があります。故に、ほんとの事は一人一人御目にかゝって直接に聞く事が必要であります、その云ふ事は一ぺんに出来ない事ですから、今日は私の尋ねについて銘々に筆答して貰ひたい。又、一般の事は起立してなり答へて戴きたいと思ひます。夫れで今日は、銘々の特性を調べる方法と其の目的、即ち何故夫れが必要であるかと云ふことを説き明しておく事が必要であると思ひます。

其の前に一寸、之れ迄の境遇がど一云ふ風になって居るか、大体の事を見たいと思ひます。故に一番長く此の学校の空気を吸うておいでになったのは高等女学校及び予科であります、高等女学校からおいでになった方は……

普通予科……

英文予科から……

此の学年に、一年にお入りになった方は……

英文科に、外からおいでになった方は……

予科においでになった方は……

暁星寮、ブラックマ ホームから通学の方は……

通学なさる方は……

御両親の御宅からおいでの方は……

之れは又一人一人お書きになる様に申しますが、私共は教場に於て先生から学ぶ事、及び先生の人格の感化を受ける事だけに由つて学問が出来るのではなく、私共は日夜寝食をして居る処の境遇と云ふものが不知不識、感化を受けるのである。故に自分の居る処については、皆さんが大事な問題として御注意をなさる事が必要であります。

之れはお書きになる一つの箇条になります。その云ふ場所について、その他此の学校にお入りになって幾らか是れ迄と生活の改めねばならぬやうな事があつたり、又は着物や履物と云ふやうな経済についても是れ迄の習慣と異なるやうな事があります。夫れについて正当な判断が出来ないと、大変な不利益であります。

其の次に随意科、専修科もあり、その他、今迄の高等女学校と学問の仕方が変わつて参りますので、ど一云ふ風に勉強すればよいかと云ふことについて、いろいろ頭を働す上に疑問が起るであらう。

大学へ入つて生活をなさるに、目的をもって生活するには種々なる問題が起るであらう。それについては種々の困難が起るであらう。その問題について、学校の方針などを経験ある人によって尋ねたいと思ふであらうと思ふ。一般に、自分の組、其の他の事についても問題がある。それらについて私が今お話しする事に由つて、少しは参考になりませう。又、

わからぬ事についてお聞き下さい。

[目的的生活と云ふことについて]

今年の集注点として、目的的生活と云ふ事になって居りません。目的的生活と申しますと、何か目的が定まらねばならぬのである。之れは抽象的の言葉で、総て目的がこの中に入つて居るのである。勉強及び修養するところの定まった目あてがなければならぬ。之れには如何なる答へをすればよいか。誰れか答へて御覧なさい。

教育学部の方も大分あるが、教育者になるには教育の目的がわからねばならぬ。先日、ピーパーさんは女子高等教育の目的或は理想をお話になったが、何んでしたか。誰れか答へて御覧なさい。

(生徒の答へを省く)

[個人の目的と全体の目的とについて]

之れを大きく分類すると二つになる。一つは個人、一つは全体となるのである。個人の目的の方は、即ち人格である。有効なる目的に叶ふ、よい結果の出る様にするのである。Womanhood、即ち立派なる婦人になること。之れは個人の目的である。各自が要求するところの目的である。立派なる力のある、立派なる仕事の出来る様な婦人になりたい。之れが大学へ入つたあなた方の目的である。幸福なる人になる事、之れが個人の目的である。

第二は人のために働く、社会の為に働く。之れが全体の目的である。社会の為め、国家の為め、学校の為め、寮舎の為に働く。

この個人と社会との二つの目的を全うする。これ即ち各自の目的である。Service と云ふのが社会の目的である。

教育の目的はこの二つのものである。この二つのものは相離るゝ事の出来ぬものである。お互に關係し合つて居るのである。社会の目的を達し、社会の為に尽せば、即ち個人の人格が高めらるゝのである。相離して一方の目的を遂げるのは不可能である。相助け合ひ、相反し合つて行くのである。教育の目的を論じ定めるときに、いつもこの二つの事が問題になる。あまり国家問題に重きを置きすぎて、個人と云ふことを構はなくなる。即ち今日の我が国の風習は、社会の目的の為に人民を取り扱ひ、学校の為に学生を取り扱ふ。銘々お互に異なる点、銘々の特徴を發揮させないで、画一主義の教育、同じ分量、同じ主義の教育に固めて了う。之れは一方に走つて、個人を圧するのである。如何しても一方にかたくなになる。即ち偏頗な人間になって了う。一方にかたよると、両方の目的を遂げることが出来ない。

[目的を定める時の注意]

そこで、皆さんが目的をいろいろとお定めなさる時に、目的が一方に偏せぬ様によく全体を考へて、その両方面は調和よろしきを得、その平均の度を失はぬ様に注意なさる事が必要である。我が国の主義がど一して斯く偏したかと申すと、余り画一主義に流れ過ぎたのである。適切なる教育を与へることが出来ぬのである。個人の頭に妨害になって居るかと思ふのである。特にこの学年の始めにお考へにならねばならぬことは、即ち、全体に伝はつて居るところのものと自分だけ

で誰れにもない異った性があるのである。独特なる点がある。Aptitude 即ち各自の天才、之れが延びたものが偉人と云ふのである。

獨逸のシラーは医者の子であったが、自ら始めて文学にうつった。而して斯くの如き文学者となる事が出来たのである。Shakespeare などの如くえらくならなくても、我れ我れには何かの特点、天才があるのである。音楽、裁縫、文学など種々異なったものがある。之れを皆、夫々発達させるのが教育の目的である。悪しき方より云ふと、我れ我れには何か弱点がある。之れと同時に、何かの長所がある。修養の目的、学問の目的は善なるところのものを延ばし、悪なる方をなほして行くので、是等は不可能ではない。出来る事である。我れ我れの境遇、遺伝より出たところの悪習慣をなほす事が出来る。是等をなほして有力なる働き人、立派なる婦人になることが出来るのである。悪風をなほし、そして全き婦人となって国家に社会に尽すことが出来る。而して是等の目的を果すにはどうしたならばよろしいかと云ふと、之れは個人に適する教育を受けねばならぬのである。特別に自分に適する方法を取らなければならぬ。

[反省の必要なることについて]

如何にしてこの適切なる方法を見出し得るか云ふ事は、先日からよく言ふ反省と云ふ事をしなければならぬ。Socrates は自分を知ると云ふ事を最も必要なる事とした。Self-examination、即ち反省と云ふことである。Christ、Socrates、孔子、皆之れを実行したのである。自分をえらくして行く事の出来る人は、自分を反省することの出来る人である。自分を省みて、自分の人格を高めて行かねばならぬのである。釋迦は、「自分の病を自ら断つことが出来る人は、自ら世を助けることが出来る」と言はれた。昔のこの様な偉人は、自分からなほして実行した人である。しかし、今は是等の信仰が形式に流れて来た。唯、自分の罪をお許下さい、私をどうぞお助け下さいと云ふ様なことも一種の宗教であるが、眞の宗教はこの様なものではない。実験的教育が必要である。

[自分を知ることが大切である]

自分を自分でよく知る事が出来なければ、自分に適切なる教育をなして進める事も出来ないのである。

第一にあなた方に勧めることは、自分で自分を知る、即ち Self-examination である。この自分を知るには、我れ我れの人生を支配する一般に通じたる法則を定めることは勿論であるが、もう一つ、自分だけ異なるところを持って居る、之れを自ら知らねばならぬ。

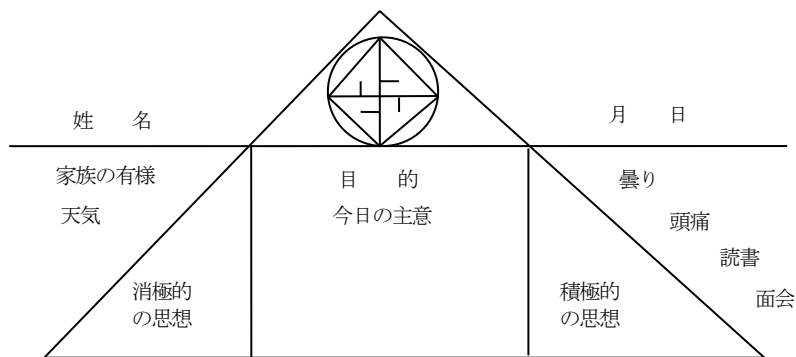
又、教育者はそれらの人の性質を知ることが必要である。我れ我れの身体が弱い、即ち弱いと云ふのはその外部からの障害に抵抗する力が弱いのである。又、弱いと云ふのは行為の失敗である。丁度適応をようしなかつたのである。支配することが出来なかつたのである。支配すると云ふのも、意志を以て四圍の境遇を適応することが出来なかつたのである。例へば、今日の天候は温度から云へば 70 度である。湿度は計つては見なかつたけれども昨日よりは余程多いので、斯う

云ふ日を鬱陶しい日と言ふ。斯う云ふ日には、或る人は頭痛がし、或る人は眠くなる。又肩がこる人がある。そでない人もあります。一寸尋ねて見ませう。斯う云ふ天候が、何やらあなたの身体にひびく人は………
少しも感じない人は………

私には大変感じます。アメリカのやうな空気の乾いて居る処では一番心持がよいけれども、日本へ帰ると天候に由つて非常に障り易いのである。夫れではど一すればよいかと云ふと、丁度其の境遇に抵抗する事の出来るやうに支配しなければならぬ。そ一して私は毒に感染しないのであるが、此の間逢うた外国人の友達、櫥の木のある道を通ると直ぐ腫れると云ふ。私は櫥の木を手につけても何ともならないのであります。

英國では風をひくとキニーネとアンモニアとを調合した薬が一番よくきくと云ふことで、夫れを一瓶買ったのであるが、獨逸ではよくきかない。アスピリンと云ふのがよくきくのである。日本では Antipyrin を用ひますが、之れは人によって違ふのであります。アメリカでは、朝起きると一番に果物を食べる。夫れから Milk とオートミールを食べる。欧州へ行くと、珈琲と麵包とを用ひる。之れは土地や気候のせいもあるのである。さて日本へ帰つて西洋料理を食べると、ど一もよくないのであります。

夫れで、丁度有効な働きをするには自分の特性を知らねばならぬ。も一一つは、自分の四圍の関係を知らねばならぬ。之れがわからないと、自分の特性を展ばし欠点を補ふと云ふことが出来ないのであります。故に自分を観察すると云ふことと、自分の境遇を観察する事が出来なければ、どうしても健康を保ち、人格を作る事が出来ぬ。所謂科学的考察、実験的生活をしなければ、どうしても発達することが出来ないのである。故に、私があなた方にお勧めする事は、先づ自分を知らねばならぬ。そうして私共、教育家の勉むべき事は、皆さんの個人をよく知らねば、ほんとの一教育をすることは出来ないのであります。夫れで、私の試験は只点数ではいけない。あなたの長所がどれだけ展ばされ、欠点がどれだけ改められたかと云ふことがわからねば、容易に定められないのであります。故に、始終あなたに接して居らるゝ指導者、寮監方の報告に最も重きをおくのであります。之れは目付をおかれたと云ふ様に思ふと、間違ひであります。我々が銘々の傾向を観察するのは、ほんとの一適切な教育をしやうと思ふからであります。決して意地わるくしやうと云ふのではない。けれども一方には、どうしても銘々自分を知らなければ立派な人物にはなれないのである。故に観察するのであります。故にどうしても此の期は、始まりからほんとの道を歩んで行きたいと思ひます。



第一の段は自分の決断をした所、意を定めて行ふ処の決心。
 第二の段は智の方面。自分の研究した所、そ一云ふ格言。
 一番終りの処は感情の方面で、満足、歓喜等の詞又は歌。つまり情緒を表したものを書く事。

これは成るべく簡明にお書きになる事。簡明に書くには余程深く考へて思想が纏まらなくては出来ないことで、之れがほんとの実力である。これは模倣ではなく、卒業論文を書く稽古にもなるのであります。此の学期から成るべく個人に適切な教育を施したい。故に、あなた方銘々に最もよく自分をお知りになる様に致さねばならぬ。夫れには有効なる修養をなさることが必要であります。

そこで次の金曜日迄に、自分の居る所、境遇などをお書きになって、何か問題になって居ること、自分の考への中心点となって居ることをお書きになって、そうして自分の身心の長所と短所、其の次にあなたの此の大学へお入りになった動機、及びいろいろ尋ねたい質問などをお書きになることを希望致します。

此の個人をよく知ることはやはり全体の校風を導くことになり、全体を教育することは立派なる主婦及び母を作ると云ふことで、即ち社会の目的を達することになるのであります。あなた方の目的は人に対し、国家に対して奉仕すると云ふ事であらねばなりません。

[中表紙]

大学部全体の為に
 大正二年四月三十日

大正二年四月三十日
 大学部全体の為に

今日全体をよせましたのは、之も其次の土曜日に大事な事があるので、今日は全体に拘る事を申す為に斯うなつたのであります。

此の前に、目的的生活をすると云ふ事であるが、其の目的は何をさすのであうか。そ一して夫れをお分けになって

校風を充実すると云ふ事と、一方には個性を發揮すると云ふ事である。然らば、其の個人の人格、実力を發揮するにはど一すればよいかと云ふ事を、此の間一年に申しましたが、今日は、其の校風を充実するとは何を言ふのであうか、殊に今年の特徴としては何をなさるか、之を三年から答へて貰ひませう。

之には色々な事が協同して働くのでありますから、大別しなればなりませぬが、其の主なる要素は如何なるものでありませうか。一番之から今年あなた方の実質を高めるとは、水平線を高めるとは、何を高めるのでありませうか。

[人格を高める事]

人格を高める事、夫れには深き反省をなす事。あなた方が手本にしやうとお思ひになるのは、聖人とか天才とか云ふものであう。けれども我々は皆人格にならうと思ふ。無論程度は違ふけれども、銘々の内にある処の理想の人格にならうと云ふ芽とか種とか根とか云ふものは、誰れにもある。其の人格の根となるものは何でありますか。

英語では Aptitude、適性と言ふ。夫れを養ふには、ど一したら出来るのでありませうか。

[Potentiality]

今日、人類を支配して居る詞、最も適当な詞を覚えておおきになる事が必要であると思ふ。私は之を Potentiality と云ふ。Potentiality とは、訳して潜勢力とも潜伏力とも言ひます。皆、人格にならう、出やうと云ふ力はあるけれども、深く埋没せられて居るのである。

此の力は哲学の始まつた頃から見出されて居って、ソクレテスは既に之を認めて、Daimonion と言ひました。Daimonion とは靈妙不思議の力であつて、永久無限のものである。又、今日の心理学の仮説では Subconsciousness と言ふ。之は、大洋で云へば表面に見えない所の底ひ知られぬ力である。此の力が誰にもある。どんなつまらない力でも、どんな生れつきの人でも皆あるのである。何か一つの人格になる処の極潜んで沈んで居る処の力が誰れにも必ずあるのである。

之が自分と云ふもの、個人と云ふもの本であるのである。狭くらしい様に見える処の人でも、大きな人間にならうとする処の根があるのである。無論、人としての通有性もあるが、又、個人として特色を顕さうとする処の Potentiality があるのである。

併も、誰れでも之を實現し得るものかと云ふと、そ一ではない。今日では夫れを磨き得ないのみならず、心づかずして所謂宝の持ち腐れをして死んで了ふ人が多い。之は誠に惜むべき事であり。故に、Potentiality のあると云ふ事が第一で、之は何かにあてはまって行く処の力である。
[潜勢力を促す力が必要である]

第二には、其の潜勢力は之を促す力があるのである。我々の進化と云ふものは、我が中にあるものと外から促す力があつて始めて行はるるものである。故に境遇が必要になる。之は我々を促す力であり、刺激する力であります。昔から外から吹き込むと言ふけれども、吹き込むのではなく内から出づるのである。けれども兎も角も、外部から促す力が必要である。此の力の強弱によって、内から出る力に差異を生ずるのであります。

反省とは、外からの刺激にあうて内から働いて行く力である。故に Reaction、或は Response と云ふのである。之を自分の方から言へば Impulse とか Aspiration と云ふのであるけれども、Reaction は外から働きかける力があつて始めて共同する処の力である。之がよく働かぬば、人格を発現する事も、校風を充実する事も出来ないであります。

そこで校風を充実すると云ふ事と我が人格を實現すると云ふ事とは、一つのもの両方面である。つまり自分から云へば、自分の深く潜んで居る力が出ると云ふ。即ち夫れが顕れる或は創造すると云ふ事は、四圍の境遇が促して来る。其の境遇に反応する、共同すると云ふ事に由つて、自分が出来て来るのである。故に自分の人格を作ると云ふ事は、つまり目的物を拵へると云ふ事であり。

又、校風を充実する、或は国家を組織する、或は天国を成すとか云ふ事は、個人が相共同し相助け相愛するに非ざれば、決り実現するを得ないのである。そこで、私共は校風を充実すると云ふ小世界を組み立てると云ふ、其の目的を達すると云ふ事が我々の実質を高め、我々の価値を高め、我々の潜勢力を増進すると云ふ事になつて来るのである。そこであなた方の Potentiality を Genius と云ふ詞で申すならば、其の天才は何を言ふかと云ふと、一番之をわかりやすく言ふならば、Artist 美術家と言ふ。

美術家と云へば、音楽を組み立つる人を Musician と言ひ、斯う云ふ家を組み立つる人を(空白)と言ひ、Statesman 政治家と云へば国家と云ふ家を建設する人であるから Statesman と言ひ、詩を作る人を Poet と言ふ。そ一して見ると我々は何かの美術家であり、建築者であり、調和者である。故に全体を組み立て、全体を調和するものを天才と言ふ。故に天才とは全体を組み立つるもの、又今迄不完全があつたものを組み立て直す事である。故に我々の潜伏力とは多くの材料、各種の材料を、建物で云へば一伽藍、又は大なる全体に

組み立つるものであります。故に、此の仕事を物に譬へるならば面白いものにたとへられて居り、又数千年の宗教の、又宗教となつて居る処の Freemasonry と申したい。個人は其の家の材料となるものであるから、永久的のものでなければならぬ。故に意志強固なる銘々によつて組み立てられたものでなくてはならぬ。

夫れで皆さんの校風を充実すると云ふ事は、此の間記念式で一寸申しました桜楓樹と云ふものである。桜は我が国の至誠と云ふ事を意味し、紅葉は我が国固有の美と云ふ。そ一して此の実は外国の桜に実のる処のおいしい実であります。之はど一云ふ事でせう。Combination で、色々のものを接ぎ合せたのである。之が Art である。Idea であります。故に之がほんとに立派に出来たならば理想郷であり、天国であります。此の Art に才のあるのを Genius と言ふのである。我々は何かを組み立つる処の天才を持って居る。何かの大きな宮建物を築く処の材料となる適性を持って居るのである。故に何かの目的を持たねばならぬ。そこで我々はど一しても自分と全体、自分と時代の潮流と合体しなければならぬ。之が出来て始めて何かの全体、自分の家庭を組み立つる事が出来るのであります。

[天才は時代が生む子供である]

天才は時代が生む処の子供であり、時代は天才が創造する処の社会であり全体であります。故に自分と時代とは相働きあひ、相反射しあふ処の結果に過ぎないのである。然らば、夫れだけの力が貯へられて居るのに何故、其の天才が発現しないかと云ふと、自分と境遇とが相一致しないからである。故にあなた方も、其の天才と此の校風とが相伴はねば立派なる人格は出来ぬ。立派なる校風が出来ねば天才は顕れず、立派なる学生がなければ立派なる校風は出来ないのである。

そこで昔から大天才と云ふものは其の時代が生んだのであると云ふ。Christ 然り、孔子然り、Goethe 然り、Washington 然りと云ふ。即ち、其の時代なかりせば斯くの如き偉人は生れず、此の偉人なかりせば斯くの如き時代は起らなかつたのであります。

私は先年来、あなた方の反応力を試して居るのである。私はど一しても此に非常なる Mystery vision、之を内から言へば Insight である。此の Vision を見出し、此の Mystery を察する力がありますか。

[加州問題につきて]

今一番近い問題は加州問題であつて、我が国民が列強と共同し得るか否かと云ふ問題であります。つまり斯う云ふ問題を考へるのは、国家の運命を支配する政治家である。併し、今日進んで居る列強は、誰れがほんと一の政治家であるか、其の列強を改造する処の造り主であるかと云ふと、国民である。国民と云へば、婦人も国民である。あなた方は、国家の運命に関する重任を感じるか否かと云ふ事である。つまり、大きくなるとか深くなるとか云ふ事は、大きな関係を感じるか否やにあるので、其の大きな関係を考へる事なく味はう事なくして、大きな人物、深い国民となる事は出来ないのである。

否、我々は東西の雑多なる要素を調和統一する処の Artist である。其の責任を分担し得る人にあらざれば、上達は出来ないのである。今や其の時は来れりである。殊に我が国は、此の新文明の中心点にならうと云ふ運命が来て居る。実に千載の一遇である。あなた方の潜伏力は果して此の運命に調和し得るや否やと云ふ事が問題であります。

[島国根性につきて]

我が国では、ど一も是れ迄島国根性が離れなかつたのである。此の島国根性が一番かたよつて顕はれたのは源平の戦ひである。あなた方は屋島の戦ひによりて、おわかりになるのであらう。此の戦ひには相互に憎みあつて、女子ども迄も全滅しなければならぬ。つまり、胤を残さしめぬと云ふ仕方であつた。

西洋でも最も血を流した悲劇は、偏見なる宗教に由つて演ぜられたのであります。けれども我が国の神道が、他宗の信者を悉く屈伏せしむる事が出来るかと云ふと、夫れは出来ぬ。

此の天国と云ふもの、社会国家と云ふものには病人がある、罪人がある、貧乏人もあり、金持ちもある。賢い人もあれば愚かな者もある。Christ の如き先生のもとにも、ユダの如きお弟子がある。此の桜楓会の中にも偏屈な人もあれば浅い者もあり、色々様々な者がある。社会国家も同じ事であります。

然らば Organizer は如何なる力を要するかと云ふと、第一には我々、Genius と言ひ、Artist と言ひ、Composer と言うても同じ事、Organaizer と云ふものは、Perfector でなければならぬ。千差万別ある処の力やら要素やらを最も完全に組み立てる事が必要である。故に天才と云ふのは、只 Aptitude ではない。我々は甚だ偉大なる性質もある一方に、甚だ矮小なる性質もある。此の色々様々な性質、力、要素を以て、誠に完全に組み立つる事が必要である。故に、天才と云へば好きな事、勝手な事に才を弄するのではありません。

然らば Perfector は如何なる力を以て全体を組み立つるか。我が桜楓会、我が国家には幾多の狂人があり、幾多の病人がある。此の弱いもの、汚ないもの、綺麗なるもの悉くを容れねばならぬ。此に至つては神様でなければならぬ。Christ は一番何を愛せられたのか。罪人を愛せられた。監獄に力を注がれたのである。

宇宙は完全に進まうとして居る。此の目的を達する為、四圍の境遇を改善する為に日夜力を尽して居る。之が我々の手段である。目的である。之が出来ねばだめである。

私は知恵があります、音楽が出来ますと言つてもだめである。そ一云ふ人は何故、狭くなるか。達せられないか。全体の大勢に反抗して、只自分の一局部ばかりを見て居るからである。故に私共は、そ一云ふ人かまはずにおくのではない。彼れの如き者はと云つて構はずおくらば、やはり自分が偏狭になるのであるから、私共はど一しても総てを容れねばなりません。

[中表紙]

大正二年五月十日
第一学年及び予科にて

大正二年五月十日
第一学年及び予科にて

いろいろ質問がありますが、段々と進むに従つておわかりになりますでせう。又、指導者、寮監及び上級生等からお聞きになった方がよからうと思ふ点もありますが、其の中早く申しておかねばならぬと思ふことだけを答へておきます。

[新婦人について]

夫れは、此の頃新婦人と云ふ詞が現れました。又、新真婦人と云ふ詞も出来ました。之れは大隈伯も此の間お話になりましたが、文部省、内務省に於てもいろいろ心配して居る様であります。又、此の間中、新聞雑誌記者なども参りまして意見を尋ねられたこともあります。

[危険思想について]

此の頃、新聞雑誌に現はるゝ詞は危険思想、危険人物と云ふやうなことでありますが、既に危険なる思想があり、危険なる人物があるとすれば、自ら危険なる行為が現はれないとも限らないのである。そ一云ふ空気は社会に害毒を流すものではあるまいか。又一種の好奇心から、そ一云ふものは読んで見る必要もありはしまいか、そ一云ふ演説会にも行つて見やうかと云ふ考へを起すものがあるかも知れぬ。かう云ふ様な考へは健全なるものであるかど一か、そ一云ふ考へは危険なるものではないかと云ふ考へがお起りになった様である。

第一に私があなた方に尋ねたいのは、研究的態度にしても又は娯楽的に読むとしても、或は好奇心に駆られたとしても、そ一云ふ思想に触れるとか、そ一云ふ場所にも立ち寄ると云ふ様なことをしたらど一でありませうか。此の学校では、あなた方を室咲きにはしたくない。雪にも霜にも雨にもあつて、判断力あるものとしたいのである。又、あなた方の修養を量の水練にしたくない。そ一云ふ考へであるから、どんな処に立ち入つても、ど一云ふ人に交はつてもよいではないかと考へるかも知れない。故に、あなた方はど一お考へになるか聞きたいのである。

[危険思想の有無について]

危険思想とは、あぶない恐るべき思想であります。第一に此の世の中に危険思想と云ふあぶない恐ろしい思想があるかど一か、あなた方の考へを聞きたいのである。

有と思ふものは……

無と思ふものは……

あると仮定して、そ一云ふ思想は教育なき者に危険であるかも知れないが、あなた方には危険でないと思ふ人は……

私は大坂に女学校をもつて居つた時に、日清戦争の捕虜が始めて大坂について、夫れを見たいと云ふことであります。私は自分でつれて行けば大丈夫であると考へて多くの生徒をつれて行きましたが、山があり川があり、しかも其の川には水が出て居つたので、私はいろいろと苦心をしてやうやう堰

き止めて無事につれて帰りました。夫れから私は、そ一云ふ大勢の人の中に子供達をつれて行くものではないと決心致しました。そ一かと云って子供達が**ぶらんこ**をしたり機械体操をするやうなことを一切させないかと云ふと、そ一ではない。将来自分を保護するために、あぶないこともさせておかねばならぬ。故に或る程度までは危いことにもなれさせることが必要であるけれども、夫れは程度の問題である。我々が物質世界に順応して行くときに、危いことが沢山あります。

[今年の軽井澤について]

今、私の心の中に問題になって居ることがある。それは此の度、皆をつれて軽井澤へ行くかど一かと云ふことであります。今年は浅間山の鳴動が度々ある。専門の学者である大森博士は、少し此の頃浅間は危険であると言はれて居る。自分のことはど一でもよいが、皆をど一するか。何、そんなことが構ふものかと言ふ人もあらう。けれども亦、孔子は危うきに近づかずとも言はれたのであります。英國の如き海上の衝突を避けることに苦心をして居る国民ですら猶、三千人を積んだタイタニックを沈没させたのである。飛行機の如きもそ一で、我が国も三人の犠牲を払うたのであります。

[物質界の危険について]

斯う云ふ物質界の危険もあるが、夫れよりも猶恐るべきは心中の黴菌である。何時襲うて来るかも知れない。パナマの地峡を横ぎるとき、多くの人命を殞したのは猩紅熱のためでありました。夫れは蚊の媒介によるのであると云ふことがわかった為に、三人のお医者さんが自分の身に其の蚊の毒を受けて二人迄犠牲となって、たった一人残ったお医者さんが其の原因は愈々蚊であると云ふことが確められたので、石炭酸をもって行って撲滅した。其の費用は三千万弗と云ふことであります。其の他に未だ恐ろしいものは結核である。

[癌の研究]

夫れよりも恐ろしいものは癌である。私が世界各国を回って見ましたのに、何処の大学でも皆癌の研究をして居りますが、未だ充分にわからないのであります。君子は危きに近よらずでありますから、非常なる注意を要するのであります。

家康は、**人生は坂に車をおす如し 油断をすると後へ戻ると**言はれた。実に其の通りである。私はあなた方が此の世の中に危険思想がないと思ふならば、夫れ程恐ろしいものはない。又夫れ程生意気なことはない。生意気程恐ろしいことはない。大抵の誤りは皆、慢心から起るのであります。

[精神界の黴菌について]

我々の霊界の遊泳は危険でないと思ふならば、大いなる誤りである。これは物質界を空中飛行機に乗って翱翔するよりも、タイタニックの如き大きな船に乗って大洋を横ぎるよりも遥かに危険なるものであります。のみならず、物質界に黴菌がある様に、精神界にもやはり恐るべき黴菌があるのである。又、癌の如きものもあるのである。如何となれば生きて居るものであるから、一度平均を失ふならば忽ち転覆を免れないのである。偏してもいかず、慢しても行かず、傾いても行かず、駆けつても行かず、じっとしても行かず、いろいろなる知恵を要し技術を要するのである。あらゆる力を集めて、全う

して始めて安全なる飛行機に乗って高きに昇ることが出来るのであります。

あなた方が十分なる力が出来たならば、そ一云ふ文学を研究するも宜しい。思想を探っても宜しい。けれども、あなた方は未だそ一云ふ力はないのである。夫れであなた方がそ一云ふことは構はないと云ふことは、大胆なる様に見えて大胆ではない。自由な様に見えて自由ではないのである。

[演劇、寄席について]

序にあなた方に申したいことは、演劇とか寄席とか云ふ娯楽は人生に必要であるけれども、演劇や寄席に行くことは宜しくない。学者が研究のために、芸術家が批評のために読むのは宜しいけれども、未だ何の嵐にも逢うたことなく、何の経験もないものが、つまらぬ思想に触れることは甚だ宜しくないのである。

西洋では、そ一云ふことを如何に取り締って居るか。西洋では我国よりもっと教育が普及して居るのであります。彼方ではいろいろなものがあるけれども、上流社会が行く様な処でも、あなた方の様な若い娘や息子は一人も行っていないのであります。日本の様に親の行く処は子供も伴れて行くと云ふ様なことはありません。

[読み物について]

夫れから読み物、之れが中々大切なものである。其の人の行ひは思想、感情から出るものである。故に青年の思想、感情と云ふものは決して等閑に付すべきものではありません。故に、どんな処へ行ってもよい、どんな思想に触れてもよいと云ふならば、是れ程恐ろしいものはない。之れから黴菌が入るのである。此処から癌が発生するのである。故に誠に恐るべきものであると思ひます。

[積極的態度と消極的態度]

そこで大体私は、危険思想がある、又夫れはあなた方にとつても危険なものである。故に好奇心によって夫れを研究するとか解剖するとか云ふことは、も少し年をとつてから初めるがよい。決して今日なさるべきものではない。故にそ一云ふ危険なる思想に陥らない様に、そ一云ふ思想の発生しない様に、今年の始めから御注意なさることが必要であります。あなた方は、ど一して夫れを発生しない様にするかと云ふ積極的態度を以て進むことも大切であるが、一方には消極的態度をとることも必要であります。其の何れかの一方に偏すると、忽ちあなたの生命が危くなるのであります。

故に之れから如何にして健全なる思想を育て行くべきかと云ふこと、之れは皆あなたの思想を本とするのであります。其の為に、いろいろ書いて貰ふのであります。

[中表紙]
大正二年五月十七日
第一学年及び予科にて

大正二年五月十七日
第一学年及び予科にて

[目的的生活について]

前日に申しましたことについて始めに、どーおとりになつたかを少しづつあなたの方の考へなり経験を聞いて進むことに致したいと思ひます。目的的生活の中でも、今年及び予科で勉めて居らるゝことは、自分に重きをおく方面、即ち自分の品性を養ふと云ふことである。此の目的を達するに、いろいろな道がある。其の一つを修養と言ひますが、之れは広い意味をもつて居ります。修養とは一方ではいけない。総ての方面を開拓しなければならぬ。若しも之れが一方に偏すると、危険思想及び危険行為となるのである。故に各種類、各方面の道筋を調査して、一致調和するやうにせねばならぬ。

[知行について]

私共の修養に必要なことは、第一 知ることに知、第二 感ずることに情、第三 行ふことに意、第四 成ることに人格。第一、第二を知とすれば、第三、第四を行と言ふことが出来るので、此の知行と云ふものは互に助け合つて、誠に深い関係を持って居るものであります。そーして理想の人格を建設して行く上に、知ると云ふことが大切であらうか。行ふと云ふことが大切であらうか。之れは昔から問題になつて居ることです。

[知行一致]

知行は一つの実体の両方面をなして居るもので、離すべからざるものである。故に、両方共大切なるものである。所謂知行一致と云ふことは、古くはソクラテスが申しました。近くはゼームスも言つて居ることで、東洋で王陽明も申しました。

グリーキで知の方に重きをおいた学者はプラトーである。行ひの一番真髓となるものは行ひであると云ふことは、アリストールが言ったので、今日もさう云ふ説があるのである。あなた方は、どーお考へになるのですか。

- (1) 知行一致………大多数
- (2) 知………
- (3) 行………

之れは余程深く考へねばならぬ。行ひと人格とは離れられぬものである。知がなくては行ひは出来ず、行ひを除いては性は出来ないのであるが、知と行ひ、或は知と感情とについては何れが行ひの本となるかと云ふことが問題である。

[ピーバデー博士のお話について]

此の学校では、此の間ピーバデーさんの言はれた様に、婦人らしき婦人、立派なる国民として教育するのであるから、あなた方は其の教育を受けて居らるゝのである。

[Motor power]

人間は瞬間も静止して居ることは出来ぬ。絶えず活動をして居るもので、静止すれば夫れは死である。其の活動とは

只動くことではない。家を建つるも行ひであり、破すも行ひである。併し我々の行ひ、我々の活動は立派なものでなければならぬ。其の立派なる行ひの本となるものを動機とも言へば、Motor power とも言ふのであります。之れは機械を動かす所の力がなくてはならぬ。そー云ふ立派なる行ひを成し遂げさせる処の本になる力は何でありませうか。

・ 立派なる智 立派なる考へ 欲望 選択力 意志

[注意力 好き]

皆さん志をたてゝ、自分の慕はしい郷里を出て此の大学へお入りになつた。其の入学なさつたと云ふことが今日勉強して居ることで、勉強して居るのもあなたの行為である。又、あなたのお友達は上野の音楽学校へ入つてピアノの勉強をして居るとすると、夫れも友達の行為である。斯う云ふ風に行ひはいろいろあるが、其の行ひの本となるものは何であらうか。

・ 注意力 Attention

先づ自分の心を其の方に向けると云ふことは注意力であるが、只注意力ばかりではいかぬ。其の本は何でありませうか。

・ 好 = 情

[興味、好み又は趣味について]

此の情と云ふものと注意力とが一つになつて働きあつて一つの力となつた時、之れを興味と言ふのである。又、之れを好みとか趣味とか言ふ。人間にとっては愛と言ふのであります。之れは自分を其の物に向けると云ふから、自分の情と自分の注意力と一つになつて興味となり、好みとなり、趣味となり、愛となる。故に行ひの本は何かと云ふと、情である。好みである。趣味である。愛である。あなたの善い行ひの本は愛であり、悪しき行ひの本は憎みである。故に総ての行ひの本は興味であります。

夫れで修養の最初の階段として、一番行為の起りとして考へなければならぬものは、行ひの動力である処の銘々の興味、好み、趣味、同情と云ふことにあるのです。故に行ひを立派にする、又行ひを有効にする、目的に叶ふ様にするには、自分の内に動いて居る処の動機に注意しなければならぬ。即ち興味とか好みとか愛、同情とかに注意しなければなりません。

[興味の種類]

其の行ひに種々様々な種類があるやうに、又其の動機たる興味にもいろいろある。夫れを大別すると、

- (1) 自己的興味
- (2) 対他的興味、即ち人を愛する興味
- (3) 知的興味、即ち真理を好む興味
- (4) 美的興味、即ち趣味
- (5) 活動的興味、即ち権利、義務を重んずること
- (6) 精神的或は宗教的興味、即ち神秘を慕ふと云ふ興味

先づ此の七つ程の組に分けておくと斯うなります。之れをよく研究して相互の関係を明かにし、其の興味を最もよく養つて行くことと云ふことに勉めると云ふことが必要であります。

夫れで私が此の前、私は今日日本で最も大切なことは教育、

道徳、宗教を動かす処の動力で、其の動力の問題であると云ふことを申しました。即ち、あなた方は興味をもち、趣味をもち、愛情をもってあなたの品性を磨き、技術を進めねばならぬ。これを詳しくお話し致さうと思って居りましたが、今日は時間がきましたから、此の興味、趣味、愛情と云ふことについて研究なさることを希望致します。

[中表紙]

大正二年五月二十四日
第一学年及び予科にて

大正二年五月二十四日
第一学年及び予科にて

[自己的興味]

答をせぬのは礼を失するのである。此の前申しました、興味の中の第一にあげた自己的興味、夫れを言ひかへると自尊心、又強く言へば純粹の利己的興味と云ふものがあるかど一か。夫れが如何に行爲と関係を持って居るか云ふことは、心理学上からいろいろの衝動や何かを調べて見るならば、ど一云ふやうに錯綜して居るものかと云ふことがわかつて参ります。そ一して始めて其の関係が明かになってくるのであります。

[対他的興味]

夫れと反対に、純粹の対他的興味と云ふものがあるかないかと云ふことも研究して見る必要がある。

名誉心、野心、虚栄心、冷淡、反抗心、快樂の欲望、我儘、偽善、競争心、嫉妬心、恥辱心、怨み、名誉と云ふものの中には、国のために働いた、非常によいことをしたと云ふ様に、国家全体が又は 天皇が御認めになったと云ふことがあります。或は、あなたが検定試験を受けて及第したために親友が喜んでくれるであらうと思つて居たのに、友達は一向喜んでくれない。何あんなものを貰つてと言つて冷笑し、かげ口を言つて居る。そ一すると甚だ不愉快である。認めらるゝと誠に嬉しいのである。

そ一云ふ風に名誉心には、国家の認めることと友人の認めることと二つあります。故に名誉心と云ふのは人から離れたものではなく、やはり人に関係がある。自分と云ふ我が非常に人と云ふものに要求して居るのである。

[虚栄心]

虚栄心と云ふのは、価値はないのにあるかの如く装うて金箔をつけて、ない価値でもある様に見て貰ひたいこと。

[恥辱心]

恥辱心とは何であらうか。心の内の傲慢な人は直ぐ態度に表れるから、皆に看破される。そ一すると赧い顔をするのである。又私が問ひを出すとよく答へる。そ一云ふ時に若し皆が喝采をすると嬉しいに違ひない。又とんちんかんな答へをすると馬鹿な奴と思つて皆が笑ふ。そ一すると自分の足りな

いことが暴露する。そ一云ふ時に恥かしいと思ふのも、皆人に関係があるのであります。

[反抗心 冷淡]

冷淡とか反抗心とか云ふこと。反抗心とは、家庭なり社会なり人なりが自分の要求を容れない時に起るものである。大変、人に関係があるのであります。冷淡になったと云ふ経験を解剖して見ると、やはり不平がある。或は、あの人に就いては匙を投げたと云ふのである。

親子の間の冷淡になったのを昔は勘当と言ふけれども、文学に残つて居るやうに、お前はも一子にしないと云つて家を出した子のことを、親の心に忘れらるゝものではない。又、子の方から言へば家を出て死ぬる人もあるけれども、之れ等は関係がわるくなつたので悪関係のついたことであります。

そ一云ふ風に考へて見ると、悉く人に関係のないものはない。恰も空気を離れて呼吸が出来ないと同じ様に、人間は生まれてから死ぬる迄社会と云ふもの、人と云ふものから離れて生活することは出来ぬ。私共は境遇と云ふものから孤立して暮すことは出来ないであります。

[犠牲]

潔白なる愛、公共心と云つても、己と云ふ興味を離れては不可能である。一番潔白なる行ひは犠牲であります。犠牲とはど一云ふことかと云ふと、己の愛するもののために犠牲になるのである。親を思ふとか国を愛するとか云ふことで、己の愛するものの為めであるが、其の裏を言ふと己を愛することになる。

[己と他との一致合体]

然らば、自己的興味、己を愛する、己の為に利する、己を進むる、己の理想を成就する、己と云ふものの価値を進める、即ち己を高くし大きくし、己の価値を永久ならしむる興味は何であるか。一言で言へば、己、私、己以外の人物、或は神総てをよせて、己のほかのものを他と言ふ。即ち、己と他と合体する、又己と他と合体せんとする処の傾き、之れが即ち自他的興味となるのである。詞をかへて言へば、他を己に化せんとする。他のものを悉く己の部分にせんとする処の欲望である。又言ひかふれば、己を愛するもののために己を捧げる。或は己を他のものに化する。或は己の理想として居るものの部分に己をしてすべしと云ふ願ひである。故に、己と他とが一つになる、合体してすべしと云ふ欲望である。

[動機]

そこで利己的興味と言ふけれ共、之れは皆他のものに対する興味と言ふことが出来る。何とならば、自分を他のものに向けて居る働きであります。故に之れを内の方から云ふと、動機と言ひ、或は衝動と言ふ。

[刺激]

外の方から言ふと、刺激或は感化と言ひます。そ一して外へ向つて化せやうとし、外のを自分のものにしようとするを反応と言ひ、自分を外のもの一部分にしようとする働きを反動と言ひ、此の両者を合せて共同と言ふのである。

[Reaction]

英語で Interaction 又は Reaction 或は Response と云ふや

うな語は、皆其の間の消息を示したものであります。そこで金が欲しいとか着物が欲しいとか云ふ考へは、夫れ等を自分の価値の一部分にしようとする念である。又其の力、其の知識を自分のものにしたい、其の力、其の知識を以て世界を自分の意識に従はせやうと云ふことである。故に自愛心とは其の物を好み、其の物を慕ひ、其の者を愛し、其の物を尊ぶのはやはり我れと夫れを同一にしようと思ふこと、之れが即ち利己心である。

[犠牲、奉仕について]

捧げると云ふこと、犠牲になる、奉仕すると云ふことは、私共が自分を其の物と同じ価値にせやうと思ふことである。あなたが全体を思ふ、組の為、学校の為に忠実に尽すと云ふことは、あなたが自分を女子大学と同一になる、あなたが女子大学の一員となることとあります。又、国を愛すると云ふことは、即ち自分がほんといに日本国民の一員となることとあります。自分の愛するもののために命を捨つると云ふことは、自分の目的のものに命を捨つると同じことである。

夫れであるから、人間と云ふものの満足は其の間の関係が益々密着して、自分と殆ど同一体にならなければ満足は出来ないのであります。

[特性の發揮について]

そこで私共が自分の価値を進めて行き、自分の人格を拡大して行き、自分の幸福を増進して行く、即ち人生の目的を益々向上して行き、各自の運命を發展させると云ふことはど一することであるかと申せば、やはり此の自的興味、即ち自分の価値、即ち自分の特性を發揮すると云ふこと。或は發現すると云ふこと。此の前に申した処の潜勢力を發展するとはど一することであるかと云ふと、自分と他の関係を広げて行き深めて行く、或は強めて行くと思ふことによらねばならぬ。之れが即ち人間が成長すると云ふ、又は進化すると云ふ道筋である。

[宇内的自我]

先づ人間が生れて第一に感ずる関係は家族である。父母と自分、又は自分と兄弟姉妹など、即ち家族との関係である。其の関係が年と共に広まりまして郷党との関係となり、夫れが遂には国家となり、其の国家が段々広まって人類となり、世界万国的の関係となり、猶夫れが段々進んで宇内的の関係となるのであります。故に始めは家庭的自我であったのが、つまりは宇内的自我となり、神と我れとが一つなるものにならうと思ふ処の、永久無限に自我を拡大しやうと思ふこと、之れがほんといの意味の自我的興味であります。

そこで犠牲心と云ふことも奉公心も、やはり此の自我とは離れて居ないのである。自我と他とを一つにしようと思ふ関係から起ることであるから、自我が社会ともなれば宇内ともなるのであります。故に、自我と云ふものを滅絶することは出来ないのであります。

然るに其の自我が何故に悪の根にもなるかと云ふと、之れは非常に複雑なるもので、深く考究を要することとあります。自我は他に関係あるものであるから、物質的興味、美術的興味、文学的興味、社会的興味、国家的興味、宇内的興味と云ふ

やうに其の関係が誠に複雑になつて居りますから、よく研究をしないと非常なる悪根ともなるのであります。明日は日曜日でもありますから、今夜から明日へかけて、そ一云ふ問題を深く考へて御覧なさることが大切であります。

[中表紙]

大正二年五月三十一日
大学部一年及び予科にて

大正二年
大学部一年及び予科にて

[真の知識とは何か]

ほんといの知識を得るもとは何であるかと云ふと、行為と云ふことに重きをおく様になつたのである。近来其の主義を称へたのがゼームスやミラーなどの Pragmatism である。行為によつてほんといに道がわかるのであるから、行はない学者は未知半解の学者である。故に発表すると云ふことは可能性に欠くべからざる要素であります。

[アリストートル]

此の説は近来に至つて盛んになつた様であるが、其の実は二千八百年程前にアリストートルが称へた。We learn to do by doing. 我々は夫れをすることによつて学ぶのである。

我々は琴を学ぶには琴を弾ることによつて学ぶのである。又、大工、左官を学ぶには家を建てることによつて学ぶのである。丁度それと同じ様に、正義は正義を行ふことによつて学ぶことが出来、愛と云ふ真理は人を愛することによつて学ぶことが出来、事を行ふに必要な勇氣は自ら勇氣を養ふことによつて、忍耐は自ら忍耐をすることによつて、徳は徳を行ふによつて、仁は仁を行ふによつて、義は義を行ふによつて、礼は礼を行ふによつて学ぶことが出来るのである。

[動機]

そこで我々の学問をするに必要なことは、第一に動機を養ふことに由る動機の調和、協同と云ふこと。次に、其の動機を發表して行ひにすると云ふこと。次には、行為を繰り返して行ふこと。即ち、習慣を養ふと云ふこと。之れは其の問題であらうと思う。

[習慣について]

今申した様に、我々の性は流れて居る水の如きものである。時々刻々に創始される処の、即ち日々になつて居るものである。生れ変わる処のものである。然るに、繰り返して習慣を作ると云ふ習慣とは、過ぎ去つた経験を固定する処の働きである。其の習慣によつて出来る処の風俗、習慣と云ふものは過去の遺物である。其の過去の遺物を保存すると云ふことは当時の教育に悖るものではないか。又、行為を習慣とするには非常なる克己、努力を要するのである。故に之れは間違ひではないかと云ふ考へも起るかも知れぬ。或る人の書いたものに、私共は一切の古きものを敵とすると云ふ詞があるが、

これは Connection をさすのである。私共は斯う云ふ間違つたことについて注意すると同時に、大先生の言はるゝ事についても、そ一かしらと思つて、直ぐぐらぐらする様なことを慎まねばならぬ。

習俗と云ふものは長い間かゝつて拵へたもので、沢山人が考へて一番よいものが残つたのである。故に我々の無意識の動作でも皆過去の残り物である。確に習慣的の価値があるから残つたものと言はねばならぬ。そこで、若い人が無暗に軽蔑してかゝつた処でだめであります。例へば夜は寝て昼は起きると云ふこと、三度の食事をすると云ふこと、三時には西洋ではお茶を飲むと云ふこと。

[協同]

又、ど一しても人と協同して行かねばならぬ。夫れには礼讓と云ふものが大切であると云ふこと。之れは東洋西洋共に、又孰れの国に於いても善い事となつて居る。只其の表し方が違つて居るだけのことであります。

然らば、我々の生は如何なるものであるか。行為を繰り返す事には、ど一云ふ価値のあるものであるかと云ふ様な事も考へておかねばならぬ。

1. Life is process

Life is production = 結果

Life is function = 職務

行為の結果には必ず産物がある。之れを習慣と言ふ。我々の一旦行つたことの価値は決して消滅せられずして、必ずや保存せられ、永続せらるべきものである。我々の此の価値保存力、記憶力がなかつたならば、人間は創造すると云ふことは出来ないのである。故に、習慣として保存して行くと云ふことは誠に大切なことであります。

[動機力]

其の次の Process は Function となつて来る。我々の動機力と云ふものは何に表はれるかと云ふと、其の次の四圍の事情、即ち社会、宇宙に向つて同化し、応化することが出来る。何となれば我々は全体の一部である。故に其の全体の一部として丁度自分が受け持つて居る、丁度自分の立つて居る処に適合する行為をせねばならぬ。丁度全体の機関に捧ぐる処の責任を完うすることであるから、Function、或は帰納、又は反応と言ふことも出来るのであります。

[Self-control]

又、丁度全体の一一致協同を助くる為に、自ら制して行かねばならぬ。そこで Self-control と云ふことも出来る。斯うして我々の人格を高め、人としての行動を全うして行かるとあります。そ一して幾度となく行ひを繰り返す、其の中には努力奮闘を要する。努力の前には Critic 批評と云ふことが必要であります。或は内から之れを言へば、反省することが必要である。故に繰り返すと云ふことは進歩のないことではなく、始終改まって幾分かづつ進歩して行くのであります。我々の祖先が長い間考へて行つて、其の中のよいものが我々の可能性となり遺伝となり、之れを社会の方から言へば風俗習慣となつて居るのであるから、古いものが必ずしもわるいのではない。今日迄永続して来たものの中には、必ずよい処

のものが含まれて居ると云ふことを忘れてはなりません。

併し人類はいつまでも同じ処に止まつて居らるゝものではなく、社会、国家と云ふものが時々刻々に進歩して行くのであるから、之れまでの古い経験を改造しなければならぬと云ふことがある。其の方法を編み出すに必要なものが我々の知識で、其の動機が我々の新しき行為を産み出だし、其の行為を又繰り返して新しい天性を開くと云ふことが大切である。其の目的を達する為に、新しい経験又は習慣と云ふものを破すと云ふ訳ではない。此に我々は新しき習慣を作り、善き行為を積む上に努力を要するのである。其の行為が成長するに従つて、我々は非常に愉快になり行ひが容易になつて、其の結果は我々の満足、幸福となるのであります。

[飛行機について]

故に、新しい境遇に応じて新しい習慣を作ると云ふ事が、我々人類の上に大変必要なことである。例へば、人間は陸上に住ふばかりでは満足が出来ず、魚の様に川の中、海の中を泳ぐことを学びました。けれども夫れだけではやまないので、飛行機に乗つて、鳥の様に空を飛ぶことを始めたのである。昨年私がシカゴに居りました時、飛行機のためになつた人が百七十何人と云ふことであつた。我が国では三人、飛行機の為になつて居りました。幾人なくなつても屈せず撓まず奮闘して行くのである。そ一云ふ様に幾度となく努力、奮闘して習慣の様になると、非常なる興味を以て樂に出来るやうになるのであります。夫れで全体の為を考へて有効なる修養を積み、ほんとの道理のわかる様に、活用の出来るやうに学問をなさることが必要であります。

[中表紙]

大正二年六月十一日

第二、三学年にて

大正二年六月十一日

第二、三学年にて

[流動、持続 静と動につきて]

二学年の方から、先日來話して居りましたことについて研究なさつて、猶其の中で Duration 即ち持続と流動と、静的と動的と云ふことについて質問をお出しになりましたが、先日からのお話の大体の意味はおわかりになつたと思ひます。私は何故初めに哲学上のお話をしたかと云ふと、迷信の弊に陥る事があるから、先づ統一された所の思想を初めに大体了解する事が必要であると思つたからで、哲学を説明したのは知解の説明ではない。要するに銘々の実質を豊富にする事にあるのである。今日出て居る問題の持続、又は静と動とは一通りおわかりになつたであらうが、真髓が知りたい、知解の説明では満足しないのであらうと思ふ。

流動、持続、静と動と云ふ、之れ等の問題を解釈するに、実地の道をとつて行きたいと思ふのである。即ち之れ等の詞を

哲学上より説かずに応用した方の事を話し、銘々自分に経験を積み重ねばならぬ。故にそのつもりで説明致しますが、自然的解釈もついて来るとは思ふ。

[縦と横との生活につきて]

Bergson の用ひた Duration 又は Time、即ち生活の経験である。或は Progress of spirit である。Duration と云ふ事は続く、絶えないと云ふ、又堆積する、緊張すると云ふ意味がある。我々の経験、或は我々の生活が深い縦の関係をして居るのである。縦に非常に向上するのが Duration である。我々には一方に横の生活がある。之れは概念である。即ち之れを物質、又は固定、静と申すのである。

横の経験が知解で、之れは知の方でわかるのである。所謂命、人生の価値と云ふ事で、深く深く入って行くと言ふ事の出来る所のもが即ち命であり、Duration 真我である。深い経験をつかまへ発展する事を、Bergson の詞で言へば直覚力、又は直覚性と言ふのである。

それで皆さんの之れからの知識は、今迄は横であった概念的知識、固定した静的な知識を今日学問と言って居る故に、浅薄である。深みがない。根がはらぬ。縦に下に深くなり縦に上に向上する力を怠って居るのである。真の必要な生活をせぬのである。真の修養、学問を積みぬのである。之れは相反するものではない。相補足すると云ふ事は前に述べた通りである。私はあなた方に之れらの関係を知らしむる為に初めて哲学を説いたわけである。静的知識を否定し、我々の経験から取りのけると云ふのではない。只、今日はあまりに横にのみ走ったと云ふので、之れでは人間の真の力を表はす事が出来ぬからである。

二学年から出た問題を實際生活に応用して、も一一層進みたいと思ふ。流動、Duration、静と動、又は創造などは縦に進み、縦に変はる事を言ふ。縦の経験をする事にあてはまって来るのである。

之れをわかりよい様に、其の経験を三つ程に分けて関係を説いて見やうと思ふのであります。Bergson の Intuition と云ふのは浅いのでなく誠に深いので、科学的に分解したり科学的に説明する事がむづかしいのである。それを知解的、又は比喩的に説明せんとするのである。私も今そ一云ふ意味で説き明かしますから、そのつもりで聞いて欲しいと思ふのであります。

[吾人の修養の道につきて]

縦に向上するには如何にすべきであるか、深き道を知るにはどの道をとるかが問題である。我々の進むと云ふ事、修養と云ふ事を三つの働きに分けて話しませう。

之れからは、英語と日本語とを出来るだけ対照して話しまして、皆さんが研究する上に都合のよろしい様に致したいと思ふのであります。

[第一 Process]

第一を Process、Duration。我々は縦に永久に続いて行くので、此の中には変化 Transform、創造 Create と云ふ事がある。又は移動と云ふ出来事がある。振動と云ふ事がある。永久に絶えぬ流動と云ふ事がある。即ち水が流れて、始終進む

様であつて、之れを過程とも言ふ。Process と云つても人生は一瞬間も止まるものはない。今迄は人格は、固定的で永久的なものでない。鉄及び石とかと云ふ堅いものが永久なものと思つたが、之れは間違ひである。之れらは死んだものである。真の人生は変化がある。故に人生を悲観したものもある。しかし変化して止まぬのが人生で、人間の価値もこゝから湧いて来るので、之れが止むと云ふ事は死に近づくのであるから価値がない。全く変化が止まったのは死である。動のある程意識が盛んである。反対に、意識が盛んであればあるだけ動的である。万有中、人間が一番動的である。我々の命、修養は限りなく変化が出来て居る。Becoming である。之れが即ち Duration で、Bergson の Duration の意味中には Process がある。此の Process を二つに分ける。一つを個人的の Process、他を社会的又は絶対的 Process と云ふ。之れは後に説くこととする。

[第二 Product]

第二は Product。之れは結果と云ふ事である。実である。我々の生は何かの Product となるものである。之れを二つに分けて、一つを自我実現 Self-realization、他を自我発表 Self-expression と云ふ。之れは、私共の動或は行ひと云ふものが一つ動くならば、即ち何か自分が決行するならば、必ず Self の実質に何かの変化が残るものである。自分の内に何か一つ変りを生ずる。即ち自分の中に何かを創造するのである。何かを生み出す、作り出す。之れを力で云へば、是れ迄よりも力が一つ強まる、深くなるので、之れは自分の経験を考へねばわからぬ。一つの事を Create すると自分が展びる。自分が新しいものになると云ふ結果が必ずある。

[Duration の真意如何]

之れは我々の経験は、即ち一度実現した事は永久に保存せられるものである。之れが真の記憶である。脳に残るのでなく、本体夫れ自身が保存せられるのである。之れが Duration の真意である。自分の経験が端から消えるものならば、例へば花火の如きもので、ぱっと散つて了うものならば永久的の命は決してない。ところが我々の生はそ一でないで、経験した事は必ず結果又は実となつて残るのである。之れが自分から云へば自我実現となる。つまり縦に深くなる所以である。

我々の学問、修養には之れが必要である。横のみでは力や人格にならぬ。表面的なもので自分の実にならぬ如きものは、人生の目的を達せられぬ。此の如き人は、実に哀れである。当人は不愉快である。常に飢えに泣いて居る乞食の如きもので、瘦せて居る哀れなる人間となつて了う。

内より云ふと Realization であるが、外から考へると発表となる。Expression は何かの材料に由つて他へ表はれて来る。即ち他人とか、家庭とか、社会とか、つまり宇宙の何処かへ、即ち我れ以外の何物かに結果を残すものである。外へ関係して何か働きの表はしてこそ、内も出来て来る。自我実現は発表に由つて得らる。即ち外部に自分を発表すると云ふ事をせぬ時には、自分を表はす事が出来ぬのである。

[第三 Function]

第三には Function。之れは訳し難い詞であるが、言つて見

ると目的的活動である。大なる目的に向って自分の職務を全うすると云ふ活動で、目的ある所の活動である。こゝに Intuition の働きが大にある。之れを私は Intuition、他の詞で認識 Cognition と言ふ。認識とは、Descartes 又は Spinoza がよく使った詞である。私は、此の頃新しく Cognition と云ふ詞が用ひられて居る其の新しい所の意味をもって、之れをつかふのであります。

Cognition と云ふのは余程むつかしいので、只認識ではわからぬ。経験をもたぬとわからぬ。Intuition がないとわからぬ。Intuition がないと滅びる位で、之れが根本の指導者である。Intuition には浅いと深いとがあるが、先づ何人にもあるものであることは、皆さん知って居るであらうと思ひます。

此の前には知解と直覚とを比較して解いたから、認識とは Knowledge と取るが、之れは間違ひはない。Intuition は直覚的知識である。而して外部のものを認識するのである。人生とは何であるかと云ふと、流動、Becoming、変化である。ちゃんと固まっては居らぬ。つかまへることは出来ぬ。つかまへやうとするのは後の反省に由つて、即ち Category、換言すれば物質化して見るより外にないので、而して浅い事より外、見る事は出来ぬ。

真の生、人生の経験と云ふものは直感せんければならぬ。その時に感じ、瞬間瞬間にちゃんと Movement する。その動を感じなければならぬ。今動いて居る其の瞬間の Reality に接触せんければならぬ。どししたならば触れられるかと云ふと、何か自分の中に影響があると同時に、何か外に向って自分が自分を発表すると云ふ事が出来なければ不可能である。

[吾人も偉人となり得るのである]

Intuition の発達した処の人格をさして我々は Genius、偉人とか天才とか言ふ。之れは Intuition の代表者又は手本として挙ぐるが、吾人には神、神の神聖、Genius がある。夫れが現はれた人には見えるが、現はれぬ人には見る事が出来ぬのである。よく現はれた事をよくつかまへたならば、何人も Genius となり得る。Genius は Intuition で深い宇宙の真善美を本当に見た人、実験しつかまへた人である。どうして之れがわかるかは、Self-expression でわかる。自分の経験を何かに発現して居る。之れを Artist と言ふ。文学者は書いた文学に、Scientist は其の唱ふる科学に表はれ、発明家又は宗教家、教育家と云ふ様に、夫々一つの Art に表はれるものである。即ち銘々の表現に由つて Genius も出来るのである。

Genius に由つて其の人の Intuition を知る事が出来るやうになって居る。Intuition には、どうしても Cognition が伴ふ。何か其の人が Vision を感じた時に、直ちに Cognition となる。自分の Function を直ちに悟る。自分が直ちに表はす所の反応又は反動すると云ふ事でわかる。如何にして反動するかがわかるのが Cognition である。故に行ひ、Art になり、直ちに自分が表はれるのを言ふ。空想を描いて居るのは未だ Idea で、Intuition ではない。

自分に Realize するとは Expression がある事である。直覚が醒めたなら自分の行ひ、自分の考へに何か新しいものが

実現して来るのである。Intuition があつて、深い Feeling がある。之れが Cognition となる。意志となる。自分の行ふべき、自分の達すべき目的を必ず認識して居る。Cognition は認識より自分の目的を発表して居る。Intuition をする時には、Art が現はれて居る。之れを Expression と言ふので、本当の知識、又は本当の修養は外に発表が伴ふものである。

Intuition があれば、何かの Reality をつかまへる力があつて、又 Reality と直ちに交渉するもので、感じ合ひ通じ合ふものである。通じ合ふと云ふのは自分から表現して行くので、宇宙の動を Rhythm、音楽とするならば、宇宙を音楽として機械的、比喩的に言へば、Intuition は宇宙の音楽の調子の線に自分の霊覚、感覚が触れるので、共に Music を奏するのである。丁度適当な処をたゞいて居るので、自分の Function を表はして居る。自分には美、真、愛となつて、自分がそう云ふ所の深い経験を、新しい生命が働いて居る宇内の実在に向つて瞬間瞬間自分を發揮する。自分が其の宇内の音楽を多くの人と共に調子に由つて奏し、又味はふが如き経験、之れを即ち Intuition と言ふ事が出来るのである。

私共の生活は、自分の力を養ふと云ふ事は自分の家庭なり、国家なり、社会なりに実現せんければならぬ個人的 Process、社会的 Process とある。之れが全体的にならねばならぬ。昔から Genius は、軍隊に宗教に或は政治にと云ふ風に、皆社会的に表はれて居る。大なる事業をして居る人は、つまり Great man 即ち偉人とは、自分をそれだけに発表して、それだけに発現して居るので、自分と云ふものと離れる事は出来ぬのである。

[縦の経験を積み重ねばならぬ]

そこで私があなた方に望む所のものは、銘々の内に結果を生じやう、人格を発現しやうとする、そしてそれに必要な発表を何かにしやうとする深き縦の経験を積み重ねば、横の知のみでは十分には進まれぬ。それで、あなた方に今考へて欲しい事は其の経験である。

之れは非常に深みがあつて、大洋の深さをのぞいて居るが如きもので、底が知れぬものである。その経験を積む時に、確かに之れが命であるとはつかまへられるが、そこを説明する事は困難である。昔から其の経験を味はうた人に其の説明を求めた。之れは確か Christ が其の弟子に答へたのであると思ふが、其の詞に「風が吹くと云ふ事や風が吹いて家を倒すと云ふ事などはわかるが、その風が何処から来て何処に行くのか説明は出来ぬ」と言つてある。

Socrates は「詩人 Poet は知恵に由つて解釈は出来ぬが、Natural inspiration によつてわかる。靈感に由つて Poet を知る事が出来る」此の経験を言つた人は沢山ある。どうしたなら夫れがわかるかと云ふ事は、皆さんにわかると思ふ。

私は、実行なさつて自分の経験に入る様にせんければならぬと思ふ。之れから修養と学問とを適切にしたいと思ふ。之れは指導者の助けが必要である。研究を要する事である。私は之れを教育法に実行する考へであるから、調べて見たいと思つて居る。先づわかりよい方から少しづつ、やつて行く事がよるしい。

[直覚と身体との関係]

最もさきに Cognition は Self-expression があると直ちに Intuition がある。これには最も自分の身体が近いから、先づ之れに及ぼすものである。我々の Intuition の Vision でも直ちに身体に発表するが、之れが大切である。

先づ脳髓と神経系統に及ぼすのである。直ちに創造的の Art が出来て、脳は神経に及ぼす故、心臓や肺臓や神経に影響する。之れは委しい説明を要するから、こゝには省く。例へば私が音楽者であるとするならば、私の直覚 Intuition を音楽に発表するのは最初脳で、後に身体を通して表はするのである。之れが出来なければならぬ。身体によく表はすのが健康体で、之れをよく表はしてこそ身体も健康になる事を得るのである。

此の身体に表はす法には色々ある。身体に表はすには結果が出て来なければならぬ。私は皆さんと別れる時に一つの Vision を見た、宇内の潮流を見たと言ふのは、もうそれに順応して居る。世界的にどう動かねばならぬかと云ふ事が直ぐ表はれて居る。身体が弱いと云ふ事で、亦之れも一つの考へを拵へた。身体もそこに表はした。只一言言ふが、私は今度は意外に力があつたと思ふ。一度獨逸で病気をした。疲れたが、之れを回復させる経験がある。入澤さんが見て下さつて、肋膜炎であると言はれた。熱も四十度近くになつたけれども、大したこともなかつた。帰朝後、漸くにして四、五日前に医者に行つて十分身体を診察して貰つたが、も一身体には申し分がないと云ふ事であつた。しかし私は小さい時から体重が三百目内外は加減した事があるが、今度は一貫八百目も増した。私の此の身体を扱ふ此の主義は、結果がある様にして居る。之れも、やはり一つの Intuition である。それで身体に表はれるのである。

[修養、学問、身体の本根改良の必要]

次に、あなた方の学問をする時にも Intuition がもとならねばならぬ。直ぐに Intuition で発表する事がなくてはならぬ。例へば今英語熱が盛んになつて居ると云ふ事は喜ばしい事である。しかし、それが一時で直ぐに消えて了ふ事がある。之れも真の仕方をせんと力にならぬ。それをするには Intuition で直に感じて、丁度其の時に其の空氣が出来て来なければならぬ。英語を学ぶにしても、只本を読んだり書いたりただけでは役に立たぬ。其の時々の Intuition で Self-expression が感ぜられなければならぬ。何の学問をしても之れがないと、真の力にはならぬのである。茲に於て、私は皆さんの修養も、学問も、身体も、根本から直さねばならぬと思ふのであります。

[中表紙]

大正二年六月十四日
第一学年及び予科にて

大正二年六月十四日 第一学年及び予科にて

[態度と云ふことについて]

此の学校の空氣を作ると云ふこと、毎日あなた方の空氣の出来ると云ふことは、その云ふ力の發生する処の起りは、各自の態度と云ふものが其の時の空氣を拵へるのである。其の態度と云ふのは興味と云ふことと誠に密接な關係があります。其の態度とは他に対するもの、即ち國家に対する長上に対するやうなものと、自分に対するのと両方面がありますけれども、態度と言へば人に対する意味に余計に用ひます。故に、今此の學校で言ふ処の態度と云ふことをよく了解なさると、人に対する態度がわかり、更に進んで校風、空氣と云ふ様なことがおわかりになるのである。故に今日は、主に他に対する態度及び興味と云ふことを申したいと思ふ。

[Attitude]

此の態度と云ふことも、丁度其の意味を持つて居る詞は日本にはなかつたのであるが、英語で Attitude と言ふ。此の Attitude と云ふことを形の上から言ふと、人に対する処の行儀、即ち礼儀である。身体の方から言ふと姿勢である。即ち身体の身構へで、人に対して身構へをする。身構へをするには、戦をする時に **たゝかふ** と云ふ身構へもあれば、又学問をする時に先生が注意と言はるゝ注意深き身構へもあれば、**なまけた**身構へもあるが、之れ等は只身体に頭はれた礼儀作法ばかりでなく、其の本である処のものがある。之れも一種の興味と言ふことが出来るので、我々の興味の向ふ処である。

[自分の価値について 他人の価値について]

ど一云ふことに興味を集注したかと云ふことが之れに由つてわかるのである。何に向いて行くかと云ふと、第一、自分の選ぶ価値に向ふのである。其の価値とは美に向ふ。又は愛と言ふ、善とか真とか人格とかいろいろ申すのでありますが、其の価値に自分が方向を向けることを言ふのである。

之れを大きくわければ、第一、自分の内にある我が価値に対する処の心持ちである。第二には、他の人の価値に対する心持ちが、即ち態度であります。

そこで其の心持ち、即ち其の興味が一番先きに我々の情に現れる。其の情は直ちに我々の身体の風、筋肉の働きに現れて来るのであります。故に身体の態度、身振りとか動作、行儀と云ふことは自分の心の中の態度、内なる人の態度を氣をつけなければならぬのである。其の態度が他に対する処の発表となる。そ一して其の発表の影響、其の感じが、其の空氣になり風になるのであります。故に態度には、さまざまの種類があるのである。

[態度の種類について]

よい態度とわるい態度とあつて、よい態度はよい空氣を作り、わるい態度がわるい空氣を作るのである。其の空氣がよ

くなるのも、わるくなるのも皆、銘々が出るのであるから、態度は決して形ではなく本がある。故に態度をよくするには本を直さねばならぬ。

[笑ひについて]

例へば、愉快なる態度と云へば、腹を立てゝ仏頂面をするのではなく、笑みを含むことを意味する。然るに笑ふと云ふ中にも冷笑する、見下げると云ふ意味もあり、喜ぶ、慕ふと云ふ意味もある。故に笑ふ顔と発する声とは機械的には同じことであるけれども、内なる態度は違ふのであります。

[泣きについて]

泣くことも其の通りで、一方は人を呪ふのと、人に感謝しきって泣くのとある。故に只目から涙が出たからと云つてもわからない。其の本を質さねばならぬ。故に其の本は我々の精神の中にあるので、人に対し、自分に対してど一云ふ風に価値を感じるかと云ふことであります。其の心持ちを一層委しく考へて、其の心理状態、銘々の経験を分解して、其の態度を考へることが大切であります。

[Appreciate]

先づ人の価値に対して起る心は偶然に出来るものではなく、ちゃんと本がある。其の本は何かと云へば、其の人に対する価値である。第一、価値と云へば天才の力、実力、才能と云ふ価値を認める時に必ず起って来る処の心の態度がある。其の態度を先づ感佩、Appreciate と云ふ価値ある処の、其の人の天賦の性と云ふ心を以て、其の力を敬ふと云ふ心が起って来る。

[尊敬]

第二には、人の道徳的価値、即ち美德を見るならば、必ず其の人に対する一種の態度が現れて来る。其の態度をさして尊敬と言ふ。それから人の非凡なる能力、非凡なる天才に対して起って来る我々の態度を感嘆と言ふ。

[崇拜]

非凡なる能力と非凡なる美德と揃うて居る人に対する我々の態度を崇拜と言ふ。態度の中には、一方には非常に其の人の美德を尊敬すると共に、一方には非常に其の人を好む、愛すると云ふことが含まれて居るのである。

[敬虔]

此の崇拜に畏敬の加はつたのを敬虔と言ふ。つまり之れは其の価値の程度に由つて、此方の心持ちが變つて来るのである。

[真、善、美]

夫れから、そ一云ふ価値の一つになつたものを真善美と言ふのであるが、こゝまで来ると、も一宗教的になつて居るのである。

つまり尊敬すると云ふことと、愛し好むと両方面があるので、我々は此の両方面を常に心がけて居なければならぬ。人を愛し好むと共に、決して礼を失つてはならぬ。何時も尊敬すると共に人を愛し好むと云ふことが出来て始めて、恩威並び行はるゝのである。

[価値の標準について]

私共は自分並びに他人の価値に対する態度に由つて態度が

さまるのであるが、夫れにはちゃんと標準があつて、之れを理想と言ふのである。故に我々は此の理想に従つて、価値の標準を誤らぬ様にせねばならぬ。

先づ第一に誤り易いのは、価値の標準を自他の比較におく人がある。之れは自分の友達、同業者の間に起るので、之れを競争と言ふのである。我々は非常なる優れた人に対しては尊敬、崇拜の心が起るのである。然るに友達の中に於ては、人と我とを比較して、自尊心から人の行ひよりも我が行ひが優つて居る、人の徳よりも我が徳が勝つて居ると云ふ考へから、出来るだけ我が価値を高くつもつて、人の価値を卑しくつものやうになる。そこで人が褒められ認めらるゝと喜ぶべきであるが、喜ばなくなる。そこで自ら欺き人を欺くこととなり、中傷する様になり、新聞にわるい記事を書いたりして宜しからざる風説を立つる様になる。そ一して人をおとし自らを高くする。

[Vanity]

けれども、そ一云ふ人は却つて価値が下るのである。之れをうぬぼれと言ふ。斯くの如くして自分の事を褒めらるゝのを喜ぶ。之れを傲慢と言ふ。世間によくあることは、金持ちが貧乏華族に娘をやつて高ぶつたり、金を使って学位を貰つたりして自ら高しとして居る。女で云へばダイヤモンドを光らすと云ふ様なこと。之れ等は皆Vanityと言ふのである。

[Uniqueness]

一体自分と他人とを比較する必要はない。何とならば、人にはUniquenessと云ふものがある。故に、人の光りと我が光りと一緒になつて却つて価値を増すのであるから、人の徳を蔽うて我が徳を顕はさんとするのは卑劣である。之れ等は皆価値の標準を誤る処から起ることでもあります。然らば、価値の標準を誤らぬ様にするには如何にすればよいであらうか。

我が国の諺に、猫に鯉節、猫に小判と云ふことがあり、西洋の語に、豚に真珠、或は豚に宝石と云ふことがある。猫に鯉節は価値があるので、肉欲と云ふことを意味するのである。けれども小判、金、真珠、宝石など云ふもの、即ち美に対する価値は高尚なる人間にはあるが、卑しい動物にはない。つまり高尚なる価値は、偉大なる無限なる永遠なるものである。

[Disinterested interest]

Disinterested interest、之れは私の無い処の興味と云ふ。私心とは自分だけの利益で、人に対して価値の尊重がないのである。自分だけの用になるやうに、自分だけの利益になる様にと云ふ興味で、斯う云ふ人を貪欲と言ふ。そ一云ふ人には友達はないのであります。

[Common good]

ほんとの美とか善とか云ふものになると永久のものであるから、誰れにもよいもので、之れをCommon goodと言ふのである。故に私共は真価値を標準としなければならぬ。故に人を欺くにも、自ら欺くにも及ばない。人が見ても神様が見ても、之れが価値であるとするに足るものを養つて行けばよい。其の人の位でもない、衣服でもない、其の人の所有して居る財産でもない。其の人を尊敬するのである。私が二十年前に逢つたボストンの或る奥さんの言つた詞に、I weigh the

man not his title. と云ふのは、家柄ではない、位ではない、其の人の人格を尊ぶのである。

[獨逸の皇室について]

夫れで私は、金持ちのお子さんには心配をして言ふのであります。獨逸の皇室では平民の子と同じ学校に入れて、同じ藁蒲団にねかせてお育てになると云ふことである。故に、ほんとの価値の標準を認めねばならぬ。ほんとの価値を自重して行けばよい。人と組するにも、其の価値を以てするのである。大臣の子であるからではない。然るに只学位を以て、爵位を以て組するのは非常なる誤りを来すのである。故に其処が明かになり正当になると、つまらぬ心配をしたり失望をしたりすることがなく、心が自由になって、誠に愉快なる空氣が出来て我々の人格が育てらるゝのである。そ一すれば、人に知られるとか知られないとか、誤解をせらるゝとか云ふ心配はない。又、うちが貧乏であるからとか、親が余り知られて居ないからとか云って苦しむことはない。

クリストはど一ですか。貧乏人でも病人でも其の人の中にあるものは全世界よりも貴いと言はれたのである。それで我々が只位ある人、貴い人に頭を下げると云ふやうな事が改まらねば、ほんとの人格は出来ないのであります。

[ジョルダン博士]

も一一つ申したいことがあります。時が参りましたから皆さんに考へて戴きたい。四、五年前、此の学校に来られた処のスタンフォード大学総長のジョルダン博士から送られた手紙の中に、アメリカに於ける大学、商業會議所、教会、宗教の信者と云ふものは、其の一、二団体を除くの外、日本に対する友誼は少しも薄らがない。労働社会は総て外から来る移住民を排斥し、日本人に対することは恰も昔支那人に対したやうに反感を持つて居ると云ふことを書いてあります。

そ一して見ると、大学教育を受けた人、Businessman、宗教家などの中には偏見はなく、下等社会に反対者が多いと云ふことであります。

[人種的偏見]

も一一つ面倒の本となるものは人種的偏見である。何とならば、アメリカの南部には一千万人の黒奴があつて、白人と黒人との混血児がある。そこでアメリカ合衆國は此の一千万人の黒奴のために心配が絶えぬ。其の上に日本から来る移住民は大多数無教育なるものであると書いてある。

して見ると、アメリカ合衆國は一千万の黒奴の為に大分手をやいて居る。其の上に日本から無教育なる移住民が行つて居ると云ふこと、又アメリカの植民地には今迄麦ばかりしか出来なかつたのに、日本から行った農民は同じ所に立派なるストロベリーを作るやうになつたと書いてある。之れは利害の関係である。之れに由つて見れば、教育のある人が来ればよいかと云ふジョルダン博士の意見は自ら顕はれて居るのである。

[日本と西洋の相互的了解]

然らば、日本が西洋人と相互的了解が出来るやうになるには、日本の国民全体の態度が高められて、彼れ等白人種と同じ価値あるものとならねばならぬ。故に、我々国民は自分の

価値を高め、道徳を高め、立派なる国民となつて始めて、白人と同様の尊敬を受くことが出来るのである。

[普遍的価値]

之れが我々の急務であるから、銘々修養もしなければならぬ。夫れと同時に、国民の母となる処の婦人を教育せねばならぬ。夫れで、あなた方卒業生が立派なる人となつて始めて、婦人全体を高めることが出来ると思ふ。私共は斯くの如き普遍的価値に対して十分銘々を高め、又集注力となつた処の態度をかためて、背水の陣を張つて進むと云ふこと。

[スパルタの母]

スパルタの母のやうに、戦陣に向ふ子どもの態度を定むるに楯を与へて、此の楯を以て戦へ、然らざれば此の楯に乗りて帰れと申しました。

あなた方はそれだけの態度をお定めになつて、只つまらぬ競争をするのではなく、お互に一致し、相同情して進まなければならぬ。之れが、も一一つ深く進んだ処の興味であります。

[中表紙]

大正二年六月十八日

第二、三学年にて

大正二年六月十八日

第二、三学年にて

此の前申した様に、物の真相を玩味すると云ふ事は解剖的に申す事はむづかしい。やはり比喩的に想像的に申すより他はない。そ一云ふ事のよく表はれた人格を通して、又そ一云ふ人格に同情する事が一番近道である。そ一云ふ人格とはど一云ふ人をさすかと云ふと、やはり天才とか偉人とか云ふ人である。之れがあなた方の修養を積む時に、喜んで昔から名高い其の時代の代表的人物の伝記を読む。そ一云ふ人を解しやうと勉めておいでになる。

[模倣的修養の可否]

併し、此に天才とか偉人とかを学ぶに当り、殊に其の時代の代表的人物を我が模範とし理想として、そ一云ふ域に達せやうとするについて、非常に力も出ると同時に又弊を受ける。模倣的修養からして弊に陥ると云ふ事もある。そこで我々は天才を模範的修養の理想として学んでよいかど一かと云ふ事になる。其の訳に二つある。

一つは、天才の發揮した人格には極端な所がある。病的な思想、病的な行ひを混ぜざるを得ない。故に偉人と狂人とは混じやすい。夫れで天才になるには熱狂して狂ふ位、又常軌を逸して狂ふ位でなくては發揮しない。又生れながらにして極端なる性質の人もある。そ一云ふ者を自分の理想として、よからうかど一かと云ふ事になる。

も一一つは、人性を發揮せんとするには、風俗、習慣に構はない、世の論難攻撃を顧みないと云ふ決心がなければ、

天才が発揮しない。故に、天才の人は逆境に立つ者が多い。世の迫害を受け、父母妻子の感情に逆らうて遂に孤独生活を余儀なくしたり、又其の煩ひから夭死したり、甚だしきは十字架につき、毒殺をせらるゝと云ふやうな悲惨な最期を遂げて居る。偉人の終りは斯くの如き経験をした人が沢山ある。そーすると通常の人間、即ち常識的の生活をしなければならぬ人間、殊に御婦人のやうな、家を持ち主婦となり子どもを育てねばならぬと云ふやうな人が、そー云ふ極端の生活を試みたり、そー云ふ非常なる道を踏むと云ふ事は、どーであらうか。夫れが果して幸福な道であらうか。世の為にも、家の為にもなるであらうかどーかと云ふ事が問題である。之れがつまり女子高等教育、又は宗教などの上にも昔から問題になる事である。そこで偉人の多くは斯くの如き終りを遂げて居る其の生活を理想とし伝記を読むのは、よい事であらうかどーかと云ふ事になる。之れはあなた方が志を立てて此校へおいでになる迄に、親兄弟や親戚や、先輩から度々お聞きになった事と思ふ。此の事について申すつもりでありましたが、時を取りますから省きまして、本論に入って申します。其の間に自ら解決のつくやうに致したい。

逆境に立ち夭死した人と云へば、先づ誰れでも知って居る処の Christ, Socrates で、病的になった人と云へば Nietzsche, Byron と云ふやうな人で、之れは詩人、音楽者に多い。夫れから之れは天才であるか病的であるか区別のつかぬ人もある。又、確に病的でなくして昔の時代の偉人になった人も沢山にあります。夫れは後に自らあなた方にわかる事と思ひます。

今私が、代表的な人物、深い能力の発現である代表的の人物と云へば、どーしても其の時代の代表的の人物をあげる外はない。又、そー云ふ人をあげるならば、あなた方は自ら其の人物を崇拜すると云ふ念は禁ぜられないであらうと思ふ。そこで自ら尊敬し崇拜する念が起れば、従つて何かの感じを其の人から不知不識の間に受けると云ふ事は自然の結果であらう。そーすれば我々がそー云ふ人から感化を受けると云ふ事は疑ひなき事であらう。そこで、そー云ふ仮定をおいて進みたいと思ふ。

[時代の代表的人物の研究の必要]

此の間から、直覚力或は直覚性と云ふ事を説きましたが、之れは Immediate knowledge で、直接に感得する処の知識である。夫れから同時に認識力、即ち其の何物かを直接に知る事が出来たならば、同時に何物かに自我を発表する、即ち直ちに目的的活動が起つて来ると云ふ事を言ひました。夫れで夫れをも一つ自覚するには、も一層深く考へて見なければならぬ。

直感とは果して何物を直感するか。其の客観物は何であるか。又、自我を発表するに目的的活動が起つて来るとは、何に向つて発現するのであるかと云ふ事を明かにしなければならぬ。其の関係を説くには、其の時代の代表的人物を研究しなければならぬ。之れを研究し、此の人格を学ぶ事に由つて、其の人を通して私共が直感する事が出来る。

そこで天才とは、どんなものを言ふかと云ふ事を申しておかねばならぬ。昔から、殊に近代に於て天才の研究が行はれ

て来たのである。低能児の研究と共に、高能児と云ふものが調べらるゝ。其の高能児が成長すると共に能力を発揮すると天才になるのである。

さて、天才と云ふ事について二つの説がある。其の一は、天才は偶然に生るゝものであるとか、神が特別に下したのであると云ふ説もある。夫れで任意に努力により修養により、天才、偉人を拵へる事は出来ないと云ふ説がある。

第二には、天才は道理あつて生るゝもので、説きあかす事が出来ると云ふ。此の説では「偉人は其の時代の精神の生む処の代表的な人格なり」と云ふのである。

[偉人の特色につきて]

故に、其の偉人と云ふものの第一の特色は、

第一、同情的卓見 Sympathetic insight

第二、目的的發表 Functional expression

の二つである。

故に、偉人は其の時代を発表し、又其の時代を代表するものである。そこで、発表と云ふ事は内面の結果から云ふと、之れを實現と言ふ。然らば何を代表し、何を発表するかと云ふと、其の時代の感情、其の時代の思想、即ち時代精神を発表するものである。詞をかへて言へば、時代の精神の舍つた人格、又は世界魂、或は宇宙魂の発表である。之れを日本語で言へば**神やど**ると言ひ、英語では Incarnation と言ふ。即ち、其の時代の民衆の思想、感情を発表して居る処の人格である。其の時代の社会全般の思想、感情、即ち時代精神、之れを英語で言へば Humanity の中に宇宙の靈が活動して居るのである。故に之れを段々推理して行くと、其の時代精神を発表するのは神の意志を行ふ、神と我れとが一つになる事とも言はるゝのである。之れが即ち偉人の天賦性の発表の力である。即ち、其の時代が言はんと欲する処を言ひ、同代の人民が夢みる処を實行する人を言ふのである。

故に、偉人の生ずるは偶然にあらずして、内在的精神即ち社会精神、時代精神、或は世界宇宙精神が発動したるものを申すのである。故に偉人と云ふのは、潜勢力或は潜在意識と云ふのは何処に深い原因があるかと云ふと、無論個性の根があるけれども、夫れは時代の精神界に深く根ざして無限広大な力から動かされて、夫れに反動して発現したのが、即ち其の時代の代表的の偉人である。

そこでわかりよく言へば、其の社会、即ち当時の人民が彼れを生み、彼れを育て、彼れを感化して其の方向範囲を決定したるものである。短く言へば、偉人は社会協同の力によつて生み得たのであると云ふ事が言へる。そこで、彼れの熱情は社会心の反響である。彼れの人格は当時の文明の程度の最高点である。恰も偉人は寒暖計の如きものである。社会と云ふ空気かけられてある処の寒暖計の如きものであつて、其の空気の熱度に由つて直ぐ様、偉人の生活が上下する。故に、其の上下する事に由つて空気の熱度が計らるゝのである。又彼れは瓦斯や水道の管の如きもので、其の管は社会の波の中に深く埋没して、最も高い処の程度が人格に由つて判決されて居る。

社会生活と其の偉人の生活と云ふものは離る可からざるも

のである。彼れの熱情は国民の熱情である。彼れの目的は其の時代の社会全般の目的である。彼れの言は当時の社会の言はんと欲する処である。彼れの決断は当時の社会良心の決断である。彼れの改革意見は当時の必要なる社会改造である。其の考へを証明する為に少しく歴史の事実に触れて見たならば、も少し明瞭になる事が出来ます。

著しき例をあぐれば、希臘の Athens 人が討論を好み、弁証を事とする時代に於て、Socrates が生れ出でたのである。Demosthenes と云ふ能弁家も出たのである。Athens が美を崇拜するに至つて、パーセノンと云ふ建築の創造者 イクチナス が出たのである。Macedonia が戦争にあこがれて Alexander を出だし、Elizabeth の時代に英國が人生の愛に酔つた結果は、Shakespeare と云ふ詩人を養ひました。近世の獨逸の津々浦々まで充滿して來ました処の音楽の空気は、此の一世紀に於て ヴィートーベン の如き、シャベルト の如き、ワグナー の如き世界無比の音楽家を出したのである。ヴィートーベン は決して America の Chicago には育つ事が出来なかつたのである。America には Rockefeller と云ふ石炭王と Carnegie と云ふ銅鉄王と、Edison と云ふ發明家とを出したのである。

そこで必ず其の時代と、其の時代の特色と、其の偉人の特色とは相一致して居るのである。又、其の時代には其の以下の天才が続々として現はれて居るのであります。併し此に矛盾するやうなる事実のあるのは、何故に ヘブライ が Christ を生んで十字架にかけたか、又何故に Athens は Socrates を生んで毒殺をしたか、何故に故里は自分の生んだ予言者を放逐するかと云ふ事が問題である。

動物は往々にして、自分の子の為に命を捨てる事もあるが、又、子を食べて了つたと云ふ事も我々のよく見る事実である。そこで、此の事実を見て偉人の伝を読むと、時代が其の人を生んだとは思はれぬ様ではあるけれども、深い關係を持つて居ることは前にも述べた。しかしよく気をつけないと、偉人が狂人になるやうに、偉人を出した時代は偏狭になる事がある。故に、我々は時代の傾向について、自分の健康について常に注意をしなければならぬ。

又、天才が偏狭になり易いと云ふのは、修養に勉めないことと云ふ事がある。又、習俗に従はないと云ふ事もある。如何となれば、習俗に従へば自分の天才を展ばす事が出来ないから、如何なる迫害にあつても屈しない訳で、之れが偉人の不運に陥る所以であり、又、社会の注意をしなければならぬ問題である。

[我々の生活は代表的人物にならねばならぬ]

そこで時代の代表的人物の出来るのは、孤獨的の生活によつて出来るものではない。又、其の自我発表と云ふものは、決して利己的な局部的の発表によつて自我實現の出来るものではない。其の道理はお考へになるとよくわかるのである。

之れから推して、我々の生活がやはり代表的人物の生活にならねばならぬ。代表的人物と我々との違ひは唯だ大小にあるので、種類の違ひではない。故に我々もやはり小さな偉人である。従つて、偉人の跡を踏んで行くのは自然の情である。そこで同情的卓見と云ふものは、我々の内にある処の本能

或は傾向と、時代の傾向或は時代の大勢との間に交通しやうと云ふ同情的眼識が直覚である。故に何を直覚するかと云へば、自分の内にある処の職能を直覚するのである。

時代の精神、社会の命、其の時の神の意志と云ふ様なもの、我々の中に活動して居る処の思想、感情を直覚するのである。之れは余程よく考へて見なければならぬ。

[直覚につきて]

そこで直覚と云ふ事は、内から出やうと云ふ力と他から誘はれる処の力と相反する事で、外からは誘ふとか招くとかする。私の方からは如何にして夫れに答へて行くべきかと云ふ事で、其の間に生れるのである。夫れで之れを爆發するとも言ひ、之れを自動とも言ふ。そこで我々の何が出来たと云ふならば、発表に由つて衝動と云ふ、又別々の力から云へば本能である。故に、ど一発現すべきかと云ふ事のわかるのも直覚である。夫れで此の社会に向つて社会の言はんと欲する処、社会の行はんとする処、社会の理想とする処は、直覚に由つて知らるゝのである。完全なる処の美とか愛とか同情とか云ふものが直ちに内に反応する事が、即ち直覚である。夫れで宇宙から言へば直覚と言ふのであり、自分の身体の内から知る事から言へば、本能とか衝動とか言ふのである。其の総体を言ふ時に、Bergson の詞をかりて直覚と言ふのであります。

[本能につきて]

然らば之れを我々の日常生活に應用するには、之れを具體的にして見なければならぬ。

第一に、交通的本能に従ふと云ふ事である。英語で言へば Communion で、之れは心と心とが相通ずる事。人の感じを感じざるを得ない。人の考へを聞きたい。自分の考へを人に表したい。ほんといによき態度を以て、同情を以て交りたい、心を通じたい。之れがなくは人生寂寞を感じざるを得ない。之れを交際的本能と言ふのである。夫れで、ほんといに此の交際的本能を以て交つたならば、人を誤解したり曲解したり、青い眼鏡を以て見ると云ふ事はなくなるのである。

第二は、同情的本能。又は義侠心、又は演劇的本能、或は友誼的、想像的本能と云ふ。人間が喜劇や悲劇を演ずる、或は詩を愛するのは同情的本能。詞をかへて言へば、義侠心である。人と共に喜び、人と共に悲しめば、人の事とは思はない。我が事と思つて、人の身代りにも立たうかと云ふ心になる。此の本能が悲劇や喜劇を演ずる事となる。此の生活によつて、人の事をも我が事のやうに直感するのである。

第三が、技術的本能である。即ち、天地の美を直感して、之れを土を以て絵具を以て、或は石や金に発表するのである。故に芸術の力は直覚性である。天地間の美を直覚して、直ぐ様何かに発表しやうとするものである。

第四は、美的本能である。之れは Singing and dancing で、つまり、音律的活動をしやうと云ふのが、此の本能である。此の本能に由つて自我を筋肉に発表するので、直ちに健康に影響するのである。之れは非常に深い意味がある。私共が器械的教育を根本から改良しやうと云ふのは此にある。Emancipation of activity である。あなた方は今、縛られて

居るから手や足を自由に動かす事が出来ないのも、之れが萎縮する原因となって居るのであります。

第五は、尋問的或は解剖的本能と云ふ。つまり科学をして物を明瞭にして、討論をして見たいのである。之れは知的本能である。故に、学問をする人は始終問答があり、機会のある度に討論をして見たいのである。

第六は、構成的本能である。科学をするのは哲学を成り立たせたいと云ふ本能で、完全を望む処の本能である。故に、之れを科学的本能と言ってもよいのである。

之れを大別すると、第一、第二を愛と言ひ、第三、第四を美と言ひ、第五、第六を真と言ふ事が出来る。故に、之れは昔から言ふ処の真善美の本体であり、此の三つを一緒にした本体を直覚と言ふのであります。本能と云へば、見たい聞きたい食べたいと云ふ事のやうにとられ易いのである。併し之れは大切な働きである。唯だ一部の働きを許さない。故に全体から考へて真理を愛する、組み立てると云ふ完全的の傾きがある。故に Harmony, Symmetry と云ふ事、Rhythm, 共同とか云ふやうな全体の関係を見なければならぬ。其の全体の関係に応じて働くと言ふ事が直覚であります。

[今日は万国的意思の出来つゝある時である]

今日は万国的共同の意思の出来やうと云ふ時である。万国的とは、殊に東西と云ふ事を意味するのである。如何にして我が国民を万国的ならしむるかと言ふ事は、皆さんの直覚力に俟たんければならぬ。夫れには教育を改善しなければならぬと云ふ事から、政府では制度調査会と云ふものを設けられ、我が校では根本的教育を施さうと勉めて居る。又、あなた方の多くは此の夏休みに夏期寮を作って、大に此の精神を養はうとして居らるゝ。之れは一つの社会精神である。

[注意すべき点につきて]

Self-expression は同情的愛である。交通的、社会的の心を發揮せんければならぬ。消極の心配、嫉妬、猜忌心、疑ひと云ふやうな、人を圧迫するやうな妨げを除かねばならぬ。故に先づ根本の修養をして、自由の発表が出来るやうにならねばならぬ。夫れが出来ると愉快になる。Love is unerring guide, joy is its own security. 即ち、愛は誤りなき案内者であり、愉快は其の保証人である。

私はどーしても此に、あなた方が自由が出来、同情が出来、互に喜ばしく愉快に交際が出来、協同が出来るやうにならねばならぬ。夫れが出来するには今言つた処の六つの本能を働かして、其の結果直覚力が養はれて、社会的活動の出来るやうにする事が大切であります。

[中表紙]

大正二年六月二十一日
第一学年及び予科にて

大正二年六月二十一日
第一学年及び予科にて

[問題]

修養と云ふことが、真にあなた方の生活の上にとどの位表はれたかを見たいのである。此の問題は三年のと同じであるが、併し銘々の経験であるから、そ一むつかしくはない。それで其の問題は、

- (1) あなた方が自分の健康に対して如何なる興味が起りしか。つまり自分の病ひ、弱点を如何にしてなほしたか。又、知識をどの位応用して、身体を支配して居るか。
- (2) 如何にして各自の悪癖、欠点を矯正したか。
- (3) 我々の生活には自動的生活、他動的生活、本能的生活があるが、此の内、あなた方の一週間の中に経験する自動的生活の種類、及び時間を問ふ。
- (4) 夏期休暇中に於ける修養法、及び決心を問ふ。夏休みなどになると、怠りがちになりやすき人。かゝることに拘はらず、勉強の出来る人。

此の前には、自分に対する興味、他に対する興味、自他の関係に対する態度につき述べまして、大体の意味がわかつて居る様であるが、尚ほ団体と団体との関係、権利、義務など云ふことが我が国では充分発達して居ない。之れが大いに発達を妨げて居る。併し、も一夏休みに間もないから、今一方の方面を考へておく必要がある。

[知的興味]

知的興味と云ふことを通常の言葉で言へば、好奇心と言ふ。Curiosity、或は愛知心とも言ふ。之れが深くなると、哲学と言ふ。哲学と云ふ語はギリキから来た語で、即ち Wonder と云ふことから知が始まる。知は尋問すると云ふことから起る。人間の心の中には知りたい、見たい、探したい、解りたいと云ふ心がある。之れを研究心と言ふ。之れが即ち知的興味があるからである。

知的興味は、如何なる目的に向つて居るものかと云ふと、真理に向つて居る。真理と云ふことは深い意味がある。ギリキ哲学者は之れを真、善、美とわけた。即ち真理は知的価値で、之れを求めるのが好奇心、我々の知的態度である。

而らば、知識の Value、真髄は何であらうか。真理とは何ぞやと云ふと、真理には二方面がある。二要素がある。

[実践的知識]

1、実践的知識。之れは先づ我々が生活する物質の世界。身体を外の境遇と支配する、之れが科学の必要な所以である。今日の文明は、即ち科学の進歩、物質の力の法則を知るを得たことにより、今日の進歩が出来たのである。

人間の生活を豊富にする工業、商業、農業、政治、交通機関等は皆知識による。又、社会、教育、宗教などの進歩、発達するのも知識による。人間の性質、社会の最も根底をなす本体

の知が闡明さるゝにより、社会救济などが有効になる。故に知は我々に欠ぐべからざる道具なり。此の価値が得たい、絶対の関係がわかり度いと云ふことが、知を追究する処のわかりやすい動力である。故に、生きた知が我々の中にあるので決して、或る程度まで知を暗誦し学位をとる、証書をもらう、人から褒めらるゝなどを喜ぶのは、未だ真の学問をする態度ではない。知的興味をもたなくては、真の知を発することは出来ない。

[知識の種類]

而して其の知識の結果を分けて二種となす。

- 1、部分的、事实的知識と云ふ。
- 2、部分的或は局部的知から之れを総合して、一層広い知識を構成する。即ち、之れを総合的知、又は真理と云ふ。

[知的一致 道徳的一致]

然らば、我々が銘々知識を増進したいと云ふ欲望は何であるか。我々の思想、考へを本体と一致せしめやうとするのである。我が思ひと本体と合致せしめやうとする。もし我々の考へが本体と一致すると真実である。それであるから真実を慕ふのである。至誠である。斯くの如く我が意と本体と一致すると云ふには、学問をつまねば出来ないことである。我々の言葉と我々の口に主張する言葉と、我々の行ふことと、我々の思ふことが寸分たがはぬ様になりたいと云ふ動機である。至誠と云ふことは一致と云ふことである。一致とは物と物との合致である。之れを分つと、

- 1、知的一致。これは種々な観念、思想の一致である。種々の知、信仰の一致である。
- 2、道徳的一致。印象と発表との一致、思想と行為、学問と修養、職業と行ひの一致である。

我と団体の一致と云ふことは、半ばは自他的態度、興味によって出来るのであるが、こゝに危険がある。不公平、偏頗、部分的になる恐れがある。之れをなほすには真理を愛する、只誠を追求するにある。広い知識により全体が見える。全体がわかる処の知識によらねばならぬ。昔から女子と小人は養ひがたしと言ふ。之れは何であらうか。真理の眼を開かないからである。故に物の真相を見ることが出来ないのである。党派心、偏見、神経質などは皆、無知より起るものである。

知識の真価値、学問の真髓は、知其れ自身の価値そのものために学問するのである。之れを考へなければ、何のために学問するか、如何に学問するかがわからなくなる。

之れから深い方へ進む筈であるが、時間がないから、次の時間までによく考へて来られる様にしたいのである。

[中表紙]

大正二年六月二十八日
市内正会員会にて

大正二年六月二十八日
市内正会員会にて

只今十二年間の経験、及び私が世界の女子教育の状況を見て帰り、我々が此の開校当時から問題として居た処の教育方針を確定して、今度は是非何とか熟考して見る積りで、今改正の案を調査しつゝあるので、成るべく今年中に大凡の計画を立て、今学期中に準備し内容を充実させ、来学期より実行に着手する考へで種々調査しつゝあるが、どうしても我々の理想を実現することの出来なかつた原因は、風俗、習慣等の社会からの圧迫である。

[我が国婦人の境遇について]

そこで我々が女子教育を実にせやうと思へば、我が国全体の教育制度に注意しなければ出来ないことで、我々が進歩の出来ないのも、家庭、親族等の境遇の妨げが非常に影響して居る故、思ふ様に進めぬ事はあなた方の罪ではない。之れはどうしても筆や口には表はず丈根本の改革は出来ないと思つて居りましたに時代はかまはり、私が行く前と今日とは大いに変わり、我々が熱心にするならば外の改善の出来る見込みがたつたが、やはり根本問題は学生である。直接に言へば卒業生である。卒業生の経験、実質である。今度の改革案を立つるには、どうしても経験を土台にせねばならぬ。近頃婦人問題が起つたので、女子教育に関する会を開くから会場を貸して呉れる様に、又、私に話をして呉れる様にとのことである。

[新婦人と真新婦人について]

真新婦人と新婦人に対し文部省から圧迫する様であるから、代表者を招いてよく話を聞き、よい処をとらうと云ふことであるが、私が思ふに、新婦人の話の高くなつたのは社会の誤解で、例へば英國の Suffragist には目的があるが、我が国の新婦人に何か目的を尋ねると、自らわからないものや、或るものは感情に激した様なものがある。社会がやかましい婦人問題につき代表者を出し話を聞かうとするに、何処に新婦人が居るか云ふことは、問題である。

[我が国の婦人につきて]

英國の婦人の如く日本婦人に、真にほんとの真面目な Movement があるであらうか。或る処では待合などの事につき相談に来るものがあるが、私は未だ、ほんとの一に自覚した New woman と云ふ実質に於いて真面目な特種な運動が起つて居るか云ふと、大いに問題である。私は、之れに答へをするものはあなた方より外にない。私は我が国婦人と云ふことにつき、あなた方から問題が貰ひたい。如何にすれば関係がよくつくかは大切な問題であるが、私の希望し又あなたの決心せられた生活、精神的、研究的など皆の思ふ目的がどの程度まで実現せられたであらうか。換言すれば、婦人は高等教育に堪へるであらうか。

獨逸の Lessing は、神様が右の手に宇宙のすべての真理を

握って、左手に少しも止まらず動く知、真を要求する本能、熱心、其の好奇心を握りて曰く、汝等何れを選ぶか、選ぶ処の願ひを神きかん、と言はれし時、Lessing はひざまづきて、おゝ神よ、左の玉を与へ給へと祈りしと云ふ。其の求めて止まぬ、研究して進む力が、常にさめて働いて居るかと云ふと、歴史的に考へると斯くの如きことは少く、感情的で部分的で保守的、固定的で、よき処は直観的、感情、美術の方面で、真の研究は婦人には出来ないとして一般に考へた。果して婦人は然らんか。婦人の感情、性格も生きて進むには真理が必要である。そこで高等教育が必要である。今、卒業生を出す事千幾百であるが、今境遇を語り、大勢の動いて居るのにおくれず益々進んで行かんとする好奇心なり真理を愛する動機は、常に進歩、発達して、経験の段級がどこまで高まったか、又出来るかが根本問題である。

[自己の反省、研究について]

どうしても日本の教育の根本を改めるにあたり、婦人の心理がわからねば出来ない。学校の主義は之を表はさんとして居る。故私は、あなた方にも一つ反省し、心理学的に研究して報告して、日本の女子教育、母校の教育を改善したいと思ふのである。此の問題につきて、あなた方自分自身、自他比較研究して案をたてたいのであるから、あなた方から材料がもらひたいのである。将来婦人が非常に責任が重くなり多事になる事に対し、如何にせばよきかを研究して貰ひたい。境遇はかへられるが、実質の改善について考へて居るのである。

[中表紙]

大正二年六月二十八日
大学部一年及び予科にて

大正二年六月二十八日
第一学年及び予科にて

Pure truth Pure love of truth

今日尋ねたいのは、学問をする上に、即ち真理を探究する上に高尚な興味を以て、即ちほんとな興味を以て出来て居るかど一かと云ふことで、利益とか幸福とか名誉とか成功とか云ふ事の為でなしに、純潔なる興味を以て学問をして居るかど一か。此の頃、持参金なしの花嫁と云ふ詞があるが、其の意味で聞くのであります。

[根本要求について]

斯くの如き真理に対する根本要求があるかど一かと云へば、私は男女に拘らず必ずあるべきものであると言ふ。さうして之れは時によって一時的に発生する如きものではなくして、永久に進化して行くものである。即ち生れて意識が出来る、知識欲が醒めると、我と云ふ意識が出来る。此の意識が出来れば人間が生れたのであると云ふことをカントが言ひました。知りたい、見たい、わかりたい、進みたいと云ふ欲望が益々、

此の意識を進めて行くのである。人間が醒めて段々欲望が進んで行く。殊にあなた方の年齢になると最も著しくなつて、終に年をとると最後の経験をする迄、此の知識を愛すると云ふ念慮は消えない。之れが人間の生活であります。夫れで、決して学校教育の間だけが此の興味の必要があるとか、又は一時的のものであると云ふことは言はれない。

然るに、今日の学生は比較的そ一云ふ興味が乏しいと云ふやうに見えるのは、寧ろ之れは病体である。何かの圧迫によるものであると思ふ。

夫れで私は、之れは人間の独立して働ける処の興味であると思ふ。其の興味、其の根本欲望は何を追求するか。ど一云ふものに向つて、そ一云ふ態度をとつて行くかと云ふことになる。真理を追求して居るのである。

[真理は孤立するか]

然らば真理と云ふものが、絶対に他の考へから離れて存在することが出来るか。真理をつかみ真理を見るに於て、他のものに関係なく真理の存在を見ることが出来るか。真は確にある。然れども真あるときに美と云ふものがあるのである。真は光りである。之れを見るときには、美である色がある。形がある。之れ等を離れて純粹の光はあるに相違ないが、光りを見る時に色を見る如く、真理には美を見て居る時、我々は活動して居る。こゝに善である。真善美である。内から云へば知情意、之れを真善美と言ふ。真に真理を愛すると云ふことはあるけれども、独立することは出来ないのである。

[Lessing]

真理と云ふものは固定したものか。それとも真理は生きて居って常に動いて居るものか。

常に知識を得ると云ふことは、知識に生活すると云ふことであるか。之れは問題である。これについて獨逸の学者 Lessing は、

If God held all the truth, shut in his right hand and in his left hand nothing but everlasting instinct of all truth, though with condition forever and never ending and should say to me to "choose!" I should humbly bow to his left hand and say, "Father, give me." "Pure truth is for thee alone."

神様が、宇宙にある総ての真理を右の手に握って、左の手に限りなく動いてやまない、又誤りやすい真理を愛する処の知的本能を持って、汝等は孰れが欲しきか、選ぶまゝに与へん、と仰せられたならば、ど一するのであらうか。今の学生の欲望はど一でありませうか。

Lessing は言つて居る。私は謙遜なる態度を以て神様の左の手にひれふして、おゝ天の父よ、其の純真理は全くあなたにのみ属するものであります、と言ふ。其の意味は、右の手を選ぶ人は何か手段、方法に使ふ人であるけれども、ほんとなに真如と云ふものを愛し、純真理を追求するものは始終止まない処の知識欲、其の動力を望むのである。ほんとな真理を考へる処の深い力、根本の力が欲しいと云ふのである。之れがほんとの誠である。故に孔子様は、朝に道を聞けば夕に死すとも可なりと仰せられた。佛教では真如と言ひ、クリ

スト教では真理を知るは神を見るのであると申します。

[御製]

先帝陛下は、

目に見えぬ 神の心に通ふこそ 人の心の誠なりけれ

と詠ませ給うたのであります。此の通ふと云ふ事が面白い。神の真と其の真を慕ふ我が心とが一致して相通ふと云ふこと、こゝに深い要求があるのであります。凡そ之れで、知的興味と云ふことの説明を致しました。

其の次に、私があなた方とお別れする前にも一つ考へておいて貰ひたい事は、其の知的興味はど一して養へばよいかと云ふことである。

[中表紙]

大正二年七月十日
大学部全体の為に

大正二年七月十日
大学部全体の為に

此の前、三年、二年に問題を七つ程出しておきました。其中からぬきまして、四つばかり一年の方にも問ひをかけたおきましたので、或る事は答へも出来、実行も出来たのであります。自動的生活の分量と云ふ事は意味もとれにくく、実行もむつかしからうと思ひます。けれども此の問題の主意は、母校の十年期から第二の小紀元とも言ふべき、即ち此の大正年間になりまして如何に本校の実質を高める事が出来たか。即ち、女子の教育の程度を如何に高める事が出来たか。適切の問題では、あなた方の根本要求を如何にしたらば充実する事が出来るか。平たく言へば、如何にしたらほんとの進歩が出来るか。又、ほんとの進歩を実現すると云ふ事は如何にすればなし得る事であるか。又、どれだけ銘々の品性、人格に現れたかと云ふ事を観察して、も一つ将来有効な教育を進めて行きたいと云ふ事であった。

故に第一、第二、第三、第四、第五までは果して活動の自由を勝ち得たかど一であるか。即ち、今日婦人の解放と云ふやうな詞がありますが、解放とは詞をかへて言へば、今日婦人に対していろいろな束縛、圧迫があると云ふ事になる。夫れを解き得たかど一かと云ふ問題になります。夫れであなた方の答へを批評し又尋ねに答へる様にすれば極適切に考へを進める事が出来る。けれども時間が足りませんから、も一つ夫れを適切にするにはど一したればよいかと云ふ事を説明しておくならば、休みの間に研究し実行する事が出来ると思ひます。

[程度につきて]

夫れで程度を高める、即ちも一つLevelを高めると云ふ意味を説明しておきましたが、猶其の答へに由ってわかりかねたと云ふ点もあるから、夫れを申しませう。

我々の程度と云ふのは実質或は品質的のもので、実質其の

物に進化があることであるから、分量的のものではない。然るに、今日の進歩或は程度を高めると云ふ事は分量的のものであり、範囲を拡げる、即ち博学と云ふ事になって居ります。けれども之れは間違つた見解であつて、若しも我々の知識が我々の品質に影響しないものであつたならば、我々に有効なる経験をなさしめ、我々の人格に感化、影響のないものであり、或は我々の人格に有害な仕方であつたならば、之れは退歩と言はねばならぬ。

之れをわかり易く言へば、他の動物の進化と云ふやうな生物学上から言へば、進化とは其の大きが増すと云ふのではなく、Quality が善い方に進む事を言ふのである。例へば昨年あなた方に見せた沖縄から送つて来た所の茄子の如きは、大変大きいけれども料理をして見ると大味で、却つて当り前の小さな茄子の方がおいしかったと云ふ訳である。故に何でも大きくさへあればよいと云ふものではない。

又、バーバンクの所へ行つて見ると、未だ曾て見た事も、食べた事もない様な果物が沢山ある。我が国の柚子の如きものでも彼所では実に**おいしいもの**となつて居る。之れは品質が進化したのであります。夫れと同じ様に、人間でも健全なる精神は健全なる身体に舍ると云つて、身体も大切であるけれども、只身体ばかりが象のやうに大きくなつたからとて、瘦せた様なきちつとした身体の人よりもえらいとは言はれない。我が国でも、**大男 総身に智恵がまはりかね**、と言ふのである。

教育と云ふ事も、今日では博学になつて知識の分量を非常に増加すると云ふ事に解せられて居るけれども、只知識の分量のみ増さんが為に、記憶力のみを用ひ過ぎて統一がつかなくなつて、意志薄弱となり、健康を害すると云ふやうな事になつてはだめである。

又、女子教育から申しますと、沢山に物を覚えて、且つ**茶の湯、音楽、活花**と云ふやうに沢山な物をつめこんで、非常に物を覚えて居るやうであるけれども、其の人全体の力、即ち健康の力、道徳の力、物を創始する力、自制する力等、全人格の力が誠に健全に発達する様になつたと云ふ時に於て始めて、其の人の実質が進んだと言ふ事が出来るけれども、夫れに反したならば進歩したとは言はれない。

名高い医師の話に、此の頃の婦人は忍耐力が乏しくなつたと云ひ、又、母親が子どもを育てる上に乳が出なくなつて、牛乳などで補はねばならぬと云ふ。若し之れを事実とするならば、今日の教育は婦人を高めて居るのではなく、却つて退歩せしめて居ると言はねばならぬ。之れは独り女子教育のみならず、今日の青年男女の教育は人間の実質を高めて居るかど一か、人生の意義を高めて居るかど一かと云ふ事になるのであります。昔の人の知らなかつた事を知つて居るとか、昔の人の出来なかつた芸当が出来るやうになつたと云ふばかりでなく、益々人間の根本要求を高めて居るかど一かと云ふ事が問題であります。

[真の自由を得るについて 第一、境遇 第二、内面の圧迫]

先づ其の価値が進むと云ふ事、即ち自我が銘々のほんとの自分と云ふものが実現すると云ふ事に由つて、即ち此の学校で主張しまする処の自動、自学、或は自修する事に由つて、

[中表紙]

大正二年七月十二日
女子教育家懇談会

ほんとの一人の人格の発現、或は校風の進歩と云ふものが出来るのである。夫れをするには、ど一しても人間の心に自由を与へねばならぬ。其の自由を与へぬうちは、ほんとの一に自発し自修して進む事が出来ないのである。夫れで此の前あなた方に問うたのは、どれだけあなた方は之れに戦うて勝ち得たかと云ふ事を尋ねたのである。其の答へはいろいろありますけれども、大別して二つにする事が出来ます。

第一 境遇、第二 内面の圧迫。境遇の改善の方には新しい希望がわいて来た訳であるが、猶其の他に、あなた方御婦人の長所であり欠点である処のものを、如何にして改善すべきかについて御注意申しておきたい。

[婦人の殊に注意すべき点につきて]

此の前、私は直覚性と云ふ事について申しておきましたが、今日我が国の教育は、形式に重きを置いて実質を怠った傾きがある。夫れで之れを改めて行かねばならぬ。

直覚性と云ふ事は、あなた方婦人については非常に長所であると同時に短所である。故に、婦人の人格を妨げる上に此の感情が非常に妨げとなって居るのであります。

宗教で云へば、神の性。又は実体を直覚すると云ふ事は、婦人の長所であるけれども、男子に比して非常に迷信的である。又、女子の生活は感情的になり、狹隘になり、恐怖となる。運命を恐るゝ恐怖心から奴隸的、迷信的信仰に陥るのである。今日キリスト教を信じ、又は今日の学問をした人の中で猶方角を言ったり目を言ったりするものがあつて、今に其の恐怖心から逃れられない。即ち独立の信仰、独立の思想と云ふものが得られない。自分がいろいろな仲介物をつくつて、それに動かされるのである。自分から真理を見出し、其の中に眞の自分が入らねばならぬ。自分が神と眞に交通し、神の意志、神の心に応答すると云ふのでなくてはならぬ。中間物に惑はされると云ふのはだめである。

動的と云ふのは、今迄の経験がぶらついたり消滅すると云ふのではない。永久に経験が進行して行く事である。而して之れには独立の思想がなくてはならぬ。しかし恐怖心及び外部からの暗示に感じ易く、思想の自由を束縛する人がある。迷信や暗示に捕はれて、自分の取るべき実を取る事能はずして、中途にして挫折するが如き意志薄弱なる欠点がある。故に先づ信仰、思想の独立する処の力の解放が出来なければ、眞の進歩、眞の程度を高める事は出来ないであります。

[休暇中の注意]

夫れで私は、此の夏、郷里に帰り旅行をしたりすると、自分の信仰や考へを動揺せしめて妨げるものは必ず精神上に来るから、誘惑にかゝつたならばど一しても進歩は出来ないであらうと思ひます。之れは一つの項目で、猶幾々説き明かさうと思ひましたが、時計を見ると、も一十一時でありますから今日は之れでおきますが、説き明しをしなくても大体おわかりであらうと思ひます。ど一か皆さん、此の休み中に心も身体も健全になさつて、再び此の堂にお会しなさる事を希望致します。

大正二年七月十二日 女子教育家懇談会にて

近来、欧米に於ける進歩、発展は、只統計に現はれて居る外部の発達のみならず、其の内部の力、即ち女子の知力、理想力、品性、及び其の間に現はれて居る問題の上に、非常な勢力をもつて高まつて来た様に感ぜらるゝ。其の変化は何に原因するかと云ふと、畢竟一方は女子の内的生活の進化と、一方は近代の社会全体の変遷、進歩が悉く女子及び家庭の上に著しく影響を及ぼして来たからである。そこで如何なる有様を以て進歩して来たかである。

[政界の変化]

第一に数ふべき一大原因は、近代欧米に於ける政界の変化である。丁度私の行った頃は、米、佛に於ては大統領の選挙の時、又英、獨に於ては国会の開会中で、何れも傍聴する機会を得て、最も欧米は政変の甚だしき時に遭遇して、其の変化の著しいを感じた。

無論、皆さんの御承知の如く、米、佛は共和政体で、獨、英は立憲君主政体であるが、併しかゝる共和国と君主国のみに、かゝる変化が行はれて居るか云ふと、決してそ一ではない。其の変遷の度合は異つて居るが、一般に変化、進歩して居るのである。

[デモクラシー]

其処で、欧米の思想は如何なる風に進みつゝあるかと云ふと、古い言葉で一番新しい意味に使はれて居る処のデモクラシー、訳して民主主義、同胞主義、反省主義となるが、之れが欧米の思想の傾向である。獨逸の如き君主政体の処に於ては反対もあるやうに見えるが、実際はデモクラシーに一致して居るのである。

[ウィルソン党]

併し一層先鋒となつて居るのは亜米利加合衆國で、殊に近年大統領選挙に勝利を得たウィルソンの党が最も米國を進歩させよ一として努力奮闘したのである。デモクラシーについての定義は、リンコンが書いたものが一番當を得て居ると思ふ。つまりデモクラシーは人民政治、即ち人民自身政治をやる、人民の爲めに存在する処の政治と云ふのである。

[デモクラシー]

併しこのデモクラシーは政治ばかりでなく、大学、其他法律学校も皆この精神を中心として居るのである。シカゴのハーバードでもユニヴァーシティーの空気がデモクラシーでなければならぬと論じて、校風に之れを応用するやうに勤めて居る。而して米國の近代のすべての教育はデモクラシーに依つて居る。即ち、以前の学校は学校本位であつたが、今日の学校は児童本位である。児童の心理を研究して、其の児童の内から起る要求に従ふやうにするのが、今日の学校制度である。つまり政治は人民の爲め、学校は児童の爲めを主義とす。

ひとり政治、教育のみならず、宗教、社会一般の制裁も、この主義を以てす。

此のデモクラシーの主義は決して新しいものでなくて、世界歴史あつて以来の主義であつて、アテンスあたりでも実現しやうとしたことがある。併し言葉は古いが、今日デモクラシーは其の内容が非常に新しいものである。併し当時此の主義に取り扱はれた国民は極少数で、其の大多数は奴隷であり束縛を受けたもので、殊に其の中の女子は其の時の財産に過ぎなかつたのである。然るに今日のデモクラシーは、婦人にも子供にも労働者凡て人と云ふ名のつくものには応用され、実行されて居るのである。之れまでは、米國にては国民が大統領、裁判官、其の他悉く代表者を選んで、代表者に政治は一任されて、其の年限中に不正なことがあつて国民の意志に叶はぬことがあつても、法律に関する程のことではなければ国民は其の改選の機まで如何ともしなかつた。

[物質文明の弊]

然るに近來、物質の文明が次第に進んで来て、一方に弊が伴ひ増長して来た。それで米國の歴史家などは、米國は二、三十年の間には富が二倍になると云ふ勢力であるが、併し之に伴ふ道徳、宗教の力が二倍になるかは問題であらうと言つて居る。

斯くの如く政界に種々の変化が起つて来たので、昨年大統領争ひの中心問題は、人民が直接に政治をやることで、之れまでは代表者に一任したが、人民が直接政治をしようとして来た。其の主なる条項は三つあつて、

- (1) イニシエチーフ
- (2) リフレンドム
- (3) リコール

[イニシエチーフ]

このイニシエチーフと云ふのは、つまり法律の修正は人民が自ら協議して巧みに法律を造り、又法律を修正し又製作に権力を及ぼすことが出来る。

[リフレンドム]

リフレンドムは一般投票に訴へて、かへることも出来る。

[リコール]

リコールと云ふのは、つまり州の役人、裁判官と云ふやうな自ら選んだものを、又其の期間と雖もやめんとすることが出来、又不正とする判決は人民がやぶることが出来る。

其の結果は、人民自ら政治をやるのである。米國の如き共和政体の人民の権力つよき地方の政治にも係らず、政治に弊が起ると云ふので、尚一層国民の方に力を回復しようとする運動が起つたのである。この主義によると、弱い国民にも女子にも凡ての訴へを聞く。それをきいて改めさせ、部分部分に全体政府は個人の声をきいて、之れに対して決して圧迫をしない。国民の内から発達させる主義である。投票権は女子からも起つて居るが、政府からも起つて居る。

[ダイレクト ガバメント]

ダイレクト ガバメントは、婦人に参政権を与ふることとなつた。其の内有力なる指導者の言つたことに、女子も男子と同様、経済的及び社会的生活の一部を占むるものである

以上、男子同様、経済問題、社会問題を決定するに当り投票権を有するは当然である。婦人も賃金とりであるならば、労働問題を決すべきである。婦人も亦財産所有者であるならば、租税問題に参与すべきものである。婦人は母であり妻である以上、家庭に関する問題の決定を助くべきものである。

これらの問題はすべて国民の問題である。而して国民は凡べて家庭の暖炉の側に住むものである。人、或は言はん。婦人は戦時に於て国民を防御すること能はず。故に婦人は平時に於て国家の運命の決定に参与すること能はずと。されど吾人は之れに答ふるに、婦人は困難に際し男子が銃を取つて苦しむが如く、等しく又公に奉じ、難に苦しむものなりと。又曰く、婦人は国家の兵士を生む。其の子息が国家の干城なる如く、等しく其の保護者たる者である。これは、其の論の一部を読んだものである。これはデモクラシーの方からは反対者もあるが、非常に有力な識者の間に賛成がある。

[サフレジスト]

英國も同様である。只婦人が我が儘のために参政権を得んとするのではない。これは想像とは余程違ふ。又、英國に於てもサフレジストなどは、手段は悪いが正々堂々と社会方針に訴へて行く随分立派な婦人もある。其の根本には実に真面目と力と根底があるのである。からさはぎではない。どーしても今日は、政治と云ふものと社会と云ふものと離るべからざる關係になつて居る。一体、投票権のないことは権力のないのを証明して居る。権力のないものは社会、国家に対する義務はないものである。女子に責任義務があれば、子を守る。社会の悪風を矯め、人を救済すると云ふが婦人の責任であれば、之れを守る処の方面にかけて居るものならば責任を完うすることは出来ない。母ならば母の権がなければ守られない。政治とはなれて生活することは出来ない。政治を我が國の如く、婦人は携はずに行くと云ふ訳にはならない。人民自らすると云ふ様に、非常に凡ての制度が進んで来た。之れが女の家庭生活に影響を及ぼして来た。

[実業経済界の変化]

第二は実業経済界の変化、進歩。これは皆さんに大抵おわかりになつて居よーが、今日米國の経済界がど一動いて居るか云ふことを話さぬと、只一言で言ふと、職業、工業、商業と云ふものが非常な変りである。殆んど之れまでは、女は内を守り、男は外を守ると云ふわけであつたが、も一内の女でやる仕事は殆んど残らぬ。大きな大工業組織の中に吸ひとられてしまつて、女は畜生虫の如きものである。併し生きると云ふことは男女共に必然的のもので、従つて女子も此の大きいシステムの中には入らねば生きることが出来なくなつた。誰れもかも大きい変化の中になげ入れられて、支配を受けねばならぬことになつた。これは非常な変化で、之れに順応する力、徳が備はらねば、婦人と雖も之れに応ずる発展がなければ、到底生きて居られぬことになる。

[第三の変化]

第三の変化は精神上の変化で、宗教、道徳の変化で、二十年前とは雲泥の差があつて、迷信的、宗派的、固定的のものは死んでしまつて、到底今日の人間に眞の糧を与ふることは

出来なくなった。外の生活がかく一致になった如く、精神生活が大きく世界的になった。到底頑固なことを言つては世に立たれず、精神の満足を得られなくなった。かくの如く社会の三方面の急激の変化により、社会の単位たる家庭生活が根本的に変化し来りつゝあるのである。

[新婦人]

之れが即ち今日の婦人問題、社会問題である。我国でも新思想と云ふ、其の言葉の理想はかはらぬ。新婦人とか真新婦人とかの運動の思潮、目的はかはらぬ。新しいと云ふことは今迄の婦人と違ふと云ふことはわかるが、其の他は、まだ私にはわからない。併し、そのあるものは西洋から来たものである。婦人問題は世界に通じた運動で、日本にも影響を及ぼして来た。即ち我が国だけ孤独に生活して居ると云ふことは到底出来ぬことになった。即ち刺激に乗ずることも出来ず、今までのを守つても行けず、妙にわかりにくくなり、社会には非常な誤解を与へると云ふことになった。今日は誤解もないと思ふから、平常通りをこゝに述べるのである。之れはやはり、お互の間にも誤解、偏見があるから、之れを明かにしておかねば真に入ることが出来ぬから、誤解から説かうと思ふ。

[過渡時代]

斯う云ふ様に人類の生活が変化して来たから、女子及び家庭の生活が自ら変つて来たのである。即ち、今後生活をつづけるには非常な力、思考、努力を要することとなつて来た過渡時代であるから、色々の誤解があり混乱があるのである。

之れ、英國にあるサフレッツ。秩序を乱す、人の生命に危害を与へる其のやり方は、如何にも乱暴である。又、我が国でも間違ひであるやうであるが、新しい婦人と云ふと、何か男子に反抗するやうである。我儘をしてもよいとか、極端な自然主義であるやうに心配する人もある様であるが、いくらかゝる時に軌道をはづれた病的な人間が刺激のはげしいために起つて来る。それを社会が見て、危険なことである、実際どうなるかと思つて心配する人もあるが、圧迫する人も起つて来るのであるが、之れは過渡の時代には一方には妨げになり、一方には時に改革ある場合には停滞を動かすものもあらうから、結果から言ふと止むを得ないかも知れぬ。ともかくも世間の問題になり、誤解になり、針小棒大に言つて世間を刺激するから、わからなくなるのである。故に指導者は其の子弟を誤らぬ様導くことは大切である。

日本ばかりではなく外国にもあるのであるから、其の弊は棒大に言ひ、婦人、家庭の革進は殊に危険であつて、こんな新らしき運動は防御せねばならぬ様に思つて居る人もあり、古きもの、新らしきもの両極端であつて、どちらが間違ひである、只新しいからいゝ、変化がいゝと云ふのは皮相な見解であつて、人生をほんといふに知らぬ、一知半解な議論である。

私共、進歩発展と云ふことは、我々の長い間過去に於て経験して来た人格をもとせねばならぬ。必ず経験が遺傳され、又社会がかゝるものを造る。兎も角、社会にある風俗、空気、遺傳、天賦の性と云ふものを捨てしまつて、又努力して

造り上げた品性をみな無視して、只新しいものを奇蹟のやうに思ふは間違ひである。又、凡べて新しいことは危険である、又凡て若いものすることは間違つて居ると無暗に新らしきことに反対する、世に後れた方針をとるのも間違つて居る。之れ所謂、新旧の争ひで、日本ばかりでなく世界到る所にあるのである。

人物に於ても、非常に新旧の衝突がある。英米の如きも老人が思想界を支配して居る。故、老いたから、若いから、必ずしも有為の人物とは限られない。若い、若いと、其の言葉になづんで分けることは進歩の妨げになると思ふ。

[改善者]

然らば如何にして改善すべきかと云ふと、之れは只新しいと云ふやうな単純な言葉でさへぐことではなくして、やはり、ちゃんと本当の改善には必ず本がある。其の本も、例へば女子の地位を高める、家庭を改善すると云ふならば、自ら養ふ処、練る処あり。そのたしかな土台によって、運ばれねばならぬ。併し今日迄有望な改善は、真理の発見によって出来て居る。之れは研究により又は修養によって自ら行ひ、自ら影響することによってでなくては得られぬ。つまり今後の変化は発見発明、理想の改善と云ふ真面目な道をとつて進まねば、実行を見ることは出来ぬと思ふ。我々は真面目に研究して居るならば、たとひかすかでも同情を以て助けねばならぬ。然せなければ世は進まない。而るに今日迄国家の浪費と云ふものは、改善者が起つた時に大いに冷笑し、妨げ、挫折せしめる狭い所がある。之れは不徳であり、不正である。ど一かしてよい芽が出たら保護し、培養して、健全な進化を来すやうにしなればならぬと思ふ。併し私共は、西洋でもそこに非常に注意して居つて、決して人の運動の妨げをしないけれども、斯う云ふ場合に熱狂的に感情的にやる人の仲間がある。之れは決して助けない、同情しない。

も一つは野心家である。我国に於ても野心家のする感情に任せて動いて居るものは、さはぎたてたり、助長したり、かつぎまはるものに補助をよせるはよくない。本当に発達、本当に進歩が現はれて来た時には、助長し助けて行かねばならぬ。西洋でも日本でも、希望と危機、相半ばして居る。兎も角も決して停滞して居ない。動的に凡ての文明が進んで居るから、どうしても大勢に乗ずるより外、道はない。

[御誓文について]

又、デモクラシーと云ふと、強制の様と思ふかも知れぬが、立憲政治の内にもあるので、決して強制ではない。先帝陛下の御誓文にも之等の主義を見ましても、人心を倦ましてはいけない。万機を公論に決すと云ふことも、今日の我が同胞は立憲政体、国民相互的に共同的に進歩しなければならぬ。ますます陋風を破つて、共同に進まなければならぬと云ふ御旨意で、デモクラシーは此の精神を言ふのである。

[中表紙]

大正二年七月十六日

婦人問題につきて

大正二年七月十六日

婦人問題につきて

[男女の区別]

第一に、近來の男女の区別。今日の傾向は男女の区別が段々と減じて、男女が相近づいて来る。教育も政治も学問も職業も、余り此の男女と云ふ区別を立てない事になって居る。殊に女は男のまねをする。男と競争をする。男のする事が女に出来ない事はない。能力に於て異なる事はない。只出来ないのは境遇が違ふ。遺傳が違ふ。殊に社会遺傳が然らしめたので、之れは人工的の結果であると云ふやうに考へるのであります。

又、事実からあげて實際、西洋の婦人は男のする事が出来る。競争をするやうになった。又、女が男性化して来たのである。いろいろポンチ画や風刺画のやうなものが現はれるが、時としては女が男を凌ぐ事がある。女が学士にもなれば、博士にもなる。殊に知力の点に於ては逆も女は及ばないと云ふ事であったが、此の頃はそでない。即ち理想も實際も、男女の区別は段々とれて来る。只生物学的に身体の部分に違ひのあるばかりで、精神的の方面に至つては、人生と云ふ方から云へば区別はない筈であると云ふ傾向になった。夫れにつきこまれて我が国でも段々そ云ふ風になるかと云ふと、忠孝と云ふやうな事、殊に家族制度と云ふやうな事にまで影響するかと思つて心配する人が多いけれども、之れは皮相の觀である。男が益々女のやうになり、女が男らしくなるかと云ふと、夫れは間違ひである。

男女は各、区別ある特色を持つて居る。文明とか進化とか云ふ事は、Differentiation と云ふ事から出来る。分化とは異つた特色があつて、化学上の詞で言へば化合によつて出来るのである。原子と原子、分子と分子とが化合する。植物学から言へば、種と種とが親和して抱合して、新しいものが出来るのである。故に、男と女とが一つになる Identity と云ふ事ではない。Equality 平等であつて、価値に於て、段等に於て違ふものではない。故に男は女に対しても尊敬の意を表しなければならぬ。女は男を尊敬しなければならぬ。平等と云ふ事は相互的關係であつて、相互にあらねばならぬ。男女と云ふ異性は益々明かになり、強くならねばならぬ。其の間の価値は益々密接になつて、お互に進まねばならぬと云ふ風になるのは事實である。そこで男女の区別と云ふ事は段々とれて来るが、夫れは昔とは内容が違つて来たのである。

[異性間の關係]

然らば、其の男女の区別、並びに其の異性間の關係と云ふ事に対する理想は如何に変遷しつゝあるかと云ふ事が、次の問題である。之れを決する事は根本問題であつて、欧米の男女の關係、及び婦人問題と云ふ事が著しく進んで、識者の間には段々研究せらるゝやうになり、解決をつけるやうに

なりました。

男女の性と云ふ事は Life の問題で、人類の發生問題、又人間の運命の問題である。スタンレー ホールの言つて居らるゝやうに、私共が死の問題、即ち永久の命の問題、つまり人間と云ふものが永久に考へて、ど一云ふやうな価値を持つて居るものかと云ふと、生死の問題が起る。そこで死と云ふ問題は一体ど一したものであるか、死後がど一なるかと云ふ事である。此の問題は、ど一して解決がつくかと云ふと、スタンレー ホールが言はるゝに、自分の生るゝ起り、即ち生と云ふ問題の解決がついたならば、死と云ふ事は自ら解決がつくと云はれた事がある。そ一云ふ訳で、生と云ふ事は根本問題である。

そこで、男女の生と云ふ事はど一して發達したかと云ふと、十八世紀に進んだ所の生物学、及び二十世紀に問題の中心となりました心理学、及び社会的其の又根本となる哲学、其の又根本である形而上学、本体学、其の本体学の認識学と云ふやうなものが、も一一つ深く根本的になつて直覺の方面が發達して来たのである。

斯う云ふ訳で、人間の生と云ふ事が根本となり、男女の生が段々と了解せらるゝやうになった。

然らば、其の生 Life と云ふものは生きたものである。宇宙の本体は命である。其の命はど一云ふものであるかと云ふと、いろいろなる説が出来て居るが、今日は反対の説とも見るべきものが各の特色を捨てずに相一致して、一つの完全なる説を組み立てる事が出来るやうになった。

Hegel は Monism, Euchen は Dualism である。斯う云ふ学説は到底調和が出来ぬやうに思つて居つたけれども、深く考へて見ると、一元論にも二元論にも多元論にも必ず真理がある。そ一して其の一元、二元、多元と云ふ事は、只機械的のものではなく生きたものであり、心理的の關係である。

[自然性の三要素につきて]

そこで我々の性に、やはり此の三つの要素があるのである。

夫れで第一は、女でも男でも共通してある処のもの、人間でも神様でも必ず備へて居る処の Nature である。其の Nature は互にひきあふ処の情がある。故に、之れを先づ愛と言ふ。私は之れを Human nature と言ふ。人の關係は相互であつて、ひきあふ処の性がある。

第二には、男と女と云ふ關係がある。之れを Sex 性と言つて、男と云ふ性と女と云ふ性がある。之れ迄は男には男の性があり、女には女の性があると思つて居つたのが間違ひで、男には男の性もあれば女の性もある。女には女の性もあれば男の性もある。之れは生物学と心理学とから立てた論である。斯う云ふものがど一して保存せらるゝかと云ふと、遺傳である。主に身体の方からで細胞である。殊に種になる細胞からである。一つの卵が男にもなれば女にもなるところの両方面を持つて居ると云ふ事は、生物学からわかつたのである。又、心理学上から言へば、昔から東洋でもぼんやり知つて居つた。故に陰陽と言ふ。西洋では Gender と言ふ。故に、女性と云ふ事の少しもない男子、男性と云ふ事の少しもない女子と云ふものはないのである。

第三は、個性と云ふ。個性の特質は Uniqueness である。必ず一つの特色があるから、宇宙は千差万別である。一つの自分と云ふ特質があるから、いろいろのものがある。之れを根本性と言ふ。

斯様に分けて言へば三つになるけれども、実は此の三つを一つにしたものが人間である。夫れを昔は女には認めなかったのであるけれども、男にもあれば神にもあるものが、やはり女にもあると云ふ事を見出だした。之れが自覚である。

此の Nature は男とか女とか云ふ区別はない。男にもあれば女にもある。そ一して此の性が完備して出来たものが根本性である。両方を持って出来たものであるから、人間の人間たる所以の大部分を占めて居る。故に人間として養ふ処の根本は Human nature で、人としての修養をせねばならぬ。其の次に Sex と云ふ事を養はねばならぬ。

男子には女性もあるけれども、女と云ふ性よりも男と云ふ性が勝つて居なければならぬ。女には男性もあるけれども、男の性よりも女と云ふ性が勝たねばならぬ。其の上に Uniqueness を養はねばならぬ。夫れで私は此の意味から云つて三位一体と云ふ神様に似て居るのである。

西洋で言ふ三位一体は父と子と聖霊である。故に父と子と聖霊とは母である。即ち夫婦と子、之れが三位一体で慈愛である。故に、其の単位は家族である。社会の出来る単位は、二つの性のあるものが一つになって出来る。心と心、性と性と云ふものが結びついて始めて一つになる。故に西洋の理想は夫婦がもとで、夫婦あって子どもが出来る。之れが家族の理想であり、日本では親子である。家と言へば父で、之れが家族制度の理想である。

家族と云ふものの本は親子であらうか、夫婦であらうかと云ふと、夫婦であるやうな。けれども自分は父母によって生れ、父母は祖父母から生れた。其の本に溯ると神様で、父と云ふ神があつて、男女と云ふものが出来たと云ふ事になる。西洋では、神は父であると云ふ。そ一すれば親子と云ふ事も真理である。父と母と云ふと夫婦である。夫婦あって子と云ふものが出来る。そこで親子と云へば夫婦の関係になる。子のない人もあらうが、自分のある以上は親がある。故に親と云ふ性、子と云ふ性があるのである。故に西洋の宗教に云ふやうに、父と子と母とあつて三つのものが融合したのが家族であり、命である。夫れで我々が親子と云ふ情、又は Friendship と云ふ理想的関係を離れては生存する事は出来ない様になって居る。夫れを独身生活とか、又は孤独生活とか、又は Anti-sex、性と云ふ事に反抗すべきものであると云ふやうな説もある。けれども実際に於ては、ど一しても此の三つの関係が理想的に行かぬば、ど一しても満足は出来ないのである。故に只生物学上からばかりでなく、心理学上から言つても、斯う云ふ三つの性を持って居ると云ふ事は確な事実であります。之れは真理として認められ、又理想として欧米各国で信ぜられて居る事である。

然らば、どの点に於て女子は男子と同等の階段にまで進み得られたかと云ふ事が問題である。昔のやうに、幼にしては親に従ひ、嫁しては夫に従ひ、老いては子に従ふと云ふやう

に、女と云ふものは子によって自分を現す。つまり、子により夫により父によって社会に立つべきもので、女自身、活動して自分を現して行くべきものではないと云ふ理想であつた。夫れで女は、子とかほかのものによつて出来るもので、未成年であると思はれて居つた。けれども今日では、女は男子以下に沈むべきものではない、独立して生活せらるゝものであると云ふ事になった。独立とは孤独と云ふ事ではない。自ら判断し、自ら決し、自ら事を行ふべきものである。そ一して昔から男子に優れて居る、犠牲的な貞操な処は女自身がするのではなく、男子を其処にまで引き上げるのである。故に、男子に優れて居る処は人を引き上げ、劣つて居る処は進んで行かぬばならぬと云ふ考へである。今日では、女が男によりかゝるのではなく、お互に助け合つて補足しあつて進むと云ふ事が理想であります。

そ一云ふ変遷があつて、女子の本分と云ふ事に影響して来たのである。男子は外に出て、女子は内を守ると云ふ本分、即ち男子は職業に従ひ、女子は家事を掌ると云ふやうな事、之れも昔は男子は外に出ると云ふ事は、ずっと未開の時代には戦ふ、家族の為に防御すると云ふ事であり、女子は衣食住を掌り子女を従はしめると云ふ事にあつたから、今日の職業發明と云ふやうな事は女の領分であつた。夫れから段々進んで来て、戦ふと云ふ事も男子全体がしなくてもよい。或る部分だけ兵になればよい、士であればよいと云ふ事になり、男子が商工業にも携はるやうになり、女子は消費経済を掌る事になった。

然るに、今日の欧米ではど一なつたかと云ふと、今まで女がして居つた処の衣服を縫ふとか菓子を作るとか云ふ事は、大きな社会組織に委ぬるやうになつたから、女も男と同じやうに教育をしなければならぬ。女は寄生動物ではない。人である。働かぬ者は食ふたと云ふ訳で、教育の仕方がすっかり変つて来たのである。

然るに日本では、女は**お針**をすべき者と云ふ考へがのこから、高等女学校でも教育部でも**お針**の時間があるのである。けれども将来の家庭では、夫れよりももっと大切な事があるのである。西洋が變つて来たから、日本でも必ず影響を受けるに違ひない。そ一すると、ど一云ふやうな教育を受けねばならぬかと云ふ事が問題である。

[結婚問題]

次には、結婚の理想は如何にあるべきかと云ふ事である。賢母良妻と云つても、貝原先生の言はれた事とは大分意味が變つて居る。今後、人類のあらん限り結婚は行はれる。結婚があれば賢母良妻と云ふ事は何時までも続くのであるけれども、其の賢母良妻の理想が變つて居るのである。

結婚の理想は西洋に於ても、昔は生物学的で子孫を継ぐと云ふ肉体的の関係と、財産をつぎ家名をつぐと云ふ経済的の関係からとて行はれたのである。今日でも一部分には夫れを考へるけれども、一番の根本義は精神的、人格的土台の上に築く処の関係になつた。即ち其の両性、両特質が一つになって完全なる人間になると云ふ考へ、又銘々に一つの人格、個性がある。其の個性は必ず二つ相合して益々完全に発達するも

のである。其の社会と云ふものの理想的の単位、及び其の精神の宗教界の単位を完成すると云ふやうな理想、即ち精神的土台に組み立てると云ふ理想を以て結婚の土台とすると云ふ事。此の思慮を以て行はれて始めて、生物学的関係の理想も経済的關係の理想も達せらるゝ事になるのである。故に、自由結婚など云ふ事を只本能的にばかり解せらるゝのは間違ひである。必ず根本義な考へがあつてきめると云ふ事で、只親から命令せらるゝから、或は家の都合からと云ふやうな訳でする事と思ふなら間違ひである。個性と云ふものもあり、いろいろの事が集まって人格の要求がある。夫れが本となつて行はるゝので、他から察しのつく事もあるが、ほんとの事は自覚した人によつてのみ解せらるゝ事が多い。故に、只従順にさへして居ればよい、家にばかり引込んで居れば、只夫にのみ屈服して居ればよいと云ふ訳ではない。日本では余りに舅姑の干渉が多い。夫の意志にのみ屈従させ易いのである。そ一かと云つて我が儘を奨励するのではないが、ど一しても人格を尊敬しなければならぬ。人の中心には誠がある。其の誠から出るものを働かせて始めて、立派な家庭が成り立ち、立派な子孫が生れるのである。

[男女の特色に対する理想]

そ一云ふ変化からして、男女と云ふものの特色に対する理想が以前とは大に変わつて来たのである。先づ第一に変わったのは、其の特色は価値の高下ではない。男尊女卑、女尊男卑と云ふ事も間違つて居る。お互になくはならぬ価値を持つて居る。故に、お互が相助け、相同情すると云ふ事が必要である。男には男らしいと云ふ性があり、女には女らしいと云ふ性がある。けれども夫れは絶対ではない。男子には女らしい性よりも男らしい性が優れて居り、女は男らしい性よりも女らしい性が勝つて居る。例へば親切とか、同情とか、優美とか直覚力とか云ふものは女が優れて居り、男子は勇氣とか、判断とか、物を組織立てるとか云ふ事に勝つて居るけれども、異性の長所をとつて補つて行くと云ふ事に由つて、両者共に人格を發展せしむる事が出来るのである。

そ一云ふ意味に於て、女子は自分の内にある男性を育て、男子は自分の内にある女性的方面を養ひ立てゝ行くと云ふ事が必要である。此の点が欧米に行はれて、婦人の人格なり徳なりが近來大いに高まつたと云ふ事は事実であります。併し乍ら、英國のサフレーゼットのやうに男のまねをして焼き打ちをしたり、暴行をしたり、男まさりと云ふ女になつたりするのは大間違ひで、是れ程男の嫌ひなものはない。又女のまねをしたり、女々しい男は女の最も嫌ふ所であるから、其所を間違へぬやうにしなければならぬ。

[今後の女子の覚悟]

今後男子はど一あらねばならぬ、女子は斯うあらねばならぬと云ふ理想は定まつたやうであるけれども、猶過渡の時代である。故に、今日程入り乱れて居る時代はないと言ってもよい。夫れで西洋に於ては、婦人が Struggle して居ると言つてもよからう。けれども此の西洋に於て婦人の困難して居る事を我が国婦人の現状に比べて見ると、我が国婦人は一層困難であると言はねばならぬ。二年生、三年生には未だおわか

りにならないであらうが、卒業をして居るとよくわかるのである。卒業した人は比較的の幸福でありますけれども、卒業後に理想を以て進むと云ふ事は中々むつかしい。

私は昨年から、あなた方の実質を高めると云ふ事に苦心して居ります。卒業生も其の覚悟はして居らるゝけれども、中々骨が折れるのである。此の過渡の時代に於て、ほんとにあなた方を高める、ほんとの有様にかへすと云ふ事は如何に困難であるか。私は、あなた方卒業生の中から聞いた事がある。進まれないから後へ戻らうかと思ふけれども、後へも戻れないと云ふ。そこで西洋の婦人は背水の陣をはつたのである。故に人間を高めると云ふ事は、ほんとに本気にならねば出来る事ではありません。

人間の世界に住して居る時代を三大別すると、二十五までが人としての興味の最も深い時である。故に、二十五までは専ら人としての教育を受けるがよい。二十五から五十までは賢母良妻として実験を積むべき時代であるから、夫れに必要な学問をするがよい。五十から七十までは国民として、社会の一員として最も力を尽すべき時になるのである。人の生涯を通して人としての教育を受くべき事に變りはないが、集中点をあぐればそ一であるから、あなた方に大体を一寸申しておくのであります。

[中表紙]

大正二年七月三十日
明治天皇祭記念式

大正二年七月三十日 明治天皇祭記念式

明治天皇陛下の御一年祭に当り式を挙げますので、思ひ出して見ますに、陛下の国民にお残しになりました御聖徳に対しまして、国民一般として、又我が女子大学、高等女学校及び幼稚園に於きまして、つくすべき使命を一層深く考へるために最もよい時を与へられたのであると思ふのであります。そこで一言、今日の所感を皆さんにお話したいと思ひますが、先づ小学校、幼稚園の子どもの為めに、明治の御代のど一云ふ様に我が国が開けたかと云ふことについて、わかるやうなことを一寸お話をいたします。

昨年、小学の子供に話しましたが、あなた方は明治天皇陛下は昨年の今日、崩御になりましたが、今日まで御存命ならお歳はお幾にならせらるゝでございませうか。何故 明治天皇と申し上げるかと思ふ訳は度々お聞きになつたことと思ひます。明治と云ふのは四十五年の間でありますから、之れに五年を加へると五十年になります。五十年と云へば、丁度半世紀に当ります。此の過去半世紀の間に 明治天皇陛下の崩御がございました。今から五十年前には先帝のお歳はお幾つであつたでせうか。十二と云へば、丁度あなた方位でございました。陛下はそのお歳で日本のこと、世界のことについて

責任をお感じになったのでございます。十か十一かのお年の時に、ペルリ提督が軍艦を引きつけて突然浦賀にやってきました。私が明治のことについて記憶して居ることをお話いたします。

私の郷里では大きないろりをたきますが、或る夕方、いろりをたきますと、お役所から使が参りました。大戦争が起ると云ふしらせに会ひまして、恐ろしく感じました。其の後、大砲の音が度々聞えます。此の戦争の時なども、私共は十一歳か十二歳の頃からでも、国家のため、君のためには命を捨てることを少しも惜しまなかつたのである。

[第一維新]

陛下の御幼少の御時と今日とは、あなた方に想像の出来ぬ位の変わり方でありませう。此の変わり方を第一維新と私共は申し上げます。これから私共は 今上天皇陛下と共に第二維新を致すやう、つくすべき責任があるのであります。子どもには余りながくもなり、わからない話でありますから之れだけに致します。

[欧州文明の変化]

過去、前世紀に於ける世界文明史を飾るに足るべき事項は述べるに違がないが、最大の事項とも言ふべきものが世界に二つあると云ふことは、識者の認めて居る所であります。

第一は、欧州の文明指導の権が佛國皇帝の手より獨逸皇帝にうつつたと云ふことである。

も一つは、東洋の文明の指導の地位が露國及び支那より、我が日本の皇帝の手にうつつたと云ふことである。我々は、此の印象深き 明治天皇陛下の御代に至って、斯くの如き偉業を成功せられたる此の大運動の原因は何処にあるか、之れは考ふべき問題である。

[第一の原因]

私は謹んで考へますに第一の原因は、前に申しました十八、九にあらせらるゝ青年、活気にあらせらるゝ陛下が国是としてお立てになりました国家根本の公道、それに応ずる大目的、大理想と云ふものを御確定になったと云ふことに帰せんければならぬと思ふのであります。其の帝国進取の国是の真髓となるものは慶應三年十二月御発表になりました。陛下が神明に御誓ひになりました五ヶ条の御誓文によって明かであります。

大目的、大理想を実現すべき初めとして、従来の制度を改善し充実し給うたと云ふことであるのであります。即ち封建制度の藩を廃し、之れに替へるに郡県を以てし、憲法を定められ、

[第二の原因]

第二に、世界の大勢に鑑み、精神的生命を維持する機関を有機的機関にお改めになったと云ふことにある。

[第三の原因]

第三は、其の有機体に欠くべからざる諸機関を世界最新の範に則り、最新の科学を応用した処の設備を改善することに、臣下挙つて熱中したのであります。実業の発展の爲めに商工業の機関を進歩改善するやうにし、其の他、国体運用に必要な設備を改め補欠することに、維れ日も足らざる有様でござ

いました。

[第四の原因]

第四の原因は、陛下御自身御幼弱なる身を以て此の大道の任にお当りになり、国家の青年有為の人才を擢んで、其の衝にお当らせになったと云ふことである。此の間の変化は、想像以上でありませう。山口縣に生れたものは殊に其の変化の甚だしきを感じたのであります。殿様と云へば下々のものは近づくことも出来なかつたので、百姓、町人、貴族と云ふ風に夫々階級があつたが、之れらの別もなく何人も一様に志を立て、智を磨き、才能あれば大臣にもなられると云ふ時代となつた。

斯くの如き空気を全国に漲らすと云ふことは 先帝陛下の御力によるのであります。之れ等急激なる維新の大改革は、此の如き御英断の陛下によりてこそ成就し得られたのでありますと思ひます。

[第五の原因]

第五の原因は、陛下の御人格の高潔なる沈静なる御聖徳の赫々たる光りに服せんければなりません。維新と云ふことは全く 陛下の御人格によって成就したと思ふのであります。私は殊に 陛下が御青年であらせらるる時に於て、国家の大使命をお感じになつて、確乎たる御決心を以てお立ちになつた御徳を感じるのであります。

五ヶ条の御誓文を臣下に下し給へる時の御決心をお話いたします。

御誓文

- 1、広く会議を起し 万機公論に決すべし
- 2、上下心を一にして 盛に経綸を行ふべし
- 3、官武一途庶民に至るまで 各々其の志を遂げ 人心をして倦まざらしめん事を要す
- 4、旧來の陋習を破り 天地の公道に基くべし
- 5、智識を世界に求め 大いに皇基を振起すべし

我が国未曾有の変革を為さんとし、朕、躬を以て衆に先んじ、天地神明に誓ひ、大いに斯国是を定め、万民保全の道を立てんとす。衆亦此旨趣に基き協心努力せよ。

明治元年戊辰三月十四日

[明治御大業の原因について]

国事に如何に御熱心であつたか、如何に犠牲の御精神に富んでおいで遊ばすかがわかるのであります。私は、明治の御大業の原因について以上五つであると思ひます。

昨年の今日此の処でお別れて、八月四日横濱を立ちましたが、彼の地で国家の変にあひましたが、遙かに今日過ぎ去つた一年を顧みて見ますならば、驚くべき変化と言はねばなりません。深く我が国家を慮れば、決して落胆、悲嘆するには及ばず。私共は 陛下の御遺志を受けて第二維新の原因とならんと居ると云ふことを深く感ぜざるを得られないのであります。陛下の御遺志に鑑みて、其の鴻業を成就する責任を感じるにあたり 陛下の御精神を学ばなければならぬ。近くは我々明治に生れたものが 皇后陛下の行啓を恭うして、よく如何なる責任を感じ、又如何なる理想、目的を実現せんければなりませんか考へなければなりません。

[夏期寮]

今年の夏期寮は例年よりも人数も多く、殊に自動的精神の養成につとめ、其の経験を得たことは決して偶然ではないことを感ずるのであります。第一維新の進歩の順序にならひ、第一、目的理想を明かにし、第二は有機的に完全なる機関を改善し、第三に研究に於て機関を進め、第四は銘々の適才を以て適任に当り、殊に明治時代の文明を一層進歩せしめなければならぬ。

[第二維新は婦人の舞台]

第二維新は婦人の幕である。今日此の幕が開けたのである。此の時に人才を要求するのであります。自ら之れに当る人格の修養を最も必要とするのである。斯くの如き時期に於て、一致共同は銘々の人格にあるのである。先帝陛下の御精神にならつて、当時の御事業を徹底せしめることが最も大切であると思ふ。私は五十年前の記憶を喚起して、畏くも先帝陛下に御推察申し上げて、私の考へを述べて今日の式を終ります。

[中表紙]

大正二年九月十一日

第二学期始業式

大正二年九月十一日

第二学期始業式

今頃は一年の中で一番色が黒くなる時である。も一つは、一年中で体重が一番減ずる時であります。此の色の黒くなつたと云ふ事と体重の減ずると云ふ事は不健康のしるしではない。却つて健康になつたしるしであります。七月にお別れする時には、十分に身体を養ひ十分心の用意を致しまして此の秋の収穫を十分に獲ようと云ふ事をお約束してお別れしたのでありますが、二ヶ月は思うよりも早く過ぎまして過去の経験となつて、今日は銘々各種の計画を齎して、之れより銘々の計画に着手して進まうと云ふ時に当りまして、心身共に健全に此の堂に会する事の出来ましたのは、誠に喜ばしい事であります。

先づ始めに、此の秋季の方針を私共学校の方からも示したいのであります。又、あなた方の方からお立てになつた計画をお尋ねすべきであると思ひますが、今日は大学部、高等女学校一緒でありますから、極其の大体を申しておかうと思ひます。

[第二学期の方針につきて]

先づ始めに我々は、此の学期に対する態度、又大学部、女学校として又銘々組々の態度を定めなければならぬと思ひます。又、銘々の目的を達するにはお互の健康について注意を致さんければならぬ。昨年は少し弱い人、或は神経の健全でない人、或は少し呼吸器の健全でない人が出た様で、私も心配を致しましたが、今年は第一学期によく注意致しましたので、

殊に此の度の報告によると余程よくなって居るやうであります。

併し、我が国全体に於て、殊に十七、八から二十四、五迄の最も大切な時機に於て、我が国民の最も侵され易いのは結核病である。殊に最も多いのは肺結核である。小学教員の中で肺結核にかゝつて居るものが一万人あると云ふ事である。最も少年、青年の鼓舞振作に勉むべき教育者が、意気消沈して無気力になる、生活に暗いと云ふ事は、結局我が国教育の弊と言はねばならぬ。今迄百姓、兵と云ふものは一番強かつた。そ一云ふ風に百姓や労働者等は身体が強くて、そ一云ふ者の中には肺結核はないのである。然るに工場や其の他、家の中で働いて居る者や学生や先生の中には肺結核が多い。こ一云ふ事では役には立たぬ。身体を犠牲にまでして勉強をする。肺結核位に負けるやうな事では仕方がない。飽く迄も奮闘に堪へるやうに、身体の中の神経を有効に使はねばならぬ。先づ之れだけの事が出来なければ、他の事は出来ないのである。

此の秋に於て、我々は主に健康を増進する処の教育に力を尽したいと思ふのである。殊に此の秋は運動をするに適當する時機である。外へ出て運動をする、歩行をすると云ふ事が愉快に出来る時でありますから、大に我々は其の方法を講じて、適當なる方法をとらんければなりません。

夫れで私は、之れは学校の方針と致しまして、学校全体或はあなた方各級の方法として、全体の校風又方針に従はねばならぬ。又、原理に従はねばならぬ。けれども夫れだけでは目的は達せられないのである。

今日の教育は、衛生の原理を示す学校の方針を完全に立てる。生徒は其の真理に従ひ、其の規則に服従するだけで目的が達せらるゝと思つて居るやうである。けれども夫れだけではいけない。夫れは何かと云ふと、此の学校で言ふ自動である。其の健康は誰れが得るか云ふと、我れである。自分が自分の健康を得るには、自分が適當の行為を為すのである。自分がとるべき方針の決定は自分の判断力によらねばならぬ。言ひかへて見れば、ほんとの健康を得る、体育の目的を達すると云ふ事は、各自が実行に勉めねばならぬ。故に原理に従ふと云ふ事も必要であるが、其の形式をきめて形式に従ふ。原理をきめて原理を信ずる。夫れだけでよいと今迄は考へられて居つたけれども、も一つ大切な根本な事がぬけて居つたのである。

夫れは個人と云ふ方面が忘れられて居つたのである。此の Individual と云ふ事は応用で、応用とは一種の Art である。Art と云へば、音楽、美術の如きもので、音楽ならば音律に合せて歌ふと云ふ事は誠にむづかしい。我々の生活は皆 Art である。夫れで原理を応用するには、先づ自分を知らねばならぬ。一般の心理学を知る事はやさしいのであるけれども、自分を知ると云ふ事は誠にむづかしいのである。

応用とは自分の心身に於てはめる事であるから、精神的の事業である。故にやはり修養である。あなたはあなた自身の行ひをしなければならぬ。あなた自身を知らねばならぬ。夫れで只式だけ覚えたところで、夫れだけではいけない。我れと云ふ全体を完全にするには、我れの一部から起る処の

本能とか衝動とかに動かされて居ってはほんとの発展は出来ないやうに、私共は一部だけの事をして居っては全体の健康を増す事は出来ぬ。

自分の中にある処の習慣、傾き、気質と云ふやうなものもよくわかって、そーして自分の健康を完うしなければならぬ。夫れで私は今、此の学校について、我が国全体について欠点であると思ふ事は運動である。此の運動についても余程研究しなければならぬ事がある。其の次には食物である。此の方はもっとやさしいのであるが、私は之れをあなた方に研究して貰ひたい。研究とはあなたの身に行うて、其の結果を研究して貰ひたいのであります。

学校の方では、あなた方の衛生について出来るだけ設備等も改善したいと思ふ。此の経済の困難な時にも拘らず、費用をかけて構造をかへねばならぬと思ふ。けれども構造だけかへても、あなた方自分にわからなくてはだめであります。夫れであなた方の方から要求が出るならば、出来るだけあなた方の為に便利なやうにして上げたいと思ふのであります。

今、評議員会できまつて居る事は、豊明寮は山の上に移り、其の一部は花壇の上に移して教育館となり、一部は図書館、研究室にあてやうと思つて居ります。斯う云ふ事は皆、あなた方の為にするのである。夫れがあなた方自分にわからないやうではだめであります。

も一つ、我が国では毎年毎年、何百と云ふ法学士が出る。アメリカから学位をもつて帰つて来る人が沢山ある。けれども其の人たち、有為なる人がどーかして職を求めやうとするけれども、何処の学校、何処の会社へいっても皆満員で、口がない。そーすると神経質になって狼狽する。うろたへる程危い事はありません。

今、我が国は外部からの圧迫が多いけれども、我々は真の勇氣を以て真の確信を以て当るならば、如何なる敵と云へども退かない事はない。如何なる門戸と云へども開かれぬ事はない。私は斯う云ふ考へを持って居りますから、学生自ら、教育家自身が改革の任に当らなければ、只政を以て規制を以てしたところで、孰れの国といへども改革は行はれないのである。如何に此方で設備をよくした処で、学生自ら奮ひ立つて考へを出さなければ出来るものではありません。

寮舎の設備、教室の設備にしても、私はもっと改め方があると思ふ。けれども、あなた方の方で考へが出ないやうではだめである。之れ迄、欠点であると思ふ事は空気である。学校の Ventilation と云ふ事は前から言ふ事であるけれども、学生なり先生が自分の身体に応用する事を知らないからだめである。学生に神経質が多い、小学教員に肺結核が多いと云ふ事は、我々の身体に必要な酸素をとる事の如何である。我が国の家は昼間は明けはなしてある。昼間は庭なり海岸なりへ出て十分によい酸素をとるけれども、夜になるとちゃんと密閉して丁了。これは甚だよくない事でありませぬ。

私は四、五年前、Overwork の結果、頭が疲れて不眠症のやうになった事があります。けれども私は読書を廃せないのである。軽井澤へ行って別荘に居ると、障子をしめて勉強して居ると疲れるけれども、も一つ上の野外に出て勉強すると

一日勉強しても疲れない。夜も明け放して寝ると、誠によく眠らるゝやうになりました。夜の風はわるいと言ふけれども、今日では西洋でもすつくり反対になつて居る。窓際へ Bed を持って行って、風のゾーゾー吹く処へ行くと、血液の循環がよくなる。そーして彼方では野外の学校がある。そー云ふ処で風をひいたりいろいろして俄に出来るものではない。段々となれねばならぬ。又、高田研安さんは私に度々手紙をよこして、寮舎に呼吸器病の多いのは瓦斯を使ふからであると思ふ事である。まさかそー云ふ事はないであらうとは思つたけれども、或はそーかもしれぬと考へて、今度電気をひいて瓦斯と両方を用ふことにしました。これも皆さんに、どちらがよいか研究して貰ひたいと思ふ。

夫れで私は、寮舎には人が沢山居る故に大勢で研究をして、之れが最もよい事であると思ふ事がわかつたならば、金がかゝつても寮舎の構造もかへて見たいと思ふ。さうして教場も同じ事で、学課によっては成るべく外の風に当つて活発な運動をし、空気のよい処で考へる習慣をつけて貰ひたいと思ひます。夫れでいろいろありますけれども、先づ身体から空気の事から注意しなければなりません。

今迄は身体の事を申しましたが、夫れよりも一層大切な事は、寝て居つても起きて居つても、夜でも昼でも人間たる以上は少しも怠つてはならぬ事は、精神界の空気を吸ふ事である。美術にしても、科学にしても、文学、宗教、其の他何にしても此の精神界の關係によつて出来ないものはありません。之れは空気よりも猶大切な事でありませぬから、いろいろ之れについて申したいことがありますけれども、身体を健康を進める事について大分時をとりましたから、今日は省きます。

軽井澤の空気はどーでありますか。見渡す限り青天井で、真に大陸的、宇内的である。故に我々が其処へ行くと、一種名状すべからざる処の爽快を覚える。夫れと同じやうに、我々の精神修養も宇内的、世界的でなければならぬ。之れを英語で言ふと Internationalism と言ふ。此の宇内的の精神界に生きる事が最も大切であります。

さて、今日此に持つて参りました書物の著者はアンダリソンと云ふ美術家であります。此の人は十年間、歴史的、文学的、美術的、科学的、宗教的に研究して、其の理想を文学に表して国王に捧げ、議院に寄附し、世界各国に分ち、我が国では天皇陛下を始め奉り、両議院、東西両帝国大学、其の他女の学校では此の女子大学だけへ態々呈贈して参りましたから、披露券々皆さんにお話しておきます。

[中表紙]

大正二年九月十三日
予科及び一学年にて

大正二年九月十三日
予科及び一年にて

昨日各級へ通知して置いた、夏季休暇中の経験を発表する事は如何に相談なさいましたか。英文一年から順にお話しなさい。(以後発表)

此の学期からは各級の誰れでもが級を指導し、代表する事が出来るやうにして行きたいと思ひます。今日お話しをなさいましたのも皆代表者であつたやうであるが、いつでも同じ人が出ぬ様に始終代つた方がよからうと思ひます。誰れでもが前に出て話せると云ふのでもなからうが、真に級を思ひ皆の爲を思へば、発表位は出来るであらう。外国の学校では話しの稽古があるが、日本の学校では別にその様なものはない。けれども自然に出来るやうになつて居るのである。話しを皆の前でする事は恥かしいと云ふ事もあるであらうが、これをこらへるのも修養の一つであらうと思ふ。皆さんから考へる出る様に、一方に偏しない様にしたと思ひます。猶話したい事があれば、皆さんの為に時間を取つてもよいと思ひます。

今日は皆さんが非常に健康を回復して帰られたと云ふ事であるが、今日丈夫で帰つたと思ふ人は手を挙げて御覧なさい。今日地方に於て問題が起つて居る。それについて自分で判断のついた人もあらうし、又判断のつかぬ人もあるであらう。それを一寸聞いて置きたいと思ひます。

(以後発表 高等教育を受けると労働がきらひとなる)

私が今から三十年程前、大阪に女学校を起した時に方々からよつて来たが、先づ来たのが大和辺の金持ちの娘さんであつた。今の原六郎さんの奥さん等も、その頃来られたのであつたが、部屋を掃除する事を知らなかつた。その時は梅花女学校と言つたが、他より梅花女学校の生徒は馬の様だのと云ふ批評を受けたのである。今は自転車に乗つたりするが、その頃にしたなら眼を回す位である。西洋ではまだまだ活発な事をして居る。私等の小供の時は、士の嫁などは出来るだけ体格のよいものをよいとしたのであります。故に時代時代によつて要求が異つて居るのである。

それでは、今の婦人を如何したらよろしいでせうか……即ち昔のやうに唯美を望み、又体格の強いもののみを望むのは、教育のない人の言ふ事である。これが今の要求の異なる故である。教育を受け、自分の目的を明らかにして、その適当なる標準に従ふ事は出来るのである。されば如何なる体育の標準を取ればよきか。この正当なる答へは後より個人でも級よりでもよから出して貰ひたい。

[働くこと云ふ事も婦人の理想の一つであらう]

一体、体格の健康なる人なれば、よく働きて労働を厭はない筈である。以前に此の学校に居られた人達が労働をきらふ人は、私は余り聞いた事はないのである。現に西園寺さんの

娘さん、三井さんの娘さん等も、子供を幾人もつれて、供をもつれずに外出する様である。今迄でも私は、此の学校の先生も生徒もよく働くこと云ふ事をよく聞くのである。寮舎に居る人で働く事の多い為に外に出たいと云ふ人を時々聞くのであるが、それでは少し間違ひではないかと思ふのであります。婦人は働くこと云ふ事も一つの理想ではないかと思ふのである。働くこと云ふ事は大に健康の爲にも非常によく、又意志の鍛えられる事にも大変よいと思ひます。又、共同生活に於て働けば、お互に同情をし合ふ時出来るのである。此の後、社会に出て非常なる荒波に戦ふ時に、まだまだ困難に会はねばならぬのである。それに寮舎の労働位でいやがる人は、とても社会に出て立つ事は出来ぬのである。猶外に質問があれば……(以後発表)

夫れは広く申しますれば社会問題と云ふのであつて、我々一個人の関係は非常に深いものであつて、内から起る原因も外から起る問題もある。又、其の人の行ひは必ず他に感化するもので、その様な社会の腐敗問題は非常なる複雑なる原因から起つて来るのである。故に、こゝに一時に答へる事は出来ぬのであるが、先づ重なる原因は男女の問題によるのである。

昔は男女席を同じうせずと云つて、夫婦、親子の間を除いた外は、男女を隔離してしまつたのである。又、西洋ではどこまでも男女席を同じくして、全く日本などとは風俗が異つて居るのである。しかるに、その間には必ず礼儀あり秩序があつて、少しも乱れぬのである。殊に米國では之れを行ひ、五百程の大学のある中、四百は女子を入れ得るやうになつて居る。其の他すべての社会に於て、男女は混合されて居るのである。それで我が國でもとうとう先生、鉄道の委員等にも女子を採用し、男女は混合される様になつて来た。しかるに西洋では其の弊が誠に少ないのである。これを直ちに我が國に入るよと云ふ事は非常に危険なのである。文学の方でも近頃は間違つて広められて居る様である。西洋では定まつた制裁があつて、弊が少ないのである。種々の原因もあらうが、目に見えぬ宗教の導きのなき事、又、翻訳の誤りも少なくないのである。

もう少し明らかにして置きたいのは、即ち Coeducation の問題である。以前は米國で盛んに此の男女混合教育を行つて居つたが、只今米國の有様を見るに、全く反対になつて居るのである。学者達も皆、此の混合教育、即ち Coeducation には反対して来たのである。つまり双方に結果がよろしくないこと云ふ事の方に、経験の結果なつたのである。男女の別はいらないなどと云ふ説は全く間違つて居るのである。日本に於ても東北大学に女子の門戸を開いた事についても、今後如何にすべきかは非常に問題である。

[誤まらぬ教育の必要]

次には虚栄であるが、今日我が國に於て行はれる虚栄は非常なるものである。故に最も大切な事は、其の信仰、目的、理想を誤まらぬことである。結局、誤まらざる教育により社会の悪弊を矯めねばならぬと思ふ。

[中表紙]

大正二年九月二十日
大学部一年及び予科にて

大正二年九月二十日
予科、一年実践倫理

今日は体育に関して、一般に欠けて居る点、又言ひたさねばならぬこととお話し致さうと思ひます。今日皆さんより出した答案により少しく見ましたが、先づ体育の目的は身体健康であつて、即ち力を要することであると云ふことが書いてありましたが、それはまちがつては居らぬ様であります、その内容に至つては少しく不要領であります。

[力の種類]

先づ力と云ふのは、(一)生活力、(二)耐久力、(三)活動力、(四)強力(腕力)。かくの如く力にも種々なる力があります。相撲取りの力、柔術の力、剣術の力、すべてこの様なものを強力と言ひ、活動力は活動の力、耐久力は凡て物事に耐へて行く力、生活力は日常の生活に要する力である。かくの如く種々なる力があるが、あなた方は、この中にて最もいづれが主要なる力とするか。これから此の関係を少しく、くはしく説明致しますから、後によくお考へなさい。

我々の欲望は生活したい、即ち生きんと云ふことである。それで耐久の力と云ふのは、我々を圧迫するところのものを防がうと云ふ、又、身体をおかす病魔を防御する。そしてそれらにまけない、即ち死をさせて生きんとすることを好むと云ふことが我々の望みであるが、こゝで我々が要求する力はこの第二の耐久力である。この前に駒ヶ嶽へいったものは温度を失ひ、食物もうばはれ、力遂につきたが、こゝでは即ちこの力が必要であつて、三十人程の内、二、三人は無事に下についたが、この人達は丈夫なる人と云ふのである。是れ等は探検隊の記録にはよく見ることである。耐久力のある人は如何なる病に侵され、怪我をした時等にも無事であつた。なればそれは耐久力があつたのである。第四の強力とは非常に異つて居るのである。

[婦人の耐久力]

婦人と男子とはどちらが偉いかと云ふことに就いて、ずっと前に研究されたものを見たが、男子は力あり戦争等にも出られるので男子の方が偉い様に思つて居たのであるが、今日深く研究された結果、耐久力は女子の方が強いと云ふことになつて居る。

今日の統計によりしらべて見ると、男子より女子の方が長生きすると云ふことである。さすれば人間の生きると云ふ目的に就いては女子の方が強いと云ふことになつて居る。之れが果して実際に於いていつても強いかどうかは問題であるが、男子は煙草のみ、酒をのむことによつて早死をすると云ふ例は以前よりあがつて居るのである。其他の若死の原因も沢山あるが、それらは男子も女子もあることであるから比較するに足りないのである。男女共に丈夫になると云ふこと、即ち腕力を要し筋肉を強大にすると云ふことは、今日の文明に

於ては不必要なることとなつて居る。之れ等は野蛮時代にのみ要したものである。今日馬力と云ふことを言ふが、如何なる大仕掛のものにも機械や電気力、其他蒸気等の力を借りるので、人間の力の方は今日重要なるものにはなくなつたのである。

[筋肉について]

筋肉を使用して目的のかなふ様にして行くことは必要なることであるが、筋肉を増すと云ふこと、又筋肉を用ふると云ふことは最終の目的ではないのである。むしろ最終の目的を達する手段、方法として必要なのであると言はねばならぬ。そこで第一、筋肉の運動は運動そのものためになすにあらざると云ふこと。第二に、強大なる筋肉を發育せしむるは筋肉増加を目的とするものにあらざり。第三は、凡べて筋肉の運動は直接に筋肉の勢力を増進するものにあらざり。若しも体操をこゝに改正するならば、此の三ヶ条を入るゝ必要があると思ふのである。之れをわかり易く言へば言はれるのであるが、そこはあなた方に考へてもらひたいと思ふのである。之れは主として第二の耐久力を養成せねばならぬと言うたのである。体育の目的はどうしても我々の持続力を養はねばならぬ。

[Creation]

その次は生活の力、生長の力、発達の力がなければならぬと言うたのである。我々の人格をつくり、我々の組織をふやして行く力である。之れをCreationと言ふ。

[大我]

先づ如何なることが体育を組織するかと云ふことは、如何なる目的であるか。我々はもの、物質から出来たものであるが、それから生物になり、それから心になり、心が今度は人格となる。それがも一つ出来て大我、我々の社会の命、宗教の命となるのである。かくの如く、だんだんと我々をCreateして居るのである。

[身体の組織について]

これは意識的に無意識に Create して居る不思議なるものであつて、これは即ち細胞である。これは個人の様なものであつて、善きものも悪しきものもあるのである。細胞は始終生死して居るが、悪しき不健全なるものを捨てて、新らしき善きものを取り入れることをしなければならぬ。

この細胞には、やはり精神的の方面と物質的の方面とがあり、又も一つの方面の細胞は子孫をふやし遺伝することである。我々の生活を営む目的に、この細胞を養ふと云ふことになるのである。

それから種々なる身体の機関を作り行くこと、又筋肉にも成り行くのである。即ち組織を作ると云ふことである。それから、すべてのものの髓となるべき神経をつくるのである。Nervous system は最も必要なるものである。我々は此の健全なるノーバスを以てつくらねばならぬ。

其の次に発達したる一番大切なるものをBrain、即ち脳髓。内面より言へば心と言ふ。脳髓は神経系統の最も必要なるものである。神経系統の発達したるものは又凡ての機関を働かすのである。つまり生活すると云ふことは最も進化に達したる脳髓を健全にして、益々将来も進歩させて行くことと云ふこと

である。故に身体はやはり粗末にはいけないのである。その身体の発達したるものが魂なのである。

それで此の深い関係をよく知らなかった時代は、身体は不必要なものであって、魂が最も必要なものであって、魂と身体とは別れたるものであって、清い魂の要求は身体があれば出来ぬものである様に言って居たのである。「健全なる魂は健全なる身体にやどる」とは昔より言へる言であるが、深い意味のあることである。我々がこの十分の目的を達するには、我々は身体を必ず健全にせねばならぬのである。我々が身体を大切にすると云ふことは、即ち主要なる魂を養成すると云ふことである。それで健全なる身体を保つことは、筋肉がよく整ふと云ふことなのである。

音楽をする、裁縫をすると云ふには筋肉の働きを要するが、我々の力を表はさうとするには、筋肉が命令をよく守るものでなければならぬ。即ち、我々の目的に従うて働くべき使用人であり、何事も上手下手のあるのは筋肉の働きが悪いからである。

前に、この学校では体育の目的を三つに分けた。第一は、健康を養ふことにした。前の(一)(二)(三)の力のうち一つ、悪いことがある。即ち過度であることである。過度の結果、疲労を感じるのであって、疲労はよくないのである。これが過ぎると衰弱となるのである。過度は如何なることから来るかと云ふに、一つは飽きると云ふことから来るのである。之れに換ふるに高調的に、即ち休めるかと思ふと又すると云ふ風に、変化あり調子が変わると同じく運動をするにも面白く、愉快にすると、満足して嬉しくすることが出来るのである。故にこゝに休養と云ふことも必要になるのである。この学校に秋季に運動会を行ふことにしたのも、その体育の目的に当てるためにしたのである。

只今、我が国に於て行はるゝ体育の方法に於て改良すべきことがあるが、よく考へてお置きなさい。今度の時間に又申します。

[中表紙]

大正二年九月二十五日
櫻楓館記念日席上にて

大正二年九月二十五日
櫻楓館記念日

今日は桜楓会の第八回記念日にあたる。而し桜楓会の精神が生れてよりは第十回である。いよいよ組織だてゝ、五十年間の事業の計画を立てゝよりは明年が第十回で、丁度第十回記念式を明年挙行する様になる。それで本年は、最初から桜楓会に同情せられた先輩に御出席を乞ひ、桜楓会に対する御希望、並に不足な処を御注意して頂きたいと思ひ、評議員の方々に御話を願ひました。大隈伯は御旅行中に数十回のお話をなされたに係らず、又澁澤男爵も御多忙中をわざわざ

御出席下されたことを感謝致します。森村翁、久保田男爵は止むを得ざる事情にて、今日は出席なされませぬ。

桜楓会が過去十年間の経験を顧み、改むべきを改め、感謝すべき点を追懐して、大いに前途の希望を明かにすることは大切なことであると思ふ。依て今日は、現状を大凡順序を考へて見て、今後如何なる覚悟をすべきかにつき、先輩のお考へをきゝたいと思ふ。

私は一昨年、将来が心配になつて、そのとき五十年の未来を考へ、十年を過ぎ二十年になり女子大学の三十年に於て、世界が如何なる変化を来すかをかぞへしが、今日、正会員が一千四百足らず、高等女学校が九百、それに二年、一年まで大学に居た人を加ふれば二千と云ふ程になる。之れを十年間の比にすると、三十年には六千の会員となる。之れ等は必ず家庭をもつ故に、一万の家庭で平均三人の子が生れるとすると参万人となる。我が会員は三十年祭には五十二、三才となる。其の時、大隈伯は九十三、森村翁は九十一、澁澤男は九十である。年齢より言ふも、生徒の数より言ふも、母校の事業の発展から言ふも、今後十七年間には非常なる生長発達を見ることは疑ひないのである。併し此に我々の最も考ふべきことは、我々は決して外形の発達を望まぬ。寧ろ桜楓会の精神の発達を望むのである。其の命の生れるにあつて、第一回生は生みの苦勞をしたから、過去の経験(十年間)は昨日の如く明らかになれば、深く過去十年間のことを考へて見たい。

次に桜楓会に深い同情を持って下さるゝ先輩の御注意を伺ひたい。又、大いに自らも過去の経験を考へて、其の不足なる点を補はねばならぬ。又、互の会員間に於て共同の実を挙げたいと思ふ。私も過去十年間に就いて批評して見たいこともあるが、時を見てすることにしよう。

[中表紙]

大正二年十月一日
第二、三学年にて

大正二年十月一日
第二、三学年にて

今日の教育は何故に本体生活でないか、何故に其の内実をほんとに発達させる事が出来ないかと云ふと、唯だ今日の我が国の教育の目的、即ち大学の目的が知識を得る事、及び Discovery of truth 真理の濶奥を究める事となつて居る。そ一して其の用は何処にあるかと云ふと、職業を得る為である。外の国では、之れだけを以て目的として居る処はない。人間を作る、人間の能力を培養する、即ち Culture を目的とするのである。そこで我が国の今迄の教育では、ほんと一の人格養成と云ふ事は出来ない。ほんと一の要求を満たす事が出来ないのである。

[我が国は修養教育が欠けて居る]

何故に真理を求めるのであるか。真理は人間の使つて行く

べき機械である故に、我が国では修養教育と云ふものが欠けて居る。人間の趣味とか、主義とか、判断力とか云ふやうなものを発生せしむる力が欠けて居る。此に心づいて教育界が動揺して来た時に、殊にあなた方女子の問題が盛んになって来た時に於て、あなた方が人格を高めやう、主義を立てやうと云ふ目的をお立てなすった事は、決して間違つては居ないのである。ほんといに此校で学んだことを応用するのは、学校を出てからである。家を持つてからである。ほんといの力をつけるのは卒業後の事であると云ふ考へが、今迄の学生の誤りである。此の傾向を今から改めやうと云ふのであります。

あなた方の健康を増進させやう、実力を充実させやうと云ふ事は、今日只今からせねばならぬ。之れがわかれば、やつて見やうと云ふ元気を出さねばなりません。其処がきまれば、総ての問題が着々きまるのである。そ一時はとらないで出来るのであります。丁度あなたの口にははっきり言ふ事が出来なくても、心の中に私の言ふ事がちゃんとわかつて、運動会も斯うしやうと思つて居ります、博覧会の出品も斯うすれば宜しいと云ふ事のきまつて居る方は……

[経験が大切である]

あなた方に大切な事は経験である。経験とは、Bergson の哲学の詞をひいて言ふと、Duration である。二年生は夏の間本能的生活をすると仰しやつたが、本能がなかったならば経験は出来ないのである。今迄は夫れを抑へつけてばかり居たのであるが、其の抑へる力を除いて了うと、之れを解放と言ひ、解放せられた状態を自由と言ふのであります。けれども、酒飲みが酒を飲みなれて、終には健康をも害すると云ふやうな経験のみを重ねて本能的生活をすれば、夫れで人生の目的を達する事が出来るかと云ふと、そ一ではない。故に料理をするにしても、其の人の好みに応じてする、或は美食に美食を重ねて拵へると云ふだけはいけなないのであります。

然らば、あなた方が此の秋に料理をなさる、運動をなさると云ふにはど一すればよいでありませうか。食物について立つる方針と、体育についてお考へになる事と、秋季運動会を如何にすべきかと云ふ事とは、其の根底に於ては方針が一致するのであります。感情を育てる事、思考力を養ふと云ふ事も身体を使はねば出来ぬ事である。故に人生を作る、人格を養ふと云ふ事は、ど一しても身体を使はねば出来ぬ。故にやはり健康を全うしなければなりません。Beauty of human body と云ふ事は誰れもの要求する事であるが、之れはど一しても深く考へてせなければならぬ。私共でも自分の目的を立てゝ居りますが、夫れを全うするには健康と云ふ事も考へねばなりません。私は決して美食は食らいけれども、身体の健全、殊に健康上の欠点を改めて行かうと思つて居る。夫れには空気と食物と云ふものに気をつけねばなりません。

夫れで最もよくするには、心理学も、生理学も、社会学も、病理学も、微生物学も知つて居らねば出来ぬむつかしい事でありませう。一家を支配する主婦の役は決して職人では出来ぬ。あなた方は其の経験を深くする為に共同して事をなさる事が必要であります。

[日々新しき品性を加へよ]

夫れであなた方がほんといに進まうと思ふならば、あなたの習慣、経験をかへて来なければならぬ。一週間同じ人ではいけない。毎日毎日新しい品性を加へた人とならねばならぬ。昨年、私があなた方とお別れしてから後、総ての事が皆一つの潮流となつて動きつゝあるのである。夫れがわからねばならぬ。夫れをよく見えるのを直覺と言ふのである。本能は感情であつて心にわかるのであるけれども、夫れがも一少し深くなつて意識的になつたものを直覺と言ふのである。

夫れと同じやうに、宇内にも意識がある。我々は夫れに加はつて、共に意識して行かうと云ふのである。世界から言へば文明、個人から言へば修養である。此の最も深い経験に入らうと云ふ事を人類が考へるやうになつて、其の目的に適ふ様に教育の方法をもちやうと云ふのである。

そこで其の改善の道を見出だす為に、も一一つ夫れを研究する為に十二年の間やつて見たのである。之れは我々のうちばかりでしたのであるが、今度は全体の Movement に関係して居るのである。故に我々の感情、情緒と云ふものも、やはり人と云ふ者に關係があつて、社会的關係の上に丁度よく適ふやうにして行かうと云ふのが我々の方針である。

[運動会につきて]

そこで運動会をするに最も大切な事は、自動と云ふ事である。夫れを思ひきつてやらうと云ふのである。も一一つは自由と云ふ事で、少しも抑へつけらるゝ事なく、遠慮する事なく思ひきつてしやうと云ふ事。も一一つは美的本能である。ほんといの高尚な本能、高尚なる美とは如何なるものであるか。又、ほんといの向上とは如何なるものであるか。其の理想を思ひきつて実現しやうと云ふのである。

故に美と云ふ事、自由と云ふ事は、遊戯とか Game とか Dance とか 劇とか 唱歌とか云ふものに、美的に音律的発表をしやうと云ふ事が皆の心にある要求である。之れによつて我々の人格が調和し發揮せらるゝのである。故に人生に於て遊戯と云ふ事、Game と云ふ事、Dance と云ふ事、劇と云ふ事、唱歌と云ふ事は欠く可からざる要素である。斯う云ふと芸術と道徳とは相容れないものであると云ふ考へが起るけれども、ほんといの処に至れば、芸術と道徳とは相反するものではない。けれどもあなた方が今、日本に行はれて居る演劇に行く、つまり小説を読むと云ふ事は私は反対である。併し、Game をする、Dance をすると云ふ事がわるいのではない。何故わるくなるかと云ふと、Harmony を欠き Perfection を失ふからである。あなた方はちゃんと Harmony、Perfection と云ふ事を全うしなければならぬ。故に其の目的に於てはわるい事はないのである。けれども大勢の人の前でするには、年よりには見せてもよいが子どもにはよくないと云ふやうな事はしてはなりません。

此の秋、皆さんに注意して貰ひたい事は、あなた方の態度及び姿勢である。之れは美育に欠く可からざる事である。欧米の婦人は相当の装飾もしますが、大勢居る所を見ても体格が揃ふ。其の上に心の内が動いて居つて反応するのである。故に、誠に美しく且つ愉快に見えるのであります。美と云ふ

ものは、健康から出た処のものがほんとの美である。心の中に意地わるい事を思ひ、何か人の批評をしやうと思つて居ると必ず筋肉に表はれて、意地わるい人相となるのであります。故に、心の態度及び身体の態度と云ふものは斯う云ふ時に教育せらるゝのである。故に美育と云ふ事も大切であります。自分の気分がよくなると云ふ事は、人にも快感を与へ自分も愉快になるのである。つまり目的はそ一云ふ処にあるのであるから、其の目的を全うするにはど一すればよいかと云ふ案をお立てなさらねばなるまいと思ふ。そ一して、きちんと方針が立つて、夫れに向つて皆が共同なさるべき筈であると考へます。

[中表紙]

大正二年十月四日
大学部一年及び予科にて

大正二年十月四日
大学部一年及び予科にて

此の前には、我が短所を自分で見出し、善を増す様にと云ふことを話したのでした。体育の方にて、殊に筋肉の教育に力を此の学期はつとめることに致したのであります。人類全体が意識致しましたものを自分の思考力を以て希望を作り、内容を構成致したものが知識であります。自分の傾向を指摘する仕事を致すものでありまして、自分の発達に非常に大切な働きをなすものであるから、知識を善用なさることは誠に大切なことであります。

[真の知識について]

而し此の知識だけで我々の適切な知識を得ることが出来るかと云へば、それだけではいかぬのである。も一一つ、私等のほんとの知識をつかまへる、物事の真がわかると云ふことは、自分の適切な働きによらねばならぬ。この働きを直覚と言ふ。前に本能のことを話したが、この本能の意識されたものが直覚である。本能を意識して、自分の適切な知識とするのである。経験すると云ふことは実際に自ら行ふと云ふことである。真にあなた方が学問をすと云ふことは、自ら自身の身にそれを応用して見ると云ふことである。故に学んだことは自ら行ひ、行ひから新しい考へ、新しい意志を経験する。即ち、自分がそれになると云ふことである。之れを Be something と言ふが、何かになると云ふことであつて、之れには By do something、即ち何かをなさねばならぬのである。之れを行はねば、真にわかつたと言ふことは言ひ得ないのである。前学期の何かを改善するには新しい経験をつまねばならぬのである。

[筋肉教育について]

而し、之れには身体が第一關係して、強健でなければならぬのである。この媒の働きを有効にしなければならぬのである。之れには筋肉の教育をしなければならぬ。唯其の量だけ

を増すのみでなくして、教育して、よく意志の命令を守り、よく働くと云ふのでなくてはならぬ。又、筋肉の組織の改善と云ふことも、我々の新しい経験を積んで行くこと、我々の目的を達するには最も大切なることである。それで私は今度、各自の働きを有効にして行かねばならぬから、各自でそれを行ふて見る、即ち研究的態度で此の学期を過して見たいと思ふのである。

今日、大抵此の期間を三ヶ月位に当てたのである。それで十二月の末には各自の研究の結果を見たいと思ふのである。これは唯機械的でなく、各自が真に自分の身体を観察し、如何なる方法を用ひて之れを改良するかと云ふことを考へてもらひたい。そして終りには好結果を得る様に、又研究の方法も各自に見出されることだらうと思ふのです。それで先づ、大体の問題は定めておいて、其他は随意に考へてやつて見ると云ふことにします。

[脊髄について]

第一になほしてもらひたいことは、脊髄の位置、形であります。之れらを測る機械等のことは、体操の先生の方にも導いてもらう様に申しておきましたが、先づ前に屈する人、後に屈する人、横にまがる人等種々あるが、真直なのが当然である。これは第一に肺に、又脊髄の中にある神経にも、消化器にも、脳にも種々のものに関係するのである。第一、あなた方がすべての諸機関を完全にするには身体全体の恰好をよくし、位置を正しくし、血液の循環をよくしなければならぬが、之れには脊髄を真直にすると云ふことは大いに必要なることである。

よく身体の部分の整はぬ人は意志で全治することが出来ると言ふが、一方から言ふと、身体を完全にすると云ふことは意志の鍛練にもなるのである。それ故、この期の始めに当り自分で脊髄をはかり、若しも屈し居れば研究して、なほして行かねばならぬ。

今一つは、呼吸はどこの筋肉を使用して居るかと言ふこと。又、も一一つは各自の態度であつて、一つの動作をするにも腹に力を入れねばならぬのであるが、これも各自の状態を出来るだけ明かにして、其の人に適した体操もせねばならぬのである。団体運動としては、どの人にも適当なる運動は先づないのである。故に出来るだけ、このことについても此の学期に身体をしらべて、如何にか工夫をつけたいと思つて居るのである。

[空気の流通をよくすること]

も一一つは空気のことであるが、これは流通をよくして、窓をあけることである。又、冬に日本は教室にストーブは置かぬ方がよいと思ふ。その代りに、オーバーコートをきるをゆるすことにして行かねばならぬ。又西洋では食事の間に乳に珈琲を入れて飲むが、之れ等もどれだけ実行が出来るかが、自動的に一度この三ヶ月間に研究的にやつて見てはど一かと思ふのである。之れ等は皆が共同一致して、実行につかねばならぬのである。

[真の美は身体の強健より来る]

も一一つは美育のことである。美としては、自然や花等も

美しいが、真の美は人間である。美と云ふことは、誰れもが好むことである。之れ等は外面より飾りつけたものでなく、真の身体の強健から来たので、又、精神の美しく表はれたものでなければならぬ。肥えすぎた人はやせる様に、細すぎる人は肥える様に、運動によって工夫して治して行くことをつとめねばならぬ。之れ等は表を作って、毎月三度は身体の検査を行ふ様にせねばならぬ。又全体に清潔にして、すべての結果を見て後に、世間一般の弊も改良して行きたいものである。之れ等は別に時をとることでなく、やってみやうとする気さへあれば出来ることである。皆さん、賛成の人？それでは一つ、今後やってみなさい。

[我国の青年について]

今、私がこゝから見た所では、割合皆さんは元気の様であるが、前学期は各自が活気に満ちて自ら運いて居る様であったが、今は秋で少しは落ついて居るが、内には活気もあるだろーと思ふのである。私は外国から帰って感じたのは、余りおてんばでもいけないが、我が国で一般に青年の意気が少ない様な気がするのである。在校中はよいが、卒業ですれば直に意気が消沈して来る。内に煩悶があつても、努力して破りもしなければ、此の境遇をのがれやうともしない様である。之れは、自分の意志を自由に用ひると云ふことが出来ない。自分の意志を十分に発表して見ると云ふことが出来ない。自分の趣味の方に向つて進んで行くと云ふこと等は、何かに圧迫された様に芽を出すことが出来ぬ様である。これは大いに憂ふべきことで、改良して行かぬばならぬことである。而し一方面にはこの自由をとり誤つて、自分の信仰、高尚なる目的に向つて努力せずして、我儘の出来ぬことを以て自由でない様に感ずる様な(空白)がありはしないかと思ふのであるが、今は一年で割合元気もある様に思ふのであるが、今後、二年、三年となるに従つて、下り坂にならぬ様に注意して貰ひたいのである。それ故、各自が真にあやまらぬ道を取つて行く様に、深く考へて貰ひたいのである。

[精神方面の研究について]

今度の運動会にしても、皆の精神の発表時であると思へ、心得て貰ひたいと思ふのである。私はいつでも、あなた方はどーして根本のところを握る様にと種々考へて居るのであるが、毎これは一年には言ふが、実行がいつも出来ないのである。今年には是非、自ら何かの要求を以て研究的に実行して見て貰ひたいのである。この健康のことについては紙にも実際にも表はすことが出来るが、も一つ精神方面につき如何なる要求あり、如何にそれに努力されて居るかと思ふことに付いて、自ら研究して貰ひたいのである。

[問題]

組についても全体の傾向を充分に知つて、お互に同情を以てその向上をはかつていゝきたいのである。あなたがたからノーションに書いて出して貰ひたいが、それは第一に、此の頃あなたが最も自分について見るところの意見、それから第二に、人間の根本は何処に求むべきか。あなた方の真の満足は如何にして得らるゝか。我々は生死、喜悲、要求もあれば向上の欲望もある。かくの如き要求は何によりて出来

るものであるか。之れ等は必ず問題であると思ふが、之れ等のことに付ては深く考へて貰ひたい。次に第三、あなた方の学問をなさる動機は何にあるか。第四、あなた方の関して居る組は如何であるか。各個人の心理状態につき探つて見て、眠れる人はさまし、道の過つて居る人はあつて見て正しくする様にせねば、真の組もわからぬのである。

それで今日から健康の研究をなし、心の態度を定めて、凡ての要求は出来るだけあなた方から出して貰ひたい。之れ等の仕事を先づすまぬと、真の自由も得られぬのである。之れ等は運動の時間に運動をなし、修養の時間に問題を一つ一つ考へて出して貰ひたい。かう云ふことをあなた方が考へる毎に、あなたの知力は熟練せらるゝのである。善と悪と正と邪とが見分けらるゝ事が最も大切であります。問題は来週の金曜日の夕方までに出す様に。体育の方は運動係から報告をきくことに致します。

[中表紙]

大学部二、三年にて
大正二年十月八日

大正二年十月八日
大学部二、三年にて

あなたが自分の根底から出る力を経験したいと思ふことは、至極尤もなことである。併し、も一つ活動の方面を明かにして、それに着手せねばならぬ。殊に三年の方は、あなたの生涯中最も大切な時である。此の僅かな間に何をするかをよく考へて、その活動をなさる処の方面は今日あなた方の前に横はる責任、使命と密接である。

そこで私は、あなたの内外の力が結合する様に折にふれて考へを導く様にしたいと思つて、此の間は少し内容を加へたのであるが、未だ私が望む処に充分注意がいらぬ様である。徹底しない様である。此の際、充分注意を払つてお考へになる様にしたいと思ふ。

[活動すべき両方面について]

あなたがなさる方面が二つ、即ち両方面がある。つまりそれは一つの方面の両方であつて、深さを増すと広がりや延べる方面との両方である。第十一回生の使命をつくすと云ふ方から考へて、此の際、如何に力をつくすかと云ふことである。十一回生が母校へ対する、又婦人としての使命の如き大なる目的もある。又、卒業生として母校へ残して置かねばならぬ、又譲り渡して置くことなども色々ある。又、自分の義務としては論文を書くこと、ノートを整理して置くこと、今一つ学力を養ふ等、内外のことを考へるならば、非常に複雑である。併し自分の好む所のみ集注して、他を捨てることは出来ぬ。

又、二年生は三年生の責任を引き受けると云ふことも考へて居る様であるが(運動会、博覧会)、併し三年生は之れを

譲っても満足することは出来ぬ。然らば如何なる範囲に於て方針を立てたがよいか、今日の問題である。

先づ第一に、活動の方面に就きて考へねばならぬ。其れには内外の両方面がある。若しあなた方が外の仕事を捨てるならば、卒業後満足な生活は出来ぬ。故にどうしても此の際、内に対する目的を明かにすることが大切である。併しながら、内を満足させるために外と全く離れてはならぬ。つまり、外と云ふのは境遇のことであるが、其れに意味が二つある。其れに就いて、あなた方の注意力や観察が充分でないと思ふ。少し具体的事実を挙げて見るから、あなた方も其れに就いて考へて貰ひ度いのである。

[芸術と我が校の教育との関係]

先づ第一に、今年の運動会は如何にするか。其の内容に就いて考へることは六ヶ敷い事ではない。芸術を表はした表情体操と云ふ様なもの（昨年木内さんが帰へつて、致して居った様な表情体操）とバスケッボールを、あの様に組み立てたのはギュリキと云ふ人であります。ギュリキと云ふ人は帰一協会に入ったギュリキ氏の従弟位の人である。今から二十年前、私がスプリングフィールドへ参りました時、之れを見聞きして、よい事であると思ひまして、帰つてから之れを梅花女学校へも、此の校へも採用して居るのであります。之れを運動会にやつてよいかどうかと云ふことが問題になっておる。

[体育に関して]

夫れは私が世界の体育を調べて来て考へが變つたのであろうかと云ふ事と、も一つは世間の人の考へが變つたのであろうかと、あなた方が考へなされたとのことである。も一つの事は、あなた方に考へさせたいと思ひますが、未だあなた方は気が付かないのであります。私は、人々の年と共に筋肉の固定することを防ぐために足の運動の必要を認めて居るので、夫れを私がとやかう言ふのではない。

[運動会にお客を招くや否や]

又、多くの人を招いて接待すると云ふ事に就いて、少しも變つては居らぬ。又、世間が變つたかどうかと云ふと、私共は文芸会や運動会をして、此処に女子大学がありますと云ふことを人に見せる訳ではない。寧ろ見せることは余程ひかへるのであります。無論、運動会を内でするのは差し支へはないが、何時ものやうにお客をするかどうかと云ふことを問題にしたのである。一番よくわかつて居る筈のあなた方の中でも真意のとれない人があるから、誤解だけはといて居かねばならぬ。

我々は世の教育、社会教育の為にしやうと云ふことを一方には考へて居るのである。併し今年を大正二年と云ふけれども、今上陛下の御治世第一の秋、未だ御即位式の前である。初めて陛下の御誕辰を御祝ひ申すと云ふ時、随分困難なる問題をひかへて居る今日、最も適當なることをするのはどうしたらよいかと云ふことであります。

[今は大に改善をはかるべき時]

此の間、帰一協会の集りの後、如何なる話をしたのであるか。或る人は亡国論を書いて居ると云ふ。添田博士の如きは世界を回つて来て、どうしても教育を根本から改めねばならぬ

ぬと言ふ。或る人は、どうしても婦人が海外へ出て婦人の地位を高めねばならぬと言ふて居ります。

あなた方はどうしても今日の精神に感応しなければならぬ。夫れを若し感得したならば、今年の運動会を如何にするか、大正博覧会を如何にするか、又此の校の図書館を如何にすべきかと云ふことに就いて考へが立たねばなりません。時も違つて居るから、どうしても此の新生命を開かねばならぬと思ふ。つまり一言で言へば、あなた方が運動会をなさることも、大正博覧会へ出品すると云ふことも、亦此の校の生活を色々變へると云ふことも、之れ迄の生活を改善する、今迄の弊を改めると云ふこと。何にしても実を挙げねばならぬ。私は其れを色々纏めて居りますけれども、其れを証明するのはどうしてもあなた方でなければならぬ。

[教育の改善]

教育の改善と云ふことは、誰も必要を称へて居るけれども、其れをどうすればよいかと云ふと、誰も案はない。確信は立たないのである。真にあなた方の修養を積み、実力を養ふには此の時を失ふてはならぬ。あなた方は、時は短かいと云ふても唯試験に及第して卒業生と云ふ肩書を貰ふよりも、真に修養をし実力を充すと云ふことが大切であると思ふ。

[自由意志]

其処で私があなた方に経験して貰ひ度いと思ふことは前から此の校で言ふておるが、どうも出来ないのである。其れは何かと云ふと Freedom of self-activity と云ふことである。真のあなた方の内から起る処の活動、自由意志と云ふものは尊いもので、之れは決して選挙運動や放埒な生活を意味するものではない。深い根底から湧き出づる処の真の力、夫れを發揮して最も深い経験を味はうと云ふこと。永久展びて行く処の根本を養ふに、何物も之れを妨げるものはない。何物も自分を圧することのない力、其の経験が出来なければ真の力を養ふことは出来ぬ。又将来あなたが如何なる境遇に立つても幸福であり、如何なる困難にも勝利を得て真の生活を営むことは出来ぬ。

[先づ運動会に試みよう]

其れで私は先づ、之れを此の秋季運動会に試みたい。何物も之れを妨げるものはない。何物も圧するものはないと云ふ経験をしたら如何であるか。

[従来の習慣は婦人の自動力を妨げる]

然るに、其れを妨げる二大原因がある。其れはバスケッボール……からであると云ふ。我が国の昔から最も深く伝はつて来て居る処の Convention は、女は人の目に立つ様な事をしてはならぬ、女は人の前で自分の意志を語つてはならぬ。雌鶏の長するは……と云ふ訳けであるから、一挙手一投足、非常の遠慮をしなければならぬ。男子は運動をするにも、思ひ切り活発にして宜しい。演説をするなら、満腔の熱誠を表してよい。けれども女はさうしてはならぬとせられて居る。習俗を變へて行かねばならぬけれども、其れをするとは非常に目を付けらるゝのである。其れが、あなた方の自動力を妨げるのである。

婦人は人に仕へねばならぬ、婦人は溫柔謙遜でなければならぬ

らぬと云ふ教へにも、真の意味をとれば、よいことが沢山あるから守らねばならぬ。併し婦人も進まねばならぬ。婦人も自ら判断をしなければならぬ。故に此の圧迫、此の拘束を取り去らねば真の Freedom を味ふことは出来ぬ。其処で私は、今年はどうしても実質を改めねばならぬ。故に人に見せると云ふことは実は考へ物で、真の自由意志をやって見ると云ふことが、あなた方の望みではあるまいかと考へて、お客を招くことを問題としたのである。

[Egoism]

も一つあなた方の根本動力を抑へつけるものは、自我の内にある。生きるために死なねばならぬ。自我が欲しいならば自我を殺して死へと云ふのは何であるか。即ち自分の低い処の Egoism である。お客があると之れが出て来るのである。故に、どうしても之れが出ない処の修養が出来ねばならぬ。併し之れが Temptation であるから、お客さんのない所で思ひ切り自由意志の活動をしたらどうであるか。之れが、あなた方に考へ付いて貰ひ度い点である。

[芸術と道往と教育と趣味との調和]

此の自動力の解放の実を挙げ様と云ふことに就いて、も一つ私の考へがある。之れは唯一遍の運動会でなく、真の芸術と道往、教育と趣味との調和を計って見たい。其の文芸、芸術に対するあなた方の興味を遺憾なく發揮するにはどうすればよいかと云ふと、大遊戯を組立てたいと云ふ考へである。併し芸術と云へば演劇の方に想像する。道往、教育と云ふと実践躬行であり、意志の方面である。此の意志の方面と感情の方面、実際の方面と虚像の方面、躬行の方面と趣味の方面とは、どうしても一致して行かねばならぬ。

殊に遊戯と云ふことは、成長、発達を意味して居る。故に小供は遊戯を好むのであるが、老人は余り好まないのである。而して此の人生と云ふものに就いて深く考へると云ふ様なことは、も一つの方面に依らねばならぬ。遊戯と云へば遊びで懶惰の様な連想もあるが、誠に深い興味を持ち天真爛漫に我を忘れて活動すると云ふことは、之れに依る外はないのである。然るに今日の教育には此の方面が誠に欠けて居る。こつこつとして無味乾燥に教育して行かうとするから、真の人が育たないのである。故に私は、此の束縛から逃がれた処の真の自由なる生活の半ばを試みたいと思ふ。

[芸術家曰く]

然るに芸術家に言はせると、芸術は芸術其のものの価値を持って居る。決して道往、科学、宗教などの束縛は受くべきものでない。教育の爲め、道往の爲めに利用せらるべきものでない。少くとも教育、宗教などと同等の価値を有して居るので、決して隷属すべきものでないと云ふ考へから、芸術は道往に反しやうが、教育に悖るが構はないと云ふのである。

[教育家曰く]

又、教育家、道往家に言はせると、芸術は実に人を野蛮時代に引き返へすものである、世を害するものであると考へて居る。之れには双方共に一理ある。けれども未だ真理に徹底しない考へと云はねばならぬ。

之れを詳しく説明すると時を取りますが、一言に言へば、

芸術は芸術其のものに価値があつて、決して隷属すべきものではないと云ふこと。之れに如何なる真理があるかと云ふと、例へば私の肖像を書いた原と云ふ人の如きは、芸術の爲めに芸術をしたのである。故に金をやつたからと云つて、決して書きはしないのである。かう云ふ人は我が国では珍しい。我が国に何故医師が多いかと云ふと、金がとれるからである。併し欧米あたりでは、さう云ふ目的を持って金の爲めに医師を方便とする人はないのである。

[運動会は人に見せる爲めではない]

此の様な訳で、方便に芸術をするのは間違ひである。あなた方が運動会をして人に見せるとか、お客さんをして人を楽しませる爲めにするると云ふならば、間違ひである。運動会には運動会自身、独立した目的があるのである。併しながらお客があると云ふことがあつたとて、決して道往に矛盾するのではない。

[遊戯は教育の作業]

又、Self-activity、例へば遊戯なら遊戯、其れ自身に価値がある。遊戯をする自動の目的は、其の働き其れ自身に価値がある。故に遊戯は教育の作業である。労働が神聖であるならば、職業が尊いものであるならば、遊戯もやはり神聖である。故に、斯くの如き遊戯を組立てたいと思ふのであります。

[中表紙]

大正二年十月十一日

大学部一年及び予科にて

大正二年十月十一日

大学部一年及び予科にて

[自動的と云ふことについて]

各部の傾向について考へて出られる様に言ひましたが、其の前に色々はじめねばならぬことが沢山あります。あなた方の実行が今どこに集注すべきかについて考へる必要があるのである。今、凡ての指導にある三年には申したので、そちらから何れ相談があらうと思うが、あなた方も自分から考へを出し、あなた方が主になって仕事をはじめねばならぬ。自動的と云ふことは進んだ級にのみ任すのではなく、各部が独立して全体に感化を及ぼし、又全体に創始力がなければならぬ。

殊に一年、予科に気づいて貰ひたいことがある。昔、教育の重んずべきことに心づいた母親が或る教育家の許に行つて、自分は自分の幼児をほんとうに教育したいと思ふが、其の教育は子供の何才位から初むべきかと尋ねた処、其の教育家は曰く、あなたは教育すべき二年を失へりと言へり。而し二年後れても気づかざるに勝つて居る。今日我が校に於ては、之れ迄試みた教育法の中、実行の出来なかつた原因は半ば内にあるが、半ば外の境遇にある。如何に実際にしやうとしても出来ぬ処があつたが、今日は組織がかはつて、かねて私等の主張した主義に改めて試みるの期が到来した。之れを何時か

ら初めて行くかと云ふ問題になると、三年は大分時期を失ひ、一年は最早二期を失ひし如く、予科は丁度よい時に入学したと感ずるであらう。

教育の改善、習慣の改造、境遇の改築は、何時着手するかと云ふと、今日初まって居る筈である。もし出来て居らぬとすれば、確信だけはなくてはならぬものである。それで先づ運動会から改革する。習慣、考へ方をかへねばならぬ。今日はおそいのである。も一躊躇してはならぬ。それについて、予科、一年は如何に考ふるか。又態度にも注意すべきである。又は三年は勿論であるが、あなた方は最も盛んに改革の意見が起らねばならぬと思ふ。かく言ふと、年齢から言うても級から言うても未だ若い、殊に婦人であつて自ら改造するなどは生意氣と云ふ考へがあるかもしれぬ。

私の知つて居る男の学校の校長が、我々と同じく自動的にした処が失敗した。それは、学生が自治を好まぬからで、只先生の命に従つて自分で考へて行かうと云ふ態度がないからである。殊に女子は従順で命に従ふのみで、自分で考へることは六ヶしく又面倒である。之れは先生も此の方がやすい。学生も唯記憶することは易い。我々は只従ふと云ふ態度は余り有りがたくない。かう云ふ態度では物事が進まない。昔から同じ様である。我々も習慣的に従ひ、繰り返して居つたなら、植物の生活と同じく進歩と云ふことは少しもない。而るに人間は自覚して、婦人も進歩がなくては満足が出来ぬ。又、我国家もそれでは生存が出来ず、国民としても生存が出来ぬ。之れが教育の改善である。私は、かう云ふ態度をあなた方がかへんければだめであると思う。若し母親がさうでなかつたならば国民は育たぬ。ほんといに責任を感じ独立自営する、進歩する、眞の活動の自由を得る如き人間の生活を味はふことが出来ぬ。私は、此の態度を改めねば教育は六ヶしい。内にある力を軽んじ、余り他に依頼することをとり、年齢上より考へて未だ十八であるから子供であると思ふ様ではならぬ。

[改善と云ふことについて]

私は自分のことを言ふは面白くないが、実例を出した方がわかりよい。私はあなた方の年齢の時是非常に力が出た。又改善と云ふことが非常に私の頭にひびいた。私は日本の教育が注进的で依頼心が多いと云ふことを、師範にはいつて六ヶ月でわかつた。私はその時から日本の教育を改善したい、それで私はど一かして此の束縛から脱しやうと思ひ、退校処分を受けたい考へて随分乱暴をしたのであるが、それは出来なかつた。かやうに私は子供の時から、改善する、弊に甘んぜずして改良せんとする意氣があつた。私は十七才の時、郡視学になつた。今の下関の小学校は、私が校長の時建築した。又、如何なる本を買つてよいかと云ふことも、自分が責任をおつてした。又、大坂に女学校をたつる時も、色々計画し必要な金をよせて学校をたてたのは、あなた方の年である。其のやうに、たとへ年が若くとも責任を思ひ、国家を思ふと云ふことがないでもない。

私は英國へ行つて貴族の家に泊つたが、その娘さん達は昔のよい処もあるが、頭は中々進んで居る。又、亜米利加に

居る時も、皆政治的の頭があつて誰れを選ぶと云ふ様で、国の政治についての改善と云ふ様な社会的の知識がある。故に、あなた方が年が若いと思ふのは過まつて居る。今が盛んに公共のことに興味をもつ時である。其の時代に之れをおさへて内の力が働かぬと、二年、三年と卒業後は消沈して、国家の教育に任ずると云ふ意氣がなくなる。私は余程之れが心配である。あなた方が今後の国民として活動すべき時に意氣消沈では困ると思ふ。我々は頭で考へる、心に感ずる位で、私は十五位でも本氣であつた。眞面目があつた。それ故同年の生徒も居つたが、両親も安心して托して教育したのである。その様に本氣であれば力も出で信用も出来、人心を統一することが出来る。此の本氣がなければ改善は出来ぬ。而しあなた方は婦人の教育、母校に対する位の確信や意志が出来てもよいと思ふ。それは学問を怠るかと思ふに、決して然らず。其の勇があれば学問も出来るのである。

[我国の修養の欠点]

我国の修養の欠点は、動機が個人的である。例せば、昔親の仇、主君の仇である。かゝる場合には剣術を学んでも、技が進み修養にも力が入り、志を遂げたものが多くある。我々はかゝる動機で勉強や修養をおろそかにするのではない。寧ろ全身に力が入り、何事にも成功するのである。此の改善を最も適切に考ふべきは母校である。三年が主で只服従すればよいと思ふのはよくない。かゝる態度では、も一おくれる。私は予科、一年の時からかうすると初めて改善の実をあげ、眞によい結果を結んで卒業が出来ると思ふ。

其の次に、習慣を改むべきことである。それは、あなたの知力の練り方、考へ方である。私は未だ帰つてから教育をよく見ることが出来ぬが、此の間ある小学校の六年を見た。それは男女十数人がわかれて業を受けて、科目は科学で実物の観察で、事実について問答があつた。其の注意力、考へ方等について男女の相異に注意したが、男子の方が注意がすぐ集注する。次に要点をつかまへる。女は注意が散漫で答へが曖昧である。思考力も後れた様な感じがしたが、未だ先生にも話さぬからわからぬ。

[欧米の婦人について]

之れを欧米の子供について見ると非常な違ひで、向ふでは女子の方が進んで居る。二十年前に数学は女子の成績がよかつた。而し眞理の発見、發明、研究などは男子に及ばぬ。又、女の学者などは信ずるに足らなかつたが、今度はしっかりした女の学者もあり、本も出て居り、發明も今日は女が数千を以て表はれて居るを見れば、知力に於ても劣等とは言へぬ。女子を男子の如く扱ふは五十年以来で経験が浅く、今日直ぐ判断を下すことは出来ぬが、直解の如きは婦人の方が長所であると言へるが、日本では何れも自由に活き、充分な力を表はして居らぬ。而し婦人が進まねば我国の教育を改め、婦人が進むことが出来ぬ。それには、あなたの考へる習慣を改めねばならぬ。

[如何になすべきか]

ものを創始するは思考力による。故に、只模倣や習慣に従ふならば思考力はいらぬが、益々完全に深い生活をして人生

を新にするには思考力が必要であるが、これにつき悪習慣を改めねばならぬ。これを改むるに色々あるが、第一、適切な方法をとること(それは如何になすべきか)かと云ふに、即ち我々は如何にすべきかを考ふことが最も適切な考へ方である。あなた方はなさんとすることは沢山あるが、如何にするかがわからぬことが多くある。これを考へて行はば初めて有効な働きが出来、効果を表はし、あなたの生活が変り人格が進歩する。それには適切に考へると云ふことが大切である。これが体育につき如何に改良するかを考へさせた理由である。私は、如何に修養するか、人生の根本要求は何か、学問の動機は如何に有効にするかが大切であるが、先づ運動会、体育の改良を如何にするかはわかり易いことである故、之れを先きにする。

今一つは境遇に関する事で、境遇をかへるには如何にすべきかである。今、如何にすべきか考ふべき時にある故、特に言ふのである。例せば、先日言つた健康に関する事で、生活の方法の中、先づ改良すべきことは空気のことである。消化器、心臓病には空気を改良する。それには家屋を改造せねばならぬ。其の改善のために、あなたが働かねばならぬ。即ち、過渡時代として丁度適当なものを考へねばならぬ。今、豊明寮が移転し作りなほすにつき、何でも要求を出される様に言つたが、私には一つの案があるが、主婦たる我国の婦人が考へねばならぬ。而るに、未だ一人も要求を言ひ出される人がない。図書館もあなたのよい様に、参考館も丁度よい様にして貰ひたいなど、今一番改善によい時である。之れが私が満足出来ない所である。それでは少しも自動的ではない。境遇を如何に改善すべきが迫つて居るが、新しい組み立てをする人もない。

運動会についても色々注意したが、之れは三年丈けの問題ではない。あなた方が考へねばならぬ。今、境遇をかへる時に於いて、あなたが如何にするかを考へてもらひたい。之れは寮監方にも、あなた方にも皆言つたのである。之れ丈け改善改善と言つて居るに、先生の方からも、生徒の方からも案が出ない。之れでは婦人の位地として甚だ遺憾なことである。も一、すぐ決めねばならぬから、あなた方個人としても組としてからでもよいから、今後十日までに出示された意見がよければ採用する。かう云ふ具体的構成すら考へられない様では考へが低いのである。只人の考へを覚える丈けでなく、丁度境遇に適切なことを改善する処の考へがなければならぬ。それには本当に本気になつてしなければならぬ。又、態度をかへなければならぬ。

[中表紙]
大学部全体にて
大正二年十月十五日

大学部全体にて
大正二年十月十五日

[目下の集注点]

此の前に、私から問題を出して置きましたが、あなた方は其れに就いて大分考へになつた様であります。併しあれは未だ半面に過ぎませんから、今日は残りの半面に就いて十分に了解の出来る様に致したいと思ひます。外にも重大な問題がありますが、今はあなた方の注意が殆んど体育、運動会の事にばかり集中して居る時であるから、今、外の問題に移ることは大變不利益な事である。故に運動会をやるなら充分な注意を払つて、遺憾のない様になさることが大切である。

未だ私は、三年生としての計画丈けより聞いて居らぬが、全体としての計画を立てることも大切であり、又、各組としての計画を立てることも必要である。此の事に就いて、三年生から簡単に答へて御覧なさい。

先づ内容に就いてお考へになることが大切である。内容の意味に二つある。

[精神的内容に付きて]

其の一は精神的内容。態度が充実するかどうか、之れが一の問題である。私が最も恐れるのは、試みに堪へる丈けの充実した態度があるかどうかと云ふ問題である。其の内容と云ふのは各々の精神の内容である。

もう一つは、如何なる種類を如何に表はすかである。其の内容が稍安心の出来る様に、又お互も之れならばと安心出来る丈けになつて居るかどうか。先づ今年も例年の様にお客をすることになつたが、其の内容、態度に就いて、又運動の内容について方針を明にすることが最も大切である。愈々、明後日は予習会をするのであるが、其の前に大に内容について考へる必要がある。

[趣味の拡張]

あなた方が今、最も精神を込めねばならぬ問題が二つある。即ち其の一はArtで、言ひ換へれば趣味の拡張と云ふことである。Artは人生の真意、価値を表はすものである。人間活動の目的はArtにある。生活がArtに表はれたるものが人生の価値である。教育の上に知識と共に表れ、行ひに表はれ、品性に実現すると云ふArtが、今日の教育に最も欠けて居る点であると思ふ。故に、此の方面に最も力を入れねばならぬ。あなた方の品性をArtに表はすことが最も大切である。

もう一つの方面は、知識の方面である。思想を構成すると云ふことである。

此の両方面を、生命ある様に進歩させねばならぬ。此の二方面がよく共同して、何時も平行して進むことが大切である。運動会の如きはArtであるから、あなた方の思想、感情を外に表はすものである。之れを充分に表はすには、其の前に於て十分に考へ、真理を味はひ、思想を構成することが

大切である。之れを如何に表はすかが目下、大切なる問題である。

[Artの妙域に達するには]

運動会に於て、如何なる音楽を表はし芸術を表はし、極めて真妙なる域に達するには如何にするがよきかと云ふ様なことを考へることが大切である。故に、知の方面に深くなるにも、自我を發表することに熱中するにも、其の力、其の労力、生命を与へると云ふことは本気になり、熱心にやる、自分を一つ所に捧げると云ふことになる。其処に私共の教育の目的があり、修養の意義がある。其の最も深い処の態度を養はねばならぬ。其れが学問をする処の動機になり、又自分の活動に表はす真髓になるのである。

[本気に熱心になる]

其処に人間の価値があり、真の幸福、満足、又は吾人の要求する力があるのである。其処の態度を動かさねばならぬ。深くひそんで居る根底の力を動かさねばならぬ。之れが人間の不可思議な、又非常に人間に妙味がある処である。

真理を追求する、つまり大悟徹底した人間は進めば進む程好奇心が起る。学者になればなる程知識を追求することが盛んになって来る。学者になればなる程自分の無知な事を感じて来る。何故かと云ふと、真理が解って来ると唯進み度いばかりでなく、真理が解ると之れに感情が伴って来るからである。

[自我発現の原動力]

自分の追求して居る実像に**逢ふと云ふ時**に必ず崇拜の念が起る。敬慕、敬愛の念が起きて来る。之れが、自我を發現する原動力になるのである。愛慕の念の起る時に何かを發表する。真理を吸ひ込み、又之れを發表する態度になる。此の真理、感情が外に表れると宗教となり、詩歌となり、Artとなる。

[理想的目的物]

自分が崇拜尊敬する所の目的物は、自分が逢ひ度いと思ふ友をさがして居ると同様である。人は常に理想的な目的物を探して居る。之れが解れば徹底した自我、無我、大我になるのである。即ち、理想的な目的物に合体して終うのである。故に、此の自我は価値があり且つ高尚で、非常に高調に達した生活である。悟ると云ふことは自分が無限の内に入って行き、又自分が無限を吸ひ取る。其処に表はれたものがArtである。又、Harmony, Unityと言ふことも出来る。即ち、美の發揮、生の高調である。

[Art]

ArtにはArt独特の価値がある。故に人に賞讃され様とか、其れを業にして利を得様とか云ふのではない。Art 其の物に価値があり、其の価値を増進して行く処に教育がある。故に、此の経験を積んで行かねばならぬ。何事でもいゝ加減にしては駄目である。

[大悟徹底せよ]

真理を追求するものは大悟徹底する迄、行かねばならぬ。Artを表はすならば其の妙域に、其の高調に達するまでせねばならぬ。

[大調和を期せよ]

運動会もArtである。Artは自分丈の趣味を表はすものではなく、校風を作り全体の空気を作るもので、音楽に於ける大合奏の如きものである。個人の特色が一の大調和を見ねばならぬ。又、数万の人が作り上ぐる大建築と見ることが出来る。此の大建築を造り上ぐるには充分なる用意がなければならぬ。即ち其の用意とは、各個人が本気になって自分を發揮する所の働きである。本体の内に自分を捧げて終はねばならぬ。此の尊い経験を味はねば駄目である。

[社会を感化せよ]

此の尊い経験に依って、社会の人によい感化を与へねばならぬ。以上は運動会に関する注意の大体であります。博覧会に就いても同様である。其れが理想的に出来るか否かは茲数ヶ月にあるのであるが、先づ修養上に訓練を要することは、団体として共同して行くと言ふ態度が出来ねばならぬ。

[共同の精神を養へ]

此の共同一致の精神は、我が国の婦人に最も欠乏して居る点である。私共は之れ等に注意して大に反省せねばならぬ。

[女子教育に対する保守的思想]

今日こそ、我官立の大学が女子を解放する様になったが、今から十年前は女子を高等女学校に入れるのさへ問題にしてあった。併し今日と雖も決して保守の人がない訳ではない。反って我れ我れが先輩として立てて居る処の人さへも、女子の教育に就いては、未だ未だ保守的な考へを持って居る人が沢山ある。或る集会に於て一先輩は言ふのに、女子は教育するのはよくない。女子の高等教育は女子をして不幸に落とし入れるものである。家庭の爲めにもよくない、と言つた。又或る人は、一体女子を多く集めると云ふことが間違ひである。婦人は元来、調和を欠いて居る、と言つた。之れは非常なる誤解である。併し之れ等を推して、未だ社会の人々の女子の教育に対する考へが進んで居らぬと云ふことがわかる。

[己を捨てよ]

けれども、婦人が共同の精神に乏しいことも事実である。故に此の点に注意して共同の品性を養はねばならぬ。之れをなすにはDisinterestedしなければならぬ。之れは、己を捨てて団体の爲めにすると言ふ精神である。我利を思ふならば、共同の仕事は決して出来るものではない。

[發表について]

次に大切なのは団体としての發表である。又、個人としての責任も充分つくさなければならぬ。些少なる点にまで注意を要するのである。

[態度]

尚大切なことは、あなた方の態度である。今年も数千のお客をお招きするのであるが、此の数千人の人迄もあなた方と一致して音頭を取る位に迄ならねばならぬ。つまり、或る気分をお客にまで感ぜさせる様にすることが大切である。

[余り社会と飛び離れぬ様にせよ]

其れには、余り社会と離れぬ様にすることが大切である。無論、少しは進歩した態度は必要であるが、あまり飛び離れぬ様に注意せねばならぬ。

[運動会は流行せぬ]

或る人は女子の体育に就いて、こんなに言うて居る。女学校等で余り体育を奨励されては、女的美をかくおそれがあるから困ると言うた。今年もあなたの学校では運動会をするか。運動会は余り流行しないではないか、など言うた。

先年、私は学習院の運動会を見に行った。やはり此処でもバスケットボールの競争があったが、我が校に比較するとまだまだまね位のものである。然るに同席して居った井上侯爵は帰途、私に向って「女にあんな事をさせてくれば甚だ困る」と言うて居られた。私は実に侯の言葉は案外であった。何の為めか知らぬが、今年などは運動会を止めて文芸会を開く相である。

[体育は美を欠くものではない]

して見ると、運動会は或は流行せぬかも知れぬが、体育は決して流行を追ふべきものではないと云ふことは、此処に改めて説く必要を認めない。又、体育を奨励したからとて、美を欠くと云ふ道理もない筈である。併し私の言ふのは、社会の潮流は少しもかまはぬと云ふのではない。先見の明ある人は将来を見て教育するから、現在の社会の人とは多少合はぬ点はあるかも知れぬ。或る教育家はこんな事を言うた。今より数年前に此の校でなした事を、漸く社会は今なしつつあると。

兎に角、我々の考へと社会の考へとは大分距離がある。吾人が識者と認めて居る人さへも、前に述べた様な考へを持って居るのであるから、運動会に於ても其の招くお客を見て、其の度合ひを定めねばならぬ。学習院やお茶の水と、我が校との比較研究をするのもよいが、無論これはArtであるから別に加減する必要はない。

[Artの高調を期せよ]

併し些事にまで注意をせぬと、つまらぬ事から誤解されるものである。故にArt、Musicの高調のみ思うて居るならば自然、其処に謙遜な態度が表はれる。

人の品性、校風などはGameに依って知られるものである。

もう一つは美の態度、表情に注意せねばならぬ。下手に西洋くさくならぬ様に。又、女優らしくなる様な事があってはならぬ。又、生意気に見えぬ様に注意せねばならぬ。又予習会の時等も、批評を受けた事は出来るだけ直さなければならぬ。

[自動的に大に考究せよ]

無論、自動と云ふことが大切であるから、余程のことでなければ私からは止めぬ方針であるから、あなた方に於て充分研究して貰ひたい。人に直して貰うと云ふ考へを持って居ては駄目である。故に今明日の間に、充分考へ研究して貰ひ度いと思ふ。

[中表紙]

大学部二、三年の為に
大正二年十月二十二日

大正二年十月二十二日

大学部二、三年の為に

[自我の意義に就いて]

自我の意義と云へば、個人の価値及び個人の運命と云ふことと同意義になります。自我と云へば、之れは Self-consciousness、或は Consciousness of individuality である。自我或は個人と云ふと、孤独生活を意味する如く見える。けれども孤独生活は自我の意義を失うたものである。自我の追求する目的は、自我が他に関係を要求する状態を言ふのであります。意義とは Meaning で、Meaning は価値を求めること、即ち何か目的を追求することであります。つまり之れを他の詞で言へば、自我は何か欲しいものがある。其の欲しいとは価値あるものが欲しいのである。其の価値は自分の方から言ふと主観的になる。求めて居る目的物から言ふと客観的になる。価値とは此の主観的要求と客観的目的物とが合致した時に認めらるるのである。

[運命について]

其の価値を創造し、或は生み出だす処の力を運命と言ふのである。

[宿命説]

運命には二つの説があつて、其の一つを宿命説と言ふ。宿命説とは、我々の運命と云ふものは自分の力で如何することも出来ぬものである。自分の意志、自分の境遇は、神或は自然の力で定められてあるもので、我々の意志を以てどにかへることも出来ぬものである。

[意志自由説]

之れに反して、意志自由説と云ふものがある。之れは自分で自分を支配して行くことが出来る。即ち、自分の思ふ所を行つて行くことが出来る。即ち自分の運命を開拓することが出来ると云ふ説である。そこで我々は、自らの運命を開拓し得るものであるか、或は如何ともすること能はざるものであるかと云ふことを研究して、解決を下すべき問題である。

[個性とは如何]

然らば自分の個性とは如何なるものであるか、運命は如何なるものであるかと云ふ問題が起る。此の問題には何時でも二つの事が具はつて居る。神霊と物質界、又は有限と無限と言つてもよい。

自我と云ふことを考へるには、同時に全体或は自他と言つてもよい。自我の意義を定めるには、意識と物質界、有限と無限と云ふ両方面を考へて、其の関係を理解しなければならぬ。之れは昔から形而上の問題であります。

[知的欲望に応じたる三説]

其の自他の関係について、論理的要求、即ち知的欲望に応じて昔から学者の考へて心に抱いて居る説に、凡そ三つの種類がある。

- (1) Parallelism 並行説
- (2) Interactionism 協同説
- (3) Epiphenomenalism

(1)Parallelism に於ては、物質と精神とは何時も並行して進むもの、共存するものであるとする。故に、精神のある処には必ず自然があり、物質がある。有限のある処には無限があり、無限のある処には必ず有限があると云ふ。

(2)Interactionism は、社会なり自然なりの結果である。鐘をたゞげば音がする。これは音と云ふものがあるのではないが、鐘と云ふものの結果である。自我と云ふものがあるのではないが、自然なり社会なりの働きがとゞまれば自我は消滅せざるを得ないのである。

[吾人の結論]

斯う云ふ風に、凡そ三つの種類がある。併し、我れ又は人格と云ふものは何で出来て居るか、如何なる関係で出来たか、将来は又どうなるものであるかと云ふことを考へて、我々の得る処の結論は二つになる。

[Humanity]

夫れはHumanity 或はNature と云ふと、Nature 即ち物質界の法則に支配せらるゝもの、機械的説明で社会的自然の高調したるもの、集中したるものである。つまり其の結果であると云ふ考へに到着するのである。

[God]

も一つの考へは、Nature の一番高いレベルが Humanity である。つまり自分よりも超絶したるもの。即ち此の無限、先づ今の通俗の詞で言へば神 God と云ふこと。又は生命の根本とも言ふ。或は自然の実体とも言ふ。其の実体と言ふか無限と言ふか、其の無限から自我と云ふものは出来たものである。自分は無限の一部である。ゼバイング ライフの極根底の神聖原理の火花が我々である。無限の根本の生命であり、火花である。夫れが生命である。故に、自分と云ふものの起りは、自分と云ふコンセンス、或は自分と云ふものの実体がある。其の実体の根本の生命に関係を持ったものである。其の自然が機械的に組み立てた処の結果が自我であると云ふ考へと、先づ二つになって来るのである。斯う云ふやうな事を考へておいて、我々の満足する処の結論に到達しなければならぬ。

此処に、自我と云ふ事を提出なさつたあなた方の要求がある。即ち自我の意義と云ふことがわかりたいと云ふ要求がある。人間はど一しても真理を追求すると云ふ性情がある。其の真理とは如何なるものであるかと云ふと、自我の関係である。自我を知らうと云ふのは、自分が要求して居るもの、自分が尋ねて居るものに逢ひたいと云ふことである。何かに出逢はないと自分の要求が満足しない。

[自我は相対的のものである]

之れを考へて見ると、自我と云ふものは相対的のものである。自我はパーソナル、一部分のものである。そ一して有限なものである。故に、どうしても無限なものに合はねば、合体しなければ出来ぬ。真理を追求して居る自我の要求は自分のあてはまるもの、他を求めやうとする要求を持って居る。之れを以て自我は相対的のものである。部分的のものである。

何かに合はうとして、内から動いて居るものであると云ふことになる。其のわからないものをどうか見出したい。其の実体、自分が合体すべきものを探し出したいと云ふことになる。真理は自家撞着でない処のもの、即ち調和であり統一である。故に自我とは、自分の関係して居る処の全体の総べての関係を見出だし、或は其の枝に残つて居って深く研究を積まうと云ふやうなこと。之れが科学をしやう、文学をしやう、或は形而上学を修めやうと云ふことになる。

[部分的原理と総体的原理]

我々には部分的原理と総体的自我がある。其の部分的なる自我が総体的にまで達せんとして努力して居るのである。無限と云ふものが必然的に関係する様な原理がある。之れを以て見ると、神聖原理とか名づくべきものが自我の土台をなして居るのである。之れに依つて自我がわかり、永遠を考へることが出来、全体を包括し宇内の統一原理を追求する処の力ある所以である。又、之れが即ち自我を拡大すること、即ち此の有限なる自我が無限に進歩発達したいと云ふ要求が無限にある所以である。

[自我実現について]

そこで自我の実現と云ふものは、自我の関係を拡大することによつて出来るのである。先づ知識欲によつて、我々が我々以外の偉大なる人格を見出だし、自我よりも発達せる社会国家の関係を見出だし、其の次に自分を其の目的、理想に捧げる。又、其の理想的目的を自分に吸ひ込む。つまり其処に於て自分と云ふものと自分の求めて居る相対的のもの、自分と合すべきものと相合して一つになると、自我が拡大する訳である。

[意志の自由]

自我が拡大するとは、他のものと段々相合して無限と一つになるのである。総べての善の根本と相合しやうと云ふことである。斯くの如く、無限に自我を拡大して行くのである。其の意味に於て自分を創造して行く処の自由が、即ち意志の自由である。

[自我の運命]

そこで其の次に私共の考へねばならぬことは、自我の運命。即ち、意志の自由と云ふものが自我にあるか。又は宿命説の言ふ如くに、自我は四圍の境遇に支配せられて一歩も出ることの出来ぬものであるか。又は神に定められて居って少しも改めることの出来ぬものであるかと云ふことによつて、我々の修養の態度が變つて来るのである。

之れを考へるに三つのことがある。

- (1) 吾人の物質上の関係
身体及び物質上の関係は何処まで行かると云ふことを考へ、
- (2) 吾人の習慣
自分の生れつきと云ふものが何処まで力を奮うて居るのであるか。
- (3) 吾人との関係
最も深き神或は絶対命令が如何に我々を制限するものであるか、と云ふことを考へねばならぬ。

我々は生れつき、或は宇内の絶対の為に拘束せられたやうに見える。之れが宿命説の起る所以である。

けれども亦、意志自由説を考へると、自分の運命は自分で開拓せらるゝもののやうにも考へられる。

[両説の起因を察知して自分の考へを定めねばならぬ]

此の両説の起る処の両原因をよく察知して、間違はない処の自分の考へを定めねばならぬと思ふ。

先づ初めに、物質、身体及び習慣、之れはベルグソンが、Matter and Memory と云ふ書に詳しく調べてある。けれども今日の最も鮮明せられた考へに由れば、物質とは我々の過去の経験の貯蓄場であると云ふやうに考へても宜しいのである。我々は此の過去の習慣と云ふもの、即ち生れつきの我々の傾き或は自然の法則と云ふものに、やはり機械的に物質的法則を受けると云ふことは止むを得ぬ事である。故に我々は自然の法則を研究して、之れを利用し之れに従うて行かねばならぬと同時に又、我々は自然の助けを受けて行かねばならぬ。

[物質我について]

夫れと同時に、過去の経験が積み上げられて一つの力となつて居る処の貯蔵場であると考へてもよからう。故に物質我は物質的制限に従はねばならぬと云ふ事は事実であつて、我々は意志の自由を持つて居る、自分の運命を開拓することの出来るものであると云ふことは、精神的に言ふことである。

[精神界に於て意志の自由を得よ]

精神界に於ては、皆銘々に意志の自由を贏ち得らるゝのである。故に物質的には牢屋に閉ち籠められて居る人もある。病気で半死半生の状態に陥つて居る時もある。けれども精神界に於て意志の自由を得ればよいのである。自分の理想を実現すればよい。自分の合ひたいものと合すればよい。自分の崇拜するものに自分を捧げればよいのである。之れが我々の意志の欲求である。之れは無限に続いて行くのである。其の無限の意志を貫いて行けばよいのである。其の根本の無限、絶対の意志と我々の意志とは一つである。故に夫れまでも神或は絶対が束縛するのではないのである。其処に我々が調和一致を見出だすことが創始的自由である。

[自我は自由]

そこで我々は、自我は自由なるものである、又創始的なるものである、自動的なるものであると云ふことを信ずることが出来ます。併し其の信仰を堅めたと云ふだけではいけない。我々、自我は如何にして其の自由を得ることが出来るか、其の創造と云ふことを実現することが出来るかと云ふことである。我々の態度、我々の活動の途を講ずると云ふことが大切なる問題であります。

[真理の追求]

其の途は、
(1) 真理の追求。即ち、真理の為に真理を学ぶと云ふことである。此の間申した様に、点数を得るために勉強をする、地位を得るために学問をするのでなく、其のものの内面的価値を見出だす、趣味を味はうのである。

[大悟徹底]

而して、其の趣味、其の善を見出だして、其の終局に達せ

なければ止まぬと云ふ態度。即ち其の根本原理、宇宙の総体。平たく言へば神、其の無限なる実体、そこがわかると云ふこと。つまり其処がわかることを指して大悟徹底と言ふ。其の徹底した知識、根本の光り、其の光を観ると云ふことである。之れは即ち私共が限りなく学問をする。卒業しても学問をする。何時でも好奇心が盛んに働いて居なければならぬ。其の好奇心とは我々が合うと思ふものを探して居るのである。

[人生の経験]

(2) 其のものに己を捧ぐること。

我々の真理の追求の目的は、我々の合すべきものと一つにならうと云ふ為に求めて居る。即ち、自我と無限と融合する。或は自分とものの中にある美と、自分と慕ふ処の人格と、或は自分の信ずる団体と合致して行かうと云ふこと。之れを称して人生の経験と言ふのである。

[愛]

其れを自ら味はうて経験して初めて自分が真実に追求して居る処のものに面会して、真に心を合せて初めて真に働き合ふことが出来るのである。之れを指して愛と言ふのである。

人間には千差万別の性が与へてある。其の個性と個性とが相合ふて全体に合致する。此の関係が理想的にいったのを完全と言ひ、其の完全にいったのを幸福と言ふ。其の互に求むる者と求むる者と相逢ふた精神の幸福なる状態を指して、愛と言ふのである。其の愛の状態が美である。其の美から起る処の情が幸福であります。其の状態を指して絶対と言ふ。絶対とは融和されたる精神、其の融和の中に真理があり、愛があり、美がある。

[自我実現]

自我は其処へ行かうと云ふのである。自我の意義は何かを追求する、其の追求するものと相逢ふて完全なる自我を実現する処にある。無限に創造して、無限に自分を拡大して行く処にあると言はなければならぬ。

[中表紙]

大正二年十月二十五日
大学部一年及び予科にて

大正二年十月二十五日
大学部一年及び予科にて

あなた方のお書きになりましたものを昨夜少し拝見しましたが、時間の足りなかつたために、よくは見る事が出来なかつた。併し皆が真面目に考へ、何か希望を見出ださうとして居ることもよくわかつた。併し、何かに集注したいと思ふが何に集中し、如何に集中してよいかわからぬと云ふ点が見えた。三年の方は幾分か、わかつた様であつた。一年として又全体として、如何に活動して行つてよいかと云ふことにまどつて居る処も見える。それで、も一つあなた方が自動の働きの出来ることを希望しますが、今は運動会の前で皆目前のこ

とにささはれて、遠大なことを考へることはむづかしい様に思ふ。

[今日の時代について]

今度あなた方の時代、我国の今日の時代から云ふと責任が重いので、準備を失はぬ様にせねばならぬ。而るに、それまでにはずい分考へて見、又色々な妨げの事情に勝利を得ねばならぬ。内に強い尊い力がある。之れを如何に導いたらよいかと云ふことは、大いなる問題である。之れをあなた方が真に考へ、満足な経験をつむことを得るには、も一つ深く考へることが必要である。此の際、一年、予科の如く、初めて運動会の仕事を担当して様子がわからず、又珍らしくもある故、深い方に向ふことや、又入り組んだことを考へることはむづかしいのである。それで、丁度此の時代に適当した問題を捕へて試みにたづねた。併し其の答を見て、一年生としては満足して居る。

[昔の一世紀と今の一世紀]

昔は百年が一世紀であったが、後には十年、今日では一年、一日を争ふ様になった。それで今私は、あなた方の時代には今まで出来なかつたことが出来ると思うて望みを属して居る。故、今日から眼をさまして先きの見える様にして、よく考へて貰ひたいのである。今日かゝる態度をつくるために、あなた方の考へる方法、即ちあなた方の内に潜む力が大きく動きを始むる道を見出だす様に致したいと思ふ。今日、世界の進歩、近代文明の原因はそれによる。殊に、世界の文明を支配し、教育の発達したケンゴールの地は、若い時から考へること、其の考への働き方、其の精神をわからず適当な詞がない。それは今日まで科学がなかつたが、ぼんやりした語に、What means efficiency. Efficiency is 有効、実効、自動的活動により得たる結果、etc. 而して、之れは経済的にも教育的にもあり、社会上にも宗教上にもあり、Social efficiency、Religious efficiency と云ふ詞がある位である。此のEfficiency の奥義が宗教界に、教育界に、実業界に、各方面に実現せられんとしたが二十世紀の特徴である。

此の原理は学問上、修養上、大いに必要なことで、此のことに依つて始めて吾人は向上し、女子教育を進め、国家を發展せしめるのである。要するにEfficiency と云ふことは、吾人の価値を増加するものである。

[女子は男子より知力に於て劣るか]

今日午前、私はある小学校に参りましたが、そこで評判のたかい校長について聞いて見るに、数学、科学などのよ一頭の学科は、東京市内丈けでも男子が女子より勝つて居る。それが中学校時代になると益々女子がおくれて来ると云ふ。之れを外国の進んだものに比べると大差である。一体、思考力と云ふ様な力は人格と非常に関係がある。故に国力は何によつてはかかるかと云ふに、大学に居る処の大学生の数、及び実力と云ふ様なものを以てして居る。故に知力は誠に大切である。而るに女子は知力が男子より劣つて居ると云ふことになると、我国の女子教育には大問題である。少くも東京市に於て小学校三、四、五、六と云ふ風の組は男子におかれて居ることが事実である。実は脳力は女子が男子より進みつゝある

のに、知力が少いことは大いに一考を要する。而るに、豊明小学校は女子の方が成績がよいのである。而し此処は全体に於て男子より女子の方が勢力が強いから比較にはならぬ。全体の傾きがかうなつて居るのは如何なる原因から来て居るかを集まつた校長たちに尋ね、それに私の考へを加へて見た。何処の国も女が弱いならば仕方がない。日本丈けだから考へ物である。大学になると数学、天文学の様なものは女が劣るが、文学、技術は又ちがうのである。故に大学校丈け、中学校丈け、小学校丈け、又は亜米利加、日本とか個々別々に判断するならば之れは常識で、科学的でない。常識的にしたのは少数の事実をもつたのであるから、部分が狭く浅い。又之れは習慣的に判断したものである。

科学的の方は範囲が広く、歴史的にも世界的にも、さぐらるゝ丈けさぐつて判断せねばならぬ。殊に女子のことなどは科学的に判断せねばならぬ。而るに女子のことは常識的に判断し易い。女は体育をすると足が太くなつていかぬと云ふ様なことをもつて、女には体育をせぬがよいと云ふ様なものは概念できめたので、科学的知識とは言へない。昔から、女子と小人は養ひがたしと言うて居るが、我儘な自分の妻、娘を見て居つて、之れで判断する。又、自分の子供が学校に行つて悪くなつたとて、之れは教育はよくないと言つて居る人がある。此の様に妻とか娘とか、親類の女とか云う様な狭い範囲で判断して女をきめるのはまちがつて居る。故に果して女子は如何なるものか、日本の現在の女、歴史の示す日本の女はどんなものかと云ふことはわからぬ。日本に於ては未だ如何なる教育も施さずに於て、今之れをきめるのはちがうと思ふ。

故に私は科学的、哲学的に研究して居るのである。科学的は実験的に、哲学的はMetaphysical にして居る。つまりIntuitionをもつて、人格をもつてして居るのである。之れは余程深く注意をして研究せねばわからぬ。女子は劣つたもの、女子は人格が出来るか出来ぬか問題である。自分と云ふもの、女子の自我と云ふものは独立の出来ぬものである。自由の意志は得られるか否か問題である。女子は三界に家なしと云ふことはほんとうである一と云ふ様に思うて居れば、あなた方女子のEfficiency は得られぬのである。自覚なきものは深い所から偉大な力が発生しないのである。Efficiency と云ふことをよく考へぬことが、あなた方の力に影響してくるのである。

[目的的生活]

も一つEfficiency について大切な要素は、目的的生活である。目的ある生活、目的を追求する生活、自分の力を集中する生活である。昔から偉人と言はれた人は目的をもつた人、非常な集中をした人である。我国の女子が男子に劣り、世界の婦人に劣つて居ることが事実ならば、我国の婦人が目的をもたぬ、目的に集中することの出来ぬに起因するのである。目的のない人は人格のない人、Efficiency のない人である。常に失敗し、自暴自棄し、煩悶する人である。常に向上し、力を増し、満足すると云ふことの出来ぬ人である。そこで、女子教育について、あなた方若い婦人の生涯につき、自分の運命につき目的を見出ださしむることが、あなた方を有効に

する所以である。然るに婦人に目的を見出ださすことが困難である。目的のない個人、団体は劣等な人間であることが、何によっても表はれる。之れは小い例であるが、今日私が運動会を見たが、男が二十人ばかり赤白にわかれてする簡単な競争である。そして足の早さはちがはぬ。而るに赤が見事にかつた。之れはど一云ふわけかと云ふに、赤は非常に秩序があつて、仕方ががきまつて居る。白は少しまけたら、志気がなくなつた。即ち敗れたのは Efficiency が無いからである。一個人でも此の通りである。目的があつて互に一致協力して混雑をしない、之れが目的のある生活である。

[我国の男子の現状について]

大学に行って生徒のほりには何であるか。一番と云ふことである。未だ十番位まではよい。かうなると一番の人は他の九十九人が出来ねばよいとか、病気ですれればよいと云ふ様に卑劣な心をもつて居る。何でも人が出来ねばよい、こ一云ふことを目的として学問をして居る。只点をとるためにするのである。人に油断をさせておいて一番にならうとして居る。之れが我国人の一致の出来ぬ訳である。之れが我国の男子の出来ぬ訳である。私はあなた方に、かう云ふことを望まぬ。私から言へば、あなた方は幸福な、あなた方はほんとの目的をもつて勉強が出来る。男子の様な、そんなつまらぬ目的はたてんでもよいではないかと申したい。あなた方は自分で女であるから、若いからと言うのでなく、女だからこ一云ふ高尚な理想をたてたと申したいのである。これがたつたら、あなた方は進歩し得るのである。

而るにあなた方は、こんな目的をたてゝも空想にはならぬかと心配するのである。併し之れは、もう少し自ら努めて見たらそんなことはない。殊に我国に欠けて居る精神界の救済と云ふことは、あなた方に出来ぬことでないと思ふ。例へば人格の備はつた教育者は男子のベスタロッチ、プレーベルであつた。而るに今日はモンテソリーと云ふ婦人を見るに至つた。米国でも女子の教育と云ふ様なときは、King とかミス大学のシーリー、併し其の大なるはメーリー ライオンと云ふ様な女子の教育家が出来たことである。殊に救済家は母の如き女である。慰め生かす力ある Madam である。ナイチンゲールの如きは実に率先者である。眞の救済は女によって出来て居る。
[中山ミキ子女史について]

宗教も女である。何百万と云ふ人の心霊や身体をなほした人にはどんな人かと云ふと、天理教の開祖たる中山と云ふ婦人である。此の人は財産も地位もすてゝ、人を救うた。而し物質ではだめ、心霊を救はねばならぬと云ふ単純な誠心を以てしたのである。無学な女一人の至誠が、どれ丈け人を動かしたか。五百万人はあるであろうと云ふのである。此の人は自分をなげ、財産をうち出してしたが、そのために財産をうちなげ入つた人が五百人からあるのである。

世界から考へて見ると、之れも批難があるが大勢の人を救うたエデーと云ふ人である。も一人ある。之れは哲学も入つて居る。Mrs ブラバスキー、Mrs チングリー、Mrs バサンと云ふ様な人がある。近代に於て新宗教をたてた婦人が多い。今日又、心理学を研究した婦人がふえてきた。宗教、救済と

云ふことは、感化を及ぼす様なことは婦人の手になつて居る。之れは一部の事実であるが、こ一云ふ様に見ると女子は高尚な目的をもち、集中することは出来ぬと云ふことは考へられなく思はれる。女にはそんなことは出来ぬと思ふ、それがあなた方の Efficiency を発達せしめぬことになつて居るのである。之れが女にとって、どんなに力の浪費かわからぬのである。

それで、あなた方が眞に覚醒して必要な力を出さんとするには、つとめて有力な校風、空気を培養すると云ふことが大切である。個人と個人、組と組、学校と他校との関係と云ふことに注意し、大いに自分を養ひ國民を養ふことを知り、目的をたてゝ、協同一致の精神をもつて之れをなし遂げんとすることが、Efficiency をますことになる。

[本校の運動会について]

殊に運動会と云ふ様な広く関係を結ぶと云ふ時にあつて、之れに注意することは大切なことである。之れは大学部二、三年と共に深く研究して貰ひたいのである。今日、小学校の校長が言ふに、女子大学の運動会が大いに府下の教育に係つて居る。精神的に形式的に然り、と云ふ。そ一すると、あなた方の態度、その時に作る空気は如何に社会の数十万の人を教育する空気となるか。のみならず、あなた方のすることは日本の女子教育に影響するのである。女子の教育は高等教育により支配せらるゝ。それで本校ですることが全国に如何に及ぶか、卒業生の善悪が如何に及ぶかを考へねばならぬ。此の精神的空気を吸うて我国の女子を育てるのであるから、校風を育てるにつき深き注意をなし、理想をもち、之れを達するに足る方法を一致協同してとらねば、女子教育を高めることは出来ぬ。又 Efficiency も得られぬ。あなた方の發展上お互に一致協同することの如何に必要なかを考へ、十分な目的をたてられることを希望致します。

[中表紙]

大正二年十月三十一日
天長節祝賀式にて

大正二年十月三十一日
天長節祝賀式にて

今日は 今上天皇陛下、我が日本帝国の皇帝として君臨ましまして第一回の天長節であり、我が国民にとりましては第二維新、即ち我が帝国の第二生れかゝり、或は第二に生れんと致しまする第一回の誕生日で御座ります。此の責任ある意味深き天長の佳節を祝するに当りまして、我々は満腔の喜び、燃ゆるが如き熱誠を以て 陛下の聖旨に答へ奉り、及び今後の我が国を如何にすべきかと云ふ深い決心を以て今日を祝さんければならぬと思ひます。

[御詔勅]

陛下は御踐祚に当りまして神明に誓つて國民に下されまし

た詔勅に、先帝の遺業を失墜せざらんことを期す。これに対して官民和衷協力を致すやうにと宣うたのであります。先帝の遺業を失墜せざらんことを期す、の御詞は簡にしめ、意味深長。我々は深く其の意味を講究しなければならぬと思ひます。我々は先帝陛下が国事多難なる明治の初めに当りまして、王政復古の偉業を成就せられ、開国進取の国是を定められ、爾來幾多の冒険を冒して国民を感化、御指導あらせられて今日の聖代となりましたが、急に昨年諒闇となりました。国民は殆んど茫然 為す所を知らない状態でありました。唯だ過去のこと、明治の過去に於ける陛下の御遺業の盛んになること、又御遺業を失墜してはならぬと云ふこと、又夫れを継続すると云ふことに殆んど国論も国力も集注されて、其の他を顧みる暇がなかった様に感ぜられます。併し陛下の其の御遺業を失墜せざらんことを期すと仰せられたのは、唯だ其の遺業を継承し存しやうと思ふならば、到底其の目的は達せられない。此の意味は唯だ過去の価値を保ち、今後の我が国の使命を全うする処の用意、準備に過ぎなかったのであります。過去に於ける処の其の徳、其の御遺業は、今後に於きまして益々之れを開展してやまない。ほんとの発展と云ふことは今後に期せんければならない。夫れで私は、此の先帝の御遺業を失墜せざらんことを期すと云ふ御思召には誠に深い意味のあることで、明治維新は経済、外交の端緒をお開きになったに過ぎないのであります。私共は之れを第一維新と申して居ります。

[第二維新]

此の第一維新は主に物質的方面の進歩でありまして、精神的の方面は即ち此の大正の御代にあるので、我々は之れを第二維新と言ふ。第一維新に決して劣らない、又第一維新よりも一層困難なる第二維新を成就するの責任は、実に今後にあるのであります。夫れで日本の文明は明治の御代に於て花も咲き実もなつたと思ふのは皮相の観であります。我が日本は未だ世界を凌駕し、又日本帝国が西洋に相對せしむる程の事業を成就したとは言はれない。我が日本は漸くにして今日、世界の文明の光りが照りだして来ました。けれども未だ其の光りに達するは遠いのであります。我が国は、漸く世界に国家として認められたと云ふに過ぎない。未だ我が国が世界に對等の権利を以て相對立し、又仲間入りをすると云ふ位地にも達しないのである。又之れを内に顧みれば、漸く士農工商と云ふ様な階級はとれたけれども、未だ官民と云ふやうな国民の権利を充実し、国民の価値を認められたのは官と云ふものだけで、民と云ふものは未だ余り認められて居ない。未だ我が国民は憲法的国民となつたと云ふことは言へないのである。

斯くの如く内外を細かに顧みて見れば、物質的にも精神的にも決して満足すると言ふことは出来ない。誠に先帝陛下の御思召は明治の末期に於て一時停滞の状態に陥りまして、遺憾少なくないのである。然らば今上陛下が先帝の遊ばされた御遺業を唯だ之れを失はぬ様に、唯だ現状維持を以て遊ばすのではないと云ふことは申す迄もないことである。

今日生き残つて居らるゝ元老たちの少壯時代に、明治復興

を以て任ぜられたと同様の元気を以て、今後の我が大帝国の大使命を分担して進むと云ふ決心をなさんければならぬと思ふ。即ち陛下が、官民和衷協力致し各自其の責任を全うするやうにと云ふ此の御聖旨を、我々は体せんければならぬ。誠に私共は臣民。臣とは官と云ふやうな意味で、大臣達、今日までは御聖旨を實踐躬行するものは唯だ役人達で、人民と云ふものは動もすれば遠い様に思つたのである。陛下は決してそ一云ふ御思召ではないのである。誠に今上陛下、皇后陛下は如何に国民に親しませ給ふのであるか。

我々臣民、高きも卑きも、年寄りも若いものも、男子も女子も、決して其の間に等差があるべきものでない。明治年間には四民平等、階級の城壁がとれて、真に臣民が和衷協同する御代になる。其の曙光は実に今日にあると思ふ。猶此の臣民と云ふ御詞の中に、猶一つ新しい意味を含んで居ると思ひます。夫れは之れ迄の臣民と云ふことの中には、女子と云ふことが余り意味せられて居ない様である。女子は一層卑しい者と云ふ様に、官尊民卑と言ふ様に男尊女卑と言って、人と云ふ権利、人間の受くべき幸福は男子にあつて女子は受くべきものではない。女子は唯だ男子の道具として提供せらるゝのであつた。女子が人間として、否寧ろ此の大正の御代は女子の時代である。婦人、子供の世紀である。併しながら、西洋のある一部の誤つた思想のやうに其の権利を得るために、位地を高むるために男子に向つて戦ふべきものではない。臣民和衷協力し、相互に同情し相互に助け合つて行く。官民が和衷し、男女間相互に協力し、臣民の間にも師弟の間におきましても、夫婦の間におきましても和衷協力して、我が国風を益々培養する処の責任を分担しなければならぬと信ずるのであります。又、此の臣民和衷と云ふ意味を広く考へますと、異人種間の和衷、異宗教間の和衷、内外の和衷と云ふことになるのである。

[明治の革新について]

明治の御代は革新の御代であり、世界列強と角逐する御代でありまして、殺気に満ち、戦争を屢々重ねると云ふことは止むを得なかつたのであります。此の国家の大目的のために挙国一致して全力を集中したことが、国民の精神、国民性の尊い計る可からざる処の価値があつたに違ひない。又、其の中に忌むべく謙らなければならぬ処の欠点も多くある。即ち藩閥と国民との競争、軋、(空白)、学閥の争ひ、卑劣なる競争と云ふ有様の如き甚だ偏狭なる、甚だ非文明なる処の面白からざる事を、我が国民は嘗め尽したと云うて宜しからう。併して今後は、即ち此の大正の光りが輝き初めてからに於きましては、大いに此の氣風が一転しなければならぬ。即ち和衷協同と云ふ氣風が益々盛んに興らんければならぬと信ずるのであります。此の目的のために全身を捧げて一致協同して行かんければならぬものは、一つに男子に止まらない。実に今後の婦人、此の御代の女子諸君の責任であります。

[婦人の覚醒について]

若しも今後の我が国の婦人が覚醒致しましたならば、我が国民の人口は二倍となります。故に經濟に於て、精神力に於て、今後の我が日本帝国は婦人の覚醒を要求し、御婦人の奮

起を要求するのであります。願はくは此の 陛下の詔勅に対し、我々は此のおめでたき天長節を期しまして和衷協同致しまして、陛下の御聖旨に副ふやうに今後の志をたて、今後の運動を開始して行かねばならぬと思ひます。私共は此の目的を以て明日の生活をなし、又明年の博覧会のことも考へ、此の意味を以て校内の改善も致さなければなりません。明日の運動会上に上ったら、全く全身を捧げてしなければなりません。又見る人も唯だ拍手喝采をするのでなく、深き意味を以てしなければなりません。

今朝の感じを以て、祝詞と致します。

[中表紙]

大学部二、三年にて
大正二年十一月十二日

大正二年十一月十二日
大学部二、三年にて

[自我の意義]

自我と云ふものの中に二要素あって、其れが時に反対することがあり、又融和する時もある。自我の意義は、総体まで(総体は Totality or Whole のことで、相対とかくのではない)徹底せねばならぬ。眞の意義は之れによって出来る。其の総体に行くまでに幾階も階段を上らねばならぬ。其の一階段に Friendship と云ふものがある。之れは部分と部分との調和、融合である。故に自我の意義を徹底するには深化、即ち Intensity と云ふことが必要である。而して、其の為に瞑想に耽ると云ふことがある。其処で他の事情を避けるために山に隠れると云ふこともある。又、孤独生活に入るのが瞑想に入る途であると云ふやうに考へて、其の結果、個人主義に陥ることがあって、其の誤りを匡ふことに十数年来、度々出逢つたことである。

[人格の接触]

然るに、今年はこの間の運動会によって、そう云ふ考へは間違ひであると云ふことに気付いて、総体まで達しなければならぬと悟つたと云ふことである。其れには人格の接触と云ふことが必要で、相互の了解、組の共同、目的の一致、同情感情の融和となる。其れを同類意識と言ふ。

お互が同志であり、お互が厚意の態度を維持して居る。根底に於て同じ考へ、同じ感じを持つことが出来る同類である。同価値を有して居るものである。即ち、相互の間に融和して居る。お互に尊敬し、相慕ひ、相思ふ処の、詞には十分言へないけれども、同じである、一つであると云ふ処の経験であり、意識である。其れを同類意識と言ふ。つまり人格の接触を認め、其の間に喜びと力を感じたと云ふことである。私はそう云ふ意味に解したのであります。其の新しい経験が出来たならば、既にあなた方の人格と云ふものが一階段を上り得たと言ふことが出来る。

[活動すべき動機]

私は、今の組の傾向と意志の動き方とに依つて自我と云ふことをあなた方がお解しになつたと思ふ。そして其れが幾らか働きかけたことと思ひます。故に今日はもう一度、時を使ひまして、如何に其の動機が活動すべきであるかと云ふことを話したいと思ひます。先づ、之れを項目にして見ますならば、

第一、もう一層あなた方の眼界を拡大すると云ふこと。

第二、今後、益々ふむべき階段を上つて行くと云ふこと。

即ち段々とより深く人格の制限を破壊して行くと云ふこと。

第三、自我と総体の融合、一致を益々徹底し、完全の域に達すると云ふこと。

[Logic]

第一に、眼界を上げると云ふことは、前に説きました Intelligence と Intuition との二つが働きあうてしなければならぬ。其の眼界を上げることを今迄使ひ來つた詞で言ふと、Logic。之れは最近の詞の意味で言ふのである。最近の詞で言ふと Logic とはつまり、人間の眼界を開く処の方法である。光りがあつても盲であると見えぬ。見ると云ふことには二つの要件があつて、一つは自分の目が開けると云ふことと、光りが輝くと云ふ事。此の二つの作用が合はぬと、見ることは出来ぬ。此の働きが進まないと、見ると云ふ作用は起らない。目とは主観的の事、光りとは客観的の事、即ち真理と云ふことを指すのである。此の感覚に由つて自我に意識することを Logic と言ふ。之れを又 Spirit of totality と言うてもよい。

相対は有限で、絶対は無限である。又絶対には精神がある。絶対の精神には Spirit がある。有限的自我は無限的総体の閃きを感知することが出来る。之れを靈智と言ふ。そこで我々の知識と云ふものは、即ち真理を追求する処の探し出さう、発見しやう、実体を見出さうと云ふ心理状態である。即ち、光りを見たいと云ふ好奇心から、真理を悟りたい、或は神を見たいと云ふ要求、斯くの如き力が内に具はつて居るならば、其れを刺激し覚醒して、明かに見える処の目をあけてくれる処の実体が必ず実在するものである。そこで真理とは何かと云ふと、真理とは即ち総体である。我々の目で総体の真理を見た処のものである。

故に真理と云へば総体であり、我々が真理を見たことである。即ち我々の自我の眼界が拡大された時に真理を見ることが出来る。之れを実体の閃きと言ふのである。

そこで私の眼界が広がると云ふは、私の直覚が醒めることである。直覚と云へば知情意が皆入つて居つて、私共の人格である。人格は宇宙の実体の閃きであると言ってもよい。

又、宇宙の実体を感じると云ふのは、私共の人格が感知するので、之れを覚醒と言ふ。故に、之れは我々の人格が出来ねば出来ぬことである。人格がもう一つ発展すると、其れ丈け我々の眼界はもう少し深く実体を感じることが出来る様になるのである。知解力だけが出来れば情意は働かなくとも実体を見ることが出来るかの様に思ふのは、間違ひである。

私共の人格が進む、私共が精神生活の階段を上ると云ふことは、やはり私共の眼界を拡めると云ふことと離るゝことは出来ぬ。即ち、私共が真理を見ると云ふこと、人格を養ふと云ふことと離るべからざることである。

[学問の目的]

そこで私共の学問の目的は此処にあるべき筈である。万事万物の真相を看破し、其の真相に徹底する処の力、此の眼光が出来ねば、真理を発見し、自分の中にある処の欲望を満足せしむることは出来ぬ。其の経験を内に貯へねばならぬ。其の力が内から発動して来なければならぬ。其の力が内に発動して始めて私共の眼界が開ける。如何となれば、其の追求する処の真理の光りは宇宙に充満して輝いて居るのみならず、外からも即ち我々の生活して居る処の四圍の境遇からも却つて我々を刺激し、覚醒せんとして居るのである。故に若しも我々の内に其の力が出来たならば、必ず眼界が開けて来る。人格が拡大せらるゝのである。其の内から発動する処の力を興味、趣味、或は学問の態度、又は学問の動機、或は自動力と言ふのである。

[自動的生活]

此の我々の内に動いて居る処の興味、趣味、或は態度と云ふものは、我々の内に自覚した処の様々なる要素、又要素が統一した処の私共の意志と云ふやうなものは、唯自我と云ふ主観的な力ばかりではなく、斯くの如きものが内に発動するのは唯自我と云ふものの内のみ止まっては居ない。之れには悉く相応すべきもの、反応すべきものがある。其の両方が相反応しあふことを指して、自動的生活と言ふのである。即ち私共の眼界と云ふのは、此方に見る処の力があるならば、必ず見せる処の力に由つて顕はす処の実体がある。私共の慕ひ願うて居るもの、或は非常に熱望して居る処には必ず我が自我の外に、即ち他の部分に於て或は全体の内に於て、必ず応ずる処のものが存在して居る。

自分の内に動いて居るものを充たし得ないのは、其れに遭ふ事が出来ぬ、やはり其れに応化することが出来ぬ訳である。

即ち、も一つ暗きを感じるのが煩悶である。故に私共が人格を拡大するのは生活の範囲を増すのである。眼界の制限を拡げるのである。猶一層深い世界に入るのである。之れを指して、益々階段を上って行くと言つたのである。そこで、私共の今の眼界は私共の経験した事しか見えないのである。故に、私共が猶一層高い処に上るには益々真理を追求し、眼界を拡げるのである。故に真理を追求し眼界を拡げると云ふのは、やはり自分の生活の範囲を拡げ、人格を高むると云ふことになるのである。

[目的を達するには如何にするか]

然らば如何にせば目的を達し得るかと言ふと、つまり絶対無限或は総体の真相、真理を発見しやうと云ふことである。然るに、人格相当にしか眼の力も発達しないのであるから、私共は生涯奮闘しなければならぬ。けれども究竟の目的は、大悟徹底したいと云ふ事にあるのであります。併しさう言ふと、我々は其の絶対或は神と云ふ様な閃きは、我々の目には映らぬ。非常なる偉人と云ふ様な人格にならねば、私共には

出来ぬ事であると思ふのであるが、ベルグソンの言ふ知解は階段をふまねばならぬが、直覚は我々の内にもあつて、人格発展の上にも同じ様な困難を生ずるのである。

[人生に面白味ある所以]

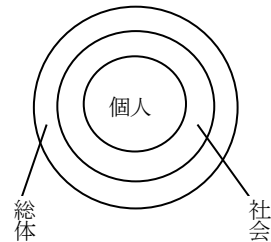
我々は有限なものである。故に無限に達すると云ふことは何万年経つても不可能なことである。併し私共は有限無限性を持って居る。私共の内に自我撞着、矛盾と云ふことがある。之れは私共の内に有限無限性のある所以で、此処に人生と云ふものの面白味があり、不可能性の価値があるのである。

[Create]

我々は有限である。個性は制限せられたものである。此の制限せられた方面が宿命論の言ふ処である。けれども亦一方には意志の自由があつて、之れが総体に引きつけられて行く、又自分から闖入して行く処の特性である。無限に統一せられ感応する処のもので、之れが無限性であり神性とも言ふべきものである。而して、之れが無限に自我を創造して行くものである。

其の無限性が、今迄ある境界に制限せられた其の境、或は今迄自分を包んで居た殻を破つて、一層大なる範囲に出で行かむるものであるが、其の範囲が又自分を刺激することになり、自分は其れに反動して行く。之れは、やはり一種の創造である。全く新しい範囲に出で、新しい人格となつて進んで行くことを Create と言ふのである。

そこで私共は、個人と云ふものがある。其の周囲に社会と云ふものがある。而して、も一つ無限に拡がったものを総体と言ふ。其の総体が神聖と名づくべきものである。



其の個人と云ふものが自ら創始して発展して行くには、之れを外から刺激するものもあり、内から働いて行くものもある。併し、其の究竟目的は総体に合しやうと云ふのである。其の目的に應ずるものが総体、或は絶対であります。つまり、そ一云ふ様に私共には有限の性と無限の性と、二つ方面を持って居ると云ふことである。そこで一方には私共には Intelligence の力で階段をふんで進んで行くと共に、一方には徹底の力で知解の範囲を拡めて行くことが出来る。之れが今日の意味で言ふ Logic である。

[第二]

第二には、如何にすれば其の目的を達することが出来るかと云ふことが、私共の研究しなければならぬ直接の問題である。

Totality 又は Whole 或は Reality の本体は何であるかと云

ふと、普遍的のもの Universal spiritual life である。故に我々の人格は其の Spiritual life の閃きである。即ち精神的な生活である。其の実体の真髄は普遍的、精神的な生活であると言ってもよい。其の普遍的な精神生活は何であるかと云ふと、それは動的であり創始的である。

[神の閃き]

生きたものならば活動的のものである。其の生きた実体があるから、生きた人間がある。活きた人間とは、活きた精神生活である。然らば活きた人格が一つの神の閃きであると言ってもよい。活きた人格の頭はるゝ処の其の流動とは我々の人格であり、Organization である処の時代の精神である。兎に角、宇宙は Universal spiritual life の充滿して居る処である。

其の歴史の中にある処の クライスト も、ソクラテス も釋尊も悉く Create する処のもので、生きたものである。そこで私共が自分の内の生活を顧みて、つまり自分の生活を自覚して自分は無限の価値を持って居る、神聖なる力を持って居る者である。即ち自分は意義あり目的ある処の人格である。之れは詞ではない。自分で自覚する自分である。

[人生の意義]

人格であると自覚する自分は、唯だ身体ではない。物質ではない。精神的な人格であると自覚する処に、自分の人生の意義を理解することが出来る。而して自分の意志を以て自分を創造して行くことが出来る。自分を發展させることを意識し、自分を完全に幸福にすることは、自分の自動的の力であることが出来ることと云ふことを自覚することが出来るのである。

[天啓]

併し其の自覚が出来、実体が自分の心に映じて来ると、自我と云ふものは唯だ自分だけの働きによっては居らぬ。其の自分の一部であり一員である処の自分の属する処の総体である Universal spiritual life と云ふものを見る事が出来る。殊に、時代の精神である処の活動を知ることが出来る。之れが即ち天啓である。天が我々に黙示を与へる処のもの、天が預言者に由ってわかり、黙示は クリスト とか使徒とか云ふ様な偉人に与へられたものである。けれども、唯誰れでもには下らないものであると思つて居たのは昔の思想で、今日では我々にも直接にわかる。此処に於て、深い精神的経験を味わうことが出来るのである。此処に於て、今日生きて働いて居る処の大きな境遇に反応することが出来る。世界の人と共に協同することが出来る。此処に於て、私共が神と融合して自分の崇拜して居たものの為めに、慕ひ求めて居たものの為めに全く己れを捧げて活動することが出来る。之れが天啓である。宗教である。此処に於て、真に私共が生涯奮闘するに足る処の仕事がわかる。此の状態を指して、目が醒めたと言ふ。之れを為さしむる力が、バルグソン の言ふ同情的直覚である。

先づあなた方が修養に勉める第一着は、眼界を拓けて自分の制限を脱することが必要であります。

[中表紙]
大正二年十一月十三日
教員会にて

大正二年十一月十三日
教授及び教員会にて

此の前回に引きつづいて大学部、高等女学校、及び小学校の教授、及び全体に通じた教職員会を開かうと云ふお約束でしたが、猶其外に教授法の改善についても、いろいろ御意見を伺つて討究するやうにと云ふことをききましたが、其後、銘々で御考へもあり、銘々の受持に於て実行をお試みになった点もあらうと思ひますから、前回にひきつづいて、討究して見たいと思ひます。猶各部の連絡、全体の管理について、各学部、各学科間の共同も出来ましたならば、猶一層教授を有効にすることが出来ることと云ふことは論を俟たない。近来、此の教育の(空白)の Efficiency と云ふことについて研究もして居りますが、猶全体の管理について有効なる方法もあらうと思ふ。昨年、アメリカでサイエンスと云ふ雑誌がありまして、いろいろ議論が出て居りました。独り教育のみならず効力をやかましく言ふ実業界に於ても、サイエンチフィック マネージメント と云ふ雑誌なども出来て居る。そ一して私が帰つて見ると、いろいろな人が訳して居ります。そ一云ふ風に世界的思潮が高まって、我が国でも翻訳したり議論をしたりする人は多いけれども、實際の上に科学的実験を積む人が少ないから、そこに勉むることが必要であると思ひます。[我校について]

然るに我校の長所であり欠点であることは、其点が未だど一も出来にくいと思ふ。一体、我国では極端なる官僚主義の画一主義によって管理が形式的であると云ふことは、今日我が国の通弊であると思ひます。故に各部の間に於ても、師弟の間でも階級を設けたり、画一主義になつたりすることは出来るだけ避けて、又此の校へおいで下さる方も、多くはそ一云ふ御方であつて、自治の氣風を養ふことに勉めて居りますが、未だど一も十分でない。併しなから、之れは此の校の特色であると思ひます。

併し欠点もある。我々のとつて居る方針は成るべく銘々にさせて、衆議に由つて物をして居るから、言はず共和政治、代議政体とも言ふべきものであるけれども、未だ一体が寡頭政治であるから、教育のことにしても全体が調和統一して、一致して進むと云ふことが六つかしい。未だほんとの一の教員会も、ほんとの一の研究會も成り立ちません。所謂合議体にして、よく其の間に何にも混雑とか衝突とか云ふことはないのであるけれども、よく統一して全体がまはつて行くことと云ふ程ではない。之れはど一したらも少し力ある様に出来るかと云ふことは、お互によく相談して見たいと思ふ。夫れには斯う云ふ會がよいかと思ふ。其間には問題を互に出して考へると云ふだけでも、相互の間に利益あることと思ひます。

私は各部の中に出て授業をも參觀し、各部の教授方にも時々お目にかゝつて御相談をするやうにするとよいと思ひま

すが、お互に忙しいから何と考へても思ふ様になりませんから、時々斯う云ふ風によつてお話をすると云ふことも十分には出来ませんけれども、無きには優るであらうと考へます。

そこで全体はど一云ふ風に組み立てゝ行くべきものか、其の間の管理は如何にすればよいかと云ふことを討究したいと思ひます。殊に今日、皆さんと御話したいと思ひますことは、私共が十年來力を入れました問題は近來欧米に於ても其の研究が盛になって、いろいろ著書も出来て居ります。又、今申しました今日の教育社会が何かに中毒して居るかのやうに思はれますが、併し何とかして之れを改めねばならぬと云ふことは皆が気づいて来た様であります。けれども其の心づいた考へを十分な決心を以て実行する、苦難に戦ふて実現すると云ふ勇氣に乏しいかと思ひます。

[教育方針の実現について]

夫れで私は、今日御相談致したいと思ふことは既にわかつて居り、本校の方針として世間にも發表して居ることで、猶之れを内に於て実行するに困難を感じて居ることがあります。故に今日、此の時機に於て皆さんと御相談して、生徒も一致共同して、之れ迄立てました方針を実行することに勉めたいと思ひます。夫れはど一云ふことかと申しますと、私は今日、腹藏なく自分の希望して居ることを単刀直入に話を出してお考へを願ひたいと思ひます。

夫れは今日まで私の苦んだのは教育制度の停滞であつた。今日と雖も相變らず教育制度の束縛を受けて居るけれども、今日夫れを改良するに十分なる意見を提出するならば、文部省も出来るだけは容れやうと云ふ考へである。故に社会の輿論を動かすことも、文部省を動かすことも左程六つかしいことではない。けれども何故改良が出来ないかと云ふと、教育家自身がわるい。学生自身もわるいのである。も一そこが麻痺してしまつて居るのである。其処を改めねば、ほんとの教育は出来ないのである。

[参考館について]

故に今、参考館を造つて、工事を始めて居ります。又、図書館を建てゝ、学生自身が自由に研究するやうに致したいと思つて居ります。

[教育館について]

之れは教育部を興した時からの考へで、森村翁の賛成によつて教育館を建てました。其の時の規模は今の半分であつたが、大倉孫兵衛君の尽力に由つて、行く行くは公開もしやうと云ふ考へで建てました。けれども其後数年間の有様はど一かと云ふと、学生自身が自ら書物を使うて研究しやうとはせぬ。只先生の講義を喜ぶ、出来るだけ先生から教はりたい、先生は何でも教へて下さると云ふ風で、生徒は自分で調べ、自分で工夫して、出来るだけ自分で物をするると云ふことを好まない。今日の校風は、そ一云ふ有様である。

[教育家の態度]

其の原因は何処にあるかと云ふと、やはり教育家自身の態度がある。先生も出来るだけ教へることが樂である故に、斯う云ふ風になるのである。之れは、ど一しても私共自身が改めねばならぬ。生徒も亦自ら此の氣風を改めねばならぬと

思ふ。故に之れから参考館も造つて出来るだけ生徒自らが研究に勉めて、十分集中することの出来るやうに教授の時間も減らし、自由に研究させる様に致したいと思ふ。夫れにしても、学生自身がそ一云ふ気分にならねばだめであると思へます。故に之れはど一すればよいかと云ふことについて、皆さんから十分、御意見を出して戴きたいと思ふのであります。

今、河野君からお話がありました、自動的教育と云ふことは放任主義とは違ふのである。又、興味あらしむると云ふことは先生の方から生徒を面白がらせるのではなく、生徒自身が面白くてするやうにならせる。そ一かと云つて、時には骨の折れる苦しいこともないのではないが、其の苦しいことにも堪へる教育をするので、此の頃言ふ軟教育ではいけない。書物でも、さあ読めと云つて与へらるゝのではなく、自分に探し求めて読むと云ふやうな興味でなくてはならぬ。そ一云ふ興味をもつて研究させると云ふことは昔から経験して来たことで、我々が今更、事新しく言ふのではないが、今日我が国の女生徒がそ一云ふ興味を持って勉強する様にならせるにはど一したらよいかと云ふと、私は以前、梅花女学校で宗教的にやつて見たのであるが、之れも感情になつて十分でない。此の大学では哲学的にやつて見たのであるが、中々むつかしいのである。無論、宗教的に行かねばならぬが、ど一しても我が国今日の女子は情緒、趣味と云ふ処から行かねばならぬ。

[運動会及び文芸会について]

夫れには今の河野君のお話もありましたが、此の間、運動会がありました。此の運動会に於ては、平生教へることの出来ぬ処までわかつて行く、ほんとうに己を捧げて全体の為に尽すと云ふ空氣が出来て、至誠にまで達するのである。

も一一つは文芸会の時に頭はれて、夜も寝ずに働いて、兎も角も未だひよこではあるが、書ける人も出来たのである。

夫れで、運動とか文芸とか美術とか云ふ趣味の方面から入らしめて行くと、自動的教育が出来て遂に徹底して行くことが出来ると思ふ。

科学にしても、自分から好きになつて一生懸命になつて進むやうになるのは、やはり Nature study から入ることが大切であると思ふ。

詩と云ふことも、只文字の並べ方と云ふことになつてはだめである。Life のある処に触れねばならぬ。又、其の Nature 及び Life に表はれて居る処の美に接せしむることが大切である。

今は誠に美しい時で、天地は自然に彩られて居る。其の自然の美を観察して文を作り、絵に写させることをしないで只書物の上のことばかり教へると云ふ風ではだめである。今、河野さんのお話しになつたことは、私も実に賛成である。此の学校に実業部、商業部をおいたのは、そ一云ふ考へからしたことである。

[詞は発音である]

も一一つは、今松浦君のお話しになつた英語で、外国語の必要なることは言ふ迄もない。詞は発音である。其の美を育て、其の Life に接せしむると云ふことが必要である。然るに

我が国今迄の教へ方は、其のLifeを破壊して了ふやうな仕方である。故にLifeを育て、Poeticallyに学ばせると云ふことが大切である。それには教科書と云ふものも、今外国の書物を用ひさせることは出来ないが、教科書と云つて固定したものと云ふのが間違ひである。先生こそ沢山の書物を読んで、いろいろ深く知って居ることが必要であるが、生徒には其の時、其の時の必要に応じて、自分から書物を用ひる様にさせねばならぬ。その他、歴史、地理を教ふることにしても同じことである。詞は発音によるものである。発音はRhythmicalなものであるから、英語を教ふるには英語世界の空気を作って教へると云ふ風にするならば、他の時間を余りとらないで有効に出来ると思ふ。故にそれ一つ各教場に應用して空気を作ると云ふことに勉めたならば、も一つ有効に出来るであろうと思ひますが、夫れについてもいろいろ御意見を交換したいと思ひます。

[中表紙]

大学部全体の為に
大正二年十一月十九日

大正二年十一月十九日
大学部全体の為に

私は運動会の前に皆さんに大きな謎をかけて置きました。これは研究部にも、一年、予科等にも通じて、皆さんが考へつくか否やと云ふ答へを待つて居りました。三年の方からは其の半面をお答へになったが、未だ他の半面はお答へなさらぬ。私は此処に、大なる文芸を組み立てて見る積りであると云ふことも申しました。其れ等は皆、謎であります。少しほどこきよ様に今日申して見たいと思ひます。

[宇宙の謎]

其れは、此の前の卒業生が未だ卒業しなさらぬ時に考へついて居りましたが、未だどうも思ひついてお出でなさらぬ様である。之れは宇宙の謎であるが、現代の活動をして居る吾人が考へなければならぬ謎である。私は少しほどいた積りであるのみならず、其理想が其の後におきまして小部分、現はされつゝあると云ふことを自分は自覚して居るのである。

[Visionについて]

私はずっと前から考へて居り、感じたことであるけれども、殊に昨年の一月に於きまして、自分には一つのVisionを見たと思ふ。之れは人にお話しても余り解からぬ。Visionと云へば直覚である。之れを見るには、何か一つの表象に由つて感ずるのである。其のSymbol、其のVisionと云ふものを何と訳するか。例へば宇宙の大合奏とか、Grand dramaとでも言ひませうか。其の内に何とも言へぬ思想があり、美があり、大なる組織及び境遇が具はるのである。之れが誠に大なる理想的なる一つのUtopiaの如きものが描かるゝのである。大なる宇内的なる、又は永久的なる一つのVisionである。

一つの現象である。一つの組み立てである。或はArtである。Musicである。Activityである。今日の精神、又は活動を現はして居る処のArrant dramaである。其れに統一せられぬものはない。其の關係のうちに入らぬものはない。如何なる個人と雖も、又個人の一つの考へと雖も、其の考へに矛盾することの出来ぬものである。総べての活動が一つのDramaの如く一致協同するものであります。

[大に向上につとめよ]

其処に大正博覧会のことも、教育博覧会のことも、あなた方の卒業式も、桜楓会の事業も悉く其の内に協同し活動して居るのである。其の内に計画を立て、明年四月までに一つの之れまでにない処の生活の向上を計り、其れまでに銘々の地平線を高めると云ふことを実現したい。其れまでに其れについての主義、原理と云ふものを一通り考へてお置きにならぬと解積がむづかしいと思ふ。創造とか眼界を拓めて行くとか、此の頃言ふ処の事が皆入つて居るのである。

[知識の統一]

又、自家撞着と云ふ様なことがあり、矛盾と云ふ様なことがあつて非常に勢力を消費します。其れを病氣と言ひ、罪惡と言ひ、弊害と言ひ、煩悶と言ひ、困難と言ふ。之れ等を救済して我等の根底に動いて居る処の要求を満足せしむるにはど一するかと云ふと、其の大なる關係を見出すことで、之れを眼界を大きくすると言ひ、真相を見ると言ひ、又は知識を統一すると言ふ。

[UnityとUniformとの差異]

けれども、知識を統一すると云つても、唯知識ばかりではいけない。材料も統一せられ、美も実現せられ、愛も施され、善も実行せらるゝ様にならねばならぬ。其れはどう云ふ原理で出来るかと云ふと、部分が総体に向ふと云ふこと、有限が無限に合致すると云ふところに統一を見出さねばならぬ。其の働きを指してUnity(統一、調和)と言ふのである。も一つ之れと間違ひ易いのは、Uniformity(画一)又は(合一)である。

Unityと云ふことは、種類或は個人(個性及び特色等)を独立し保たせて、其の個性の特色を発揮せしめて、其の間に自由を与へられて一つの大なるものとなつたのを言ふのであるが、Uniformと云へば軍隊の様にならぬに形にはめて、形を一にして終ふのである。故に個性を縛つて、一定の形にして終ふ事を言ふ。故に教育の画一と云ふことは間違ひである。其の間に必ずUnityがあるべき筈である。其処で教育の上にも宗教の上にも此のUnity調和と云ふことが必要である。

帰一協會の事を世間の人は宗教の合同と思つて居るが、之れは誤りである。併し宗教の色々なる特色、程度があつて、之れは時と処とに由るのである。けれども其の生命を出して居る処の真髓は一つである。宇内と云ふものが其の間にちゃんと統一する処のあるのは、其の万有の真髓に於て総べて一つになり得る、一つに協同し得る、調和し得る、一つになりうる、接近し得る処の原理がある。其処に於て帰一しうる、其処に於てUnityとなりうるのである。

其の訳は此の間、自我の意義と云ふことを申しました。

其れで三年、二年はお解りになると思ふ。そこで私共は調和、統一、合致と云ふ原理に由つて、私共が心に描いて居ることを実現しやうと思ふのである。

其のUnityと云ふのは、どう云ふ關係に依つて出来るものであるかと云ふと、之れは私が昨年、先づ其の主義に由つて統一さるゝ様に、其の自分の見た処のVisionと云ふものの意味を暗示する為めに、一つの目標を書いて謎をかけたのである。又其の謎を解く様に試みたのである。其の意味も申しとおかぬと、先きの事がわからぬのである。

此の標を私が書きましたのは昨年の正月でありましたが、此の頃になりまして我が国についての一巻の書物がありますが、此の原稿は昨年書いて今年になって出来たものでありますが、其の考へは私の考へと偶然同じことになって居る。丁度私の拵へたものと一致するのではないけれども、其の形が殆んど同じことであり、又説明が一致するのである。

[Notion book]

其の一つはNoion bookであるが、先づ門に入ると云ふことは階段を上ると云ふことである。

キリスト教の✝と仏教の卍とは完全、即ち○と同じことで、之れが即ち総体である。故に、無限絶對を意味する処のものが○であり、✝も卍も同じことを意味するのである。

□は規律と言ひ、公平と言ひ、正義と云ふことである。□は儒教を現し、三角(△)は人生の経験の三方面を表はして居る。三方面とは三位一体で、どの宗教にもある考へである。

[要求の二方面]

即ち、思考、意志、感情である。感情と云ふものが我々の人生の根本であり、我々の総べての働きの動機である。之れあるが為めに要求が起る。其の要求に二つあつて、一つを欲望と言ふ。身体が物質を欲しいと云ふのは卑い要求で、之れを欲望と言ふ。もう一つの高尚な方は、真理を見出だしたい、向上したい、我々の逢ふべき実体に逢ひたい。之れが高い心の要求で、動機となるのである。

動機は何を目的として居るかと言ふと、高い方から云へば実現を要求して居る。実現すれば満足の意味し、満足すれば幸福を感じる。何かを実現したい、我が物にしたい、其れを取りたいと云ふ動機がある為めに、我々の活動が出来る。之れを興味と言ふのである。之れなくしては、我々の生活は貧弱になるのである。思考は何になるかと云ふと、科学的知識となる。科学的知識とは統一したる知識で、其の実体は何であるかと云ふと、人類の経験である。即ち、科学的知識とは思考、考へであつて、之れが導きとなって我々の行くべき道を明かに示す様になる。之れが我々が学問をし、知識を願望する所以である。

[三方面の説明]

意志とは此の要求を思考力に由つて統一し、組織し、行くべき道を明かにし、為すべき方法を考へしめて全勢力、全動機を集中して活動する処の力である。其の意志とは何であるか。即ち努力し、活動し、奮闘する。之れは目的的活動である。そこで教育は三方面からせねばならぬ。即ち動機を養ひ、其の目的を選択し、向上する様に内外からせねばならぬ。

次には之れを実行せしむる様に知識を養はねばならぬ。然しながら、唯だ動機があり知識があるのみではいけない。活動がなければならぬ。勇気がなくてはならぬ。堪能な処がなくてはならぬ。熟練がなくてはならぬ。之れが訓練の必要なる所以である。

斯くの如くに三方面があるけれども、其の三方面はお互に調和し統一されるもので、其れが完全に整うたのを指して吾人は人格と言ふのである。

そこで人格とか生命とか云ふものは、○とか□とか△とか云ふものがよく表はして居ると思ふ。又、之れを社会的、宗教的に調和して行く為めに、又皆さんが其の意味をよく解釈する為にかう云ふものを拵へたのである。之れはかう云ふ形にすると統一と云ふ事が画一の如く誤解せられ、固定したものの様に考へられ易い。そこで之れは活動的のものであると云ふ意味を与へる為に描いたのである。其れから此の感情と意志と知識と云ふものが統一せられて、目的が立つのである。目的のない生活は無意味であり、自暴自棄となり、悲観の生活となるのである。故に我々は先づ第一、朝起きた時に目的を定めて、何もかも其の目的に叶ふ様にせねばならぬ。併し其の目的を定むるものは、我々の意志と境遇である。故に右が境遇であり、左が宇内的關係である。

其の次には、意志、知識、満足なる感情を以て一日を終はると云ふ様に、其の統一の方法、及び進歩の順序等をお解りになる様に表はしたのであります。而して、大体は之れを門としてあるのである。其の向上する意味、及び其の向上の道を示す為めに、斯くの如きものを描いたのであります。斯くの如き生活、斯くの如き内外の協同を指して、私は之れを帰一と言ふのである。

そこで、あなた方の経験及びあなた方の修養に、三つの方面がある。感情の方面即ち動機を養ふ方面と、知識を養ひ頭脳を明かにする方面と、活動の方面と此の三つである。

[Drama]

そこで之れを大なる文芸、合奏、即ち美の方面と統一して空気がよくなり、校風の上る様にしたい。之れを指して私はDramaと言ふ。今まで此のDramaの方面が欠けて居つたのであるが、之れが必要ではないか。之れを合奏とし、遊戯としなければならぬ。

[一階段を上れ]

此の内に、参考館も大正博覧会も皆入つてよいのである。其れには文学、殊に外国語と云ふものも必要である。之れが寮監方の中に加つて居る処の修養会、及び寮舎にも其の考へを入れたいと思ふ訳である。之れは実生活、実社会と連絡をつけて、其の空気の育つ様に致したい。之れは皆さんがなるべく自動的に考へて、而して指導者、寮監方の指導も受けて一方に偏することなく、個人的にも団体的にも立派なる人格が現はれて、四月までには是非共、一階段を上つて有効なる結果を上げたいと思ひます。

[中表紙]

大正二年十二月六日
大学部全体にて

大正二年十二月六日
大学部全体の為に

此の頃、ある府下の有力な雑誌から、来年新年号へ出す為に先生の御感じを伺ひたいと云ふことである。夫れは、先生は何が一番**こはい**とお考へになるのですか、と云ふことです。之れは人を弱いものとして見くびつたことであるかと云ふと、夫れは早計である。よく考へて見ると、**こはい**と云ふことは只子供とか腕力の少い御婦人達にあるばかりでなく、如何なる勇士にも偉人にも、殆んど本能的にあるものである。

[自衛的本能]

其の本能の根を分類して見ると、一つは自衛的本能と云ふもので、自我保存、生活欲と云ふもののある以上は、必ずあるのである。

[恐怖心 憤怒]

恐怖心は、力の弱いものが逃げるために消極的自衛をする上に欠ぐべからざるもので、憤怒は積極的に防御する時に発するのである。故に恐怖心がわるいものではないけれども、此の恐怖心が余り度を失して他のものに勝ち過ぎると、臆病になる。憤怒も過ぎると犯罪になったり、自分の徳を傷つけたりすることになるから、恐怖も憤怒も意志を以て制しなければならぬ。そ一して或る時には退いて護り、或る時には進んで防御をすると云ふことは、自衛上必要である。そこで私は今日、同じくあなた方に、何が**こはい**でありませうかとお尋ねする必要があります。

こはいと云ふことは、自分のために**こはい**こともあるのである。寮監が寮生を保護する上に、先生が生徒を育てる上に**こはい**、防がねばならぬこともあるのであります。

私に何が**こはい**かと問はれたならば、私自身を護る上に又自分の価値を保存する上に、何が一層恐るべきものであるかと云ふことは今日は申しませぬけれど、私があなた方のために、又寮監があなた方を保護する上に**こはい**ことは何かと云ふと、此の間から申して居る三つほどのことになります。

第一は、病氣。殊に此の頃**こはい**と云ふのは、人に伝染する病氣。

第二は、火事。

第三は、狂人、気の狂うた人。

斯う云ふ順序になる。之れは余り神経にやんでも困るのである。自動車に向ふからプブウ云ふて来ても、気違ひが来たと云ふことも、亦自分を保存することも、余り気にかげぬ人には誠に困るのであります。

[結核性]

一番**こはい**のは、目に見えないところの結核性の黴菌の如きもの、或は蚊の如きものは恐るべきものである。外国では段々衛生がとどいて減って行くのに、我が国の肺結核患者は年々殖えて来る。之れは恐るべきことでもあります。夫れから

黴毒、之れも恐ろしいもので、其の害は子孫に伝はつて国民を毒するのである。今日は之れ等恐るべきものも防御する道が開けて居るから、あなた方はわるい病氣にかゝらぬ様に注意しなければなりません。

其の次は火事で、之れは私が何時も言ふことである。私自身には**こはい**はない。あなた方の為に恐るゝのである。故にあなた方は、よく火の用心をして下さらねばならぬ。

第三は狂人。此の中には人殺し、追ひ剥ぎなどいろいろありますが、之れは一つの病気で、何か欠陥がある。或は嫉み、怒り等に本づくものもあって、いろいろあるが**こはい**のものである。其の原因は何処にあるかと云ふと、内にあるので、其の狂うた人が隣の人に及ぼすのも誠に恐ろしいものである。故に自分の内を支配し、人の心を統御しなければならぬ。只刀や短銃などを以て腕力でするのではなく、精神の内の方からして行くより他に道はないのである。

人殺し、脅迫、又剣で突かれると云ふこともある。英京倫敦あたりの此の頃であるならば、昼よりも夜の方が明らかであつて、電車などは夜通し通つて居るから殆んど犯罪の余地がない程である。けれど、夫れにも拘らず非常に危険である。紐育でも倫敦でも、巡査が何かがついて行つてくれねば昼でも男子でも行かれないやうな処があるのである。日本に未だそんな処はないけれども、いろいろなことがある。

如何なる豪傑でも、如何に武芸に達して居つても、昼日中刺されたものもある。故にあなた方はど一したら自己を防御することが出来るであらうか。憤怒と云つても、つまらない憤怒はだめである。故に先づ、心の内を制しなければならぬ。己を制するものは人をも制することが出来るのであります。

[ホールドアップ]

欧米にはホールドアップと云ふやうなこともある。けれど日本のやうに、男が婦人を侮ると云ふやうな犯罪はないのである。彼方には宗教が盛んであつて、婦人に一つの優すべからざる精神がある。隙がない。之れは日本の武士道のやうなものであつて、武士と云ふものにはすぎがない。子供の時からそ一云ふ教育を受けたのである。人間と云ふものは、どんな悪人でもやっぱり一つの心がある。どんな強盗でもやはり神の子であるから、人心を統御して居る力ある者に対しては、敵対することは出来ないのである。精神力を養つたものは胆力がすはつて居るから、狂人の心を統御することが出来る。荒れ狂うた獅子を誰れがおさめたかと云ふと、一人の獅子つかひが獅子の気をつかうて、とうとう檻に入れたと云ふことである。

私が若い時、奈良の郡山と云ふ処で伝道をして居つたことがある。其の頃、村中が非常に激昂して、**あふれ者**を備うて来て石を投げたり何かするけれど、此方は少しも騒がず泰然として説教をする。さうすると少しも手出しをようしないのである。

夫れであなた方、女のお方でも心の内にちゃんとした処があつて、神聖を失はぬやうに神と我れとの間に交通があつて、ちゃんとして**うろたへ**なければ逃るゝことが出来るのである。

も一つ一つの消極的の道がある。夫れは君子は危きに近よら

ずで、成るべく避ける、近づかないのである。も一四時であるが、四時には必ず帰る。所謂、日のある中に帰ると云ふことを断行しなければならぬ。さうして、野原とか何とか云ふやうな余り通行のない所は、一人では往来しないと云ふこと。夜一人であるくと云ふことは宜しくない。故にお母さんとか女中とか連れ立たないで夜一人あるくことは断じてしない。寄席などには決して行かぬこと。斯う云ふことは自衛のために、自我の価値保存のために必要である。如何なる場合といへども、あなた方自ら尊い自分を見出し、自分の内に無限の防御力を貯へて居ると云ふことが最も大切であるけれど、此の頃の出来事に対して是非とも心得ておかねばならぬことを申すために、今日は之れだけ一寸申しておきます。

[中表紙]

大正二年十二月十三日
大学部全体にて

大正二年十二月十三日
大学部全体のために

外部の生活に二たとほりある。極我々に接近した処と、遠方にある処とであります。我々に最も接近した外部の生活とは身体で、此の身体が内部の生活、即ち精神と共同することが大切である。夫れには身体を包圍して居る処の境遇が整うて来なければならぬ。之れは外部の生活であります。そこであなた方が今参考館とか寮舎とか云ふ外部の境遇を改善することに尽して居らるゝ。之れは適当なことであると思ひます。
[雨戸について]

あなた方が、も一つ気がつかぬか知らぬと思ふことについて御注意をしようと思ふ。夫れは、寮舎の改善について考へのある方はお出しになるやうに申しておきましたが、或る処からは少し出ました。之れは、よい考へがあるなら出来るだけ採用しようと思つて居りますので。其の一つは寢室の雨戸である。之れがよく出来るならば、国民全体のために及ぼしたいと考へます。あなた方は斯う云ふ雨戸を入れて、空気の流通をよくして風もひかず、眠りもよく出来、食事も進むやうにならねばならぬ。

も一つは、私は日本国民の教育の為に申すのである。あなた方は将来、日本国民のお母さんにおなりなさるのである。将来の我が国民は野に伏し、山に寝ねても堪へ得るだけの者とならねばならぬ。夫れには、あなた方がそ一云ふこともわかつて強い人とならねばなりません。

夫れで寢室をあけて生活したと云ふこと、姿勢をよくして注意をした為に、之れ迄疲れ易かったのに疲れなくなり、体重が幾らふえたと云ふことを統計にとって見るとよいと思ふ。そ一して、あなた方が第一に気をつけねばならぬことは、呼吸器を丈夫にすることで、之れは始終注意しなければなりません。

[Rhythmical]

我々はおちつくことも必要であるけれども、生活は活動であるから Rhythmical でなければならぬ。

[Art]

私共の生活は Art である。Art とは精神的発表である。自分の情緒とか想像とかを優美に発表するものが Dance であり、音楽である。故に自分の美的生活の統一した発表をすることが大切であります。

故に、Rhythmical に動くこと云ふことは衝動から来るので、其の衝動は本能から来る。本能は生の要求から来るのであります。故に本能から衝動になり、衝動が活動になるのである。故に私は、此の律動的活動に由て確に身体を強くすることが出来たと思ふ。之れには音楽が必要である。之れは、誰れも誰れもの職業ではない。専門ではない。併し誠に大切なことであるから、朝夕注意することが必要であります。

既に幾らか応用なさつて、皆さんが健康におなりなさつたと云ふことは誠に喜ぶべきことでありますが、猶よく研究して、そ一云ふことの表なども出すことが出来たならば結構であると思ひます。ど一しても身体が強くならなければ、只精神、精神と言つてもだめであるから、健康を増進すると云ふことを怠つてはなりません。故にど一か此の冬に、そ一云ふ外部の生活をも改むることに骨を折つて戴きたいと考へます。

[中表紙]

大学部全体の為に
大正二年十二月十四日

大学部全体の為に
大正二年十二月十四日

[原動力について]

今朝はあなた方にとって、又我が学校にとりまして、及び我が国家にとって最も有用な時である。殊に我が国の運命を開いて参りますに、及び今日の我が国難を救済致しますに於てならぬ根本の真理、又は力、原動力と云ふ様なことについて申すことに致します。そ一すると非常に深い、複雑なむづかしい事に思ふかも知れぬけれども、決して不可能なことではない。之れは唯だ原理として知力を以て考へるばかりではなく、皆さんが其の真相に徹底なさるやうに致したいと思ふ。

そこで一寸始めに、其の問題の要点をつかまへ易いやうにする前に、詞をつかはねばならぬ。私共は三十年来、婦人の教育にばかり携はつて、女子の方の教育にのみ経験が偏つて居る。そ一して我が国の女子がも一つ進むべきではないか、女子の人格が最早、覚醒すべきではないか、も一其の暁ではないかと思ふけれども、ど一も未だ其の方面ももの足りないやうである。そこで他の男子の大学と比較して見るやうな機会が私には出来たのである。物の改善をしようとするなら

ば、其の病源を診断して治療の法を講じなければならぬ。

[年限短縮]

そこで先づ、教育のことも今日の状態を調べて、其の改善を謀ることが必要であります。実力が出来ぬと云ふことについて心配を持って居るのは実際のことで、お互が感じて居ることである。年限短縮と云ふことは誰れも言ひ出したことであるが、男子の大学を卒業する年は平均二十七年半で、其の上に徴兵と云ふことがある。故に我が国の男子は二十九半、即ち三十にならねば学校教育を卒へて生涯の天職にとりかゝることが出来ぬと云ふ。そーしてよい学問が出来ればよいけれども、真実のことは出来て居らぬ。そーして我国の学生は語学を整理しなければ真の力は出来ぬ。故に先づ第一に、我国の文学を整理しなければならぬ。第二に、外国語を一ヶ国にして、他は選修科にしなければならぬ。

[外国語について]

其れには英語の教授法を更へねばならぬ。其れをするには先生から更へねばならぬと思うて、我国では外国語のオーソリチーと目されて居る先生の所へ行つて意見を交換して見ました。処が其れは最大困難である。第一、我国では外国語の先生がない。今日、英語教員の検定試験を願ひ出たものが190人で、第一の試験に及第したものが35人、第二の試験後に18人、最後の試験を通過したものが11人であるが、其れも甚だ覚束ないと云ふ話である。そーして我が校の小山さんは其の中の最優等者であると云ふ。之れを申して、あなた方に安心させるのではない。其の真相を知らねばならぬ。之れはなさない事ではないか。

[我国今日の学風]

も一つ、大臣をした人、大学を卒業して博士になって有力なる地位を占めて居る人々の告白を聞きました。優等生とはどんなものであるか。今日の学生は参考書を読まない。又読む暇がないと云ふ。四年間の講義は千頁を暗記して、其の通り答へた。其れが優等生である。其れも三ヶ月勉強すればよい。後は図書館へでも行って勉強すればよいと云ふ。三ヶ月の間、健康をも害して汲々として得たるものは何であるか。其れは学士と云ふ学位である。之れが今日の我国の学風である。あなた方はかう云ふ空気を吸うてお居でになつたのである。此の校へ入つて、いくらか違つた風に頭が向いたであらうと思ふ。之れ丈の年月をかけたならば立派なる人格が出来る筈である。然るに自分の考へを以て物を始めるとか、発明発見をするやうなことは少しも出来ぬ。之れは何が足りないからであらうか。之れを皆さんに少し考へて頂き度と思ふのである。

[目的物に行く二途]

覚醒とは何であるか。求めよ、さらば与へられん。叩けよ、さらば開かれん。其の開かれんとする奥の院の戸は何であるか。其れを真に悟つて貰ひたいと思ふ。私共の要求は決して空なものではない。確に実在がある。実在があるから、我々には要求があるのである。其れであるから我々は其の実在にあうことが出来るのである。

其の目的物に行くに、二つの道がある。極内面的に或は

普遍的に行くのと、特殊に行くのとである。どちらからでも行かれるのである。又両方から相助けあうて行くと、徹底することが出来るのであります。

[自動について]

其の根本は何であるか。私共の生活のエッセンス、我々の人生の価値の価値は何であるかと云ふと、色々見方がある。之れを先づ力と言ふ。力とは活動である。活動の真髓は要求である。其の要求とは何であるか。之れを当時の詞で言ふと Divine nature と言ふ。神聖なる神の如きものがある。之れを我が国では和霊(にぎたま)と言ひ、仏教では仏性と言ふ。ソクラテスは Self-knowledge と言ふ。其の自分を見出したならば、真の物になれる。キリスト教では神の子であると言ふ。誰れでも仏の性があるから、自分を見出したならば仏になれるのである。自動とは其の神性、仏性、和霊が顕はれるのである。

教育の目的は、此の一番の本の力を見出だして覚醒させやうと云ふのである。此の本の力が出て来なければ駄目である。之れが今日の一番の目的物であり、之れを見出ださせやうと云ふのである。

之れは普遍的の原理である。根本的の要求である。其の根本的の要求とは誠に複雑なもので、無数、無限の生活である。故に、其の内容は必ず特殊の生活が原因をなして居る。即ち具体的の生活がある。之れが我々の日常生活である。此の日常生活に於て、我々は色々欠点を持って居る。其れを改めねば、ど一しても目的を達することは出来ぬ。

[自殺と人殺し]

今日私が用ひやうとする詞は自殺と人殺しとである。人殺しとは、人の性を殺すのである。此の自殺と人殺しとを悔ひ改めねば、真の生活は出来ないのである。其の深い処の経験を実現しやうと云ふのである。其れを皆さんが真に覚醒し実現すると云ふことが、今日私のあなた方に説明したいと云ふ要点であります。

其処に徹底するに、二つの途があるから両方から申すことが必要であるが、今日の場合は具体的の方面、即ち日常生活の方から申すのが得策であらうと思ふ。

そこで先づ私は、性の Unit から始めて、我々の人生を完全にせよと申したい。人生とは生活である。Units of life とは何であるか。私は要求、或は興味と言ふ。Interest, Demand と云ふやうなものは何かに傾いて居る、要求して居る。生きるとは何であるか。生きたいと云ふ要求がある。自分の中に遭ひたいものがある。欲しいと思ふものがある。之れが人間の要求である。知識を要求する、又活動する、或は自分を発表すると云ふのは皆之れであつて、人生の真髓である。之れが我々の能力の一番の土台である。故に之れを育てると云ふことが人生の一番の目的である。之れを害し、圧迫するのは悪であり、人殺しである。我々が力を養ふとか人を教育すると云ふには、此の力を育てねばならぬ。

[要求とは何か]

然らば、興味とか趣味とか要求とか云ふものは如何なるものであるか。其の要求を殺すとは、ど一云ふことであるか。

真に之れを育て行くことと云ふことは如何なることであるか。其れが分らねばならぬ。今迄は、此の実体を詞を以て形式にばかり捕はれて、実相を知ることが出来なかつたのである。其の要求の一番の原因や歴史に遡って調べて見ると、人間にある本能と云ふものである。其の本能はど一して実在して居るか云ふと、やはり人類の経験であつて、長い歴史を持つて居るものである。曾て生活した処の性の持続である。第二の本能と云ふものもあるが、之れは我々の生れてからの経験である。本能とは何であるかと云ふと、活動である。本能から出る活動を衝動と言ふ。其の衝動と云ふのは何であるかと尋ねて行くと、其れは要求である。其の要求は何を要求するかと云ふと、実在を要求するのである。即ち普遍的実在をするのと特殊実在を要求するのと二つある。そ一して特殊実在は非常に沢山であると云ふことになる。

[普遍的と特殊的精神生活]

其れで、其の無数の興味、欲望、要求を分類して見ると、大きく分れば二つになる。

普遍的要求 = 普遍的精神生活

特殊的要求 = 特殊的精神生活

[人間の興味]

も一少し細かく分けると、個人的或は個人的要求と云ふことである。一番分りよい要求は我々の身体から起つて来る興味で、食べたい、飲みたいと云ふこと。之れは悪いことだと言ふけれども、決して悪いことではない。生きることの奮闘が善行であるならば、飲食、起臥は善行である。其の自分の要求を満たすことに由つて満足がある。我々の欲しいと思ふことは皆我々が其のものに対する要求があるから、其の物に価値がある。若し我々に美と云ふ要求がなかつたならば、瓦も玉も鉛も金剛石も、何の価値のないものである。昔は此の飲みたい、食べたい、美しい物が欲しいと云ふ要求を悪として殺して終つて始めて、善である、道徳である、人生であるとしたのは、生と云ふものを殺して了つた処の誤りである。

其の次の時代に行くと、人と人との関係を縁と言ふ。其の縁が理想的に行つたことを友情と言ふ。互に尊敬し、互に意見を交通し、互に助けあふと云ふ処から、大きくしては国風となり、人道となる。之れを人間の興味、社会的興味、人道的興味と言ふ。

[根本要求]

も一一つ上の階段になると、理想的要求がある。或は之れを目的的兴趣とも言ふのである。も一一つ、之れが徹底して普遍的興味となる。之れが宇宙の実体、即ち神と云ふやうな無限絶對なる実体と一緒にならうとする。之れが人間の内にある根本要求である。

此の千差万別なる要求の内に調和統一、平均律動がある。之れが我々の内から出る処の興味であり、要求である。之れが人生の原動力であり、価値であり、真髓である。之れを發達させ、之れを整理し、之れを実現することが本である。本を忘れて、枝葉を幾ら作らうとしても出来ぬことである。然るに、此に起つて来る問題は其の興味と興味、要求と要求との間に衝突、矛盾と云ふものが起つて来る。人生には悲劇と

喜劇とがある。煩悶があり、幸福があり、苦しみがあり、喜びがあるのは、皆之れからである。そこで我々には考へる処の力が必要である。人生の意義を全うし、我々の發達を遂げんとするならば、真理を見る其の光りに照らされると云ふ事が必要である。此の光りを見ると云ふことは要求と要求、興味と興味とを適合せしむることである。

[精力集注]

科学の目的は人生無数の要求が一つのものに Organize されて、秩序整然と一致調和さるゝことで、かくして初めて無限の力が發生するものである。之れを精力集注と言ふ。其の無限の要求の間に衝突、矛盾が起つて来ると、性を破壊するのである。我々の不幸、煩悶、失敗と云ふことは矛盾である。要求が要求と衝突するのである。人を殺したり自殺をしたりする。之れが人生の悲劇である。故に要求を活かすと云ふことは、無数の要求を調和統一することである。そこで凡ての要求を真理の光りに由つて調和統一して、一大原動力としなければならぬ。

[善とは何か]

其の次に大切なものがある。かりに満足、充実、果たす等の詞を用ひませう。要求とは其れを満たすと云ふことである。之れにも特殊と普遍的のものがありますが、日常生活は特殊のものである。毎日、「出来上りました。嬉しう御座います。」と云ふ感謝の念があつて、煩悶がない。内に要求があるならば、其の通りになると云ふことが大切である。

信ぜよ、成る。求めよ、与へらる。叩けよ、開かる。私共の要求はきちつと合ふ。満足したと云ふことがなくてはならぬ。之れが人間の状態である。然るに今日の生活が、ど一も其の処が出来ぬ。したいと思ふことを仕遂げえぬと云ふやうでは生命が枯れて終ふのである。故に、どうしても経験しなければならぬ。之れをしなければ、どうしても我々の力は出来ぬ。人生は發達しないのである。故にあなた方の要求は必ず満たされねばならぬ。そこで、欲望の満足、興味の充実、要求の果されたこと、之れが即ち善である。

善と云ふことを人に由つて、普通善と道徳善との二つに分ける人があります。例へば、食べると云ふことでも丁度よく食べねばならぬ。総てがよく整うて丁度よく出来たと云ふことを道徳的善と言ふ人がある。

[Art]

Fulfillment, Satisfaction と云ふことがなくてはならぬ。之れは学問にも、修養にも、人との交際にもなくてはならぬ。其れが即ち Art である。Art of living である。修養はそこまで行かねばならぬ。唯だ思うてばかり居つても得られぬのは誤りであり、失敗である。故に、其の満足に迄達するには道があり、順序がある。

今日は、教育も宗教も道徳も形式にばかりなつて居つて、どの宗教にも死んだ信者がある。故に形式だけでは役に立たぬ。けれども形式は一つもいらぬと云ふのではない。知識を要する。即ち Form も必要であるが、やはり進化して行くべきものであるから、よく考へて実生活に倅らぬやうにしなればならぬ。真の満足、真の充実と云ふことについて着々成功

して行く、実を挙げて行くには、第一に其の組織から関係を明かにせねばならぬ。

[Unit]

故に先づ始めに考へることはUnitであつて、之れは単純なる要求である。第二は其のUnitとUnitとが複雑になるにつれて考へねばならぬ。其の働きを思慮と言ふ。かくして相互の関係が相助けあうと云ふことになる。之れを謹慎、慎重Prudenceと言ふ。人と人との関係に於ては、コーポレート団体にならうとする考へで、団体とは人と人が助けあつて其の人格を同等に見る。団体は個人の人格を尊敬し、個人は団体を尊敬する。之れをJusticeと言ふ。

[Good will]

故に団体とは我々の人格的興味のJusticeであり、総てのGroupを同等に見て尊敬し、其の関係の宜しきを得たことをGoodwillと言ふ。団体には知情意がある。故に感情に対しては同情がある。真に修養が出来たならば、決して憎み、怨みとか、相反発することのあるべきものではない。真に人を兄弟姉妹と思ふやうになる。真に其の情操が燃えて来て始めて人を同等に見、又同情が出来て来る。之れが大きく調和統一されたものが善意であり、我々の精神生活である。其の精神生活が出来て全体が満足した時に、大なる感謝がある。之れを善と言ひ、人生の価値と言ふのである。

[人格を高めよ]

故に人生の価値は時々刻々に、事々物々に現はれる。其の価値が蓄積せられた時に我々の人格が現れ、其の人格が現れた時に我々の幸福が得らるゝのである。故に、問題は其の原動力を養ふことで、其の本は要求である。即ち我々の人格を高めて行くことである。其の本たる信念をやしなはねば何事も出来ぬ。

[卒業の意義]

そこで私は、あなた方の学問をすると云ふこと、卒業と云ふことの意義を明かにしたい。

あなた方の要求が満たされ、あなた方の人格が発現せられたことが卒業である。併し人生は律動である故に喜劇があり、悲劇がある。我々は何時も輝いた光りばかり見ては居らぬ。陰もあれば時に暗くなることもあるけれども、高調に達して其れに勝つて進んで行くこと云ふことが、学問の力である。大満足は即ちGoodwillである。大なる関係に於て最も高尚な、最も大なる要求が満たされたことが大高調であつて、之れがあなた方の卒業である。

[人生に卒業は幾度もある]

故に卒業は人生に幾度もある。先づあなた方の卒業は此の冬にある。近くは移転式である。人と人との間によく調和して満足をする。皆が勢を出して大潮流を作つて、大なる満足を得らるゝやうな働きをする。之れが調和である。故に私は今年の暮に一度卒業式があり、明年に又一度卒業式がある。之れが我々のConcordである。

[戯曲]

英人 アリス・エム・バックトン嬢作
戯曲「熱心なる心」より

若き「淋しき心の王」の言に曰く

或る時夢現の中に、彼れ——王——の立てるを見ぬ。
彼れの着物には生きてる言葉あり。

諸々の国の言葉にて——其の言葉は——平和なりき。

彼れの光栄は千々の姿あれども——皆譲りて。

治むるにあり、死つゝも知り且つ愛するにあり。

彼れの中には暗黒と光明と融け合へり。

我が心の神よ、現はれ出でよ。

[中表紙]

大正二年十二月十九日

参考館開館式並びに豊明寮の移転式にて

大正二年十二月十九日

参考館開館式並びに豊明寮の移転式にて

今日は豊明村の移転式をあげるなのであります。恰も豊明寮と晚香寮の一つになります結婚式とも言ふべき、又後の其の一部から生れ出ました参考館の子供の誕生日とも言ふべき、今日は誠におめでたい日であります。故に、聊か其の関係のお方をお招き致しまして、大学部及び高等女学校の未だよく御存じない方に知らせたいと考へ、且つ過去十三年間に蒙りました種々の好意に対して感謝の言を表はしたいと思ひます。それで丁度一昨日、即ち十二月の十七日は豊明寮の開寮式から満十一年で、何時も十七日に記念式を致して居つたのでありますが、少し都合があつて延ばして、夫れに参考館の開館式をも同時に行ふことに致しました。

此の豊明寮が本校の校風、並びに寮舎生活の発達について多大の力をそへたことは、今更申す迄もありません。此の記念式の日に寮の由来、及び寮の発展した原動力について記憶を新に致します。之れまでは一般に寮舎のことを寄宿舎と言つて居りました。然るに私共は寮と名づけて、寄宿舎とは申しませぬ。其の訳は、寄宿舎と云ふことは余りに合宿所のやうな、兵營のやうな連想があります。我々の理想は之れを家族風に致したい。即ち之れ迄、学生生活に宿弊がありましたのを十分改善しやうと云ふ考へを持って、寮と云ふことに重きをおいた。

[内寮について]

私が此の学校が出来て始めて生徒をよせて、始めに此の学校の主義を話した時に、又此の学校の生徒の責任を説明致しました時に、ど一云ふことを一番に申したかと云ふに、此の学校の校風、寮風を生み出さなければならぬことを申しました。其の寮がど一云ふ寮風を生み出したかと云ふことは、今日の催しの中に幾らか現はれて居るであらう。之れは本校の歴史を考へますとき、一番先きに考へなければならぬ要件であります。そ一して極最初に出来た寮は、今残つて居ります内寮、即ち一寮から八寮に二百人程の学生を八つに分けた家庭に組織したのであります。

第二年目になりまして、女子大学の主義、現状等を本校の評議員 岩倉公爵から天聴に達せられまして、第二年目の九月に至りまして 皇后陛下から御下賜金の御沙汰を蒙りました。此のことは本校の校風を培養するに有力なる感化でありました。其の翌年の春頃から起りまして、今頃出来たのが即ち豊明寮であります。寮舎が益々狭くなりまして、他のことはいろいろ批難をうけたのであるが寮舎は初めから世間の賛成を得たのである。長く本校の教鞭をとって居りました柳井君などは、高梁中学の寄宿舎をもすつくり此の校の寮舎の主義によって導いて居られます。

[豊明寮]

扱て私は、当時日本銀行の理事をして居られた森村翁に事情を訴へました処が、然らば先づ試みに寮舎を建てやうと云ふことになって豊明寮が出来たのであります。始めは三軒続きの豊明寮が起り、次に二軒出来、又折衷寮が出来て大きな村となりました。

[華山寮]

殆んど同時に樺山伯が本校のために地所を譲って下さって、華山村が出来たのであります。

[曙寮 晩香寮]

それから曙寮と云ふものが出来た。豊明寮は本校の東に当る。私は朝早く起きて用事をしやうと思つて東の方を望むと豊明寮の方から明りがさしかけて、其の日が段々盛んになって曙寮が出来、それから澁澤男爵が本校のために晩香寮を建て下さりました。其の晩香寮の出来たのは、本校の外部の境遇に於いて最も盛んな時でありました。

私共は本校の寮舎生活を信じて、地方から出るものは皆寮舎に入れるつもりであつた。父兄の方でも寮舎を信じて、東京に家庭のあるものまでも寮舎に入れると云ふ有様でありました。其の前はど一して必要をみたして居ったかと云ふと、高田村に高田寮と云ふ一時の建築をして間に合せ、東には高田博士のお宅の裏の方におばけやしきと云つて人の住まない安い地面があつて、そこにも寮をかまへましたけれども、かくの如きちりちりになって居ることは監督上、不都合であり、又経済上から云ふも損である。故に行く行くは晩香寮の処へかためやう、猶今日一所に合すると監督の便があり経済上にも便であるからかうしやうと云ふので、度々評議員会を開きました。それと晩香寮の裏に千幾百坪の空地がありますが、そこに外国人が寄宿舎を建てると云つて買ふことになり、之れは日本の風俗として甚だよくないと云ふので、其の土地へ合する地代としても安く出来ると云ふので、愈実行することに致した。そして本年は参考館も必要であると云ふことから、急に断行することになったのである。而し其のためにあの寮舎を四構へばかりうつしたり、又参考館をたてたために五千円余りかゝつたのであるけれども、明年から地代として払つた千円づついらぬことになる。夫れから豊明寮が出来て満十一年になる。故にそろそろ修繕せねばならぬ。それが今度は半ば新築と云ふことになり、すつくり丈夫になった。故に五千円をかけたが、半は新しくしたので経済上にはこんな利があり、精神上には之迄三方に途をへだてゝ居るから

火事と云ふやうなことの心配もせねばならず費用もかゝつたのであるが、今後は寮風を育てるにも大いに利益がある。故に私の申した二つのものが一つに融合して、人格と人格との結婚式の如き生れかほりをなす紀元を与へた。

[参考館]

今日は此の祝ひに澁澤さん、森村さんもおいで下さる。今来、此のお二人は殆んど兄弟のやうに凡てのことを一緒にして下さる。そして参考館の出来たのは誠に美観である。永く必要である所の参考館、之れは**たまご**ではあるが、之れからあなた方が育てやうと云ふので、いろいろ陳列をなされた。今迄ど一かして参考館や図書館が欲しいと思つて居つたが、あなた方も其の必要を感じて、いよいよ此の度出来たのであります。

猶、一言申しておかねばならぬことは、豊明寮の出来た時、寺田勇吉君が非常に便宜を与へて下さつたことである。殊に先生は教育家であるから、生徒の監督も幾らかして下さつた訳で、豊明村の村長と云ふ名誉職をつとめて下さつたのである。其の豊明村を一時動かすことは残念なやうでもありますが、そ一云ふ訳でありますから、土地は動いても猶、今後御尽力下されんことを此の際お願い申しておくのであります。

殊に此の記念式の際に申しておかねばならぬことがある。此の講堂の此の柱は大黒柱とも云ふべきものであります。此の親石の下には、ど一云ふ力がこもつて居るであらうか。こゝの定礎式を行ふ時に岩倉公爵がおいでになつた。その時案内者が公爵たるを知らずして、一番末席にお通ししたのである。こゝで歌をうたうて式をすませて後、私が遙か末席に公爵がおいでになることに心づきまして、お詫びを申しました。けれ共公爵は、そ一云ふことを少しも意とせずして、其の後もやはり御尽力下されたのである。不幸にして薨去になりましたけれども、やはり此の土台の力となつて下されたのであります。殊に森村さんの御舎弟 豊さん、森村さんの御子息 明六さん、かう云ふお方の意志によって此の館が出来たのである。猶、此の礎の中には故 三井三郎助君、岩崎彌之助男、内海忠勝男、近衛公爵、児島惟謙君と云ふやうな、皆発起人であり評議員であり監事であると云ふやうな、此の校のためにお尽し下さつた故人の意志がある。外国でもそ一云ふ所がある。故人の意志、故人の人格があつて、永く記念となつて居るのであります。最も記念すべきことは、母校の礎となり母校の土台となつて居る所の故人及び生存して居らるゝ多くの人々の意志の固まりを以つて、此の母校が建設せられ、母校の意志が成長発達して居るのである。私共はかくの如き故人の意志、及び多くの人々の精神、厚意に対して深く感謝の意を表して、今後の決心をかたむることを以て今日の式を記念せねばならぬと思ふ。私は母校の発達の由来及び歴史について、一言申した次第であります。

[中表紙]

大正二年十二月二十四日
第二学期終業式にて

大正二年十二月二十四日
第二学期終業式にて

今年の寮舎移転式、及び参考館の開始は一つの目的をもって、即ち本校の修養主義の訓練のため、及び研究のために致したのでありまして、満足に出来た部分もあり、未だ不十分な処もありますが、其の結果よりも其の動機と努力とは確に価値あることと信じます。

それで今日の終業式は批評をする暇ありませんでしたから、主に先生方から御批評を願ひたいと思ひます。今学監より、将来参考館について方針として主要なる点をお話になり、松浦教授より過日の参考館についての価値についてのお話がありました。猶、先生方からのお考へもあらうと思ひます。

暫くお別れするので、さようならを致す訳であります、我が国の風習として、先づ借りがあるならばよく勘定をして一年中の借金を返すこと、大掃除をすること、之れはよいことであると思ふ。只金ばかりでなく品物でも借りたものがあるならばよく棚をしらべて、此の際一度返すことが必要であります。猶、心の方でも、やはり一年中の借りをお返しすること。義務の借りがあるなら、暫くお別れするときに義務をお返しすること。人がそれだけ厚意をもって導いて下さるならば、意地ばつて年を越えてまでも突ばらない様に折れる。ご免下さいませと言ふこと。人と仲がわるいことがあつたら、此方は厚意をもって居るのに人がわるいと云ふやうなことから感情を害して居るならば、あなたをお赦ししますと言つて、ほんと一に和ぎをもって新年を迎へることに致したいと思ふのである。

[冬休みについて]

夫れから此のお休みの間、誠に三年生は殆んど全部寮舎に残つて、此の二週間を最も有益に過さうと云ふお考へのやうである。又おかへりになる方も、つもりをたてゝおいでになり、全体が此の休みを最もよく使はうと云ふ計画をお立てになつて居るやうである。

又、大正博覧会のためによく準備をして、来るべき活動を最もよくしやうと云ふ活力を内に貯へておいでになると思ふ。夫れについて今方針を示し、価値について説き明かし、いろいろお示しになつたと思ひます。故に、あなた方が此の休み中にお考へになるのに有益なことが沢山あつたと考へます。只私は、も一つ深い処、も一つ動力となる原因についても少しお考へになるやうに、其の経験をおつみになるやうに致したい。今私は参考館について批評する暇がないけれども、あなた方の仕事にも少し徹底したいと思ふ。

参考館は表はすことであるけれども、表はすことの真髓、其の価値となるものは、表はす処の本体であり、表はす処の原動力である。之れをたとへて見ますと、恰も参考館、

参考品、あなた方のお拵へになつた美術品と云ふものは、恰も此の家の硝子、障子の如きものである。此の家の戸は外から光りを入れるためでありますけれども、又一方には、内から天然の美、宇宙の広大なること、運行の微妙なること等、あらゆる外の実体に接するために此の家をあけてあるのである。我々の目が、あの飾りや組み立てにとどまつて居るやうではならぬ。家の外にある実物、実体を見やうと云ふのが参考館の目的である。又我々が本をよむのは、かう云ふ詞をもって我々の要求、経験等を表はすと云ふことが大切である。然るに只拵へること、表はすことのみが心をはせて、内なる精神、実体を表はすことをおろそかにするならば、既に本末を転倒したものである。あなた方が参考館に出したものは美術である。此の窓を通して見なければならぬ処の実体を見、其の実体、其の美術、其の音楽をきかなければならぬ。我々は只参考館を拵へるだけが目的でない。其の本となる処の目に見えない処の音楽、目に見えない処の美術があらねばならぬ。之れを校風と言ふ。我々は之れを見る。此の詞により、此の美術館により、いろいろな音楽により、或は絵画によつて其の目に見えない処の音楽、目に見えない処の生命を見やうと云ふのが参考館を作り、その他此の終りになつてした処のいろいろの催しであつたのであります。夫れを見るものが出来、夫れを経験することが出来ると云ふ処にまで達しなければならぬと思ふ。それをする前に、先づ其の本となる処の生命活動が内に十分なる力をもって出来て来なければならぬ。故に目に見えない力があり、活動があり、傾向がある。之れを私共は真に感じなければならぬ。自ら経験しなければならぬ。宗教的の詞をもってすれば、祈りをしなければならぬ。其の精神生活をして、高尚なる処の活動をすると思ふことによるのである。

故に此の休みの間に我々は真に徹底し、目に見えない世界に内なる我れを拡大し、徹底した理想をたてゝ、之れを如何に美術に表はすか、之れを如何に組みたてゝ美術に表はすかと云ふことを考へねばならぬ。其の本体を組みたてると云ふことに、も一つ力を注がねばならぬと思ひます。

[帰省するについて]

又、あなた方が郷里にお歸りになつたことが、あなたの家庭の幸ひとなり、友達との間にも目に見えない感化が起ると云ふ風であらねばならぬ。人に対する処の美しい態度、即ち善意を貯へておかへりになるならば、知らず識らずの間によい感化となつて現れるのであります。故に、其の本となるものを養ふのは、其の中に自分の人格を表はすため、之れも深い真理であつて詞で表はすことは出来ませんから、夫れは如何にすべきか、如何に考ふべきであるかと云ふことを此の冬休みに十分お考へになつて、身体も丈夫になつて、新年の希望に満ちて再びお目にかゝることを望みます。

[中表紙]

大正二年十二月二十五日
大学部三年例会にて

大正二年十二月二十五日 大学三年例会にて

だんだん皆さんの深い経験を有りのまゝにお話しになったやうである。お尋ねもあり、又要求もあり。其の内には喜劇もあり、悲劇もあり。感謝あり、悔悟あり。而し私は、死んで生きる位苦しむのもよいが、さまでむつかしい状態ではないと思ふ。内容が足りない、読むばかりで不徹底な時代ではないかと申しましたが、私は皆さんが駄目であると言ふのではない。も一歩皆さんが熱心になる、集中したなれば、希望に達する秋に近づくのではないかと思ふ。そ一して一言終りに、経験したことをまとめるに参考になるよな一こと、又お尋ねになったこと、又要求されて居ることは、如何に満足にされるかと云ふことについて、一寸だけ皆さんの導きになることを言うておくことが必要かと思ふ。

皆さんの要求を明かに言ふと、第一に、も一つ人生の要求が満足する迄に充実しない。寂寞を感じ、又自分のして居ることがつまらぬ。自分がうえて居る、かつえて居るやうと思ふ。自分がつまらぬから食はずに居よと思ふ迄に、よく自分と云ふものを考へて見、又真に自分のことを思うて見ると、それまでになつて来る。其の満足しない、又欲しいと思つても思ふ通り自分の満足のみたすことが出来ぬと云ふのは何のためか。それを言うて見ると色々ある。

[名誉心について]

第一、名誉心。これは誰れにもある。そして甚だ人間にはつよいものである。人からほめられても悪く言はれてもエキサイトしない。それには自分で自分の価値を知るので、それで自分は満足して行くと言うた人がある。それも至極尊い経験である。それは極く徹底して行けば、それでよい。自分がそれで満足が出来れば、それでよい。又、名誉心から云へば公伯爵、博士と云ふやうな自分の位地と云ふものがある。何、その人爵は自分には不要である。それよりも、むしろ天爵を認める。即ち、自分の中にある価値である。乞食になつてもよい。又、人の疑ひをうけて、クリストのやうに十字架にかゝつて血を流してもよい。自分の權威を認めて居ればよいと思へば、それでよい。

而し其の力が時によると、つまらない力になる時がある。そして其のつまらないものに自分がなやまされる。そして睡眠さへ出来ない時がある。又時には寂寞を感じて、親子、親友もほしくなつてくる。そして、それが無い時は自分がつまらなくなる。自分の人生が無意味になる。故に只えらいと云つても、自分の内にえらいと云ふ内容を認めなければならぬ。其の内容がなければ、自分が満足しやうと思つても出来ぬ。そこで我々の価値は何れにあるか。之れが真に認められる、そこに自分の内に要求して居る、それが心理学より云ふと感情である。感情は美を追求する自発力である。其の美、

自分から云ふと感情美と言ふ。即ち寂寞、無意味と云ふことがなくなつて、真に自分の実質を認め、真の美を味はふことが出来ると云ふ処に、自分の生活が徹底しないと外界のものに動かされる。我々は感情の生活がまづい。此の宇宙に美が満ちて居るから自分が醜に感じる。之れがうえて居る、かなしんで居る。之れが自分の生活が悲劇を演じて居る。感情の方で満足を得たい、宇宙の美と一つになつて満足を得たいと云ふのが、一つの要求である。

[潜在意識]

今一つの要求がある。それは今の方は感情である。これは潜在意識であつて、も一つは之れが意識となりたい、明かになりたい、認識したい。認識と云ふのは知識である。も一つはつきりしたい、其の実体全体の関係を意識したい、知りたい、認めたいと云ふ渴望である。しかし、之れも本当に満足しない。自分の意識になるよ一にしないのである。意識になればじめて自分の態度が明かになり、宇宙の關係が明かになり、それだけで満足が得られるかと云ふと、そ一ではない。理想と目的と云ふもの、自分の傾きが一緒になつて意志になる。此の意識とは何かと云ふと、活動、実行と云ふものになる。それで我々は十分活動しなければ、十分努力し、理想、目的と云ふうちにあるものを實現すると云ふ活動が十分出来なければならぬ。つまり我々は道徳的實在となる。それが徹底しないと人間は不満である。我々が真に要求して居る其の内容を分類すると、かくの如くなる。それを大きく分けると、人間の二大要求となる。而しそれは皆さんが要求を追求して居る。生活しやうとする真理を追求し、意識の部分を拡張しやうとして勉強し、活動して、真に之れを実世界として行かうと皆さんが熱心にして居る。それが何故、満たすことがむつかしいか。何故それが自分の命に出来ないのかと云ふと、つまり満足である。満足と云ふことは美である。満足と云ふことは實現である。その満足が何故出来ないかと云ふと、それは自分の内である。

[無限に自由の要求]

我々の内に二大要求がある。何故、満たされないかと云ふと、我々は無限、自由を要求して居る。而るに我々の生活は限られて居る。制限されて居る。之れを脱して、無限に生きんとして居る。

其の制限は何か。自分である。自分の要求するものは制限的、一時的である。併し我々は此の制限的な、一時的な満足は出来ない。無限の要求が我々にはある。そこで自分の人格の權威と云ふのは、自分の内に無限を要求して居る。その満足を得なければ満足は出来ぬ。無限の精神生活を自分が経験する。そこに真の満足がある。その生活が我々の日常になければ、本当の動力が内からわき出ると云ふことは出来ない。之れは、ベルグソンの言へる Sympathetic insight である。此の言葉は、我々の精神は不思議の力をもつて居る。それが宇宙に無限、永久不滅の生活である。その生活が生きやうとする。其の生活が、自からする力が我々にある。故に我々に二つある。無限的自我と一時的自我と。即ち、自分の其の時、其の場所の経験が宇宙的位置をもつて居る。我々の根本要求

は其の永久的精神生活を生活しよとするので、無我、大我は宇宙的生活で、即ち宗教である。祈りである。

此の宇宙は美である。幸福、喜び、愛と云ふが、そこに満足な感情、之れは無限の愛、無限の美。そこには衝突もなく、矛盾もなく、その美を真に愛し調和して来たのが、我々の宗教の経験である。これが Free idea、仏教で言ふ無我である。小我、大我が一つになる。宇宙の凡てが我と一つになる。そして我と神と一つになる。成仏すると云ふのもそこである。

自我は宇宙の一部で、凡てと我との間に愛と云ふものを徹底させるとキリストの如く、自分を見るものは神を見るなり。そこに至って永久的我が自覚されて、其の生活は有限的生活が一緒になってはじめて人間が発達出来る、自由になることが出来るが、そこがまちがうと美でない。尊敬すべき人間でない。そこに行かなければ、真に名誉をすて満足することは出来ないのである。

[中表紙]

大正三年一月一日
新年祝賀式にて

大正三年一月一日 新年祝賀式にて

一昨年は明治、大正相半ばし、昨年は諒闇中であり、今年の正月は初めて遠大な希望と最も輝ける喜びとを以て、我が六千万の同胞は此の朝を迎へたのであります。我々にとっては第十四回の学年を迎へる年であります。我が国家の歴史と我が母校の歴史と互に酷似して居る点があります。又其の境遇も、よく一致して居る点があります。此の数から申しますと、四十七年、我が校の十四年、又西暦の1914年、丁度そ一云ふ重なった数がありまして、又重なった時機の特色があります。即ち過渡の時代、移り変りの時代、継承すべき時代となって居る。我が国に功を樹てられた元老とも言ふべき、即ち明治の御代を拵へた人は 明治天皇をはじめ奉り、多くの惜しむべき人があります。又、残って居らるゝ人は、七十四以上八十位の方が多いのである。我が創立員として創立に与って力あつた処の人々の内にも、そ一云ふ年齢の方が沢山あります。大隈伯の如き、澁澤男爵、森村さんの如き、又樺山伯爵、蜂須賀侯爵の如き、皆七十以上の方であります。最早、七十近くなり、七十を越えられた人が沢山あります。故に、十年の後にはもはや年をとられ、或は先きに逝かるゝ方が沢山ありませう。夫れで、私共は此の大正維新の曙光を迎へるに当りまして、種々の感が起り、種々の計画を立て、目的を定め、年の改まると共に、いろいろの決心を始めて行かねばならぬ朝となつたのであります。

昨夜以来、皆さんが銘々に深くお考へになって、互に一致し同感する所があらうと思ひます。故に今朝は多分同感であり、同じく決心するであらうと思ふところの一、二の点を申し

て、共同の働きを開始したいと思ふのであります。

[第二維新]

私共は此の大正年間を、此の時代を第二の維新と云ふやうに申して居るのであります。其の意味は之れ迄繰り返して叫びましたこともありますから、十分に其の意味は皆さんに徹底して居ると思ふ。即ち明治の維新は政治的、物質的、外面的であつたが、大正の維新は精神的であり、内面的であり、即ち、もう少し深い世界の活動であると云ふことは申す迄もないことでもあります。

[日露戦争について]

夫れで第一に我々が今年に於て成功せなければならぬ年と共に、私共は大に自分の態度を改めまして、今年の大方針に向つて出発致さんければならぬのである。其の方針について考ふべき方面、及び愈々年と共に私共が開始すべき仕事は種々様々あります。又、我々は既に背水の陣を張つて明治の時代に戦ひました日露戦争の如き、又は四十年の間に奮闘致しまして我が国家の有に帰しました処のいろいろの物質的文明、即ち表面に表はれた、世界の耳目をひきました処の数多の戦ひを続けましたやうに、やはり私共は、大正は決して或る意味に於きまして平和なる時代ではない。否、明治の時代よりも私共は苦しい戦ひを開始するのであります。但し、明治の戦ひは直ぐ世界の耳目を驚かさやうな花々しいものであります。併しながら大正に於ける戦ひは、斯くの如き花々しいものではない。人の目にわかるものではないのであります。我々の戦ひ、我々の奮闘努力は、我々銘々及び日本帝国の内面に存する処の革命であります。私共の決心も、私共の軍隊組織も、私共の今熱中して居る処の其の用意も深く内に潜んで居る処のものである。然し之れは只空想でもなく、迷信でもなく、不確なるものではないのであります。併し夫れをよく了解すると云ふことは余り容易なることではない。私は此の大正の時機を迎へる朝に於て、あなた方に訴へたいと思ふことは、即ち私共が此の元日早々から大事なる始業式として始めたいことは、外から目に見えない、一寸わからない処の、又極価値ある、驚くべき精力ある処の実質に入りたい。そ一云ふ深い処の実質に入りたい。そ一云ふ深い処の生活に入りたいと云ふのであります。之れは昨年の暮より、私は多分一同が深く感じて、内に考へて居る点であらうと思ひますが、猶夫れを此に、はっきりと致しておきたいのであります。

第一に、私共の経験しなければならぬ、又私共の実現せねばならぬと思ふ処の内の生活を実に致したい。猶此の目に見える処の、五官で感じ得る処のものよりも猶大切であり、猶価値があり、猶満足である処のものを得たいと思ふ。明治の学問は西洋の文明を入れたことであります。日本も段々大人になってきて、夫れでは満足しない。猶新しい真理を発見する。只模倣でなく、国民自ら發明するやうにならねばならぬ。其の新らしき運命を自ら発見し、發明すると云ふことが成功しなかつたのには原因があるのである。此の發明、発見をしやうとするには、猶其の前に私共が達しなければならぬ階段がある。夫れは、も一つ根本的なものである。も

一一つ真髓に入ったものである。夫れを何と云ふか。之れは前にも度々勉めたことであり、今日も新しき計画であるかのやうに思ひ、今日始めて見出したかのように感ずるのである。古い真理を只今見出したかのように、此の新年に於て私共は猶感ずるのであります。

[発明、発見について]

発明、発見とは何を云ふのであるか。目に見えない処の実体がある。隠れて居る処の事実があるのである。其の隠れて居る処の目に見えない処の実質価値、其の目的を発見するのである。

[Discovery of myself]

其の第一に踏むべき処の階段、其の第一にとるべき処の道は何であるか。お互が何を見出だすかと云ふと、我れを見出だすのである。万有の最大原因である処の自分と云ふもの、銘々の内にある処の人格を見出だすのである。之れを英語で言ふと Discovery of myself とでも言ひませうか。之れには二通りの要素がある。

一つは、お互誰れでもにある処のもの、及び我れと云ふものに備はって居る処の特性、此の光りを見出だす。肉眼で見ることの出来ない処の光りを見出だすと云ふことである。之れは出来るのである。我々が肉眼を以て見ることの出来ない世界を見出だすことが出来るのであります。

次に、其の発見した処の真理を応用して、我々の満足する迄立派なる人格に育て、行く処の可能性を養ひ、自分を発展する。此の自分と云ふ霊界の世界を開く。即ち自分を開拓する処の道を見出だして、応用して行く。

[大正の歴史は如何にして発展するか]

之れを一言に言ふと、大正に於て発展すべき日本帝国の使命は目に見えない処にある。現象世界にも関係はあるが、目に見えない霊界の発展によって大正の歴史は出来て行く、発展して行くことである。人と人との関係から出来て居る処の共同の世界に我々が発展して行くことと云ふことであります。我々の発展の力は実に此の精神界にあるのであります。此の世界を統御して居らるゝ処の絶対神と言ひませうか、実体と言ひませうか、此の生命と生命と共同して相働きあつて始めて私共の満足するに足る処の生命が発展して来るのであります。此の生命が発展して始めて信仰が出来、国家を救ふことが出来、我々の運命を開拓することが出来るのであります。

さて、信仰の基礎を固むる処の方法は如何にすべきであらうか。之れを今迄の宗教の詞で言へば、先づ第一に、私共は信仰のために祈祷をすると云ふ活動が顕はれるのである。之れは宗教の儀式に現はれて居ります。例へばアメンと言ふこともあり、拝むと云ふこともあり、又色々供へ物をすると言ふこともある。之れは其の人の時代、時代によって違ふのである。夫れは丁度、人々に適当なる衣服があるやうに、其の日に適当し、其の時に適当し、其の人に適当した処のものがある。真に私共が信仰の力を養はふと思ふならば、丁度自分に適当したる方法を以て、其の根底から養はねばならぬ。凡そ人生、何事と雖も此の信仰がなくては出来ないのである。

私共は我が帝国のために、我が陛下のために、我が同胞のために、我が教育界のために、我が桜楓会のために、我が学校のために、我が寮舎のために之れを申すのである。そこで私共で謙遜なる態度を以て頑なるものを捨てまして、信仰を以て、意志を以て徹底する所まで進まねばなりません。

[改善すべきこと]

第二に、私共が之れを実にせんとするには改善するにある。大正の時代は改善の時機である。今日はそ一云ふ使命について深くお考へになり、第二日からは書き初めをし、仕初めをしなければならぬ。

[東北四県の飢饉について]

只目に見えない精神界のことを考へるのみならず、今日飢えに泣く処の貧乏人を救ふと云ふことも必要である。故に私はあなた方に御相談をするのでありますが、我々は同情を以て何か人のために尽す処がなくてはならぬ。故に私が明日から始めて貰ひたいと思ふことは、宮城、青森、秋田、岩手の四県は凶作のために飢えに泣いて居るのである。聞く処によれば、此の寒いのに薄ぺらな蒲団を三人も四人もできて、正月になつても雑煮もたべることの出来ない者があるとのことである。故に我々は、五十銭のものは三十銭で事を足して、一日に一銭でもよい、儉約をして、私共は厚意を以てそ一云ふ人のために致したい。此の大正年間には決して豊かな年ではありません。年の始めから、そ一云ふことがある。

又、教育界の改善にしても、図書館、参考館をよくするためにも出来るだけ教授時間を減らして、生徒自らが喜んで研究することの出来るやうに。又、出来るだけよい指導者をふやすと云ふことのためにも、我が学校だけでも経済は甚だむつかしいのであるが、国家全体から云つても決して豊かではないのである。故に私共は年の始めから注意をして経済と云ふことに心を用いて、慈善のためにもつくさねばならぬ。そ一して考へを改め、行ひを改めて、今年は是非、改善の実を挙げることの出来るやうに希望致します。又、私は夫れをお勧めするのであるけれども、私共の背水の陣を張つたのは只夫れだけのためではない。此の信仰の力によって総てのことを成し遂げる処の空気を作って、我々の主義とし理想とする処を実際に行はれんことを希望致すのであります。

[中表紙]

第三学期始業式
大正三年一月八日

第三学期始業式
大正三年一月八日

[人の性と天道について]

昔から多くの人々が研究して色々説を立てたにも拘はらず、未だ決定せぬ処の問題があります。其れは、人の性は善か悪かと云ふことで、つまり性善説と性悪説と善悪混合説とある

ことである。

其れとよく似た説で、宇宙の本体について人道、是か非かと云ふことと、天道は善でもなく悪でもなく、唯だ機械的のものであると云ふ説がある。

之れは物を考へて意志をなして行く人間には、ど一しても考へざるを得ない問題である。何となれば、人間はそ一云ふことを解決しやうと云ふ要求がある。善に進まうと云ふ要求がある。又、宇宙は我々の考へを助けてくれるものかどうかと云ふ必然の要求がある。

一体かう云ふことは考へれば考へる程不思議で、不思議であればある程、要求が盛んになるのである。其れが解決せられねば、ど一しても満足は出来ぬ。此の満足を得なければ、人間の欲望を滅絶せよと云ふことになる。故に如何なる学者、権力者が圧迫しても、人類の此の要求を滅絶することは出来ないのである。

[大正三年は如何なる年か]

私は今朝、そ一云ふ根本問題をあなた方に考へさせるのではない。天道は是か非か、天は人の善を助けやうとする処のものであるか否や。言ひかへれば、宇宙は善目的のものであるかどうかと云ふことを考へて、此の大正三年と云ふ、実に国家にとって重大なる時に於て、我が国家の歴史について考へて見たいと思ひます。

其の歴史の目的は善か悪か。今年は幸運であるか不運であるか。幸であるか禍であるか。年の始めに於て卜したいと云ふことが、今私がかう云ふことを説き明かす理由であります。
[天道は是なり]

此の問題については、学者に哲学者に宗教家に色々な考へを持って居るものがある。併し余り大差あるまいと思ふ説は、人生は善である、善を要求して居ると云ふことは間違ひはあるまい。又、宇宙は唯だ機械的ではなく、人間の目的を助けて行く処のもので、天道は是なるもの、生きた本体のあるものであると云ふことは間違ひはあるまい。

唯だ、人生には禍と云ふもの、不幸と云ふものがある。併し禍があるから福がある。天道に是なる処があるから非なる処がある。悪があるから善がある。意志があるから向上と云ふ傾向がある。よく徹底して考へて見ると、人間はよくならうとするもの、悪を嫌うて善に進ませやうとする偉大なる感化力がある。善に向つて統一して行く処の大なる統一力がある。

故に、天道は是なるものである。然らば何故に天災と云ふものがあるか、禍と云ふものがあるかと云ふと、其れは中々複雑なる問題であるけれども、よく考へて行くと、又其処に大なる意味があると思ひます。此の如きことをよく考へて、理性に訴へ、感情に訴へて確信となし、目的を立て、全身全力を注いで生活することが、我々人間の道である。之れを信仰と言ひ、信念と言ふ。

[迷信と確信とにつきて]

天道に善悪の傾きがある様に、此の信念にも迷信と確信とある。故に此の迷信と戦うて、我々は益々高尚なる信念を向上して行かねばならぬ。過去五十年には西洋文明の光を急に

受けて、我が国の迷信と云ふものが解つて来ました。そ一して此の迷信と云ふものを排斥したのである。そこで此の信仰はいらぬものである、愚夫愚婦の信ずる処であると排斥したのである。けれども迷信のあるのは眞の信仰のある証であつて、或る場合には善と悪と混じやすい様に、迷信と確信との界の解らぬことがある。

私共は根底に於て、善に進まうとする向上心がある。宇宙には其の努力を助けやうと云ふ意志がある。其の天道と我々の人生とが相合うて、相働いて一つになつて行くことが我々の信念である。我が日本の歴史にも、東洋の歴史にも、又西洋の歴史にも、其の歴史を導いて居るものは実にこゝにあるのである。之れは我々の人生に一日も欠くべからざるもの、否、一刻も離るべからざるものであります。

[迷信と戦へ]

併し、永い歴史を一刻に入れるのでありますから、我々の頭の中に迷信の部分も入ることは已むを得ざることである。故に、我々は其の迷信と戦うて行かねばならぬ。そこで私は今年に於て、あなた方が迷信を打破して、眞の信念を養ふことを修養の根底とせねばならぬと思ふ。我々大正の国民は、此の迷信と云ふものを改めたいと思ふ。

今年は寅の年である。故に昨年の暮になつて結婚式が続々行はれる。其れは大正三年になると寅の年になるから、結婚をしてはいけなと云ふ迷信がある。其の外、日が悪い、方角がわるいと云ふ様な伝説的の考へがある。斯う云ふことを迷信と言ふのであります。

[国家多事]

大正三年と云ふ、我が国家の船出はど一であるか。此の年に於て未曾有の大札、即ち今上陛下の御即位式の行はせらるゝ年であります。之れを期として、大正博覧会が開かれ、引き続いて教育大会、其れから Second English Teachers Conference が開かれる。そ一して全国の女子教育者を会して女子教育上の相談会をすと云ふ様な催しもあつて、此の大正三年と云ふ年は色々な問題が輻輳して、大活動を開くべき時である。

大正三年は恰も明治三年の如き、国家の歴史を進むべき処の大活力を燃やして、国家の進運に貢献すべき大正三年の新年早々の朝に於て、我が国民の耳朶に達した報告は誠に悲惨なるものであります。百三十五人の生命を載せた船が沈没したと云ふことを国家的に報告せられたことは、不吉なものである。然らば今年は甚だ不吉な年ではあるまいかと、斯う云ふことを考へるならば、其れは即ち迷信である。

私は坊主や牧師などが自分の宗派を広めて、自分のお賽錢をとるために益々人を迷はして行く。我々はそ一云ふ迷信を打破して行かねばならぬ。大正三年の吉兆は外に顕はれて居る。其れを深く考へたならば、其の吉兆を知り、天のしるしを察することが出来るのである。私共は迷信に捕はれて居ると、眞の吉兆を見ることが出来なくなるのである。故に愛鷹丸が沈没したこと、元日に物を仕損なつたことが悪いことでも何でもない。

私共此の学校では、何時でも迷信を打破して行かねばなら

ぬ。併し私共は愛鷹丸の沈没について、一掬の涙を濺がねばならぬ。彼れ等遭難者の其の時の心持について同情を寄せねばならぬ。私が十八の時、国の地所や何かを売って、大坂に梅花女学校を建てる為に、船に乗って居りました。其れは大層コレラの流行する時でありまして、多くの人が見る間に死んで行く。其の人々が手紙をかく暇もなく、電報を打つ暇もなく、最後の思ひを残して行く其の心持を、我々は以心伝心に感じて行かねばならぬ。

[後進者の戒めとなること]

今度の難船については、無理をしたことについて後進者に戒めたいことが色々ありましたらう。終りまで奮闘して、遂に斃れた人もあります。終りまで奮闘して、辛うじて助けられた人もあります。今度のことについては色々おち度がある。六十人が定員の船に百三十五人乗せた。之れは我が国の悪い風で、互に譲ることを知らねば、一緒に転覆するのである。舵のとりやうの悪るかったと云ふこともあらう。此の難儀を見て居る処の他の船もあった。然るに百三十五人悉く救はれなかったのは何であるか。船長始め乗組の各員に確信がない、信念がない。昔から難船に遭うた人も数々あるけれども、泰然として居たものは大抵救はれて居るのであるが、狼狽すると、も一適當の判断が出来ない。若し我が国民に信念があったならば、あゝ云ふ最後をとげなくてもよかつたのであらう。或は救ふことが出来たかも知れぬ。又、我れ先きにと争うて乗らなかつたならば、あゝ云ふことは無かつたらう。

ど一云ふものが助かつたかと云ふと、仏教信者が何かで、板にとりついて居たが、空樽がながれて来た。之れは神の助けだと思つて、命を任せて其れに取りついて居たものが助かつたのである。又、或る学生が何かをじつと考へて居つて、救はれて来た時に、しっかりせよと云うて叩かれた。其れは助かつたのである。

我々は此の年の始めに於て、犠牲となつた人の為に同情の涙を濺がねばならぬと共に、迷信に陥つてはならぬのである。
[宇宙の善意と協同せよ]

私は此の大正三年寅の年は、我が国家を進める上に天佑のある処の大吉兆のある年である。我が国家の発展について、善意を持って助け給ふ処の天意ある年と思ひます。我々は宇宙の善意と協同して行かねばならぬ。其の協同をするには迷信を去つて、信念を以て進まねばならぬ。

[誠の道]

其の信念は、我が国に昔からあるのである。菅原道真公の詠ぜられた様に、

心だに誠の道にかなひなば 祈らずとも神や守らむ
実に此の通りである。又、先帝陛下は、

目に見えぬ神の心に通ふこそ 人の心の誠なりけれ
と詠ませられました。此の神の心に通ふのが誠である。之れが至誠である。祈りである。此の誠があるならば、如何なることか成らざらんで、如何なるものか敵対することがあらうか。此の信仰を以て進むならば、此の至誠を以て共同するならば、如何なることか成らざらんである。

私共は此の大正三年と云ふ吉兆ある年に於て、此の信念を

以て国家の大勢を進むることに貢献して行かねばならぬと思ひます。

[中表紙]

大学部全体の為に
大正三年一月十五日

大学部全体の為に
大正三年一月十五日

[今年の方針、及其の実行方法について]

今日は今年の方針、及び其の実行の方法とを示す為に、成るべく全校がお揃ひになる様に申しておきましたが、差し支へる組もあり、私も二時と云つておきましたから、あなたの方でもそ一心得て居つた方もある様であります。

昨年私共は今年の方針を考へ、其の実行の計画を立てまして、此の新らしい年を迎へた訳であります。つまり今年の方針は、其の立てました方法を実行する。即ち他の詞で言へば、改善。教授法、学風或は校風、及び各自の生活法を改善すると云ふことであります。

[Efficiencyについて]

其の改善と云ふことは各方面に互つて居りますが、併し総べての方面に相通ずる眼目の集注点、其の極要な目的は何であるかと云ひますと、余り新しいことではない。之れまでも度々言うたことであります。つまり一言で言ふと、此の前に私が使つた詞で Efficiency の増大である。Efficiency の反対を Waste と云ふ。Waste は浪費と云ふことで、時を浪費すること、金を浪費すること、知識を浪費することもある。Efficiency にも Economical efficiency、Physical efficiency、Mental efficiency、Spiritual efficiency 等、色々ある。其の Waste を変じて Efficiency とすることは、今日では最も広い意味に使はれて居る。つまり、今日まで私共の浪費して居ることを改め、又其の生活の仕方を改めて、真に価値を増し人格を高める様にすると云ふことである。

病氣は我々の最も大なる浪費である。故に先づ自らの病氣を治し、社会の罪惡を改めて Efficiency にすることが大切です。そこで私共の最も **むだ** をして居る処の病原、欠点等を数へ上げたならば、無数であります。

[自我発現]

併し、其の一番の源をなして居る主なるものを除いたならば、其れを改善することが出来るのであります。其の力の Waste は、其の力の湧き出でて居る処の源を養へば限りなく発達するのである。故に、先づ其の源を養はねばならぬのである。深い処の自我を見出ださねばならぬ。其れをするには自分が活動し自分と云ふものが十分発現しなければ、自分の力を充分開拓することは出来ぬ。併し其れをするには、唯だ一方面ではいけない。又一朝一夕でもいけない。将来を期して、成就しなければ出来ぬのである。

併し、其の効力の一番原因になるものは信念である。力又はEfficiencyと云へば、人格と云はねばならぬ。我が国の御婦人は今まで人格が欠けて居った。例へば婚礼をしても、人格と人格との婚礼でなかった。故に其の家庭が不幸に陥つて居るものが多い。生、婚、死、之れは人生の三大事件であります。其の大切な事件の一つである婚礼に、人格を認めぬと云ふことは大なる間違ひである。

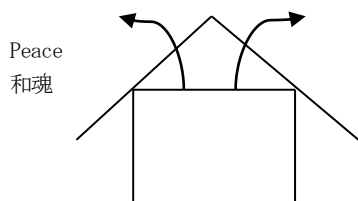
[人格の根底]

Character is efficiencyと言ふことが出来る。人格とは何かと言へばGood consciousnessで、無限或は大我とも言ふべき、其の意識が本となるのであります。

此の宇宙は死んだもの、或は形式なものではない。生きたもので、其の背後には善意がある。其れと合体することが信念を養ふことで、其れが根底とならねばならぬ。

自分に高尚なる理想を追求する、向上しやうと云ふ傾き、善を求め愛を慕ふと云ふ神聖なる傾きがある。Unequal selfと云ふもの、即ち他の人とは変つた処の自分と云ふ意識と、高尚なる天職がある。其れを果たさうと云ふ向上心がある。かう云ふものは皆、我々の人格の根底をなして居るものである。真に向上しやう、人格を作り上げやうと云ふ熱心なる力ある人は、皆かう云ふ経験がなければならぬ。其れでThe springs of characterと云ふ人格のSpringsと云ふものは、かう云ふ様な本がなくてはならぬのである。故に我々が根本から活動の本を養はうとするならば、どうしても其の本をやしなはねばならぬ。根本力を刺激しなければならぬ。そこで此の如き動力が我々の奥底に限りなくあるのである。故に、我々の自動力に由つて之れが発現するのが当たり前であるけれども、我々は有限のものであるから、其の自発力を自ら妨げることもあり、他から抑へつけらるゝこともある。そこで我々自身で自殺することもあれば、他から殺害さるゝこともあり得るのである。之れが即ち一番の力の消費である。

故に我々はそこで防御して、決して他からおかさね様にし、又自殺することのない様に自ら制し、自ら奮闘して、其の力が常に外へ向つて表はれる様にせねばならぬ。之れを指して発表と云ふのである。泉の如く進り出で、光りの如く常に反射する様にならねばならぬ。



[和気と和魂]

第一に私共の内から発射する処の力は、和気でなければならぬ。同情、協力、Organization。此の力、此の元気が出なければならぬ。和気が靄々とし、和魂が発揮して居るならば、浪費はない。和気があるならば、相互の矛盾、衝突から来る処の力の浪費はなくなって了ふのである。

私共は今年、皆の人格を展ばさう、皆の力を育てやうとして居る。此に春の如き順風がなければ、到底、偉大なる人格

は表はれないのである。殊に我が国の御婦人の発展しないのは人格が認められない、宇宙と共に活動すると云ふ力が乏しかったからであると思ふ。

和気があるならば、口からも和気を吐き出すと云ふことは必然の結果である。

[今年度の集注点]

其れで先づ、今年あなた方に勉めて貰ひたいことは、此の和気を堂に満たせる、口からも気炎を吐き出すと云ふ態度を以て、益自動力を發揮して貰ひ度いと思ふ。之れは根本の精神生活であります。之れが出来なければ、人生の効率を増進すると云ふことは出来ないのである。

さて、其の方法として欠けて居るのは応用である。我々の力、我々の要求、我々の力を実生活に現はす処の場所、及び実質を見出だすことを知らない。又、見出だしても丁度Adapt或はAdjustすることを怠つて居った。即ち、知識と力を用いることを怠つて居った。我々の力は丁度の物、丁度の場所に対して働かせねばならぬ。そーしなければ直に腐る。腐つたものは害物となるのである。故に今後は使つて見るのである。知識と力を応用して見ると云ふことが改善である。

[応用について]

然らば之れを如何に応用するかと云ふことが問題である。今日の学生の力を遺憾なく用いる、又学んだ処のものを応用することの出来なかつたのは、其の境遇を与へなかつた。学生の方から言へば、其の知識と力を用うべき境遇を求めなかつたと云ふのである。

泳ぎを教へやうとならば、泳がせねばならぬ。其れと同じやうに、あなた方の力を展ばさせやうとするならば、応用することの出来る機会を与へねばならぬ。研究室、図書館を与へても、其れだけでは未だ足らぬのである。書物を読むのも研究であるけれども、そーして学び得たものを何処に応用するかである。

[改善の目的]

故に今年の境遇は、あなた方の力を十分現はすことの出来る機会を与へやうと云ふのである。そーしてあなた方の力を展ばさせ、十分なる効率を上げさせることの出来るやうと云ふのが、今年の改善の目的である。

[人生はDramaなり]

Great dramaを演じやうとならば、我々が自ら一つのアクターとならねばならぬ。Dramaは一つのArtであり、Artは即ち生活の術である。そこで此のGreat dramaには背景があり、学生は自らアクターとなつて銘々の力を発表させやう、真の銘々の力を思ふ存分發揮させやうと云ふのである。Dramatic methodと云ふものが教育にもあるのであるけれども、人生は実はDramaであるとも言へるのである。其の人生の一要素は、美を現はすにあり。美を慕ふにあり。美を發展するにあり。価値を高めるにあり。故にDramaであるとも言はれる。我々がDramaを組み立て、演述するのであると言つたのは、実生活に於て之れを実現し、其の境遇を創始するのであるとも言はれるのである。

今までの教育は余りに知育にのみ偏し、道徳的教育に偏し

て、美育即ち感情の教育、及び其の感情を直に働きに現はす
処の意旨、此の二つを合せて美育と言っても宜しい。此の美
育を怠つて居たと云ふことが、此の根本の力の発達を抑へ
つけて居たと言ふことも出来るのである。

[境遇の創始]

然らば此に如何なる境遇を創始するかと云ふことが問題で、
之れが大事であります。之れを私があなた方に説明致して、
其の実相をど一か目撃なさるやうに致したいと思ふのであり
ます。ところが之れは実際に段々行つて来て、舞台を組み立
て、背景を描いて、之れが其れでありますと言はないと、詞
では中々言ひ表しにくいのであるが、其れは誠に複雑であつ
て昨年から段々と用意して参りました。然るに、も一、大正三
年であるからじつとしては居られないに由つて、之れから
段々と始めて行かうと云ふのである。

[詞について]

故に文学の上にも、音楽の上にも、舞踏の上にも即ち美術
の上にも、又総べての働きの上にも、総べての関係の上にも
共通の機関がある。

情緒を声に表はすにも、必ず一つの意味がなくてはならぬ。
其れは即ち詞である。銘々の思想、感情を遺憾なく発表し、
其の光りを發揮しやうとならば、如何しても之れに詞を用い
ねばならぬ。今まで人間の作り上げたものの中で詞と云ふも
の程、有効な道具はない。之れは又 Art の Art である。Machine
の Machine である。

我々人生の大部分、精神生活の大部分は此の詞に由つて表
はされて居る。然るに此の詞が停滞して居るならば、私共の
力の半ばは消費されて了うのである。故に其の不足を補ひ、
停滞を満たして私共の働きを有効にしやうとならば、先づ第
一に詞の発達を図らねばならぬ。

[外国語の必要]

そこで私共は今までの支那、印度から輸入された処の漢字、
漢文だけでは足らぬ。ど一しても我々の精神生活を進め、殆
んど世界共通にならうとして居る精神生活を発達させやうと
ならば、ど一しても外国語が必要であると云ふことは言ふま
でもないことである。

然るに、かう云ふ機械の為に我が国男女の学生の脳力を
消費して居ると云ふことは、国家の為に大恐慌と言はねばな
らぬ。我が国民は西洋と競争して、非常なるおくれをとつて
居る。其の上に、かう云ふ重荷を結はへつけて競争させやう
と云ふのは、非常なる損耗であります。併しながら私は、
改善が出来ると思ふ。けれども遅れるかも知れぬ。其れは
何が遅らすかと云ふと、偏見と保守的な思想の為に妨害さ
るゝかも知れぬ。其れは一言で言へば、西洋の詞や文字が沢
山入つて来て、我国固有の文字が廢れて行くのは愛国心を失
ふのであるかと云ふと、私は長州であります。昔長州に
正義派と俗論党とあつたけれども、其の正義派と稱する人が
外国へ飛び出して一旦世界の氣勢を見ると、忽ち考へを一変
したのである。私共はじゃんぎり頭となり洋服を着た為に、
大和魂を失うたのであらうか。そ一云ふことは決してないの
である。

[世界の万物は我がものなり]

例へば、我々の使うて居るローマ字と云ふもの、之れは
ローマで起つたしるしである。此のしるしを使うて自分の考
へを記し、自由に使うことが出来るやうになつたなら、決し
てよそのものではなく、自分のものである。英語を使うのも
其の通りである。

宇宙に、之れは何処のものだ。誰れのものであるから取つ
てはならぬなどと云ふもののあるべき筈はない。我々は宇内
の如何なるものと云へども、我がものとして我が用をなして
居るものならば、決してよそのものではない。日本語を廢し
やうと言ふものはない。大和魂を変へやうと言ふ者はない。
けれどもかう云ふことについては、未だ大いに弁解せねばな
らぬ世の中である。故に次には討論会のやうにして、十分
意見を戦はしてもよいと思ふ。

[偏見を去れ]

我が国で一番むつかしい事は偏見をとることで、之れが
非常なる妨害であるから、ど一しても先づ偏見をとらねばな
らぬ。そ一して、我が日本をして世界の列強と提携して、其
の競争場裏に勝を得しめやうとならば、此の目に見えぬ世界、
即ち知力の戦ひに勝ちを得なければならぬ。私共は愛国心か
ら、我国の運命の為に之れを言ふのである。今度世界を回ら
つて来て、ど一してもそ一ならねばならぬと信ずるのであり
ます。

[中表紙]

大正三年一月十六日
教授及び教員会にて

大正三年一月十六日
教授及び教員会にて

今日は、前回御相談してござりましたことについて、多分
皆さん各部で、又教授で其の方法をお考へ下さつたことと思
ひます。

[自動自学の態度]

今日は最も重要な問題から始めて行くことに致しませう。
其の改善の一番本となるものは、生徒をして自動自学の態度
を以て、もう少し生徒から働くやうに導くと云ふこと。教授及
び教員の方からは、成るべく生徒が自動し得る処の境遇を与
へるやうにし、又其の境遇と共同し、相働いて生徒が学んだ
知識を応用し得る機会を開くやうに、教授の方法を改めるこ
とが最も必要であらうかと思ひます。其の説明は今申す迄も
ないことで、大学及び幼稚園に如何に夫れを実行し得るであ
らうか。其の具体的案を定めて、各部に於て出来るだけ今
から実行を試みて、幾分か其の用意、腹案を積んで四月から
実行したいと考へます。夫れで皆さんのお考へ、又皆さんの
お立てになつた計画等についてお考へを出して戴くやうにす
ることが、お互に具体的に考へをまとめて行く上に必要であ

らうと思ひます。例へば試験に付いても今迄のやうな試験を廃して、学生の脳力の消費を省いて効力を増すと云ふやうなことは共通した点であるから、之れは一例であるけれども、そ一云ふ点からお始め戴きたい。

[英語を学ぶについての態度]

少し私が工夫して見たのでありますが、一寸大体だけ申し御批評を願ひたいのであります。之れ迄、主義だけはもつて居つたけれ共、つまり私が自動と云ふことを申すけれ共、例へば英語なら習つた英語を直ぐ使はねばならぬ。而るに、使はねばど一しても自分のものにならぬ。そ一してなまけたやうな不熱心な態度を改めさせねばならぬ。頭を使ふには、便利な機械を使はねば脳力の浪費になる。然るに我が国では世界中で無類の不利な機械を使うて居る。例へば、漢字と国語の仮字遣ひである。かう云ふものをもつてやつては、国を興すことは出来ぬ。斯う言へば国賊と言ふであらうけれ共、之れは愛国心から申すのである。

[加州に於ける感]

先年、菊池総長と話したこともあるのであるが、日本の学生は此の不便な文字を使ふために三年の間、非常なる力のWasteをして居る。年限短縮など云ふことも、此の根本問題から改めるならば容易に短縮し得らるるのである。我が国の人が英語の下手なのは、漢学をした経験から英語をもそ一云ふ風にするから進まないものである。私は今度、世界を回つて来て、殊に加州に来て益々此の感を深うしたのである。

[タイプライター]

夫れは、我が国ならば一ヶ月かゝつて拵へる書物を五日で拵へるのである。夫れは皆、タイプライターであるからである。紐育では殊に其の競争がはげしい。あの社よりも此の社の報告が一分速いと云ふわけで、一分遅いものは一まけるのである。軍事にしても其の通りである。今後、我が国も此のMachineを使はなければ、世界の列強と対等の地位は保たれない。何時も外国の御厄介になつて、人の発明した糟粕を嘗めてばかり居てはならぬのである。そ一かと云つて漢語や国語を廃するかと云ふと、そ一ではない。夫れは専門家がすればよいのであるけれども、一般の教育から云へば、ど一しても此の文字から改めねばならぬ。

[ローマ字使用について]

自分の頭を開くには、国力を發展するに英語と云ふもの、ローマ字と云ふものを使はねばならぬ。夫れは必要があつて始めて使ふやうになるのである。夫れも学校に居る間だけではいかぬ。学校を出てから後も必要がなくてはならぬから、電信電話と云ふやうなもの、皆そ一かへて了ふ。そ一すると学校でもそれがいる。社会でもいと云ふことになつて始めて行はるゝので、唯だ空論ではいけないのである。結果をあげて、そ一して広く世に行はねばならぬのである。故に私は先づ自分の実践倫理から之れを用ひやうと思ふ。

此の間ある処の話に、法科大学を優等で卒業した人、之れは三千頁と云ふもの、先生の講義を筆記して夫れを暗記して卒業したと云ふことである。そ一云ふ風であるから、参考書を調べる暇も何もないのである。そこで題目なり索引なりは

皆前から教へておいて、参考書を調べさせるやうにせねばならぬと考へて、先づ私の部分から始めやうと思つて、今日お目にかけるために此処へ持つて参りました。

之れは明日のために、二十二枚一綴として四百冊いる。紙数に積つて八千八百頁であるが、十分間に二千四百頁出来るので、斯くの如く便利なものである。紙代が8800頁で十何円、墨代と原紙と合せて二十八円位で出来るのであります。斯う云ふことは漢語ではだめであるから、英語を使はねばならぬ。私は、日本の詞及び日本の書物から引くべきことは日本語にして、あとは皆英語で致しました。そ一して、之れを使ふと云ふことは私から言へば、信念を以て使ふのである。深い感情、強い意志と明かな知識とから之れを使つて、言ふことなすこと皆之れを用いさせるのであります。

[Card system]

それから私は、之れから研究をするには皆Card systemとするのである。之れをするには、ローマ字と英語とですつてもりである。生徒に面会するにも、私は此の一枚を以て生徒の半年の行ひを見ることが出来るのであります。Cardも此の位な紙で十枚が二錢四厘で得らるゝ。夫れで之れを使ふと同時に、Card systemを覚えさせるのである。

私は英國でヒュズさんの処へ泊りました。英國の風俗は誠に立派なものである。英國の御婦人には誠に立派な所があります。夫れで英國の風俗はど一云ふものであるかと云ふ様なこと、招待状及び其の返辞の認め方はど一云ふものであるかと云ふ例を此にちやんと書いて、夫れを読んで練習させると、子供は興味があるから直ぐ覚えるのであります。夫れで之れをよく御覧になつて、御批評を願ひたいのである。故に兎も角も英語とローマ字との使ひ方を示して、そ一云ふ空気を作り、応用をなさしむると云ふことについて御協力を願ひたいのであります。

[中表紙]

大正三年一月二十二日

三学期計画発表会にて

大正三年一月二十二日

三学期計画発表会にて

[我が国の女子の地位について]

之れから我が日本帝国は、一人前にして立つて行かねばならぬ。又、国家の要求として国の母たる、兒童の教育者たるあなたが感化する人格となり、又世界各国と我々が世に立つ上に於て、国民の半を占むる、又文明の最も本である国家の原動力たる婦人の地位が今少し高まつて貰ひたいことを要求するのである。而し之れは未だそこまで気づいて居る人は少ない。而し将来、国家が必要を感じ、又あなた方も一年ましに要求が起つて来る。此の要求に対し、我が国の女子の進歩が遅々たる様である。あなた方が志をたてゝ東京に出られて、

自らも不十分であると思ひ、私もあなた方の人格をも少し大いにせねばすまぬと思ふが、如何にせば各々が満足し、国家社会にも満足を与ふるであらうかと云ふに、之れに対し教育の改善を国家としても叫び、我が校も改善を叫ぶ。又あなた方、係りも今迄通った通りでなく、どうしても改めると云ふ態度を定めてかゝらねばならぬと思ふ。私は今日、あなたがどこを改善なさるか、又どれだけ材料をもたれるかを大いに注意して居たのである。而し、色々考へておでになつた真面目な態度には感心するが、方法については未だ不徹底である。そこが皆問題であるが、之れが先きに定まらねばならぬ。

[研究]

真に改善しやう、真に国家を改善せんとするには研究と云ふことが大切で、研究をつまねば解決はつかぬ。改善せねば進歩することは出来ない。それには熱心に研究せねばならぬ。之れは改善と云ふ動機が定まらねば出来ぬ。

[発明 応用]

研究で知を得、それから大いに考ふべきは発明 Invention である。次に、之れを応用する道を見出だすのである。之れでなければ改善は出来ぬ。改善をするには、研究と Invent が出来ねばだめである。学問の仕方をかへるには仕方をかへることを考へ、次には実行、努力せねばならぬ。それには応用の力がある。之れは Art である。Art は熟練から来る。それには努力がある。即ち生活して見ることをせねば、真の応用は出来ぬ。此の三つは、はなれぬ関係をもつ。此の三つをせねば改善の実をあげることは出来ない。之れから大いに此の三方面に向つて有効に行かねばならぬ。今私がきゝました内、かう改めねばならぬと思うた処は昨年の末に謎をかけておきましたが、それでは間に合はぬ。も一博覧会もぢきに来る。又、明年は万国大会がある故、ゆっくりして居れませんので、今度は私からあなた方のために考へることをせねばならぬと云ふ、止むを得ぬ場合であらうと思ふ。私は此の計画を示す会はなるべく時間をはぶく様にと置いて置いたが、之れは出来たからそれだけ進歩である。そして又、今後各部分からの報告はローマ字にしてする。之れはタイプライターでやる。そして先きに皆へ配つておいて、此の会では改良意見をきゝ問題を討議する様にするると非常に時間をはぶき、且つよく考へて来るやうにもなる。

[欠席、遅刻について]

それから今、欠席、遅刻のことが整理係から出ましたが、之れは尤もな要求である。我が国では遅刻をかまはぬが、外国では之れをかまうのである。かやうな人は信用をおとし、社会に容れられなくなるのである。遅刻と云ふことは、誠に人のことを考へぬ不謙遜な意志薄弱な、なまけものである。故に学校で及落を考へるときにも、先づ欠席、遅刻が直ぐ問題になる。

[Self-examination Self-development]

それで私は、之れをなほすために今度して見やうと思ふのは、Card system である。それは二つあるが、其の一つは Self-examination で、今一つは Self-development である。我々は毎日毎日、如何なることを経験して生活して居るか。

自分で自分を試験するのである。例へば遅刻をしたか、せぬかと云ふやうにしてしるしをつけるので、之れをつける時は英語でつける。かうすれば自然、英語も覚える。それから今一つあなた方は試験をうける態度をかへねばならぬ。先生は**お医者**であなた方は病人であるから、あなたは何でも正直に Card に書かねばならぬ。もしわるいことがあればそれも書かなければ、あなたの病氣はいつまでもなほらないのである。それで之れからは各自で Self-examination をして、各自で修養することがよいであらうと思ふ。之れは私が永い間考へたのであるが、もっとよい方法に気づいたら改めて行きたいと思ふ。未だ色々方法があるが、先づ之れだけを申しておきます。

[中表紙]

大正三年一月二十九日
大学部全体のために

大正三年一月二十九日
大学部全体のために

複雑なことを単純にするには、ど一すればよいかと云ふと、Unify 統一するので、之れは Uniformity 画一するとは違ふのである。夫れで千差万別なるものを統一するには、第一、完全なる Organization を作るが必要で、第二には夫れを運用しなければならぬ。

夫れで今度、私がローマ字を少し用ふる様にし、英語をも使つて考へる方法を立てたのは、やはり複雑なることを単純にする為で、其の頭の組み立て方を経験しなければわからない。斯う云ふ風にすることを或る人は、英語に達するためであるかと言ふ。夫れも一部分である。けれ共、夫れだけではない。実践倫理を学ぶためであるかと云ふと、夫れだけでもない。故に此の訳を考へるだけでも単純なことではないのであります。本を読んでもそ一云ふ考へが働かなければ、何のために出来た本であるかと云ふことがわからない。例へば、修養と英語とを結びつけたと云ふことだけはわかっても、之れは英語の為に修養をするか、修養のために英語を使ふのかと云ふことは一寸わからないのである。又料理を教へるのに西洋の風俗を教へると、之れは料理のために風俗を教へるか、風俗のために料理を教へるか一寸わからない。又或る人は、此の中に Drama の中にあるやうな Story などを加へたのは、ど一云ふ考へであるかと云つて批難する人があるかも知れぬ。[Goethe]

けれ共、独逸の大文学者である処の Goethe は、芸術的製作をなす吾人は只、束柴を集めて之れを堆積するのみ。之れをして焰々せしむるは、実に来来の電光を俟たざる可らずと言つて居ります。

天来とは宗教である。其の精神の光りを受けずしては、其の徹底した処の閃きにあはずしては光輝は発しないのである。

故に精神生活の深みに入るには、やはり芸術によらねばならぬ。思考力によらねばならぬ。其の意味から考ふれば、芸術はどんなものであるかと云ふことがわかるのみならず、総てのものが協同して我々の生活を助けるので、其の術を覚えねばなりません。

[1. 信念 2. 命令 3. 詞 4. Art 5. Anecdote 6. 思考]

そこで私が修養に芸術を結びつけ、詞を結びつけやうとするのは、生活を有効にし、且つ複雑なるものを単純にして行かうと云ふのである。故に其の方法を説き明かすことが必要であります。之れはど一云ふ順序にしてあるかと云ふと、

- | | |
|---------------------|-------|
| 第一は信念涵養 | 第二、命令 |
| 第三、Sentiment | 第四、芸術 |
| 第五、人格標本である Anecdote | |
| 第六、考へると云ふことである。(思考) | |

Thinking は思想の構成である。Composition、Building である。Combing together である。何か一つの本があつて、それに色々なものを持って来て結びつけることである。故に Thinking は加へることであると言ふ人もある。加の一方には減がある。故に、加減であると言ふ人もある。考へることと数学とは密接な関係がある。故に思考力を練るために数学をする。併し之れは表象的な物で、此の奥に深い意味あり、力あり、Wonderful mystery がある。機械的なものは只道具に過ぎぬ。然らば其の人間の性情を表はす所のものは何であるかと云ふと、人類皆の深い要求があるからである。其の意志、其の欲望を表はしたものが感情であつて、感情を意志が養うて行くことも出来る。その語の発達に由つて思想が発達し、文化或は人格の進むと云ふことになる。故に語の発達と文化或は人格の発達とは、相伴うて進むのである。

[Root idea]

語の根、思想の根となつて居るものを Root と言ふ。即ち Root idea 或は Root words と云ふものがある。夫れが本となつて人間の思想が段々と発達するのであります。

其の根とは何であるか。意志と感情とである。知恵は夫れをまとめる働きをするのであります。故に根は意志と感情であるが、之れを詞で表はしたものを命令、Imperative と言ふ。之れを文法では Imperative mood と言ひ、宗教では祈りと言ひ、或は人を感化、奨励するの働きである。

其の次に発達したものを Vocative と言ひ、文法で之れを呼格と言ひ、之れはラテン語と獨逸語とだけにあります。

其の次に出て来る語が Infinitive で、文法では Infinitive mood 不定称と言ふのである。夫れで語と云ふものは思想が声に表はれたもので、之れは何を表はしたものであるかと云ふと、感情或は意志である。之れが直ぐ思想となつて表はれる時は、第一に語となる。其の語はど一云ふ時に表はれるか。例へば野蛮の時代、又は子どもが幼なくて十分意識の表はれない時には何に由つて表すかと云ふと、泣くことである。そ一云ふことを考へて行くと、一番先きに感情と意志が表れる。夫れは何であるかと思ふと、命令である。私共人間は高尚なる神の頭れであるから、人に命令しやうと思ふ。又自分と云ふものに対して、自ら命令することもある。

[Go on, believe]

例へば此の間、私が Go on 或は Believe と書いたのは、進めよ、立てと命令するのであります。又、おゝ神よと言ふと、おゝとは神を呼びかけて言ふのであります。文法上では形容詞が動詞になると Participle と言ふ。

言語学者の Max Muller と云ふ人は、Beg food と云ふやうな詞は最初の命令であると言つて居る。そ一云ふ詞の間には宇宙と我、人と我との関係を表したものである。急な場合に火事、火事、Fire、Fire など言ふのは、やはり人に助けを求めて居るのである。故に自分を客観的に見て命令する時には、必ず意志が本となつて居る。又祈りの時などの呼格は、ほんといふに夫れを呼んで居るのである。故に其の徹底した処のものは、やはり宗教であるのであります。絶対的信頼の感情は宗教であると言つて居る。故に宗教は感情であり、其の感情は絶対的信頼である。独逸の Schleiermacher は、宗教はカベタスネス、即ち熱烈なる要素は我々が信頼する処の絶対者と我との間に深き関係を感じる。故におゝと呼ぶ声は、其の絶対者に非常なる信任をする処の熱烈なる関係を求むるのである。之れを Imperative と言ふ。其の Imperative mood が総ての詞の本となるのであります。

其の次の Infinitive mood とは、例へば人に聞くと言ふことは従ふことになると云ふやうなことがある。も一いつ力のあるのは Potential mood と言ふ。之れは可能性を表すものであります。いろいろあるけれど、我々に深い印象を与へる詞の中で最も力の強いものは、此の Imperative mood、Infinitive mood、Vocative mood、及び Potential mood。之れが一番、我々の信念を養ふ根底となるのである。故に、さまざまの文学があり、芸術がありますけれども、今日は之れを統一することが必要であります。余り沢山あるから浪費が多くて、統一がつかぬ。故に我々はど一しても統一せねばならぬ。あなた方は之れを信ずることが出来るがど一か。I believe in spirit and good will behind nature. 我々はおゝ神よと言つて、おゝと呼びかけたいものがある。人間は非常なる力があるものであるけれども、又一方には、非常にたよりたい処がある。故に之れがなかったならば寂寞を感じ、失望に陥るのである。之れは哲学である。あなた方は、我々には哲学はむづかしいと言ふのであるが、Story は哲学である。宗教である。芸術である。Story とは子どもの中にある。蜚人の頭にある。あなた方は何時でも、之れはむづかしいと云ふ暗示を受ける。之れが物の出来ない本である。そ一云ふことが頭にあつて物の出来る筈はありません。

[Essentially one]

私は、今日は余り複雑であるから統一をしたのである。宇宙にはいろいろのものがあるけれども、我々が非常なる関係のあるもので、我が意志、我が目的を助けてくれるのであります。夫れで、総ての宗教でも何でも、其の根底に於ては一つである。Essentially one である。そこが統一が出来たならば、私共は非常なる勇気が出て来る。そこで私は、Rise、Go on、Believe などと言つた。之れ等は皆、命令法であります。英語でも日本語でも、其の根に入ることは同じである。

故に私は、其処について方法を講じやうと致したのであります。

私が此の間言うたやうに、あなた方の考へをも一少し便宜にするために、Card を用いることにしましたが、夫れに二つある。一つは Self-examination card、も一つは Self-development card である。其の上に Name と Address とを書いて、其の次に命令法で書くのである。夫れは、私があなたに命令するのではなく、あなた自身に命令するのである。

I must develop myself daily. 私共は、命令法で行くと To know と云ふことと To do と云ふことである。

不定称とは、時とか人とか数とか云ふものに限られて居ないことであるけれど、夫れは何から来て居るか云ふと、動詞から来て居るのである。

夫れで 365 日にわけて、自分で自分に命令して信仰に由つて生きるのである。そ一して神と共に生活しやう、神の如くならうと云ふ、之れは大望である。夫れを先づ日本語で Jishin are と書いて、其の次に Self-confidence とかく。

[Be courage]

又、To be courage 勇気あれと云ふ題であつたなら、私共は先づそれについて考へねばならぬ。例へば私が従順であれと言ふと、あなた方は直ぐ確信が出来るけれども、勇気あれと言ふと容易に確信にならぬ。そこで大いに討論をしなければならぬ。そ一して組なり寮なりで、皆がよいとする語が出来たなら、夫れを確信にするのである。Be courage と言つて、命令的に言ふのがよい。

[Sentiment]

夫れが出来ると今度は Sentiment を作る。之れは日本語の日には日本の和歌なり、支那の儒教なりの方からとり、英語の朝は英語で出るのである。斯う云ふ風にして行くと、少くとも日に一語は必ず覚えらるゝ。そ一して之れを Art にすることが必要である。即ち音楽にするとか、或は Story を Drama にして面白くお話しするも宜しい。斯くの如くして日常生活にずっと続けて行かねばだめである。かう云ふ風にして三年間ずっと続けて修養し、経験しておいでになるならば、確に有効なることと信じて居ります。

願はくは、あなた方の字引から、ナポレオンのやうに Impossible と云ふ語をとつて貰ひたい。婦人にも同じく神の力があるのであります。故に、すれば必ず出来ると云ふことを信じて、ど一すれば出来るかと云ふことを考へて貰ひたいのであります。

[中表紙]

第一学年及予科にて

大正三年一月三十一日

第一学年及び予科にて

大正三年一月三十一日

今度私が、我が国に於ける教育の改善案と云ふものを世に公に致します。ど一か之れを教育家にも訴へ、我が国一般にも発表して、出来るだけ其の実行に勉めたいと思ひます。其の中に、学風改善と云ふ表がある。及び其の教育方針の表、並に教育組織の表がある。就中、私が一番の基礎と致しましたのは動力であります。

[動力について]

動力の涵養とは、即ち信念の涵養であります。此の間私が炎が出ると申しましたが、其れは教育の結果出来るもので、其の結果が実力となるのである。そ一して、凡て我々の実力の出来る原動力となるものが Spring である。其の次においたものが応用力であり研究であつて、研究は即ち知識である。

故に、ど一しても教育で人格の本を養ひ、実力をやしなひ、知識を養はねばならぬ。そ一して研究、応用をしなければならぬ。其れを怠つた為に、我が国では極淺薄な教育しか出来なかつた。故に今後はど一しても根底から改めねばならぬと云ふことであります。其処で、自己発見又は発展と云ふことと信念と云ふものとは別ではない。

偉大なるものを信頼すると云ふことと、真に自分を発見することとは同じものであります。故に実力の大体を養ふことから開始して行かねばならぬと云ふことが今年の方針である。そこであなた方が国家の将来と云ふこと、宗教と云ふこと、及び自己の発展と云ふことについて、銘々の態度を定めると云ふことを深くお考へなざる為に斯う云ふことを始めたのであります。

[応用]

其れをするには日常生活から始めねばならぬと申しましたが、其れには応用と云ふことが大切であります。そこで此の日常生活を始めてから、あなた方の感情なり思想なりに、又見識なりにどれだけの影響を及ぼしたのであらうか。其れを聞きたいのである。

私が日常生活と申すのは精神生活を意味するので、時の上から過去、現在、未来と云ふならば、過去から生れて今日に至つて居る現在の生活を申すのであります。

物の動力と云ふもの、即ち原動力の本源が枯竭して終ひはせぬかと云ふことが、国家の将来と云ふことから考へても、自己発展の上から考へても、一番心配なことでもあります。

そこで私がお尋ねすることは、此の動力を養ふと云ふことが何故大切であらうか。又此の動力と云ふことを何故重んじなければならぬのでせうか。

[Subject と Topic]

物を書いても Subject と云ふことと Topic と云ふことがあつて、題と中心思想とがあります。故に今、動力の必要と云

へば、これは Topic である。斯う云ふ風に論じて行つて始めて一つの論文となるのであります。其れで、ど一云ふことをあなた方が感じておいでになるか、又経験しておいでになるかを聞き度いのであります。

今日、政治界でも何処でも、腐敗、腐敗と言ふ。これは Topic であるが、斯う云ふことは何故おこなうのであるか。今日軍人でも、宗教家でも、学者でも、政治家でも私利の外はない。昔は商人と云つて居つたが、今日では唯だ商人ばかりではない。何故斯う云ふことになったかと云ふと、私は軍人なり政治家に、も一つ此の哲学とか、真理とか、信念とか云ふ様な根本がない。動機がないからであると思ふ。

[信念を涵養せよ]

此の動力、信念涵養をしなければ、真の国民の精神を發揮することは出来ないと思ふ。之れは即ち一つの Topic であります。之れは、我が国の実業について、政治について、教育について事実を観察して見るならば、ど一しても信念を涵養しなければならぬ。其の態度が必要であると言ふことが出来るのである。

も一つ、此の信念涵養と云ふことは婦人に必要であるかどうかと云ふことを考へるのが、あなたの問題でなくてはならぬ。今年私が斯う云ふことを考へ、又我が国の教育改善と云ふことの第一着として斯う云ふことを始めたと言ふのは、斯くの如き複雑なる訳からであります。詞は唯だ **しるし** であるから、其の真相、事実をお捕へにならねばならぬ。故に実力、応用力、知識力、又は研究力等から出来たものを人格、或は品格と言ふ。其の関係を示したのであるが、此の意味を皆さんがおとりになる事が必要であります。

扱て、此の信念はどうして養うて行くかと云ふと、此に信念涵養と云ふことがある。此の信念涵養と云ふことは、如何にすれば出来るであらうか。信念涵養の意味のとれたものは……

知力の方のことは カードシステム とする事とし、其の他身体のこと、経済方面のことを段々して行かうと思ひます。故に、其の生活を完全にする様にしなければならぬ。其の方法について段々と申さうと思ひましたが、色々の問題があった為に時がなくなりましたから、あなた方の方でも出来るだけ考へて、且つ解つただけづつ実行なさる事を望みます。

[中表紙]

大正三年二月五日

第二、三学年のために

大正三年二月五日

第二、三学年にて

係について申して見るならば、傾向係は斯う云ふことを司つて貰ひたい。修養を生活にして行くために、朝起きたならば先づ何か一つ Sentiment を読むとよいと思ふ。或る人は

論語をもつて居るであらう。或る人は仏書を、又或る人は何か研究した結果を持つて居るであらう。夫れを只形式的によむのではなく、自分の命となり、人の為にもなると思ふものを読んで、皆のよいと思ふものを其の日の糧とするといひと思ひます。夫れを選定する係が必要である。其の他、Biography 及び Anecdote と云ふものが、我々に大切である。夫れから今度は生活を改善しやうと思ふから、指導と云ふと大変詞が重くなりますが、そ一云ふ Committee を計るために傾向係が力をつくしたらど一であらうか。

[整理係]

も一つ Card を使ふについて、夫れを整理すると云ふこと、そ一云ふ方の役目を引き受ける様にしたらど一であらうか。

[学部係及び実験係]

Adjust committee、出欠席のこと、各個人の間をよくして行くこと、会をよくすること。

今度英語の為もあつて Nature study と Manual training とを生活にするために、そ一云ふ Committee もいるのである。又、哲学、倫理学、心理学等の研究、及び図書館、参考館の係と云ふものも色々必要であるから、其の方をなさつたらど一であらうかと思ふ。そ一して Card には二種類あつて、Subject card と Index card である。之れを取り扱ふ係も必要である。英語の指導、之れは境遇を作る上にも必要であるが、教育の上からも大切であります。

[体育係]

Story telling、Music、Drama、Self-examination card、Dance、Vocal exercise、Physical culture card

[料理係]

Manners、Cooking、House keeping、Budget、Economy、Business、Budget and Money

今日の様な試験学問は弊があるが、此の方は興味があつて非常にためになると思ふ。又お互に人を尊敬しあふことが出来る。何とならば、自分も何かを人のためにつくすことが出来ること云ふことがわかるから、力が展びるのである。私共は丁度、磁石のやうなもので、人に力を分てば分つほどふえて来る。斯う云ふ風にすれば人と競争することなしに益々事が出来るのであります。夫れで学問にしても何にしても、自分より以上の人が居ると云ふことが誠に大切である。も一つ此の方法は忙しい人のためによいのである。故に互に尊敬し、互に助け合つて進むと云ふ態度をもつたならば、一年、二年の中には、お互が非常に進むことが出来るのである。

[年限短縮について]

又、今教育上の問題となつて居るところの年限短縮と云ふこともあります。之れは外国語のために語の調和と云ふことを計れば雑作なく出来ることであります。故に、此の係の分担については猶よく相談をなさつて、追々と着手なさる様に致したいと思ひます。

[Discussion Debating]

今日は、Discussion、Debating と云ふことについてはじめたいと思ひます。Debating と云へば、反対を試みたり闘ふと云ふ意味があつて、個人的興味を目的として居るが、

Discussion と云へば公衆のための利益を本とし、真理のための証明を尊ぶのである。そこで我々が此処で互に討議し、互に弁論をするときには、私と云ふことを離れて公衆のためにするのである。故に Discussion と云ふ方にはお互の愛憎の念はない筈で、極公平にしなければならぬ。

Discussion をするには、Subject と Topic paragraph と云ふものがある。そ—して結論をつけるには Argumentation を要する。あなた方が論文をかくときには、之れ等のことが皆入用であります。故に Discussion 或は Debating と云ふことには二つの要素がある。其の一つは Conviction を得、人に対しては Convince するためである。も—一つは Persuade するためで、人が成る程そ—であると感じずるやうにならしむるためであります。故に、Discuss するには Material が必要で、夫れには調査、研究をしなければならぬ。そ—云ふ訳で、あなた方の研究して行く上に此の Discussion と云ふことを日常生活の上に問題として行かねばならぬ。之れは Card system を用ふる上に教へておく必要があるから、こゝで申すのであります。

[中表紙]

第一学年及予科にて
大正三年二月七日

第一学年及予科にて
大正三年二月七日

[共同研究]

今日は生活の中の共同研究、即ち英語で言ふと Discussion と云ふことが必要である。之れは、此の間三年の方で委しく申しましたが、あなた方にも申して見たいと思ふ。

[係の組織について]

其の前に、係について三年及二年に申したのであるが、あなた方にも申したいけれども、時をとりましますから三年又は二年についてお聞き下さる様に致したい。さて、係の役目の内容から云ふと、之れまでの係では少し不都合な処があるから、三年、二年と相談の上で少しお変へになる必要があると思ひます。

そ—して生活の方法を簡便にする為に Card system を用ふることに致しますが、其れは四、五日の中に完成しますから、其の上で委しく申すことに致しませう。

学校の方から云へば其の導き方をも改め、あなた方は其れと共に態度を改めて、真に我が国の高等教育を受くる処の婦人になると云ふ覚悟をなさらねばならぬ。殊に予科は今日から其の態度になつてお進みになると、卒業の時には私共が予期して居た処の結果を得らるゝであらうと思ひます。

[理想の人格になれ]

今度は、唯だきまつて居る処の知識を獲得するとか、又今日一番進んで居る処の知識を覚えて居ると云ふばかりでな

く、自分が成るべき婦人になる、自分が理想の人格になると云ふ事でなければ、私共の目的は達せられないのであります。

其の人格になると云ふことは、如何にしたならばなるるか云ふ問題であります。私共が人格になると云ふ働きには種々なる階段もあり、又色々な生活の方面もあつて、其れを自分から実行して見なければならぬ。今度はど—しても今までの教育に欠けて居た処のものを満たし、徹底した状態に達したいと思ひます。

[To be が大切]

そこで私があなた方に提供したいと思ひますことは、ソクラテスの言つた Self-knowledge で、之れは Self-discovery とも言ふ。其の次に起ることは、Self-development である。其れで此の間申した様に、今度 Self-examination と云ふ Card と Self-development card とを拵へました。

Self-development とはどう云ふことかと云ふと To be で、自分が成ると云ふことである。毎日幾らかづつ成ればよいのである。其れで私が Card の頭に入れておきましたことは、I shall develop myself daily to be courage である。

故に毎日、日常生活に於て私は、To be、成ると云ふことが大切である。其の前に To know と云ふことが必要であるが、此の To know と云ふことは To think と云ふことである。

[考は知である]

故に、考へると云ふことは知ることであるから、自分と他人、又自分と他のものとの関係を知ることが肝要である。

To think は To do と同じことで、To do は To will と同じことである。考へると云ふことがなかつたならば、我々の生活は盲動になる。考へると云ふことをして正確なる行ひとなり、正確なる行ひは人格を作るのである。故に、自分に成る、自分に其の人格を実現すると云ふことにならねばならぬ。

自分の人格とはどう云ふものであるかと云ふと、其の本質は感情であり、情緒であり、趣味であり、我々の傾向であり、意識である。我々の状態から云ふと、幸福とか満足とか云ふ状態である。故に其の傾向、趣味、意識、或は力とも云ふ Be と云ふことを換言すれば、Value 即ち価値である。自分が成ると云ふ経験が増して行かないと、どうしても教育の目的が達せられないのである。

[自信あれ]

我が国の婦人が人となる、人格となると云ふことは、どう云ふことであらうか。又、果して婦人が人格となる事が出来るものであらうかどうかと云ふことが問題であります。御婦人が自ら立派なる人格であると自信することが出来、人も亦立派に其れを認めると云ふことが問題であります。自分は高等教育を受けて、一步一步進んで居るものであると信ずる事が出来るかどうか。そこで私は一番始めに To be confident と入れました。先づ其の確信があなた方に出来るでせうか。之れを日本語で言ふと、自信あれと云ふことである。

自分が信ずると云ふ時には何を信ずるか云ふと、此の間私は Good will と言ひました。之れは又 Free will と言つても同じことである。自信力があると云ふことを信ずる前に、先づ私には自由意志がある、自分は目的を立てることの出来

るもの、或は目的を選択することの出来るもの、而して其の目的を成し遂ぐる事の出来るものであると云ふことから信じなければならぬ。

[束縛を脱せよ]

自由の反対は束縛、或は圧迫、又は制限である。此の束縛なり圧迫なり、又は制限なりの牢屋を出て、自由の天地に逍遙することが出来るかどうか。あなた方は今、境遇に囚はれて居る、又は遺伝或は習俗に囚はれて居るならば、自由はないのである。此处で一つ考へねばならぬ事は、宿命論、運命論である。自分はちゃんときまつた運命があつて、神とか何とか非常なる権威あるものに依つて定められて居つて、其れに従ふ外、自分には選択の自由、意志の自由と云ふものはないものであると斯う考へると、之れは機械的宿命説になるのである。

[宗教について]

今日、自我と云ふことを考へるならば、ど一しても天命論にまで到着しなければならぬ。之れは宗教であります。自分と云ふものから段々帰納的に考へても、亦宇宙は斯くの如きものであるから自分は斯く斯くなるべきものと演繹的に考へても、孰れにしても運命と云ふことに到達せざるを得ないのである。

之れを考へるに二つの道がある。一つを Reasoning と云ふて真理を追求して、論理から云つて之れより外に道はないと道理に由つてきめて行く仕方と、も一つは Intuition と云つて実体を自分の身に直感するのと二つある。此の二つの道を以て進み、而してわかつて来ると確信となるのであります。

之れは人間の歩むべき大道であります、其れに到達するに二つの道があるが、其の考へる力、歩む力、両方共に練つて行かねばならぬ。自ら推理し、自分から直感して見だして行く。之れが学問である。To be と云ふことは自分から考へ、自分から見ださねばならぬ。そこに入門しやうと云ふのであるが、あなた方は何れが長所で何れが短所であるかと云ふと、あなた方御婦人はどうしても情の方で、其の時、其の時の思ひつきでして行くことが多くて、道理を考へて其の目的に向つて突進して行くことが足りない。そこが短所であると思ふ。どうも狭い個人的感情になつて、大なる自由の天地に出ると云ふことが出来ぬ。其の為に力の浪費をして目的が達せられない。之れは大なる浪費であると思ふ。故に此の欠点を改めて、覚醒して行かねばならぬ。

[三つの働きについて]

然らば、どう云ふ風に生活して行つたらばよいかと云ふに、其の一方を指して Discussion、も一つを Debating と云ふ。も一つは Argumentation と云ふ。之れは討論と訳するとおつくなるのであるが、併しあなた方の働きである処の論文をかくと云ふことが即ち此の働きである。そこで To know 或は To think と云ふことをするには、此の三つの働きを勉めて行かねばならぬ。

[人格について]

此の目的は何かと云ふと、一つは Conviction、一つは Persuade と云ふことである。此の間、Card について Topic と

云ふことを申しましたが、そ一云ふ沢山な Topic が集まると Conviction と云つて、誰れが何と言つてもどうする事も出来ぬ確なものとなつて来るのであります。Persuading と云ふのは、成る程そ一であると感じて来ること。之れが、Argumentation 立論となる。そこに於て確なるものとなり、非常なる力が出来、非常なる感情が出来て始めて人格となるのであります。

そこで今日問題を一つ組み立て、Discussion に由つて、Argumentation の働きに由つて信仰を養へば、其れに由つて直感することも出来るやうになるのである。其の問題は Free will 自由意志である。其の反対は Destinism 宿命説である。宇宙から云ふと Teleology 目的論と宿命論となる。之れは学者の間にも議論のあることで、此の間も申した様に、I believe in spirit and goodwill behind nature. 斯う云ふことが信ぜらるゝかと云ふと、信ぜられないと云ふ人がある。其の人はやはり宿命説を信じて居るからである。

[確信のある人となれ]

宇宙には目的があつて、進化しつゝあるものである。人間には意志があつて、其の意志には自由があると考へるならば、之れは目的論となる。かう云ふ両説を研究して Discussion をすると、迷信とか偽りとか誤りとか云ふものが洗ひ落され、精選せられて正確、純潔なる確信と云ふものが成り立つて来るのであります。

[中表紙]

大正三年二月八日
東京支部会発会式にて

大正三年二月八日
東京支部会発会式にて

今日、東京支部会の発会式で皆さんとお目にかゝることを衷心から喜び、私が歸りまして初めてあふ方も大分あるやうであります。未だあちらで世話になつた方へもやうやう手紙を出したやうな次第で、内輪の皆さんには失礼致して居る。大坂へも行かなければならぬ、未だ意を果さぬ。今年の今日は丁度伯林を立つ筈であつた処、病氣にかゝつておりましたが、それは昨日のやうに思ふが、早一年を過ぎた。併し私は、今日は何だか今日のお天気やうに気が沈んで居る。之れは内輪ばなしであるが、昨夜来、重荷になつて居る。昨夜は調査会でおそくまで話しかへつたが、かう云ふことを思ひついたことは喜ばしいことであるが、併し責任が非常に重い。殊に根本の女子教育には頭をなやます。昨年も女子教育のことが出る度に皆私の顔を見る。それは女子の高等教育をすると常識がない、内の手伝ひもしないで本ばかり見て居ると云ふ。それで大学をたてることは有害だと言つて居る。それも数十人ならよいが、何百人と云ふに至つては弊が多いと言ふ。併し有力な人、今の大臣は女子の高等教育を認める

考へらしい。学位令についても考へて居る。又或る人は、女子は学問をすると荒らくなる。社会主義者や乱暴な女を育てるかのやうに考へて居る。併しそれは心配することはいらぬが、女子大学が女子高等教育の目標になって居るから、責任が重いのである。

[今後の働きについて]

此の頃、日本を紹介するために或る本をかいて居る。それは女子教育、婦人の人格の進歩についてであるが、之れを考へて見ると、大いなる問題である。そこで桜楓会員の力、人格、行ひ、会員の団結は今日の我が国家に対して大切であることは確な実状である。之れについて皆さんはどう考へられるか知らぬが、支部会が国家の急に際し、高等教育の代表者なる皆が如何なる態度で、如何なる働きをせらるゝかが頭に考へられ、しきりに訴へて見たいのであるけれ共、忙しいために少しも考へることをしなかったが、第一此の会をどうして行くかと云ふ問題を提出しておく。

[人格の出現を俟つ]

そして先づ考ふべきは各自の人格につき、及び結合して出来て居る桜楓会、殊に東京支部の人格について問題をもつて居る。私共は女子教育の進歩を知るには、卒業生の人格、団体の人格より外にない。然るに如何であらうか。皆さんが修養につとめて居らるゝことはわかつて居るが、一方非常に境遇が困難である。私はあなた方の凡てを知つて居る。又感ずることが出来る。私は日夜心配して忘れられぬことを知つて居る。互に人格をつぶし合つて居る。之れをど一して救ふかが気にかゝつてならぬ。母校も早や十三年であるから、ど一しても慕ふべき人格の生れ出ることを要求する。併し一方から言へば、未だ時が浅いから女子大学から生れると云ふことは無理ではないかと云ふことである。併し私も女子教育にたづさはつて三十五、六年になるから、我国の女子の中に人格が生れて居る筈である。併し我々が望んだ程、主張した程に進歩が出来て居るか否や。宗教学校が先きに着手したが、それにもどんな人格が生れたか、一般からして我が国の女子が出来て居るかど一かと云ふに、真に有効な結果が表るゝか否かを問題として居る。失望したかと云ふに、さうではない。その要求を感じて来たのは、そこに大いに根底が出来て来たのである。之れは桜楓会に於て、我々が深く考ふべきである。之れは私は申しません。皆さんが考へになるやうに申しておくのである。

夫れから、活動の方面、桜楓会の目的のために全国、世界の団体の Movement が今日どの位表れて居り、又考へられて居り、各自会員が感じて居られる処がどの位の程度にあるかをお考へになることを希望致します。

会員の各自の境遇を救済することも容易ならぬ。況んや我国の困難を救ふことは各自の修養、知識、才能を磨くだけでは自己の発展も遂げず、自分の使命を全うすることも出来ぬ。Organize した力が有効にはたらかぬと目的を達することを得ぬやうになった。

[財力の困難について]

昨夜も国家のことを憂ふる人が集まりいろいろ話が出たが、

ど一しても人心を統一し、国家を運転する処の動力、かくれた表れざる統括力が動揺して来て困難になった。又、表れたもの、財政も困難である。今年予算の海軍の一億六千万と云ふも、外国に比したら何でもないが、我国にとっては非常な重荷である。今日の我が国のは堅牢から云ふも、噸数から云ふもだめである。未だ世界の平和と云ふことも国力の Balance に由つてであるから、軍備拡張と云ふことも必要であるが、日本の経済は世界の比にならぬ。そして又海軍も腐敗し、政党も腐敗した。何もかも皆利益に由つて動いて居る。政治は国家の本である。実業も教育も宗教も皆政府に由つて改良せられるものであるに、その政府が腐敗してはだめである。故に今日は、国と云ふことを考へずに個人がよくなることは出来ないのである。

[覚醒せる婦人の団体を作れ]

故に、私共は政治、商業、宗教、教育も改良してはじめて偉人も出で、よい人も出るのであるから、我々は真の団体的活動を起し、殊に我が国の婦人が覚醒して、結合して団体に働かなければならぬ。愛国婦人会も矯風会もだめである。我が国婦人が覚醒し、一つの Organism となり、真の Copulation の働きが出来なければ救ふことが出来ぬ。故に婦人が政治上の Interest をもつて、真によい人を選ばねばならぬ。かくしてよい政治、よい法律、よい内閣をつくり、積極的に国家をよくすることである。副業を起し母親を教育する、子供をよくするにも、団体がなければだめである。新婦人のやり方は破壊的であるが、之れではいけない。積極的に建設する処の Movement が出来ねば、働きは出来ぬ。教育の改善も毎年毎年相談して居つたが、最早、改善の期が来たのである。故に皆が共同してするならば力が出る。而らざれば到底、婦人は国家からとしても認められない。之れは誰れがするかと云ふと、高等教育を受けたあなた方自らが立たねばならぬ。そこで之れを感情的盲動な感化力に任せずに、充分我々は積極的に結合した力をもつて、真の Under way を起して之れを各支部に及ぼし、世界に及ぼして行くべき期が来て居る。それには如何な方法、如何な修養するかも私は考へて居りますが、時がありませんから、之れは充分皆さんでお考へなることを希望致します。

[中表紙]

大正三年二月十一日

紀元節にて

大正三年二月十一日

紀元節にて

教育勅語に、我が皇祖皇宗 國を肇むること宏遠に 徳を樹つこと深厚なり、とある。徳を樹つこと深厚なりと云ふ意味の根本は如何なるものでありませうか。又其次に、我が國の精華にして、とある。それは我が國の命の根本をなして

居るのである。

[和魂]

之れは何を指して言うたのであろうか。私は謹んで思ふに、此の極く起りの始まりは宗教とも言ふべき、古神道の精神は和魂である。之れが我が国体の根本とも言ふべきものになって居るのである。国民が心を一にして、国家の主権者の天皇、元は神より御下りになった、その 天皇と国民全体とがよく一致し、一つの心、一つの身体となって、よく調和されたる処の大家庭となり、又人格とでも言ふやうなものになって行く。之れを和魂と言ふのであろうと思ふのである。

我が国体は始まって以来、その精神は上下心を一つにして相助け、相隣り合つて進むと云ふのであって、之れが帝室の根本動力となつてつゞき、万世一系の皇統が今日迄、成長発達したのである。そこで世界に於ける他の国の様に国民が生命、財産、権利を得るために血を流して王政を破壊し、国民が立つと云ふやうなことはないのであるが、我が国は昔から帝室に対して反感をもつやうなことは一度もなかったのである。

[立憲政体となる]

将軍家、平家、源氏等が王家と国民との間にたつて、専横を極めたことが屢々あるのである。そこで明治になってから天皇が憲法を下し賜うたのである。而して、明治二十三年になって立憲政体が行はれる様になったのであるが、之れは我が国に取つては未曾有の賜物である。而らば憲法政体とは如何なるものであろうか。之れが行はれてから国家は如何に変つたであらうか。精神に於ては昔から変化はないのである。国民の一致協同する、その調和に帰するのである。然らば、憲法政治以前は如何であつたかと云ふに、やはり君主政体であつたのである。而るに国民との間に居る将軍、大名達が専横であつたために、下は位の低い士に至る迄、勝手に人の生命を奪つたりしたのであるが、之れを咎めるものもなかったのである。又、農工商等の階級制度の嚴重なりしため、籠に入れられた鳥のやうに社会の制度から脱することが出来なかつたのである。今日の如き自由なる天地に生活するのは非常なるちがひであつたのである。此の憲法を見れば如何に国民の権利を与へられ、価値を認められたかがわかるのである。然るに我が国民は権利、義務と云ふ考へもなく、立憲と云ふ要求もなくしてまいつたのである。今日は益々国民の義務が重くなり、権利の必要があるにも拘はず、昔の惰性がつづいて居る為か、皆は未だ眠つて居るのである。この大正の御代になつてからは愈々国民の自覚するところあつて、之れを実現せねばならぬのである。文部省よりも今日、憲法発布の際の勅語をよむやうにと今日通知が来たのも、今日の如き我等の祝すべき祭日に於て憲法の注意を知らしめ、国体を自任するやうにと云ふのであろうと思ふ。

立憲政体は国民が自ら責任を感じ、自分の権利を自覚して、国民自ら政治を行はねばならぬのである。国民が自ら国家を運用し、国民自ら国家を作らねばならぬのである。此の学校に於ても常となへる所であるが、自治機関を作つて責任を負はねばならぬのである。勅語にもあるやうに、上下心を一にして盛んに経綸を行ふべしとある。之れは最も大切なこ

とであつて、男女とも同一の心であり権利もあるので、共に国家の目的をとげて行かねばならぬ。国の主権者が国家を治めて行くのと、共和政治をして居るところとあるけれ共、何れを問はず、上下一致して国家を保つて行く国を皆、立憲政体と言ふのである。

[Democracy]

西洋の語で言ふと Democracy と言ふが、之れは我が国の和魂と同じ意味なのである。而るに我が国に於ては、上のみが国運を左右する任に當つて居た。即ち、下は唯だ服従するばかりであつた。之れは今日の立憲政体の主旨とはちがつて居るのである。

[権利義務の自覚]

今日我が国が、内政に外交に経済に苦しみ奮闘して居る。此の国家の困難は誰れが救ふのであるか。今日に於ては、宮内省、陸軍省、海軍省、政友会等がさはいで居るのであって、一家の奥さんが隣家の火事の時に、自分の家でないからと云つて手を出さぬと云ふ態度の国民が多くあるのと同じである。我々が眞の国民たる以上は、如何なる下のものなりとも、国の困難は共に感じなければならぬのである。眞の国民たるものは、之れに就いて権利、義務を自覚しなければならぬ。我が国に於ては之れが欠けて居るために、今日の如く国が騒ぐのである。之れは破壊である。故に甚だ危険なのである。之れを改善するのは何であらうか、誰れであらうか。今日は上がるのであって、下より疑はれて居る。上とは何をさして言ふかと云ふに、貴族、金持等である。故に改善の元氣は下にあるのである。下は女子、子供、百姓、町人、又はこれらの青年である。無位無官の真面目な人にあるのである。国を改善するは、此の下よりするより外は詮ないのである。下が権利を要求せぬ様ではだめである。教育も之れと同じく、学生自らが向上せねばならぬのである。婦人に向上して行かうと云ふ元氣がなかつたならば、国はだめである。国体の実を挙げねば国の運命を開くことも出来ない。昨日、菊池男爵が来られたが、今の国家の状態をかへるには、どうしても教育家でなくてはならぬ。貴君の学校より始めるより他はない、と言はれた。我々は最早、口で言ふ時代は過ぎ去つて、着手すべき時代となつた。女子は地中であつたが、今よりは地上に萌え出さねばならぬ。私は此の四月よりは今迄のやうなる制度を改めて行かうとして Card system を作つたのであるが、皆さんも、こゝで一層努力してほしいのである。

女子は昔から小人と言はれて居る。ソクラテスは自ら自分を知ると言つて居るが、我等は眞に之れを実行せねばならぬ。我が国の財源は何処から求めねばならぬか。世界の財源は地下にある。国民の財源も地下にある。今後の教育は下層より財源を養はねばならぬと思ふ。

[Self-development]

Card にも書いたことであるが、Self-development と云ふことが必要である。自ら啓発する方法を考へねばならぬ。

[Resourceful]

財源と云ふことを英語で言ふと Resourceful と言ふが、我等は修養によつて、生活の Resourceful に富裕なる人とな

らねばならぬのである。

今こゝに、皆さんの参考のために各国の皇統表を御見せ致します。之れに於ては、我が国は2574年で世界の内、最も長いのである。之れに反して憲法政治となってからの年表はロシアが最も短く、其次是日本であつて、即ち二十六年である。工業の最も盛んな其の産物は何であるかと云ふに、第一は鉄であつて、第二は石炭であるが、日本は東洋と共に極く産出少く、殆んど西洋諸国とは比較にならぬ程なのである。その他、産物にしても殆んど見る物なく、之れ等の財源には到底勝利を得られぬのである。されば何を以て Resourceful をとることが出来るであらうか。今後の我が国民の頭である。殊に女子は之れを自覚し、自ら人格を發展して国家を救はねばならぬのである。

今日の紀元節の祝ふべき日に当り、我々はこゝに目覚むる所あつて、一層の決心と努力とを以て此の義務を果さねばならぬと思ひます。

[中表紙]

大正三年二月十二日
大学部二、三年にて

大正三年二月十二日
大学部二、三年にて

我々の生活の上に、統一ある頭の働きをもっていなければならない。併し其の前に、内に革命が起らなければならないのである。それで今度はそれを確実に、十分に徹底するやうにしたいと思ふのである。

[Resourceful]

昨日、Resourceful と云ふことを話したが、Source と云ふはものの源と云ふことである。吾人の頭を Resourceful にすると云ふことである。

[Pauperize]

その反対に Pauperize と云ふことがある。Pauper と云ふのは東北に苦しんで居る貧乏人と云ふ様な、乏しくして食に困る Poor なる生活を Pauper と言ふ。それで私共の生活が Pauper になるか、Resourceful になるかのちがひがあるのである。

今日我国の状態は、今日青年の間に起つて居る声は就職難と云ふことである。就職難と云ふことは満足の出来ない生活をして居ることである。職のないと云ふことは人間の苦しいことである。Mission を見出だして、それにつくすこと出来ない程、人生の悲惨はないのである。それで皆が Pauperize して、苦しんで来ると云ふ理になる。今日、日本の困難は神経質になって世界をにらみ、苦しんで居る。之れが地獄であり、之ほど気の毒なものはない。それで今日は之れを救済しなければならない。今日、宗教家が尚此の有様である故、どうしても根から直して行かなければならない。

今日職を失つた、天職を見出だし得ないで居るのは、今日の教育を余り一方に偏した、余り不完全な、余り狭隘な状態にならせたのは何であるか。

1. Business と云ふこと。即ち、如何にして利を得るか。
2. Amusement 快樂を求むるため。

かやうにして趣味、喜びと云ふものが只利とか快樂と云ふことにのみなつて、之れがために、学問をし快樂の本能を満足させることに傾いて来たのである。

それで教育も之れに傾いて人生に深い Resourceful をたくばへると云ふことはなく、たゞ月給を得たい。そしてその金は快樂に用ひ、生活につかひ、極一時的のものに用つて、それで成功したものの様である。今日の教育は人生の根本に入らない、人生それ自身には Pauperize して居る。之れを養ひ人生を豊かにすると云ふこと、人間の目的を実現しやうと云ふやうなことがない。之れが、今日 Resourceful が乏しいと云ふ理になつて居る。今日の青年が唯だ Amusement 又 Business と云ふことのみ考へて居るのは、実に Ignorant である。

[Self-examination]

併し、其の Ignorant を知つた時は幸である。その時初めて新しい經驗をする。それが新しい力を見出したのである。生活と云ふは之れである。わかつたならすぐ目的的活動をはじめ。經驗して To be となる。Satisfaction を得る。自分が Resourceful になると Conduct 自覚が出来、そーすると Presence of mind が出来、Courage が出来、Power が湧いて、自動的になつて来る。即ち、Satisfaction を得て来る Resourceful になつた經驗である。

試験に点をもらつても、ほんといふ出来て居ないならば駄目である。自分が Satisfied の出来て居るものでなければならぬ。之れは Card の来たときにする。

[Self-development]

今一つは、Self-development である。我々の生活を益々有効にするには研究生活 Scientific living をして、生命の實質を増して行く。価値を生み出して来る。それで我々は Investigation, Discussion, Observation science によって今迄人生をあらした自暴自棄などの如き悪徳を純潔 Purify にすることが出来る。

[Art]

其の次は芸術的生活。Music、Dance、Literature、Storytelling などが我々の修養となると云ふは、之れは我々の生活を Noble にし、又美化し、Refine する。内なる人を美にする。それには自分の人格が完全に表はれて来なければ美にならないのである。

[Philosophy]

意志的生活。意志的と云へば、吾人の人格を目的的に發展するもので、人格が合理的になつて来る。哲学は根本に徹底させ、人格を深くする働きがある。全人格が一つの固まつた意志が出来る。人格の力は Will の力である。Will の力があなた方に乏しいと思ふ。Will は婦人には必要なきやうに言はれて居たけれ共、も一そーではない。之れが欠けたことが

人格の出来にくい理である。

[Religious]

宗教的生活。これは今迄申した精神生活である。これは今迄話したから、大体の意味はわかるであらう。

それで之れを五つにすると、

1. は本能的な生活である。習慣的である。これはわるいものとは言ひにくい、之れをよくしなければならぬ。
2. 肉体を養ふこと
3. Art
4. Philosophy
5. Religious

此の内、唯だ努力を要せずして行かれるのは本能生活であり、それからだんだん進んで、尚深く入らんとして宗教的生活、即ち精神的な生活に入らうとするやうになって来るのである。それで我々が毎日新らしき生活をして、自分の内容に新しい Resourceful をたくばへて行かうとする。新たに財源をたくばへ、新に人格が生れると云ふには努力、実行を要するのである。そして日常生活に於て自分で行つて見て初めて出来るのである。之れを Self-development と云ふ。

[Free will]

それで今度は何を先に信ずるか云ふと、自らを信ずることである。それを出発点とする。確に力があると云ふことを先づ信じなければならない。それは何であるか。Free will、我々に自由意志がある。之れを信ずるか信じないかである。それで、此の Free will について Discussion をして見たいのである。之れは社会、哲学、自分の要求からのものであるが、今度は Topic を作つて来て Discussion するとよいのである。

I believe in sprit and good will behind nature.

それで土台を作るには、科学的にも哲学的にもしらべておくことが大切である。エリオット博士の論文が出て居る近代生活の変化、日本の政界の変化等、之れを我々が Insight を以て、常に内面を観察して居なければならないのである。

[中表紙]

第一学年及予科にて
大正三年二月十四日

大学部全体の為に
大正三年二月十四日

[Card の使用法について]

先頃から話しておきました Card が出来て来ましたから、今日は其の使用法について説明することに致します。

三時から、二年も三年も来る筈になって居りますから、大体は其の時一緒にお話することと致しまして、今はあなた方に特に注意致すことだけに止めます。

今度の方法は私が大分久しく考へて、且つ経験を重ねまし

て遂に実行するに至つたのであります。Card は今後あなた方の生活に於て凡て自動的にして、例へ卒業後と雖も、又如何なる田舎へ参りましても自ら修養して行かれる様にした積りであります。

[英語の必要]

知識の鍵とも言ふべき言葉、此の大切な言葉の中で、我が国の言葉は非常に不便であるから、先づ之れを改め、又あなた方は今は世界と云ふ広い海の中に生活して居るのでありますから、我国内のみ限られた言葉だけでは役に立たないのであります。もっと世界に通用する言葉を知らなければならぬ。せめて英語一つだけでも自分のものにして置かなければならぬ。併し今度の方法は之れが唯一の目的ではないのであります。けれども間接に労費せぬ様に Master すると云ふことが肝要であります。

[不可能と云ふ恐れを去れ]

あなた方の力が不同でありますから中々困難であります、之れは止むを得ぬことで、我々はどうしても此の困難に打ち勝つだけの勇氣がなくてはなりません。

初めは外国語を使ふと云ふことは不可能なことであると云ふ恐れがあるかも知れぬが、先づ此の恐れを除かぬばならぬ。若し私共がある方法を見出すことが出来たならば、思ひの外、安いことになるのであります。又、今日あなた方の境遇は、なす事多くして時が割合に少なくありますから中々困難も多いに違ひないが、之れもあなた方に勇氣があつたならば、さほど六ヶ敷いことではないと思ふ。

[昔は外国を学ぶと云ふことは国法をおかす事であつた]

我が国の人でも随分困難して英語を学んだ人がある。之れ等の人の経験を考へて見るならば、余程参考になると思ふ。例へて見れば、彼の福澤、中村先生などが英語や和蘭語を学ぶ時などは未だ字引と云ふものなどはなかつたから、其の困難は一通りではなかつたのである。

私共が外国語を学ぶ時でも、今の様にタイプライターなど云ふものがなかつたから、皆、木版にほつたものである。又、字引もないから、解らぬ所は一々先生に聞かぬばならなかつた。私共の時代でさへ此の通りであつたが、福澤先生、中村先生の頃には、外国語を学ぶものは国法をおかすものであつたから、其の苦心は推して知る事が出来る。

併し、有らゆる困難と戦つて遂に之れに打ち勝つた為に其の結果、国家に貢献したことは人のよく知る所である。故に之れ等のことを考へて見ると、あなた方の境遇はまだまだ困難ではないのである。

[勇氣を以て事にあたれ]

私は先年の漫遊の時に、英國のブリティッシュミュージアムに於て大に学んだ事がある。其れは六千年も前の古代文明国の言葉、今は Dead language であるが、石に刻つた之等の言葉を有らゆる方法を試みて、研究に研究を重ねて其の文字を読み、而して世界に大なる貢献をなすつゝあるのを見ました。

故に、あなた方は境遇がよくないと云うて失望するにはあたらぬのである。大に勇氣を起してやつたならば、決して成功しないことはないと思ひます。あなた方が進むと云ふ

ことは、草木が芽を出す様なものである。

其の進歩はおそくとも、絶えず怠らなかつたならば必ず成功しないことはないのである。

[Card の記入法]

此の間あげました英語を読んで見ましたか。時間が来ましたから、お解りになったことにして Card について説明致します。

向って左の上の方へ Name とかいてある。Card はかう云ふ風に使ふつもりであります。一寸例を挙げて見ますならば、

Name	J. N	Time table	Date
a. m.	5. 30-6	Be happy! Quick on your toes! Breathe deeply. Read till glow! Press back your shoulders! Sing cheerfully!	T. 3 : 2 : 14
	6-6. 30	I must bite my food slowly.	
	6. 30-7	Meditate! Say the sentiments aloud! Sing!	
	12. 30-1	Wash hands! Lunch. Examine the attendance.	
	1-6	Study.	
	6-7	Dinner. Manner. Decoration. Sentiments Storyteller — Sing — Drama —	
	9-9. 20	Meditation — Reading — Sing — Exercise — Self-examination — Thanksgiving	

[Card 使用の目的]

此の Card を使はうと思うたのは、第一あなた方の内にひそんで居る力を育てやうと思うて、永年思慮、経験して、遂に実行することになったのであるが、尚此の目的等の詳しい事については此間出版した新時代の教育に書いてありますから、是非一度お読みになることを希望致します。

今日は時がなくて十分説明することが出来なかつた事は甚だ残念であります、あなた方は自分でよくお考へになって、来週から実行なさる様に希望致して置きます。

[中表紙]

大正三年二月二十六日
大学部二、三年にて

大正三年二月二十六日
大学部二、三年にて

皆さんがおしらべになった内、社会学、心理学、教育学、物理学、生物学、宗教、哲学の方面からおしらべになった方が各々一人づつある。其の他は常識的でせられたのである。之れでもよいが、ほんとは本をよんで討論しなければならぬが、今日は私が材料をもって来ましたから、それについて考へた方がよからぬ。

一体、此の問題は非常にむづかしいことで、昔から人類が

数千年間研究したものである。あなた方が修養して行かれるにも根本のものであるから、そ一直ぐわかつて行くべきものではない。多くの学者の苦しんだ六ヶしい問題である。凡ての学問が徹底すると、何れの科学、学問も之れに帰して来る。又、行き詰る処も此処である。どの科学からでも要求を満足さすには、之れに行きあたる。之れを解しなければ、先きへ進まれぬ。科学だけでなく、実際問題、政治、教育、道徳、社会、経済問題等、凡て之れに帰着する。之れをしなければ充分な進歩を経験することを得ない。

之れを研究する道に二つある。即ち、帰納的にするのと、哲学的にするのと行き方が二種あるが、今日の方法から云ふと、帰納的にどこまで行けるか、それから行きつまって行けなくなって新な道から入る方がよいかと思ふ。之れは非常に広くて短時日にはむづかしい。此の問題の歴史を知るだけでも余程時間をとる。それで私は色々材料ももち、又私の信じた説もありますが、一つ問題に余り永く時をとることをゆるしませんから、先づ Card の順でしませう。

[(1) 宿命説]

先づはじめにとる問題を宿命説、二を自由意志説。宿命説が行きつまって、自由意志説になったのは近々である。之れは実際の方から云ふも、学説の方から云ふも最近のことで、歴史上からは宿命説がはじめであるから、此の方からは始める。之れは討論の形で進んだ方がよいかと思ふ。

そこで宿命説の目的を Physical からとする。今日の進んだものは、科学から原理を定めて居る。近代科学の見出だした原理は第一、現象界。宇宙の力は増減なきもの。アトムも消滅さすことは出来ないもので、エネルギーが人間の知、意等になったので、即ち変化であつて、体も精神も永久不滅な自然の法則に反してすることは決して出来ないので、勝手にかへるとか、創造などは出来ない。即ち、宇宙は運命ときまつて居つて、人為で左右することの出来ないものであると云ふこと。故に、物理学では自由意志の説明は出来ない。あなた方が此の説をやぶることが出来なければ、自由意志の確信は出来ない。

[スペンサー]

スペンサーも現象界丈ではない。其の奥に何かあると思うた。而し、其の本体とは何であるか。スペンサーは如何に答へたかと云ふと、(不可思議)と言つた。神は実体かも知れぬが、科学的研究に於て本体を知る知識がないのである。之れは最近、科学者の大家スペンサーの行き詰つた処である。

[カント]

スペンサー以前にカントが、現象界から人知を以て越え行くべからざる自由意志、良心、不滅の命、神と云ふことは到底科学を以て見出すこと能はずと信じたのである。そこでカントは実体の性質に行く処の考へを起した。Postulate 及び人間の自然の傾向に重きをおかんければならぬ。そこに価値があると云ふ考へがカントに至つて考へられた。之れはカント自身にもよくわからなかつた。

[近世宿命説の打破]

カントにつづいて思想が常に動いて居たけれど、思想界を

風靡するに至らなかったが、近代になって漸く行き詰った障害を打破するの暁に至った。之れは科学を益々徹底さす方法と、今一つはカントが道を開き、ショーペンハウエル、ゼームス、ベルグソン、オイツケンなどの行き方により、物理学の宿命説を此の両方から共同して、宿命説を破って信ずるに足らぬものにした。第一、科学の方からは物理から化学、生物学、心理学にと、次第に深く行って行った。即ち、力を深く究めると、エネルギーは光、電気、磁石、或はエーテルエネルギーと云ふも仮説である。エネルギーの振動と云ふも、人間の智力によって深い処へ行くと、エネルギーと云ふものが振動、流動であり、昔のやうに固定したものでない。光、熱、電気の如きエネルギーは力である。

[間接の智]

而し力があると定めた処のものは、人間の智である。併し此の智はSecondhand 間接の智である。本体の力を直接に接触したのではない。媒介によって間接に得た処の仮説である。即ち、力の活きの結果を我々が見たので、力自身を知らぬのである。只さう云ふ力があると云ふことを活きによって推理して得た間接の智で、そのものはわからない。

[直接の智]

併し智の本当の土台は直接の智でなくてはならぬ。直接の智とは何であるか。自我である。自我とは何か。体ではない、心霊的の力である。心の力、我に要求する力が Personal knowledge であつて、他は間接の智である。其の最も本は何であるかと云ふと My attention で、之れはFirsthand で此の力が Movement となる。そ—して之れはわかつて居るもので、疑ふ余地はないのである。此の力が肉体的、物質的動力となると云ふことがわかる。此の心霊的の力が他の力を起して最も強い力となるものの中で、最もよくわかつて居るものは自分であつて、自分が一番確なものである。斯う云ふ方から行くと、ど—しても Energy と云ふものが Natural law、即ち電気は電気、磁石は磁石ときまつて居るものばかりが実体であると言はれなくなる。他のものはSecondhand の力であつて、一番本となるものは自分の中にあるものである。之れは何であるかと云ふことが問題になって来る。此のFirsthand の力を本として推理して行くと、此の力が一番本である。此の我の内にある処の力を使うて進んで行くと、スペンサーが Unknowable と言つた本体迄入ることが出来る。此の本体を思想の自他と言つてもよい。我々が知りたいと思ふ要求を意の如く啓いて行くことが出来る。故に自由と云ふやうな要素を見出だすことも出来るのである。そ—すると、之れ迄ど—しても科学で見ることの出来なかつた本体に迄突き込んで、も—直接の知識を捕へることが出来る。之れから進んで得た処の根本の知識は何であるか。其知識によって見た処のものは何であるかと云ふと、第一に見出だしたものが意志である。或はシュライエルマヘルなどの詞を使ふと、感情である。心理学上の詞を其の意味に使つて言ふならば、欲望或は要求であり、精神的生命であり、精神的生活である。精神的とは何ぞやと云へば、進歩である。向上である。よくならう、生きやう、進まうと云ふやうな力である。之れを真の力、愛の力、

美とか色々の名をつけるが、之れを意志と云ふのである。

[ショーペンハウエル]

自分と云ふ First knowledge から突き進んで、本体を見出した勇者、無論未だそこに欠点はありますが、其の大道に突き入つた処の先登者とも言ふべき人は、私はショーペンハウエルであると思ふ。ショーペンハウエルは、此の宇内は意志であると言ひました。

[本体は我が内にあり]

其の意味をとつて英語で申すならば、It is what I am, and I am what it is. 此の本体を知るものは何であるかと云ふと、内にある処の我である。其の間には何も仲介者はないのである。自分は本体を知るものであるばかりでなく、我れ自身が即ち其の本体である。我とは何であるか。自分の意志が本体の一部である。其の世界の実体である。我は其の本体と同じものである。其の本体たるものが我が内にあるから、本体がわかるのである。故に我々はたゞ自分を見て本体と云ふものがわかるものであると言つて居る。之れからして此の人は宇宙の真髓は意志であり、人間の一番深い根底となるものは意志である。意志とは即ち理想とか努力とか向上とか云ふもので、宇宙の Nature と一つである。こゝ迄進んで始めて宇宙は如何なるものであるかと云ふことの口が少し開けて来たのである。彼れの考への少し足らぬ処はあるけれ共、其の少しばかりの欠点を以て此の大なる発見を否定することは出来ぬ。何となれば、彼れも人間であるから。此の人の欠点は少し厭世、悲哀に傾く処の人格をもつて居たから厭世思想に傾いて、其の意志と云ふものは Good will であると云ふやうには考へられなかつたけれ共、機械的説明、数学的解釈から実体を考へる処の道を誤つて、行きつまつて居る処から道を開いて光りを認めた処の効果と云ふものは、我々が尊敬しなければならぬ。故に、兎も角も此の考へから宇宙は唯だ Natural law に支配せられて居る処の Energy だけではないと云ふことがわかつて来たのである。

之れはむづかしい問題で大分時をとりましたが、併し宿命論を破るに大切な門口であるから、此処から論証して行かねばならぬ。宿命説の立てる論拠が此処にあるから、ど—しても此処から説明して行く必要があつたのであります。

[中表紙]

大学部一年及予科にて
大正三年二月二十八日

大正三年二月二十八日
第一学年及予科にて

先づ此の問題をきめるには、あなた方の知識、其の他の程度が何処まで一致することが出来るかと云ふことを調べねばならぬ。其の後に又、齟齬する点が出来て来る。其の時始めて討論が出来るのである。

これをきめるには、(1)本体論 (2)目的論 (3)認識論と云ふやうなことから研究しなければならぬ。哲学上、本体と云へば宇宙と云ふことで、宇宙と云へば何も洩れるものではなく、総べてを込めて云ふのである。

[本体論について]

そこで先づ本体論から云ふと、精神も物質も共在して居ると云ふことになる。

又、物質論から段々研究して行くと、Atomと云ふことになるが、未だAtomよりも微細なるものがある。つまり動と云ふことになり、力になり、精力主義と云ふやうなものがある。一元論があり、二元論があり、多元論がある。多元論から云ふと、宇宙には沢山の個性と云ふものがあると云ふ事になる。其れから宇宙内は感情であると言ふ人もあれば、意志であると言ふ人もある。宇宙には総べてのものがある。故にあなた方は、其の関係から離れることは出来ぬ。然らば我々も宇宙の一部であると云ふことについては、誰れも異存はあるまいと思ふ。

[本体論についてあなた方の信ずる所は何か]

然らば本体と云ふことについて、之れなら一致が出来る、之れならどうしても異存は言へないと云ふことは何であるか。言つて御覧なさい。

- ・宇宙は精神であると云ふことに一致の出来るものは…………
- ・宇宙は物質であると云ふことを信ぜらるゝものは…………
- ・宇宙は意志であると思ふものは…………
- ・宇宙は力であると思ふものは…………

力であると云ふことについては誰れも一致する事が出来るけれども、其の力は意志の力である、自然律の力であると云ふことになって来ると、此処に争点が出る。

[意志とは何ぞや]

意志と云へば目的を知る力、又は目的を立つる力であるとも言はれる。総べて物は自然律に支配せられて居るものである。其の働きを指して自然律とも言ふことが出来る。

宇宙は意志の力であると思ふものは…………

自然律の力であると思ふものは…………

自然律と云へば必然的、機械的のものであるが、此の力であると云ふことを否定する事が出来るであらうか。否定することが出来ないならば、之れは実在ではあるまいか。

こゝで必要なことは、意志と云ふものの定義を下さねばならぬ。意志とは抑も何であらうか。之れをショーペンハウエルは、Will to believeと言つたのである。又、昔から不老不死の薬があるならば得たいものであると、誰れも彼れも望んだのである。つまり、あなた方が満足することの出来ぬのは意志があるからで、意志があるから目的を立て、理想を渴望するのである。故に、どうしても本体は意志がある。生きるると云ふ意志がある。生きるとは進むのである。向上するのである。

そこで、先づ一番先きに実体のわかるのは自分を知ると云ふことで、意識とは第一、我れを知ること。即ち自我意識と云ふことがFirsthand knowledgeである。之れが出来なければ、も一他に知識はないのである。之れが一番確実なもので、

少し考へれば誰れにもわかるのである。ソクラテスは、Know thyselfと申しました。之れが出来て始めて宇宙がわかるのであります。

光、熱、音等云ふものは現象であつて、斯う云ふものに依つて幾らかづつ実体を知ることが出来る。之れをSecondhand knowledgeと言ふ。之れを見出したのがショーペンハウエルで、此の頃、之れを開明した人がベルグソンで、Sympathetic insightと言ふのである。同情的洞察とは自分の心を其の方へ向けて、同情を以て其の中に入つて行く。其の物と同じ経験を味はう事が出来るのである。

我々が人を知ると云ふのも、神を知ると云ふのも自分があるからわかるので、自分がなかつたら知ることは出来ないであります。

そこで先づ自分は意志である。又自分を通じて此の意志の働きは、空間と時間とを超越して生活することが出来るのである。其の意志と云ふものが自分にあるのみならず、此の意志に由つて宇宙内を知る事が出来る。そ一して、宇宙内の実体は意志であると云ふ事を知り得るのであります。

[意志は自由なるものか]

其の意志は自由なものであるかどうか。自由とは生きたい、進みたい、向上したい、目的を成就したい、もっとよくなりたると云ふ意志がある。其の意志は自由なものであるかどうか。自由がないならば、幾らあがいても効はないのである。そこで、其の意志には自由があるかないかと云ふ事は問題になるのである。

又、其の意志は善であるか悪であるか。或は善悪混淆したものであるかどうかと云ふことが問題になります。

- ・自由意志を信ずるものは…………

ソクラテスは毒酒を仰いで死なねばならぬことになり、キリストは十字架にかけられて、天の父よ、我を忘れ給ふか、と言うて瞑目せられたと云ふことがあります。昔から本当に自由意志を得たと言はれて居るソクラテス、キリストの如きも一面から云へば、自由を奪はれた如くに見えるけれども、其れに対して駁論の言はれる人は…………

[本能について]

此の頃云ふ本能生活と云ふことに、二つの意味があります。今迄は余りに本能を抑へ過ぎたから、本能に従つて生活するがよいと云ふ説がある。之れも一理あるけれども、人間は動物から進んで来たものであるから、動物的本能がある。其れが悪く働くと人を憎んだり、食ひ合つたり、人の血を見て喜ぶと云ふやうなことになる。其れはよく研究しなければならぬ。

[自由意志を誤るな]

結婚の発達史をよんでもわかることであるが、今日の家庭組織は人間が色々経験を積んで、之れが一番よいと云ふことに迄進んで来たのである。夫れを無視して、本能のまゝに結婚するのが偉い事であるなどと思ふのは、大なる間違ひであります。故に、唯時々刻々に起る処の快樂を満たし、本能のまゝに生活することが自由意志であると考へるならば、大変な誤りであります。

故に、あなた方が凡ての方面から研究して、ちゃんと一つ纏まった処の考へを持って、自分の感情、意志が統一するやうにして生活をなさらねばなりません。

[中表紙]
大学部全体の為に
大正三年三月五日

大正三年三月五日
大学部全体の為に

[実体学について]

実体学に色々な説がある。先づ Ontology of materialism で、空間と物体とで出来たものが実体であると云ふ学説で、之れは、物質論宿命説となるのである。

其の次に Agnostic monism で、不可思議一元論となる。之れもやはり宿命説となります。何となれば、積極的自我意識と云ふものを肯定することが出来ぬからである。

次に数ふべきものは Dualism で、実体には精神の実体と物質の実体とあると云ふ。之れを二元論と言ひますが、此の説は時としてはマホメットの学説の如き宿命論となり、場合によってはゾロアスターの学説の如き自由意志となる。

次は唯心論で、本体の実質は精神的のものであると云ふ。これには Absolute idealism 絶対的唯心論と Pluralistic idealism 多元的唯心論となる。前者はグリーンの如き、後者はロイスなどの説となる。斯う云ふ訳で、細かく分けると四つになります。

此の前に一年の方では、Reality は力であると云ふことになった。今日は物理化学の方面からでも、実体は唯だ物質ではなく Energy であると云ふことになり、又実体論の方からでも意志の力であると云ふことになりました。

夫れから力を二つに分けて、意志の力、物質の力と言ふことが出来る。然らば、本体は二つの力だけに分つべきであらうかどうか。之れは問題であります。

[天才論]

又、動物学の方では遺伝と云ふことから、天才と云ふものは生れぬ先きから出来て居るものである。故に、自分の意志を以て如何ともする事の出来ぬものであると云ふ。之れが一つの争点であります。

今一つ生物学から云ふと、生物は四圍の境遇に由って出来るものであると云ふ。そこで罪人に対する考へも、今日では余程変つて参りました。其の罪は罪人一人で作ったのではなく、遺伝がわるい。境遇がわるい。も一つは社会がわるい。

[遺伝と境遇]

故に生物の行ひの方向と云ふのは、遺伝と境遇とに由って決定せらるゝのであると云ふことが、生物学の方からは幾らも証明せらるゝのである。併し其の遺伝と境遇との二つは、其の動物の動作を決定する上に与つて力あるものであるけれ

ども、果して生物は、其れだけに限られて自由意志と云ふものは少しもないものであらうか。

昔よりも段々と宿命説は衰へて行くけれども、今日あることを思へば宿命説の成立する論拠もあるのである。けれども我々は、かう云ふ問題を二千年とか三千年とか云ふ短い経験に依つて決定しやうとは思はぬ。何となれば、宇宙の生命は夫れだけの短かいものではなく、もっと非常に永いものである。然るに、我々は僅かに二千年とか三千年とか云ふ短かい経験しか持つて居らぬからであります。

[学説の方面と実践的方面]

故に、もっと永い間の歴史経験から考へねばならぬ。故に第一は(空白)、第二は(空白)、第三は生理学、第四は因果律、第五は本体学、第六は心理学から論じ、第七は倫理学、第八は宗教学、即ち神学と云ふものから論ずる。之れが学説の方から議論を立つる処の出发点であります。併し、必ずしも之れが学問の方の順序と云ふのではない。考への進む順序から申したのである。

かう云ふ処も争点の起る処であるから、思想の進む方面から研究し、其の上で実践的方面からも調べねばならぬ。

併し、今回は試験をせねばならず時がありませんから、かう云ふ討論はよしておいて、如何にして結びつけるかに就いて其のあらましを私から述べることに致しませう。

[三つの力]

今言ふやうに、力の性質に依つて色々な要素に分ける事が出来ますけれども、先づ実体は力である。本の力を科学に由つて、我が内から実体を見る処の哲学に由り、又客観的に実体を見る知識に由つて、其の知識の範囲から云ふと、凡そ三つ位にわけることが出来る。

第一は意志の力、第二は遺伝の力、第三は境遇の力と云ふ事に致します。

[流動]

之れは後で、其の力の関係を結びますが、此の三つの力とは如何なるものであるか。又、其の力は如何に働き合ふものであるかと云ひますと、今日の説明、今日の真理、一番進んで居る考へ其の力は何であるかと云ふと、流動と云ふ。宇宙の本体は流れて居る処の力である。其の物質の力の流れて居る力と云ふことを近來の人で研究したのは、オスカー ワイルドと、(空白)との二人である。

今迄は、実体は物質であると思つたけれども、そ一ではない。物質は固定して居るやうではあるが、進化論の詞で言ふと進化しつゝあつて少しも止まる事がないと云ふ。私共の身体は生れてから同じまゝでじつとして居るものと思つたけれども、決してさうではない。

生物学の方から云ふと、七年目にはすっかり変ると云ふ。斯くの如く常に動いて変化して居るので、実は宇宙の一つでもじつとして居るものはない。

[自由意志]

物質のやうに見えるのは現象であつて、其の Reality は常に流動して居るのである。其の流れを始終支配して、渦巻をなして居る処の根本の力が即ち意志の力で、此の自由意志と

云ふものが宇宙の本体である。

流動と云ふのもやはり例へで、真の力は Consciousness である。我れと云ふものの中に、Reality があるのである。夫れがどうして出来るかと云ふと、ベルグソンの詞を用いるならば、Inner life を見ることの出来る処の Sympathetic intuition で、之れを直覚力と言ふ。此の力があるが為に自分の Inner life、徹底した処の我れを見る事が出来、人の心を知ることが出来る。そこで Will and time と言ったり、流れと言ったり、Creative evolution と言ったり、まだ色々の詞を使って居ります。

[流れについて]

流るゝと云ふのは進歩であり、向上であり、創造であつて、非常に意味深長である。之れを Intensity と言ふ。夫れは自分の経験が大変深くなって、色々の人格が Organization の中に織りなされて、今迄なかった処のものとなつて流れて行くこと云ふことになるのであります。

そして意志は此の遺伝及び境遇を少しづつかへて行くので、此の流れに三つ程の傾向がある。其の間には如何なる働きがあるであらうか。私共は、此の流れと云ふものは到底之れを数学的に増減して行くことは出来ぬ。

かう云ふ風に説明すると、非常なる間違を生ずるのである。私共の力は益強まり、益広まって流れて行くのである。此の変遷し流動して行く力は、どう云ふ風になるかと云ふ事が問題であります。

此の傾き、之れは我々の本能であり欲望であり、物をして行く処の動機であつて、之れが一つの意志である。我々が喜んだり悲しんだり、活動したり、闘うたり、我々が全力を或物に捧げたり、悲劇を演じたり喜劇を演じたりする処の自発的の力で、決して止まる処を知らぬもの。之れを指して意志の力と云ふのである。

之れは流れであるから、我々の意志と云ふものの中に色々の過去の流れが皆入つて居るから、我々の中に色々な傾き、色々な性癖がある。其の力が何かを取らう、何処かに行かうとする。之れは即ち自ら成らう、進まうと云ふ傾向で、非常なる力である。

此の流動が何かにふれて刺激せらるゝ、此の刺激の力が第三に言はんとする処の境遇である。此の刺激の中には、我が意志を阻害しやうとするものもあれば、益々強めて共同しやうとする力もある。故に一方では始終戦ひながら、一方では始終協同しつゝある。其の境遇の刺激に対して制御することが大切で、之れを制御するには非常なる知力を要する。其の知力の本は Conception である。其の方法は宿命であるとするものもあるが、我々の考へから言へば、自由意志である。そこで益々大きなものとなり、強いものとなつて、益々大なる活動を試み、其の目的をなし遂げると云ふことが、即ち本当の意志の力と云ふものである。

[遺伝]

刺激に応じて其の方向に進ませやうとするものも遺伝であり、我々の力も遺伝であり、我々をして益々奮闘せしむるものも亦遺伝である。

而して、其の戦ひの中に立つて勝負を争うて居るものがある。之れを指して意志の力と言ふのである。

故に、自由意志とは其の目的を遂げる力である。又、内に起る処の流動をして完全ならしめやうとするもの、及び反対なる力に勝つて了つて自分の欲する処に行かうとする力が、自由意志にならうとする力であります。

所謂、我々の運命が外の力に由つてきめらるゝのではなく、内から起つて外の力を共同せしめて行かうとする力、之れを自由意志の力と言ふのであります。

[吾人に失敗あるは何故か]

我々には何時も内から湧き出でて滔々と流れて行く処の力がある。山を海に移すことも出来れば、芥子の種子の中に大洋の水を吸ひ込む事の出来ると云ふのは譬であるが、何時もかう云ふ風でありたい。けれども時々失敗をする。パウロの如きも、「嗚呼、我なやめるもの哉」と言つて居る。之れは何かと云ふと、我々は遺伝に支配せらるゝもの、境遇に支配せらるゝものである。歴史から言つても段々と自由意志となるけれども、二千年の間に中々遺伝と境遇とに由つて支配されるものである。けれども、之れに勝つと云ふ事は不可能ではない。

[自覚は如何にして得らるゝか]

我々は度々負けるものであるけれども、信仰と勇氣とを以て奮闘に奮闘を重ねて行けば、意志の自由が得らるゝのである。此の意志の自由を得て始めて自覚する事が出来る。遺伝と戦ひ、境遇と戦つて、困難した事なしに自覚する事の出来るものではない。自覚とは困難と戦つて始めて得らるゝ処のものであります。

[学問と知力の必要]

此処に於て学問と知力がとが必要になつて来る。知力は何の為にいるかと云ふと、其の困難に勝つても、も一つ大なる自由を得る為に必要であります。

困難に勝つ処の機械を發明する為に、知力を要する。其の知力の Conception に由つて出来る。そこで其の機械を發明する事が出来て始めて天然の力にも勝つことが出来、自覚する事が出来て始めて人間の知力が動いて来るのであります。

[人種改良の必要]

も一つ私共が困難を感じるのは、遺伝の力である。此の遺伝に勝つには目的と意力を以て戦はねばならぬ。そこで私共の悪い遺伝にかつにはどうすればよいか、此の境遇に勝つにはどうすればよいかと云ふと、先づ人間をかへねばならぬ。そこで人種改良と云ふことが起る。即ち Intelligence の力に由り意識の力を使って段々改良し、進歩せしめて行くこと云ふ事になる。故に、かう云ふ事も我々の意志の力に由つて段々に行ふ事が出来るのである。

[宿命説を信ずるものは依頼心をもつ]

そこで今迄は宿命説に支配せられ、少しも戦ふ事なしに過して来たのであるけれども、今日では其の誤りを去るのみならず、益々目的に向つて進むやうになりました。何故本体を信ずる事が必要であるかと云ふと、此の学説を信ずる事が我々の精神生活の上に、又實際生活の上に非常なる影響が起

って参ります。

未だ此に宗教の宿命説と云ふ事もありますが、詳しく申す暇がありません。唯だ宿命論をのみ信じて居ると依頼心が出来て、自分の責任と云ふ事を思はないで何かの奴隷となり易くあります。

然るに自由意志を信ずると Meliorism になる。どんな悪い事でも我々が改善して見せる。我が国の婦人が後れて居ると云うても、決して待つて居るものではない。

故に今後、立派なる婦人になる事が出来ると云ふ自信が出来て始めて Meliorism になる事が出来るのであります。

宿命説を信ずるものは固定して来る。故に、道徳が静的になって進歩がない。けれども自由意志を信ずる者は動的になって教育が進歩し、生活が変わって来る。宿命説を信ずるものは悲観して来るけれども、自由意志を信ずる者は希望に満ちて来るのであります。

斯う云ふ風に、直ぐ様実生活に影響する事が夥しいのであるから、私共は態度を改めると云ふ事が大切であります。

[勇気の本は愛でなければならぬ]

而して、此の目的を以て意志を貫いて行くと云ふ事の根底は何をするかと云ふと、之れは愛でなければならぬ。Sympathetic insight を以て神とか、人とか、家とか、私共が何かと一つにならうとする其の調和関係が完全になる為の愛、之れを知力の方から云ふと、同情的直覚である事が其の Essence でなければなりません。

之れを勇気の方から云ふと、Hero, Heroine でなければなりません。国を思ふとか、人を愛するとか、自分の愛する者の為に敵と戦ふのであるから、勇氣と云ふ事も、其の本はやはり愛であります。故に意志を貫くと云ふ事、目的の為に戦ふと云ふ事が利己心でもなく、柔順の徳を欠くと云ふ事でもない。そこで之れは自分の人格を保護する、神を愛する、人の為に犠牲となると云ふ事と決して矛盾するものではありません。

[Utopia]

故に、私共の意志を伸ぶると云ふ事と、其の空気を作ると云ふ事とは両方共に大切な事で、之れを Utopia と言ふ。Utopia と云ふものは昔は夢の様に思つて居つたけれども、今日では之れを実現する事の出来るものと云ふ事が確かになって参りました。

[中表紙]

大正三年三月十九日

大学部全体にて

大正三年三月十二日

第二、三学年にて 問題

卒業の決意、及び天職に対する確信。

大正三年三月十四日

第一学年及び予科にて 問題

- (1) 過ぐる一ヶ月間に読みたる書物、雑誌、新聞等を列挙せよ。
- (2) 其の読みたる目的。
- (3) 其の読書の方法。
- (4) 其の読書したる事が如何なる影響を我が感情、思想、及び意志に及ぼしたるか。
- (5) 最近の反省又は瞑想したること、又は徹底したることの経験につきて。

大正三年三月十九日

大学部全体にて

[十一回について]

第十一回生は主に大正一年、二年、及び三年にかけて最も大切な大学生活をなさつたのでありまして、私は此の十一回生が、即ち此の大正時代の我が国に於ける女子の高等教育を成就したとは言へぬけれども、兎も角、其の門に入った人として卒業なさるのである。

大正初年の我が国の女子の教育の結果として数ふべきは、如何なる事柄であらうかと云ふことを考へて見たのであります。毎年、何か其の時の特色を表して居り、何か母校の生命に新しい要素を加へて、今日迄其の進歩は遅々として居るにもせよ、發達して参りました。

今年第十一回生として夫れをお助けになつた二年、一年及び予科等が理想をお立てになつて活動なさつた目的が如何に成就したのであるか。又、其の實質は如何なるものであるか。又、母校を暫く離るゝに當りまして、第十一回生として如何なる結合、如何なる団結を以てお出になりますでせうか。又、私が第十一回生として世に紹介致すにつきて、其の事実を明かにしておくことが必要であります。私は考へた事が果して事実であるか、又思ひ及ばぬ処があるか。之れはあなた方に相談して見たいと思ひます。個人としてのあなた方の学力、品性等については、過日にお出しになりました材料について只今調べつゝあるのであります。併し全体としてのことは、今日あなた方の感ずる処を話して見て貰ひたいのであります。

個人が十分に特色を發揮したと云ふのは、個性が發揮したと云ふことである。何とならば、英語で言ふ所の、Self-assertion。自己を確定し、創造し、又は實現して行くことである。故に如何なる場合に処しても、夫れに依つて行く処の独特のものが現れて来るやうでなければならぬ。此の学校で言ふ所の自動自学とは、其のことである。故に今年からは成るべく先生から教へらるゝ講義を聞く、或は先生の考へを聞くと云ふことを減じて自分からものをして行くと云ふことに致したので、今十一回生の言ふ個人を本として行くと云ふことは其の事であるけれども、個人と云ふことは孤立して行く、全体又は社会と云ふものに対しては一向興味を感じないと云ふことではない。其の人独特の性が發揮することであ

るから、其の人でなければ其の色が現はれないと云ふやうな
ことである。故に之れが人からも尊敬し、自らも自重する所
以であります。そこで、少し其の色を見るやうに致したので
あります。

[問題につきて]

今年のあなた方の考へを聞くに、一年と予科には問題を七
つの Topic に分けて尋ねました。之れを先日調べて見ました
が、一年及び予科としては皆満足致しました。二年以上は未
だ調べがつきませんから今日批評することが出来ませんが、
一寸其の問題を聞きますと、二年に課した問題が一番易いも
ののやうに見えますけれ共、一年に出した問題は一番やさし
くて、二年に与へたのはむづかしいことである。如何となれ
ば、あなたの養ひ来たつた処の個性を現して御覧なさいと云ふ
ことであるから。三年のもむづかしいやうであるけれ共、
半分は此方からきめてあげたのであるが、あと半分を自分で
きめればよい訳であります。

[今日の学問の弊]

今の学問は大方、先生の話を書き記して居るので、教はつた
ことを答へればよいやうになって居る。そ一云ふ風で今日迄、
其の人の力なり、知識なりをきめて居りました。之れは易い
方法である。併し此に個人の考へを現すとか、其の場合に応
ずる処置をするとか、或は将来を決定するとか云ふことはむ
づかしいのであるが、実は之れが其の人の価値をきめるもの
であります。故に私は銘々の心に深く貯蔵して居る処の特色
を現して欲しいと思ふ。若しそこに個人としての特色を現し
て居るならば、之れは必ず十一回生の特色となつて居るに違
ひない。又校風となり、桜楓会員としての将来の生活ともな
るべき筈である。故に私は主観的に考へて居らるゝ処のもの
を先きに聞いたのであります。今日は十一回生としての特
色、又団体としての目的もはっきりとして居なければならぬ。
夫れがはっきりとして動いて居なければ空なものでもあります。
私共の問題の意味はそ一云ふ処にありますから、そこに答へ
をして下さらなければならぬ。

之れは私共の若い時から屢々見た処の試験の弊である。只
自分の点数、自分の資格、自分の榮譽、自分の都合と云ふこと
に目を眩まされて、全体のこと、国家のことと云ふやうなこ
とはわからない。即ち組全体、母校、桜楓会、大きくしては
我が日本帝国の教育と云ふやうなことについては、少しも
考へない。之れが個人を發揮する所以であるかど一か。今日
我が国の軍人はど一か。我が国の金持はど一か。国家を犠牲
にしても、風俗を破壊しても自分の利益、自分の都合と云ふ
ことしかないのである。

あなた方は我が国の維新とも言ふべき大正三年を迎へ、
我が国の女子高等教育を受けたと云ふ責任を担うて、只我が
試験、我が資格、我が身の幸福と云ふことに捕はれて、それ
でほんとの幸福が得らるゝであらうか。真に力ある人格を
發揮することが出来るであらうか。十年の間、我々は苦し
んで奮闘して我が国の婦人の目をさまさうとして努力して、此
に如何なるものが發揮して居るか。私共は婦人の人格を見や
うとして、恰も早魃に雲霓を望むが如くに渴望して居る。

我が校の何回生、も一少し大きくしては桜楓会員、我が国の
婦人として立派な人格の出ることを待つて居るのである。
此の大勢を看破する Insight の開けることを望んで居る。

[Insight]

其の Insight は何処に開けるか。其の人格は何処に現れる
であらうか。如何なる活動でありませうか。私共はそ一云ふ
ことがわからずに、そ一云ふことが開けずに、形式の無意味
の卒業式を行ふことは忍ぶに堪へない処である。只其の人の
記憶の分量によつて点数をつけ、席順を上下して其の人の価
値をきめることは出来ませぬ。あなた方が自分で活動を開始
し、自分で活眼を開いて欲しいのである。今夫れがなければ、
卒業式の日に於て現はるゝと云ふことは出来ぬ。今其の非を
見出さなければ此の大正三年に於て、ほんとの心の答辭は
出来ぬと思ふ。私もほんとのあなた方に告別の辭を述べる
のは今日であると思ふ。卒業式の日には到底ほんとの告別
の辭を述べる暇はないのである。

[Unconsciously]

私は今、斯うして黙して居りますが、之れ丈多くの方が此
の堂に集まつて居ります。黙して居る時に皆が時を浪費して
居るかど一かと云ふと、決してそ一ではない。黙して居る時
には、ものを申してもわかりません。あなた方が活眼を開い
て、眼に見えない処の此の生命の動きを見、無聲の声をきく
と云ふことにならねば、やはりわからないのであります。
故に若し其の意味がわからなければ、十分瞑想して深く考へ
て見る。自ら眼に見えない処の或る物を捕へる。之れは
十一回生には、あなた方が一年に入る丁度今の一年生のやう
に血氣盛んなる、頭の最もよく働いて居る時に申してある。
之れは新しいことを申すのではない。二年前からずっと
Unconsciously に働いて居る筈である。其処を答へて貰ひた
いのである。

夫れではも一一つ、集注するために私が全体に言ふべきこ
とを申しておきますから、一年と二年とは出て貰ひませう。

(一)から(六)までの問題について、二十三日中に答へて貰
ひたい。あなたの郷里の周囲にある処の地方の青年男女の
信念について、あなたの観察した処を聞きたいのであります。

(a) から (b) (c) (d) (e) と云ふ尋ねがあります。之れは二年と
三年からお答へになることを希望致します。絵画に対する
趣味について、之れは全体からお答へになるやうに。最後の
問題は休み中に考へてお答へなさる様に。

[第十一回卒業式について]

私は第十一回生とお別れをするに當つて、言ひ難い心配が
あります。私は毎年卒業生を出す毎に何時もそ一感ずるので
あるが、あなた方は余りに早く葬られて了ふのである。故に
卒業式が恰も葬式であるかのやうな感じがするのであります。

西洋では必ず家族がよつて礼拝をする。我が国でも昔は
必ず全家族が一緒になって祈りをして信念を養ふと云ふこと
があつたのである。今日ではど一も自ら進んで修養して行か
うと云ふ活気がないのである。あなた方、予科や一年に入学
しておいでになる時は活気があるのであるけれ共、卒業して
一旦校門を出るや否や、直ちに四圍の境遇に制せられて衰へ

て了ふ。活気がなくなる。之れは人格の早死である。実に嘆かましいことでもあります。Card system を工夫して示しても、他にそれ以上の考へがあればよいけれ共、夫れもなくて怠つて了ふ。之れは誠に残念なことでもあります。

[Free will]

大正の婦人は此に活眼を開かねばならぬ。第二期の第一回生は此に覚醒するであらうと云ふことを期待したのであります。之れまで意志と云ふことがあつた。あなた方は之れに自由と云ふ詞を冠してFree will と言ふ。あなた方は此の意志が出来たであらうかど一か。私は事実ありのまゝに訴へるのである。私はあなた方が心がはりがしたとは言はぬけれ共、我が国の婦人は弱いのである。ど一かして大正の婦人は、ほんといに人格の出来た処の婦人、ほんといに大学に入ることの出来る婦人とならねばならぬ。其の若いものの元気が加はつて、真に桜楓会の精神が発達して行かねばならぬ。私は確に、あなた方の心に其の種を蒔いたのである。あなた方の眼には未だ見えない、あなたの心には感ぜられないけれ共、私には少し見えて来たのであります。

私は教育と云ふことに身を委ねましたから、私の圃はあなた方と共に働く処にあるのである。それでど一云ふ処に実現することが出来たか。無論、個人としてはあるのであるが、ど一云ふ処に現れねばならぬか、も一つ深く徹底するやうに考へておきたい。そ一して十分用意が出来なければ、卒業生として出ること出来ぬ。又、今年の仕事も十分仕遂げておかねばならぬ。夫れを感知する処がなければ一般の女学生と選ぶ処がないのである。

故に私は、第十一回生に之れをお尋ねしたのであります。之れは全体が共同してしなければならぬことで、之れが今残つて居るのであります。

[中表紙]

大正三年三月二十五日
修業証書授与式

大正三年三月二十五日
修業証書授与式

[卒業生を送るを喜ぶ]

私は、大学第十二回生、高等女学校第十三回生を送るに当りまして、今高等女学校の傾向が以前よりも精神的に傾いたと云ふ喜ばしい報告に接し、又此の多事多端なる時に於てあなた方卒業生を送ると云ふ事は、誠に喜ばしい事でありませう。

[埋葬式]

併し私は止むを得ずあなた方の卒業式が埋葬式になりはすまいかと云ふ事を申しました。我々は猶深く考へますと、此の学年末、此の卒業式も我が国家の葬式に遭遇致しました。僅に一年余りの間に、我国家の政治機関である処の内閣は

之れで斃るゝ事、戦死致しました事が之れで三回であります。誠に大正三年と云ふ国家未曾有のおめでたい年におきまして、内閣は瓦解する事になりました。

[天災地変につき]

夫れから大正三年のお正月におきまして、私共は誠に不祥なる事、国民の命を奪はれた処の報告を耳に致しましたが、猶其の外に天災地変があつて櫻嶋の爆裂となり、独り西南ばかりでなく東北にも飢饉の災が起り、多くの民が塗炭の苦しみに遭遇し、天も怒り、地も震うて居るが如くに感ぜられ、又、無心であると思ふやうな動物、(空白)鶏が子どもをつゝき殺した、猫が子どもを食ひ殺したと云ふやうな、我々が今迄聞かぬ事を聞くやうである。そ一云ふ事が如何に民心を刺激して居るか、国民が不安を感じて居るかと云ふ事がわかる。

[国民心理が国家的になった]

是れ迄ならば、斯う云ふ事は御婦人や門外漢にはわからなかつた事であるけれども、も一そ一云ふ時代は通り去つて、国民全体に一種の神経が発達致して、誰れも彼れも我が家の事の如く、我が事の如く、国家の關係を感じなければならぬ事となつたのみならず、其の是非曲直を弁へる国家的、国民的良心、国家的行為につきまして民衆心理に批評をする、反省すると云ふ事が著しくなつたと思ふ。夫れが為に国家の前途、国民の将来を考へると云ふ事も痛切になつて来たと思ひます。

私共は国民の一人と致しまして、私共は第二の国民を作るもの。国民の一人と致しまして、国家の将来を憂慮せざるを得ない。斯くの如き破壊にのみ陥つて建設する処がなかつたならば、遂には我が国家も支那、朝鮮の如くにならざるを得ないと云ふ事は瞭然である。斯う云ふ時に當つて、一人の奮起して起つ者がないと云ふ事は実に残念な事である。

政治の事から考へても、教育から考へても、実業から考へても何処に我国家の希望があるか。之れが又銘々の上に関はつて来まして、如何に我が運命を開くべきかと云ふ問題になるのであります。

[運命につきて]

今日、学問をした青年男女が如何に就職難かを感じて居るが、此の不平が争論となり、自殺となり、人殺しとなる。丁度斯くの如き問題が不知不織の間に国民全体の神経を刺激して居りますので、あなた方最後の問題は運命の問題である。宿命論である。我々は境遇に支配せらるゝもので、境遇の圧迫を受けて居る。如何ともする事は出来ない。

此の間私は、帰一協会の相談の後で上野の下を歩いて帰りましたが、一団の群衆がある。何かと思へば、売卜者である。群衆は幾らかの金を払うて卜うて貰つて、其の判断に耳を傾けて居るのである。彼れ等は運命を祈つて居る人である。何処からか特権を与へて貰ひたい、ど一かして資格を貰ひたいと思ふ。斯くの如き人間が運命を卜うて貰つて居る。

今日は大小の差はあれ、いろいろの程度の差はあれ、我が国民は今日、其の運命を祈つて居る状態である。何処かに其の助け人を求めて居る状態である。天は、自ら助くる者を

助くとある。自ら奮起せずして神に祈ったり、人に諂ふたり、賄賂を取ったりして居る。天は斯くの如きものを助くる事なく、益に禍するのである。あなた方の読む文字の中に、運命に弄せらるゝと云ふ詞がある。私は、大学部十二回生、高等女学校第十三回生の前途を考へて見まして、あなた方は運命に弄ばれて居る。おもちゃにせられて居る。そーして、何か棚から落ちて来るものはないかと願うて居る。我が国の習慣として、女は嫁ぐ。男は就職難で会社へ入るとか役人になるとか云ふ事で困つて居る。女は何処からか貰ひに来るか、貰ひに来てもつまらぬ所へはゆかれぬと云ふ事で心配をする。あなた方が一人前の娘になって、一寸裁縫が出来る、常識がある。之れで他家へやつても心配でならぬ。之れが此の頃、明治の教育を受けたお母さん達は漸くにしてわかつて来たのであります。

[英米佛の生活状態]

英米佛等の文明諸国に於て男女の関係がどーなつて来たかと云ふと、統計によれば、独身生活をする人が益殖えて来る。夫れは貧乏人ばかりでなく、収入のある人、地位のある人迄が段々独身生活をするやうになつた。我が国では誰れも彼れも結婚をする。嫁にゆかない女は不具者であると云ふ風に考へて居る国では、人口は益々殖えて来る。しかも、夫れを養ふ食物は足らぬ故に、自滅すると云ふ事になる。之れが我が国の状態であります。

[自ら運命を開く様に教育を施せ]

男子は就職難で、毎年毎年各大学、各専門学校から沢山の卒業生が出るけれども、事業は起らない。人は多い。そこで就職難が起る。之れを生活難と言ふのである。故に男も女も思ふ様には出来ないであります。又、御婦人が学問をして直ぐ様よい地位について親を助ける事が出来るかと云ふと、そーはいかぬ。あなた方のお父さんやお母さんが、あなたの為を思うて学校へお出しになるが、あなた方は将来、又弟や妹の教育をせねばならぬ。国家の事業が起らずに、多くの人を用いる事は出来ぬ。私共は我が日本がそー云ふ態度であるのは正しくない。どーしても国家の運命を開くには、国民自ら運命を開く事の出来るやうに教育をせねばならぬと考へる。

又、十一回生を送るに當つてあなた方が之れだけになさつたにも拘はらず、親の欲目として、も一少し人格が出来さうなもの、未だどーも足りないと思ふ。此の学校を創めてから十三年の間、教職員、寮監其他、此の学校を助ける人、誰れも彼れも日夜奮闘して来たのでありますけれども、どーしても思ふ様に進まない。斯う云ふ時には宿命論になる。どーかして運命を開く事は出来まいか。誰れか助けを下さる方はあるまいかと考へる様になる。そーして自暴自棄に陥るか、或は信仰と云へば運命を神に祈る様になる。之れが今年の実際であると思ふ。之れを此の儘にして止むならば、今年の卒業式は葬りとなつて了う。此に目醒めなければ、お芽出度い大正の卒業式も葬りであるかも知れない。

[来学年の態度につきて]

私共は如何なる態度を以て、来るべき学年に向ふべきであ

るか。如何なる主義、方針を取るべきであるか。此の間会を致しましたとき、十一回生の特色は徹底せる個人主義で、其の目的は自由意志を信ずると云ふ事である。個人主義と云ふ事は我が国では甚だよくない意味につかはれ易い。けれども徹底せると云ふ詞を冠してあるから、之れは偏したものでない事がわかる。其の反対には社会主義と云ふものがあり、帝国主義と云ふものがある。人各々信ずる所によつて处世の方針も變つて来るのであります。

[自ら戦うて運命を開く]

けれども私共は最後に会を致しました時の通りに、私共は決め人に運命を托しない、決め人にトして貰はない。此の困難は自ら戦うて行く。自ら運命を開いて行く。如何に困難な境遇になつても、如何に人心が沸騰して居りましても、自ら奮起して戦つて行く勝利者となる。之れが最後の結論であります。

私は其の主義、又来らんとする学年の態度を表す処の標語とする。私は先年から申して居る Meliorism、之れは実に此の学年の態度を表す処の標語である。私共は如何に困難であっても、如何にむつかしくてもやる。自分に奮闘する。自分で運命を開いて行く。自分で自分を改善して行く此の人には、何時も理想がある。希望がある。如何に病気があろうが、如何に境遇が困難であらうが少しも屈しない。自分の事は自分でする。此の意味を以て進まねば、私共は運命に弄せらるゝより他に道はないのである。

あなた方、母たるべき御婦人が自ら醒める、自分よると云ふ事が出来ねばならぬ。只親の財産を依り、夫の助けによつて居つては、夫と云へども何時死ぬるかも知れぬ。又何時心が變るかも知れぬ。沢山の子供が出来て後、夫の心が變つて不幸に遭うて居る婦人は沢山ある。けれども人格の出来た婦人は少しも狼狽せず、ちゃんとして子どもを助けて居らるゝのであります。

ほんといに自分を教育し、自分を修養し、自分を発展して止まない、自分と云ふものに依つて限りなく進んで行くと云ふ人にならねばならぬ。我が国民が自ら起たなければ、只依頼心を持つて居る様な事では自滅するの他はないのであります。夫れを実に、私共は多事多端である、重荷は殖える、困難は増して来る、より処であるかと思つて居るものは、倒れて行く。之れは私共を励ます為であります。極端な詞を使ふ様であるが、そーではない。之れが今日の実際であります。

[来学年の態度は Meliorism である]

故に来るべき学年には Meliorism を信じて、自ら奮起して行く。男も女も此の心がけを以て、自ら改善して行く人とならねばならぬ。今日は第二の維新をなすべき時で、今は其の曙光である。あなた方は其第二の維新をなすべき人である。故に私共は、近くは卒業式に於て、又桜楓会の満十年記念式におきまして、十分此の主義、目的の為に奮闘してお進みになる様に希望致します。

[中表紙]

まとめの会

大正三年三月二十五日

まとめの会

大正三年三月二十五日

色々終りに當って申し上げたい事がありますが、時間もありませんから、唯だもう一つだけ申しませう。只今、各三年生から発表がありました、何かもう一つあなた方に残って居るものがあると思ひます。

[我が人格に及ぼせる婦人の影響]

私は三十六年ばかり、我が国の女子教育に殆んど日夜心血をこらして来たのであります。其の中で私は自分の生涯につき非常に自分の人となりに種々の影響を与へたものは、婦人だと思ふ。外国に於ても、多くは御婦人との交情に於て受けたのであります。

[婦人に対する二方面の評]

私が今の御婦人と共に生活をなし、御婦人の生活について如何なる経験をしたかと云ふに、之れを余り Frank に言ふと直接になっていけないが、間接に他人の婦人に対する評の言を言ふと、或る者は、婦人は誠に面白いものである。婦人と云ふものが社会に於て若しな時は、世の中の興味の半ばは無くなるのである。宗教の方面に於ても Essence になる人は婦人である。殆んど天使の様にもなる。故に人生の Essence は婦人の手にあるのである。婦人が人間の価値、人間の美を現はし、人生を左右して居るものであって、婦人の人格には誠に愉快なるものがある、と言って居る。

又之れと反対に、女子は厄介なるもの、又物の解らぬものであって、面白くないものである。人を誤らせて居るものは婦人である。故に婦人は恐ろしい。総べての人生に於て面白くないものは婦人である。我が国に於ても 天照大神は御婦人であると言ふ事は出来るが、兎角よくない事は婦人から起るものである。東洋では女子に生れたことを不幸として居て、女子には満足なる境遇はないものとして居るのである。昔から娘は朝に夕に同じことを繰り返へし、単調なる生活をばかりしなければならぬ。男子は之れに反して、自由に何でも出来るのであると云ふ様に見える人もある。

[周囲の関係者はあなたを如何に見るか]

只今夫たる人、子たる人、友たる人、親類たる人、之れ等の凡ての関係者はあなた方を如何に見ますか。多くは女子を面白くないものと見るのである。あなた方は今から後、故郷に帰り、あなたの言ふ事を腹藏なくお母さんに話せますか。あなたの言ふ事はお母さんにはわからぬ。其の時はお母さんを不満足に思ふでせう。昔のまゝの教育を受けただけでは真に其の人に慰安を与へ、望みを強くさせる事は出来ません。

只今日本の家庭に於て夫は種々なる事柄に苦しんで居ても、うちとけて妻に話す事は出来ぬ。非常に大切な事になると、宅へ帰つても話せぬのである。自分は真に友となつて聞き、人々に話す事は出来ぬのである。之れが即ち婦人の生活に

於て、つまらぬ原因である。之れが婦人を茶化し、又うるさく思はれる所以である。如何でありませうか。果して女子はつまらぬものでありませうか。私は子供の時から叔母や其の他の女でも、面白くなく思つて居た。

[高潮に達せる生活をなせ]

されば如何にして女子を教育すればよいかと云ふ事であるが、真に心がわかつて生活すると云ふ事がなければ、私共の人生は面白くないのである。心を理解し合ふことの出来る友が、どうも少ない様に思ふ。

併し、之れをずっと昔に比べると前よりは面白く感ずるのであるが、未だあなた方に一つ足りないと思ふ所がある。其れは何時も私が言ふ事ではあるが、高潮に達した生活と云ふ事である。

どうでせう。一、二年生の人達に問ふが、この十一回生の人が皆社会に出て、真に人格を現はし、徳の花を咲かせると云ふ事が出来るでせうか。かゝる事をなす事に由つて、あなた方の満足は得らるゝのではありませんか。

[各部の使命]

母校に於て文科はしばらくとぎれる事になったが、此の際、あなた方は母校を離るゝに當つて、茲に文芸の種子を蒔き、芽を出して之れを母校全体の命の中に止めて、其の春の来るのを待ちたいと云ふ要求があるに違ひない。

教育部は此の教育改善の位置に當り、教育法の改良を試みたいと思ふに違ひなく、英文科は世界の美風を發揚する Art を作りたくと希ふのであらう。又家政科は、日本の寂寞を感ずる家庭に於て自らの使命を全うせんとする熱望があるに違ひないと思ふ。

之れ等を望みとして表現して行くならば、十一回生の人格として貯へたる Genius、何かになる、Art、Artist になる所の力を養ひたい、そして之れを学風にして行つて芳しい香ひを發したいと云ふ望みがあるやうに見えるが、あなた方が人生に興味を感じ、力を發揚する Artist であり、美を現はして真に生活を味ははれるならば、他人より淋しさうに見えると思ふ事はないのである。

実は私は、あなた方を信じて居ります。真の Genius として世の中に出ても快よく、如何なることがあつても悪いものには敵対して行つて、何の恐れることはないと思ふのである。故に其れ位であれば、必ず校内に於て元気に満ちた三年として認められねばならぬのであります。誰れにも Genius は含まれて居るのである。之れを自分自らが Waste して居るのである。

[Great drama について]

私が十一回生に願うたことは、あなた方は Great drama を見なければならぬと云ふ事である。も一つ Drama を見る事が出来ぬかと思ふが、其れを私は言うたのである。

自分の技能を發揮し、人の Drama を見、之れを賞賛することが出来、興味を感ずることが出来るのである。

斯くしなければ Genius でなく、又人生は面白くないのである。

之れを誤つてとると、誤つた文学などになる。少くとも

あなた方は、例へ家の中に居ても自分の人格を発揮することにつとめ、人生に興味を感じ、Great drama を見だして之れをよろこび、又之れを悲しむだけの人でなければならぬ。

森村翁は先日、時勢のことについて私と話した時に、真の熱涙をこぼされた。今日の日本の悲劇の Drama は目前に現はれて居るのである。此の二年間程は世界的に悲劇が演ぜられて居るのであるが、我々は之れをさへ見ることが出来ぬ。之れに一滴の涙をこぼすことが出来ぬのである。

[諸氏は何を以て諸氏の力とするか]

我々はこゝに當って、何か社会に貢献する所がなければ、何を以てあなた方の力としますか。

桜楓会の十年間に於て、種々の名高い先生達を聘して講話を依頼したことが度々であったが、之れ等を如何に使って居るのであろうか。今年の卒業生は色々な刺激にあつて、Genius を多く發揮する機会もあつたが、之れを如何に考へて居るか云ふことが大切であります。私は日夜涙を流した時もあり、又相當に決心もして居るのであります。

[在校生の義務と責任]

一、二年の方は十一回生を送るに際し、十分自分達の義務を果し、十分三年を助ける所がなければなりません。

之れ等は大問題ではあるが、我が国の妻となり母となるものは、之れを感じるだけにならねばならぬのであります。

[中表紙]

大正三年三月三十日

桜楓会例会にて

大正三年三月三十日

桜楓会例会にて

[宿命について]

我々の生活には自由意志もあるが、又宿命と云ふこともあるのである。即ち第一に、境遇、遺伝と云ふものが我々の生活を支配するのである。かく我々が生活して行くにはど一しても境遇、遺伝を離れることは出来ぬ。而し又、自分には内から出る要求、又それを実行しやうとする力もすてるとは出来ない。

[自由意志]

自由意志の確信が出来るには、その前提として一元論にして、凡て神と云ふ絶対のものがあり之れが宇宙のあらゆるものを創造した。而してその神が、我々を凡て支配するものであると云ふのである。

[唯物論]

唯物論は只精神、個人と云ふものは物質の変化で出来たものであるから、之れが死んで分れるとその精神、自分と云ふものは消えてしまう。故に生きると云ふ意志があつても、之れは遂げられぬものであると云ふのである。故に此の二つの説は宿命説になってしまう。

二元論とは、物質と精神と二つの実体があると云ふので、之れは宿命説と自由意志との両面を有して居るのである。我々に大切なのは多元論である。之れは最近に於て発達したる直覚から得たる哲学である。之れになると始めて自由意志が信じられる。之れは昔からあつたが、今日のやうに用ひられては居らなかつた。多元論の要素は個人の実在を認めるのである。意識は各々に独立し、目的、意義を有する実在本体なることを認めるのである。

[アトムについて]

宇宙と云ふ本体、即ち無限絶対の神と云ふものと如何なる関係があるかと云ふに、内在的の神と云ふ、即ち神が我れにある、我れは神と共に永久に存在するものである。我れは神の子である。小さい神であるけれ共、又大いなる神となることが出来るのである。

個人と云ふものは多くあるものである。アトムは数多くあり、又それには多くの種類がある。この様に宇宙には独立した個性と云ふものがある。之れがやはり自分の目的、価値、意志、要求をもつて居る。之れがその目的、欲望を実現して行くことが出来る。自分で自分の境遇を支配し、又自分の意志を果して行くことが出来る。その意志とは自分の境遇を開き、改善し、益々自分が拡大して偉大にならう、即ち神のやうな人格にならうと云ふ希望をもつて居る。非常に自分を発展さして行かう、進化して行かうと云ふ意志がある。又、之れを果して行くことが出来る力がある。之れが自由意志である。

[徹底せる個人主義について]

此の進んでやまぬと云ふ生活をして行かうと云ふことが、我々の望む所の徹底した個人主義である。而して之れをとりそこなうと、個性も發揮することが出来なくなるのである。故に個人と云ふことのみを考へず、境遇と云ふことも考へねばならぬ。

[Art]

個性と云ふものの發展、向上とは何であるか。之れが即ち生活の Art である。然らば何を Art するかと云ふに、完全なる統一を作るのである。此の統一を作るものはアトムである。アトムは独立した元素である。而して、それは常に流れて動いて居るのである。

我々の人格は何であるかと云ふに、やはり（空白）である。自分と云ふものはど一して發展するか、向上するかと云ふに、我々の生活は四圍の境遇を離れることは出来ぬ。その境遇から種々のものを取り入れ、それを統一して行く処に Art があるのである。之れなくしては到底、發展し向上して行くことは出来ぬ。

[奉仕について]

奉仕すると云ふことは、自分のものにするに云ふことと同じである。我々の人格を支へて行く食物は何であるかと云ふに、物質ではだめである。やはり精神、即ち人格でなければならぬ。他人の人格を食し、それを自分のものにしなければ人格は出来ぬ。自分の人格だけて他の人格との結合なくしては、到底人格は出来ぬ。身体は時間と空間に制限されて居る。而し人格は之れには制限されぬ。故に、人格と人格との

結合は矛盾せぬ。

[至誠愛について]

ほんとの至誠愛と云ふものは、人格と人格との結合である。個性がよく結合されたものが人格で、その人格が大きく統一されたものが神である。利己的の人、他の人格に対して興味のない人は神に反対する人である。自分を狭め、自分を養ふ材料を排斥する人である。故に我々の人格は多くの人の人格が入り、神が入り、国家と云ふものも入りて、複雑なるものが一つに組み立てられて居るのである。此の人格でなければ、ほんとの人格であるとは言はれないのである。而して之れは自由意志によって作って行くことが出来るのである。非常に確かな徹底した宇内の生活である。之れを目的とする意味は、我が国の婦人がど一しても国家の活動の元を作らねばならぬ故、ど一かして婦人に此の人格を養はうと云ふ処にある。我が国に之れが養はれねば、未だ脳髓がないものである。国の命と云ふものも、此の人格が出来なければならぬ。偉大なる人格になるのは、他の人格が同化されねばならぬ。結合した人格が出来、個人の人格が出来ると云ふこととは同時に出来ることである。

[中表紙]

卒業証書授与式

大正三年三月三十一日

大正三年三月三十一日

卒業証書授与式

本校創立、即ち今の皇太后陛下、当時の国母陛下、女子教育御奨励の御思召を以て、本校に金帛を下し賜いました。最も印象深い思ひ出である。明治三十四年当時、芽を萌しまして三年後に誕生を遂げました桜楓会の第十年期に当りまして、大学部第十一回生、附属高等女学校第十三回生、豊明小学校第三回生が揃うて卒業なさる事は、我々の欣喜に堪へぬ次第であります。

[皇太后陛下の御悩について]

然るに此の最も祝ふべき時に於きまして、皇太后陛下の御悩みを拝聞致し、我が国民、殊に本校に軫念を蒙りました私共にとりましては、驚嘆に堪へぬ次第であります。

併し今朝の新聞に由りますと、段々御軽快に向はせらるゝと拝聞しまして、いさゝか慰めを得るのであります。私共国民は、一日も早く御全快の日の近からん事を祈願致す所であります。

皇太后陛下の御歌に、

白妙の衣のちは払へども

うきは心のくもりなりけり

と云ふ深い御意味の籠りました御歌を拝読致した事がありますが、畏くも陛下に於かせられましては、明治天皇御登遐の御哀しみの未だ遠からざるに、目下種々困難なる国情は或は

暗々裏に陛下の御安静を妨げたのではあるまいかと考へまして、唯だ恐懼に堪へません。

畏い事ではありますが、此の際、天皇陛下の宸襟は如何であらうかと我々国民は様々に想像致す所ではありますが、到底我々の思ひの及ばぬ所があらうと思ひます。

[国家多事の際、国民の本務は何か]

斯くの如き時に当りまして我々国民は如何なる態度をとり、如何なる努力を致すべきであらうか。実に国民の尽すべき本務でありませうが、今日我々若い者は固よりであります。既に八十に垂んとする老先輩方も此処に御列席になつて居られますが、先日来深く感ずる処がおありの様であります。今日は男女老幼を問はず、我が国民たるものは深く焦慮せなければならぬと思ひます。

あなた方卒業生たるものは、婦人たりともやはり帝国の忠良なる臣民であります。然も此の新時代の、大正の御代に乗り出さうとする国民であります。今後、帝国の原動力たる責任を担はなければならぬのは言ふまでもない事であります。あなた方は此の卒業式に臨み、国家の大切な期に際し、陛下の宸襟を安んじ奉ると云ふ至情がなくてはなりません。

[明治維新と大正の維新]

ひそかに国情を察するに、今や第二維新の実行に着手すべき時機は到達したのではないかと深く感ずるのであります。明治第一維新は外形上、政治上の改革でありましたが、大正第二維新は精神的、国民全体に渡る改善であります。

[第二維新は婦人の責任大なり]

故に婦人の力のあづかって力ある事は決して少くないのであります。即ち第二維新に於て其の責任を負担しなければなりません。否、第二維新は婦人、小供、青年の中から生れ出なければならぬと、我々は信ずるのであります。

七、八年前に此の豊明館、其の中にあります図書館、今日卒業致します豊明小学校、幼稚園が新に本校に加はりましたのは、実に此の革新的動機が存して居ったからであります。

我々も当時から力の限りを尽して居りました。第二維新は根本的に各個人に徹底する処の改善。国家的、人格の人心の改善。即ち帝国を組織して居ります各細胞の各国民に徹底する処の改善。唯だ外形の働きに由つて届き得ない処の遺傳の改善。国民の意志の改善、即ち国家をなして居る各細胞の改善。即ち今日よりも一層健全に、善良に、独立自治に、堅忍克己に、誠実正直に、豪邁勤勉に、神聖高尚に発展せしむると云ふ、国民の根本生活に徹底せんとする国民の改善であらねばなりません。

かゝる国家の厄期に於きまして 新帝陛下の宸襟を煩はし奉つて居ります今後の国運発展につきまして、老幼男女、拳国一致いたしまして国家の大使命に向つて奮起突進しなければなりません。

[前年度は教育法の改善につとむ]

斯くの如き時運に遭遇いたしまして、今年の第十一回生は、三年の当初より意を母校の教育法改善に籠めて、各自の生活を自己の内に徹底せんと努め、又此処に団体的人格を生み出さんとして努力奮闘、今日に至つたのであります。此の一年

間のあなた方の働きは不知不知の間に於きまして、我が国家の切実なる要求と相反して参つたと云ふ事を私は感ずるのであります。

[卒業後に対する希望]

今やあなた方は暫く母校を離れて各家庭経営の任にあたらうとして、唯だ今あなた方の父兄及び本校の同情者諸君が、此の行を盛んにせらるゝ所以であります。

諸子は此の覚悟、此の決心を促がして、今後あなた方の忠実なる働きに由りまして大正聖代の美德をたゞへる様に致さねばなりません。而して其の出発点は、各近く我々己の内に求めねばなりません。即ち各自、個人の生活改善から始めねばなりません。唯だ徒らに外形の事業に奔走し、唯だ客観的の目的にのみ憧れて参りましたならば、私共の仕事は全く空虚なる盲動的なる無効果の働きとなり、終るのであります。

希くは卒業生諸君あなた方が、在校中にお養ひになつた熱烈なる動機と確信とを以て、先づあなたの家庭の改善よりして、徐々に国家、社会の改善、進歩を計られん事を希望して止まぬのであります。

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

大正二年度ノ部

2020年1月20日発行

編集・制作

加藤きよみ・宮内量子・山本文子
(日本女子大学成瀬記念館)

発行

日本女子大学成瀬記念館

〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1

印刷

開成出版株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-26-14

